

令和2年度

# 講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

# 総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	11
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	41
4	教養科目（情報科目）	45
5	日本語日本文学専攻専門科目	51
6	英語英文学専攻専門科目	75
7	生活科学科共通科目	115
8	食物栄養専攻専門科目	117
9	生活科学専攻専門科目	137
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	161
11	経済専攻専門科目	171
12	経営情報専攻専門科目	185
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	194
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	200
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	205
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	206
17	第二部商経学科専門科目	208
18	商経学科の演習・実習科目	236
19	教職に関する科目	239
20	司書教諭に関する科目	270

# 文学科 日本語日本文学専攻

## 【教養科目】

<b>(人文)</b>	
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
<b>(社会)</b>	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5
<b>(自然)</b>	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
<b>(総合)</b>	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
社会活動	10
企業研修	10
<b>(外国語科目)</b>	
英語 I (A)	11
英語 I (A)	11
英語 II (A)	16
英語 II (A)	16
英語 III (D)	22
英語 III (E)	23
英語 III (F)	23
英語 III (G)	24
英語 III (H)	24
英語 IV (A)	25
英語 IV (B)	25
英語 IV (F)	27
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (A)	32
中国語 I (B)	32
中国語 I (H)	35
中国語 II (A)	36
中国語 II (B)	36
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40
<b>(スポーツ・健康科目)</b>	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (A)	41
生涯スポーツ実習 II (A)	43
<b>(情報科目)</b>	
情報リテラシー I (A)	45
情報リテラシー II (A)	48
<b>【専門科目】</b>	
<b>(専門基礎科目)</b>	
日本文学概論	51
言語学概論	51
<b>(日本語学科目)</b>	
日本語学概論	52
日本語教育概論	52
日本語史	53
日本文法論	53
日本語学講義	54
日本語学講読 I	54
日本語学講読 II	55
日本語学演習 I・III	55
日本語学演習 II	56

日本語学演習 IV・VI	56
日本語学演習 V	57
日本語表現法	57
日本語表現法演習	58
対照言語学	58
<b>(日本文学「古典」科目)</b>	
日本文学史・古典 I	59
日本文学史・古典 II	59
日本文学講義 I	60
日本文学講読 I	60
日本文学講読 II	61
日本文学講読 III	61
日本文学演習 I・III	62
日本文学演習 II	62
<b>(日本文学「近代」科目)</b>	
日本文学講義 II	63
日本文学講読 IV	63
日本文学講読 V	64
日本文学講読 VI	64
日本文学講読 VII	65
日本文学演習 IV・VI	65
日本文学演習 V	66
<b>(地域文学・中国文学科目)</b>	
中国文学史 I	66
中国文学史 II	67
中国文学講読 I	67
中国文学講読 II	68
中国文学演習 I	68
中国文学演習 II	69
中国文学演習 III	69
<b>(卒業研究)</b>	
卒業研究 I・II	70
<b>(関連科目)</b>	
比較文化	70
英文学史	71
米文学史	71
読書と豊かな人間性	72
情報メディアの活用	72
書道 I	73
書道 II	73
書道 III	74
書道 IV	74
<b>【教職に関する科目】</b>	
教職入門	239
教育原理	240
教育心理学	241～242
特別支援教育概論	243
教育行政学概論	244
教育課程論	245～246
国語科教育法 I	247
国語科教育法 II	248
道徳教育指導論	256
特別活動指導論	258
教育方法学概論	260
生徒指導論	261～262
進路指導論	263
教育相談	264～265
教職実践演習 (中)	266
教育実習	268
<b>【司書教諭に関する科目】</b>	
学校経営と学校図書館	270
学校図書館メディアの構成	270
読書と豊かな人間性	271
情報メディアの活用	271

# 文学科 英語英文学専攻

<b>【教養科目】</b>			
(人文)			
日本の歴史	1	英語表現法Ⅰ	87
こころの科学	2	英語表現法Ⅱ	88
芸術論	2	英語表現法Ⅲ	89
(社会)			
日本国憲法	3	英語コミュニケーション演習Ⅰ	90
法学概論	3	英語コミュニケーション演習Ⅱ	91
社会学	4	英語コミュニケーション演習Ⅲ	92
生活と経済	4	通訳入門Ⅰ	92
キャリアデザイン	5	通訳入門Ⅱ	93
(自然)			
数学の世界	5	(英語学科目)	
物理の世界	6	英文法	93
生物の科学	6	英語史	94
化学の世界	7	英語音声学	94
食生活と健康	7	講読演習Ⅰ	95
(総合)			
現代人権論	8	基礎演習Ⅰ	95~96
鹿児島学	8	英語学演習	96~97
かごしま教養プログラム	9	(英米文学科目)	
かごしまフィールドスクール	9	英文学史	97
社会活動	10	米文学史	98
企業研修	10	比較文学	98
(外国語科目)			
英語Ⅲ(A)	21	英米文学講読Ⅰ	99
英語Ⅲ(B)	21	英米文学講読Ⅱ	100
英語Ⅲ(C)	22	英米文学講読Ⅲ	100
英語Ⅲ(D)	22	講読演習Ⅱ	101
英語Ⅲ(E)	23	基礎演習Ⅱ	101~102
英語Ⅲ(F)	23	英米文学演習	102~103
英語Ⅲ(G)	24	(比較文化科目)	
英語Ⅲ(H)	24	イギリス事情	104
英語Ⅳ(A)	25	アメリカ事情	104
英語Ⅳ(B)	25	ヨーロッパ事情	105
英語Ⅳ(C)	26	講読演習Ⅲ	105
英語Ⅳ(D)	26	基礎演習Ⅲ	106
英語Ⅳ(E)	27	比較文化演習	106
英語Ⅳ(F)	27	(関連科目)	
英語Ⅳ(G)	28	対照言語学	107
異文化コミュニケーション(英語)	29	言語学概論	107
異文化コミュニケーション(中国語)	29	日本語学概論	108
ドイツ語Ⅰ	30	日本文学史Ⅰ	109
ドイツ語Ⅱ	30	日本文学史Ⅱ	109
フランス語Ⅰ	31	日本語教育概論	110
フランス語Ⅱ	31	国際経済論	110
中国語Ⅰ(B)	32	国際関係論	111
中国語Ⅰ(H)	35	検定対策講座Ⅰ	111
中国語Ⅱ(B)	36	検定対策講座Ⅱ	112
中国語Ⅱ(H)	39	(卒業研究)	
中国語Ⅲ	40	卒業研究	112~114
中国語Ⅳ	40	<b>【教職に関する科目】</b>	
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	41	教職入門	239
生涯スポーツ実習Ⅰ(B)	41	教育原理	240
生涯スポーツ実習Ⅱ(B)	43	教育心理学	241~242
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(B)	45	特別支援教育概論	243
情報リテラシーⅡ(B)	48	教育行政学概論	244
<b>【専門科目】</b>			
(専門基礎科目)			
スタディスキルズ	75	教育課程論	245~246
コミュニケーション概論	76	英語科教育法Ⅰ	249~250
英語学概論	77	英語科教育法Ⅱ	251~252
英文学概論	77	道徳教育指導論	256
比較文化	78	特別活動指導論	258
(コミュニケーション科目)			
オーラルコミュニケーションⅠ	79~81	教育方法学概論	260
オーラルコミュニケーションⅡ	82~84	生徒指導論	261~262
オーラルコミュニケーションⅢ	84~85	進路指導論	263
オーラルコミュニケーションⅣ	86	教育相談	264~265
		教職実践演習(中)	266
		教育実習	268
		<b>【司書教諭に関する科目】</b>	
		学校経営と学校図書館	270
		学校図書館メディアの構成	270
		読書と豊かな人間性	271
		情報メディアの活用	271

# 生活科学科 食物栄養専攻

<b>【教養科目】</b>			
(人文)			
文学の世界	1		
日本の歴史	1		
こころの科学	2		
芸術論	2		
(社会)			
日本国憲法	3		
法学概論	3		
社会学	4		
生活と経済	4		
キャリアデザイン	5		
(自然)			
数学の世界	5		
物理の世界	6		
化学の世界	7		
食生活と健康	7		
(総合)			
現代人権論	8		
鹿児島学	8		
かごしま教養プログラム	9		
かごしまフィールドスクール	9		
社会活動	10		
企業研修	10		
(外国語科目)			
英語Ⅰ (C)	13		
英語Ⅰ (C)	13		
英語Ⅱ (C)	18		
英語Ⅱ (C)	18		
英語Ⅲ (A)	21		
英語Ⅲ (B)	21		
英語Ⅲ (C)	22		
英語Ⅳ (A)	25		
英語Ⅳ (B)	25		
英語Ⅳ (F)	27		
英語Ⅳ (G)	28		
異文化コミュニケーション (英語)	29		
異文化コミュニケーション (中国語)	29		
フランス語Ⅰ	31		
フランス語Ⅱ	31		
中国語Ⅰ (F)	34		
中国語Ⅰ (H)	35		
中国語Ⅱ (F)	38		
中国語Ⅱ (H)	39		
(スポーツ・健康科目)			
生涯スポーツ実習Ⅰ (C)	42		
生涯スポーツ実習Ⅱ (C)	43		
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ (C)	46		
情報リテラシーⅡ (C)	49		
<b>【専門科目】</b>			
(生活科学科目)			
生活科学概論	115		
生活経営学	115		
人間関係論	116		
社会福祉論	116		
(基礎科目)			
〈食物に関する科目〉			
食品学Ⅰ	117		
食品学Ⅱ	117		
食品学実験	118		
食品衛生学	118		
食品衛生学実験	119		
食品加工学	119		
調理学	120		
調理学実習Ⅰ	120		
調理学実習Ⅱ	121		
調理学実習Ⅲ	121		
〈消化・吸収・代謝に関する科目〉			
栄養学総論	122		
栄養学各論	122		
栄養学実習	123		
解剖生理学	123		
解剖生理学実験	124		
生化学Ⅰ	124		
生化学Ⅱ	125		
生化学実験	125		
〈健康と運動に関する科目〉			
健康と運動	126		
健康管理概論	126		
公衆衛生学	127		
運動生理学	127		
(応用科目)			
〈給食の管理に関する科目〉			
給食管理	128		
給食管理実習Ⅰ	128		
給食管理実習Ⅱ	129		
給食管理実習Ⅲ	129		
〈栄養の指導〉			
栄養教育論	130		
栄養指導論Ⅰ	130		
栄養指導論Ⅱ	131		
栄養指導論実習Ⅰ	131		
栄養指導論実習Ⅱ	132		
公衆栄養学	132		
栄養情報処理	133		
〈臨床関連科目〉			
臨床栄養学Ⅰ	133		
臨床栄養学Ⅱ	134		
臨床栄養学実習	134		
病理学	135		
〈栄養教諭関連科目〉			
学校栄養教育論	135		
(その他)			
化学概論	136		
生物概論	136		
<b>【教職に関する科目】</b>			
教職入門	239		
教育原理	240		
教育心理学	241~242		
特別支援教育概論	243		
教育行政学概論	244		
教育課程論	245~246		
道徳教育の指導法	257		
特別活動論	259		
教育方法学概論	260		
生徒指導論	261~262		
教育相談	264~265		
教職実践演習 (栄養教諭)	267		
栄養教育実習	268		
栄養教育実習の事前事後の指導	269		

# 生活科学科 生活科学専攻

<b>【教養科目】</b>			
（人文）			
文学の世界	1		
日本の歴史	1		
こころの科学	2		
芸術論	2		
（社会）			
日本国憲法	3		
法学概論	3		
社会学	4		
生活と経済	4		
キャリアデザイン	5		
（自然）			
数学の世界	5		
物理の世界	6		
生物の科学	7		
食生活と健康	7		
（総合）			
現代人権論	8		
鹿児島学	8		
かごしま教養プログラム	9		
かごしまフィールドスクール	9		
社会活動	10		
企業研修	10		
（外国語科目）			
英語Ⅰ（B）	12		
英語Ⅰ（B）	12		
英語Ⅱ（B）	17		
英語Ⅱ（B）	17		
英語Ⅲ（A）	21		
英語Ⅲ（B）	21		
英語Ⅲ（C）	22		
英語Ⅳ（A）	25		
英語Ⅳ（B）	25		
英語Ⅳ（F）	27		
英語Ⅳ（G）	28		
異文化コミュニケーション（英語）	29		
異文化コミュニケーション（中国語）	29		
フランス語Ⅰ	31		
フランス語Ⅱ	31		
中国語Ⅰ（G）	35		
中国語Ⅰ（H）	35		
中国語Ⅱ（G）	39		
中国語Ⅱ（H）	39		
（スポーツ・健康科目）			
スポーツ・健康論	41		
生涯スポーツ実習Ⅰ（D）	42		
生涯スポーツ実習Ⅱ（D）	44		
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（D）	46		
情報リテラシーⅡ（D）	49		
<b>【専門科目】</b>			
（生活科学科目）			
生活科学概論	115		
生活経営学	115		
人間関係論	116		
社会福祉論	116		
（専門基礎系）			
生活化学	137		
生活化学実験	137		
色彩学	138		
ビジュアルデザイン基礎Ⅰ	138		
ビジュアルデザイン基礎Ⅱ	139		
テキスタイルサイエンス	139		
ファッション造形基礎	140		
（ライフデザイン系）			
生活文化	140		
衣生活学	141		
生活コロイド学	141		
食物と栄養	142		
調理学	142		
調理実習	143		
保育学	143		
卒業研究A	144		
（ビジュアル・ファッションデザイン系）			
ビジュアルデザイン論Ⅰ	145		
ビジュアルデザイン論Ⅱ	145		
ビジュアルデザインⅠ	146		
ビジュアルデザインⅡ	146		
ファッションデザイン論	147		
ファッション造形Ⅰ	147		
ファッション造形Ⅱ	148		
ファッションビジネス	148		
卒業研究B	149		
（建築デザイン系）			
住生活学	150		
住居史	150		
住居・インテリア設計学	151		
設計製図Ⅰ	151		
設計製図Ⅱ	152		
住居構造学Ⅰ	152		
住居構造学Ⅱ	153		
住居環境学	153		
住居環境学演習	154		
建築材料学	154		
建築生産	155		
建築法規	155		
CAD設計	156		
建築史	156		
CAD設計特講	157		
設計製図Ⅲ	157		
設計製図Ⅳ	158		
空間デザイン論	158		
空間デザインⅠ	159		
空間デザインⅡ	159		
卒業研究C	160		
<b>【教職に関する科目】</b>			
教職入門	239		
教育原理	240		
教育心理学	241～242		
特別支援教育概論	243		
教育行政学概論	244		
教育課程論	245～246		
家庭科教育法Ⅰ	253～254		
家庭科教育法Ⅱ	255		
道徳教育指導論	256		
特別活動指導論	258		
教育方法学概論	260		
生徒指導論	261～262		
進路指導論	263		
教育相談	264～265		
教職実践演習（中）	266		
教育実習	268		
<b>【司書教諭に関する科目】</b>			
学校経営と学校図書館	270		
学校図書館メディアの構成	270		
読書と豊かな人間性	271		
情報メディアの活用	271		

# 商経学科 経済専攻

【教養科目】	
(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
(外国語科目)	
英語 I (D)	14
英語 I (D)	14
英語 I (D)	15
英語 I (D)	15
英語 II (D)	19
英語 II (D)	19
英語 II (D)	20
英語 II (D)	20
英語 III (D)	22
英語 III (E)	23
英語 III (F)	23
英語 III (G)	24
英語 III (H)	24
英語 IV (C)	26
英語 IV (D)	26
英語 IV (E)	27
英語 IV (F)	27
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (C)	33
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	35
中国語 II (C)	37
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (E)	42
生涯スポーツ実習 II (E)	43~44
(情報科目)	
情報リテラシー I (E)	47
情報リテラシー II (E)	50

【専門科目】	
(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
経済学	161
経済情報論	161
消費者問題	162
行政法	162
経済政策	163
社会政策	163
社会思想	164
民法	164
商法	165
産業心理学	165
会計学総論	166
簿記論 I	166
経営学総論	167
〈情報基礎〉	
情報科学概論	167
文書作成実習	168
統計学	168
応用文書処理	169
PCデータ活用	169
PCデータ活用実習	170
PCアプリケーション実習	170
(専攻専門科目)	
〈経済理論〉	
日本経済論	171
財政学	172
農業経済論	173
金融論	173
経済学史	174
経済学特講 I	174
経済学特講 II	175
法学特講	175
簿記論 II	176
〈国際環境〉	
国際経済論	176
国際立地論	177
アジア経済論	177
外国貿易論	178
国際関係論	178
比較文化	179
アジア事情	179
国際経済特講 I	180
国際経済特講 II	180
〈地域政策〉	
地域経済論	181
地域産業政策	181
地方財政論	182
非営利組織論	182
労働法	183
地域研究特講	183
地方自治法	184
〈演習・実習〉	
基礎演習	236~237
演習 I	236~237
演習 II	236~237
卒業研究	236~237
社会活動	238
企業研修	238

# 商経学科 経営情報専攻

【教養科目】	
(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
(外国語科目)	
英語Ⅰ(D)	14
英語Ⅰ(D)	14
英語Ⅰ(D)	15
英語Ⅰ(D)	15
英語Ⅱ(D)	19
英語Ⅱ(D)	19
英語Ⅱ(D)	20
英語Ⅱ(D)	20
英語Ⅲ(D)	22
英語Ⅲ(E)	23
英語Ⅲ(F)	23
英語Ⅲ(G)	24
英語Ⅲ(H)	24
英語Ⅳ(C)	26
英語Ⅳ(D)	26
英語Ⅳ(E)	27
英語Ⅳ(F)	27
英語Ⅳ(G)	28
異文化コミュニケーション(英語)	29
異文化コミュニケーション(中国語)	29
中国語Ⅰ(D)	33
中国語Ⅰ(E)	34
中国語Ⅰ(H)	35
中国語Ⅱ(D)	37
中国語Ⅱ(E)	38
中国語Ⅱ(H)	39
中国語Ⅲ	40
中国語Ⅳ	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習Ⅰ(F)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ(F)	43~44
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ(F)	47
情報リテラシーⅡ(F)	50

【専門科目】	
(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
経済学	161
経済情報論	161
消費者問題	162
行政法	162
経済政策	163
社会政策	163
社会思想	164
民法	164
商法	165
産業心理学	165
会計学総論	166
簿記論Ⅰ	166
経営学総論	167
〈情報基礎〉	
情報科学概論	167
文書作成実習	168
統計学	168
応用文書処理	169
PCデータ活用	169
PCデータ活用実習	170
PCアプリケーション実習	170
(専攻専門科目)	
〈経営理論〉	
簿記論Ⅱ	185
経営管理論	185
労務管理論	186
管理会計論	186
原価計算	187
経営学特講Ⅰ	187
経営学特講Ⅱ	188
〈情報分析〉	
情報管理論	188
会計情報論	189
経営戦略論	189
企業論	190
財務会計論	190
マーケティング論	191
〈情報活用〉	
経営工学	191
応用データ活用	192
プログラミング	192
簿記論Ⅲ	193
情報論特講	193
〈演習・実習〉	
基礎演習	236~237
演習Ⅰ	236~237
演習Ⅱ	236~237
卒業研究	236~237
社会活動	238
企業研修	238



## 第二部商経学科

<b>【教養科目】</b>			
（教養一般）			
人間と文化	194		
日本の歴史	194		
日本文学・近代	195		
こころの科学	195		
比較文化	196		
アジア文化論	196		
日本国憲法	197		
ライフプランニング	197		
環境問題	198		
かごしま教養プログラム	198		
かごしまフィールドスクール	199		
キャリアデザイン	199		
（外国語科目）			
英語Ⅰ（A）	200		
英語Ⅰ（B）	200		
英語Ⅱ（A）	201		
英語Ⅱ（B）	201		
異文化コミュニケーション（英語）	202		
異文化コミュニケーション（中国語）	202		
中国語Ⅰ（A）	203		
中国語Ⅰ（B）	203		
中国語Ⅱ（A）	204		
中国語Ⅱ（B）	204		
（スポーツ・健康科目）			
生涯スポーツ実習Ⅰ	205		
生涯スポーツ実習Ⅱ	205		
（情報科目）			
情報リテラシーⅠ（A）	206		
情報リテラシーⅠ（B）	206		
情報リテラシーⅡ（A）	207		
情報リテラシーⅡ（B）	207		
<b>【専門科目】</b>			
（専門基礎科目）			
〈基礎理論〉			
現代社会論	208		
経済学	208		
社会学	209		
文化と社会	209		
経済情報論	210		
行政法	210		
社会政策	211		
社会思想	211		
民法	212		
商法	212		
産業心理学	213		
会計学総論	213		
簿記論Ⅰ	214		
経営学総論	214		
〈情報基礎〉			
情報科学概論	215		
文書作成実習	215		
統計学	216		
応用文書処理	216		
PCデータ活用	217		
PCデータ活用実習	217		
PCアプリケーション実習（A）	218		
PCアプリケーション実習（B）	218		
（専門応用科目）			
〈経済理論〉			
日本経済論	219		
財政学	220		
農業経済論	221		
金融論	221		
経済学史	222		
経済学特講	222		
〈地域と国際〉			
国際経済論	223		
アジア経済論	223		
外国貿易論	224		
国際関係論	224		
アジア事情	225		
地域経済論	225		
地域産業政策	226		
地方財政論	226		
非営利組織論	227		
労働法	227		
地域研究特講	228		
地方自治法	228		
〈経営理論〉			
簿記論Ⅱ	229		
経営管理論	229		
労務管理論	230		
原価計算	230		
経営学特講	231		
〈情報分析・活用〉			
情報管理論	231		
会計情報論	232		
経営戦略論	232		
企業論	233		
応用データ活用	233		
プログラミング	234		
財務会計論	234		
情報論特講	235		
マーケティング論	235		
〈演習・実習〉			
基礎演習	236～237		
演習Ⅰ	236～237		
演習Ⅱ	236～237		
卒業研究	236～237		
社会活動	238		
企業研修	238		

# 1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	轟 義昭, 土肥 克己, 木戸 裕子	
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時	
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか?この授業では、3人の教員がイギリス、中国、日本の3カ国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらおう。各国の文学作品について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (プリント資料配付) (2) その他必要に応じて授業時に指示する			
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション、イギリス文学:C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』 第 2回 イギリス文学:J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』 第 3回 イギリス文学:W.シェイクスピア『リア王』 第 4回 イギリス文学:J.オースティン『嵐が丘』(1) 第 5回 イギリス文学:J.オースティン『嵐が丘』(2) 第 6回 中国の文学:三国志の魅力(1) 第 7回 中国の文学:三国志の魅力(2) 第 8回 中国の文学:三国志の魅力(3) 第 9回 中国の文学:三国志の魅力(4) 第 10回 中国の文学:日本での三国志 第 11回 清少納言と紫式部:父との関係 第 12回 清少納言と枕草子:女性と漢詩文 第 13回 紫式部と源氏物語(1):主人公光源氏 第 14回 紫式部と源氏物語(2):紫のゆかり 第 15回 紫式部と源氏物語(3):さまざまな女性たち			
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。(事前でも事後でも可)			
成績評価の方法	期末レポートの提出(70点)、および講義に関する毎回の意見・感想等(30点)で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。			

(注) 文学科を除く

(注) 受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本の歴史	担当者	非常勤未定	
	[履修年次] 1年, 2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				

(注) 受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	こころの科学		担当者	安部 幸志
	[履修年次] 1年, 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。 ②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎事プリントによる資料を配布する。</p> <p>(2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会, 2015年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い』有斐閣, 2011年</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 心理学とは：科学としての心理学 第3回 こころの進化：動物にもこころはあるか 第4回 こころの発達：赤ちゃんの心理 第5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理 第6回 こころの発達：中年期と女性の心理 第7回 こころの発達：老年期の心理 第8回 性格：血液型と認知バイアス 第9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か、感覚・知覚 第10回 感覚・知覚 第11回 記憶の不思議 第12回 災害と心理 第13回 社会と心理 第14回 心理療法 第15回 ストレス</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業内課題(20%)、グループワーク(20%)、試験(60%)			
実務経験について	国立の研究所にて保健医療に関する研究に従事した経験をもとに現代社会で求められる理論的・実践的知識を教授する。			

(注) 受講者が140人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	芸術論		担当者	北 一浩
	[履修年次] 1・2年		授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート(造形芸術)を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。</p> <p>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献を適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 現代アートとは？ 西洋美術史、現代アート、ルネサンス 第3回 伝統と違うから興味ない？ アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、 第4回 美しいとは思えないのだけれど？ パブロ・ピカソ、アビニョンの娘たち 第5回 何が描いてあるかわからない ワシリー・カンディンスキー、コンポジションIV 第6回 上手だとは思えないのだけれど？ エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン 第7回 これがアートといえるの？ マルセル・デュシャン、泉 第8回 そんなに値打ちがあるものなの？ ピエト・モンドリアン、コンポジションIII 第9回 わかったような、わからないような ルネ・マグリット、光の帝国 第10回 何なのか、意味がわからない マーク・ロスコ、無題 第11回 アートとアートでないものの違いって？ アンディー・ウォーホル、プリロボックス 第12回 許せる？許せない？ リチャード・セラ、傾いた狐 第13回 きれいなのに汚い？ アンドレス・セラノ、ピス・クライスト 第14回 名作はあなたが見つけるもの 菅亮平、an actor 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート(60%) 講義内で行うワーク(40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動			

(注) 受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生																																															
	[履修年次] 1,2年履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																															
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法の視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)																																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>憲法概論</td><td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>基本権総論</td><td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>幸福追求権</td><td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>精神的自由権(1)</td><td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>精神的自由権(2)</td><td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>精神的自由権(3)</td><td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRA の基準、学問の自由、大学の自治について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>経済的自由権</td><td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>受益権</td><td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>社会権(1)</td><td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>社会権(2)</td><td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>国会(1)</td><td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>国会(2)</td><td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>内閣</td><td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>裁判所</td><td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>財政</td><td>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td></tr> </table>					第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第 6 回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRA の基準、学問の自由、大学の自治について	第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																																
第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																																
第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																																
第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																																
第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																																
第 6 回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、IRA の基準、学問の自由、大学の自治について																																																
第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																																
第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																																
第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																																
第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																																
第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																																
第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																																
第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																																
第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																																
第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																																
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																	
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																	

(注) 受講者が 100 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子																																
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する																																
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 法学入門</p> <p>生まれてから死ぬまでの間、日々の生活の中で経験する可能性のある法律問題について、概観します。</p> <p>【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺もあるように、中立性・客観性・合理性を追求する法は、日常の感覚からすると何かよそよそしいもののように感じるかもしれません。しかし、法律は私たちの日常に深くかかわっています。</p> <p>【到達目標】様々な角度から法の事象に触れることによって、日常生活の中にある出来事にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨くことを目指します。</p>																																		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 森本直子・織原保尚編『法学ダイアリー』(ナカニシヤ出版)																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>オリエンテーション：法の世界のプロローグ</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>人生初期の法 (1) 法的な意味での人の始期と終期</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>人生初期の法 (2) 法律の中の「子ども」</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>人生初期の法 (3) 子どもをとりまく社会環境</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>人生中期の法 (1) 国民主権と民主主義</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>人生中期の法 (2) 私たちと裁判—法が在ること、法が表現されることは違う</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>人生中期の法 (3) 消費生活と法：契約の成立から終了まで</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>人生中期の法 (4) 職業生活と法：労働法の基本と多様な働き方</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>人生中期の法 (5) パートナーシップと法</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>人生中期の法 (6) 事故と法：不法行為法の基本</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>人生中期の法 (7) 犯罪と法：刑法とは何か</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>人生終期の法 (1) 高齢化と法：社会保障、成年後見制度、</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>人生終期の法 (2) 終末期と法：安楽死・尊厳死・脳死と臓器移植</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>発展的課題と法：グローバル化と法</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第 1 回	オリエンテーション：法の世界のプロローグ	第 2 回	人生初期の法 (1) 法的な意味での人の始期と終期	第 3 回	人生初期の法 (2) 法律の中の「子ども」	第 4 回	人生初期の法 (3) 子どもをとりまく社会環境	第 5 回	人生中期の法 (1) 国民主権と民主主義	第 6 回	人生中期の法 (2) 私たちと裁判—法が在ること、法が表現されることは違う	第 7 回	人生中期の法 (3) 消費生活と法：契約の成立から終了まで	第 8 回	人生中期の法 (4) 職業生活と法：労働法の基本と多様な働き方	第 9 回	人生中期の法 (5) パートナーシップと法	第 10 回	人生中期の法 (6) 事故と法：不法行為法の基本	第 11 回	人生中期の法 (7) 犯罪と法：刑法とは何か	第 12 回	人生終期の法 (1) 高齢化と法：社会保障、成年後見制度、	第 13 回	人生終期の法 (2) 終末期と法：安楽死・尊厳死・脳死と臓器移植	第 14 回	発展的課題と法：グローバル化と法	第 15 回	まとめ
第 1 回	オリエンテーション：法の世界のプロローグ																																		
第 2 回	人生初期の法 (1) 法的な意味での人の始期と終期																																		
第 3 回	人生初期の法 (2) 法律の中の「子ども」																																		
第 4 回	人生初期の法 (3) 子どもをとりまく社会環境																																		
第 5 回	人生中期の法 (1) 国民主権と民主主義																																		
第 6 回	人生中期の法 (2) 私たちと裁判—法が在ること、法が表現されることは違う																																		
第 7 回	人生中期の法 (3) 消費生活と法：契約の成立から終了まで																																		
第 8 回	人生中期の法 (4) 職業生活と法：労働法の基本と多様な働き方																																		
第 9 回	人生中期の法 (5) パートナーシップと法																																		
第 10 回	人生中期の法 (6) 事故と法：不法行為法の基本																																		
第 11 回	人生中期の法 (7) 犯罪と法：刑法とは何か																																		
第 12 回	人生終期の法 (1) 高齢化と法：社会保障、成年後見制度、																																		
第 13 回	人生終期の法 (2) 終末期と法：安楽死・尊厳死・脳死と臓器移植																																		
第 14 回	発展的課題と法：グローバル化と法																																		
第 15 回	まとめ																																		
授業外学習(予習・復習)	今年はテキストを指定するので、事前・事後に該当箇所を読むなどしてください。																																		
成績評価の方法	最終レポート (90%) + 授業内課題 (10%)																																		

(注) 受講者が 90 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	<b>社会学</b>	担当者	西原 誠司
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義	授業外対応	メール・Line で連絡。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love &amp; Peace の社会学——ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する。</p> <p>【概要】 ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11 同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、シリア内戦、イスラム国の台頭、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義ではこのような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明しその解決の方向性を探る。</p> <p>【到達目標】 世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）</p> <p>(2) 池田香代子&amp;マガジンハウス『世界がもし100人の村だったら 2』（マガジンハウス、2002年6月）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える</p> <p>第2回 ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える</p> <p>第3回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ①</p> <p>第4回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ②</p> <p>第5回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ③</p> <p>第6回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ④</p> <p>第7回 民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生——EUの新しい実験 ⑤</p> <p>第8回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ①</p> <p>第9回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ②</p> <p>第10回 なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか——9.11後のアメリカ社会を考える ③</p> <p>第11回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ①</p> <p>第12回 EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 ②</p> <p>第13回 「イスラム国」/ウクライナ/アフリカの部族紛争</p> <p>第14回 非暴力主義の系譜と世界平和——ガンジー/キング牧師/チャップリン/ネルソンマンデラ/ジョンレノン</p> <p>第15回 おわりに——東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる。</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度(積極的に授業に参加しているか、感想文の提出50%) および筆記試験(50%)。		

(注) 受講生が90人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	<b>生活と経済</b>	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の見方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか(第2~3回)。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ(第4~6回)。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ(第7~10回)。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ(第11~14回)。</p> <p>【到達目標】</p> <p>身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 人間社会と経済の発展</p> <p>第3回 戦後日本の経済発展と現在</p> <p>第4回 生産と消費(1)ものづくり</p> <p>第5回 生産と消費(2)サービス</p> <p>第6回 生産と消費(3)社会的存在としての企業</p> <p>第7回 労働と賃金(1)賃金とは何か</p> <p>第8回 労働と賃金(2)働きすぎの日本社会</p> <p>第9回 労働と賃金(3)失業、不安定就労、貧困問題</p> <p>第10回 労働と賃金(4)人間らしい労働への取り組み</p> <p>第11回 税と社会保障(1)日本における税負担の構造</p> <p>第12回 税と社会保障(2)税制度の公平性</p> <p>第13回 税と社会保障(3)社会保障制度の役割</p> <p>第14回 税と社会保障(4)日本における社会保障の貧困</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

(注) 商経学科を除く

(注) 受講生が50人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 1	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介			
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆5月20日(水)(特設時間を利用) 第1回 「総論」 キャリア・キャリアデザインとは</li> <li>◆6月3日(水)(特設時間を利用) 第2回 「職業の見つけ方Ⅰ」 自己分析の仕方</li> <li>◆7月1日(水)(特設時間を利用) 第3回 「職業の見つけ方Ⅱ」 企業研究の仕方</li> <li>◆9月17日(木)3限 第4回 「職業の見つけ方Ⅲ」 企業・団体が求める人材と専門技能について</li> <li>◆9月17日(木)4限 第5回 「職業の見つけ方Ⅳ」 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</li> <li>◆10月21日(水)(特設時間を利用) 第6回 「キャリアプランの拡張Ⅰ」 プロフェッショナルになろう</li> <li>◆11月11日(水)(特設時間を利用) 第7回 「キャリアプランの拡張Ⅱ」 中高年からの職業選択手段について</li> <li>◆12月16日(水)(特設時間を利用) 第8回 「仕事と生活の擁護」</li> </ul> <p>※ 2年度の講師については適宜掲示する。</p>			
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出 (100%)			

授業科目	数学の世界		担当者	和田 信哉
		[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 数学を愉しむ</p> <p>【概要】 小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し、数学のよさや美しさなどを実感することによって、数学を愉しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な数学的知識を理解する。</li> <li>・数学的に考えることを愉しむことができる。</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義中に適宜紹介する			
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 n進法</li> <li>第3回 九九表</li> <li>第4回 ロッカー問題</li> <li>第5回 ハノイの塔</li> <li>第6回 黄金比</li> <li>第7回 敷き詰め</li> <li>第8回 はと目返し</li> <li>第9回 ポリオミノ</li> <li>第10回 正三角形を折る</li> <li>第11回 一裁ち折り紙</li> <li>第12回 一筆書き</li> <li>第13回 結び目</li> <li>第14回 問題をつくろう</li> <li>第15回 まとめ</li> </ul>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(60%) + 授業ごとに実施する小テスト(40%)			
実務経験について	小学校にて講師として勤務			

(注) 受講者が45人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	物理の世界		担当者	藤井 伸平
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
				(授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義の概要、基本的な量について</p> <p>第 2 回 身近な現象・・・大気圧を感じる</p> <p>第 3 回 身近な現象・・・地球の大きさ・丸さを感じる</p> <p>第 4 回 身近な現象・・・まさつを感じる</p> <p>第 5 回 身近な現象・・・水の特異な性質について</p> <p>第 6 回 身近な現象・・・ろうそくの炎について</p> <p>第 7 回 力学・・・釣り合いとてこの原理を感じる</p> <p>第 8 回 力学・・・無重量状態を感じる</p> <p>第 9 回 力学・・・慣性を感じる</p> <p>第 10 回 熱学・・・断熱膨張を感じる</p> <p>第 11 回 熱学・・・気化熱を感じる</p> <p>第 12 回 電磁気学・・・分極を感じる</p> <p>第 13 回 電磁気学・・・磁場を感じる</p> <p>第 14 回 振動・波動・・・光の屈折を感じる</p> <p>第 15 回 まとめ (理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	(A)授業ごとの小レポート (50%)、(B)課題レポート (50%)。(詳細については第 1 回目の講義で説明します。)			

(注) 受講生が 80 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	生物の科学		担当者	塔筋 弘章
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
				(授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製 (増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 生物の基本構造：化学成分と細胞</p> <p>第 2 回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3 回 DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節</p> <p>第 4 回 バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素</p> <p>第 5 回 細胞分裂 (1)：細胞分裂と細胞周期</p> <p>第 6 回 細胞分裂 (2)：減数分裂と受精、発生</p> <p>第 7 回 遺伝の基礎：メンデルの法則</p> <p>第 8 回 染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図</p> <p>第 9 回 突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん</p> <p>第 10 回 環境ホルモン：内分泌攪乱因子と遺伝子の発現</p> <p>第 11 回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第 12 回 生物の進化 (1)：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ</p> <p>第 13 回 生物の進化 (2)：動物の進化</p> <p>第 14 回 生物の進化 (3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第 15 回 生物の進化 (4)：猿人からヒトへ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師			

(注) 生活科学科食物栄養専攻を除く

(注) 受講生が 40 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。



授業科目	化学の世界	担当者	井余田 秀美・木下 朋美	
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 (注)	授業外対応	講義終了時	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。(第1~6回:井余田, 第7~15回:木下 担当)</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探究し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 化学の基礎 (化学とは、地球の誕生、自然の恩恵、資源の利用)</p> <p>第2回 生活の化学1 (化学の歴史、物質の成り立ち、状態や性質、化学変化、無機物と有機物)</p> <p>第3回 生活の化学2 (1日の生活、衣食住、エネルギーと資源)</p> <p>第4回 話題の化学 (PM2.5, LED, 原子力発電、燃料電池、ノーベル化学賞)</p> <p>第5回 鹿児島と化学 (火山と火山灰やシラス、温泉と湧水、サツマイモと焼酎、薩摩切子、大島紬)</p> <p>第6回 洗剤・洗濯の化学 (界面活性剤、洗浄作用、シャボン玉と研究)</p> <p>第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法-茶成分 (アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等) への影響 (1)</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法-茶成分 (アミノ酸, ポリフェノール, カフェイン等) への影響 (2)</p> <p>第10回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工 (ブレンド・火入れ) -アミノカルボニル反応</p> <p>第11回 味も作り出す 香りの特性と役割 - 香気成分と受容体</p> <p>第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴 (急須とペットボトル) -茶成分の品質への影響</p> <p>第13回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴 (実習)</p> <p>第14回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール, 香気成分等</p> <p>第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分 (実習)</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	レポート (100%)			

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講者が50人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	食生活と健康	担当者	中熊 美和・亀井 勇統・木下 朋美・古川 那由太	
	[履修年次] 1.2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注)	授業外対応	担当ごとに適宜対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】</p> <p>バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)プリント</p> <p>(2)適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：健康とは何か？ (中熊)</p> <p>第2回 健康な食生活：食品の特性 (木下)</p> <p>第3回 健康な食生活：食の安全 (木下)</p> <p>第4回 育種と健康：古典的な品種改良 (古川)</p> <p>第5回 育種と健康：遺伝子組換え食品 (古川)</p> <p>第6回 食物と生活：食物の機能性 (亀井)</p> <p>第7回 食物と生活：食物の機能性試験の方法 (亀井)</p> <p>第8回 食物と生活：特定保健用食品の開発 (亀井)</p> <p>第9回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性 (中熊)</p> <p>第10回 健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法 (中熊)</p> <p>第11回 健康な食生活：ダイエット (中熊)</p> <p>第12回 健康な生活習慣：運動・睡眠・休養 (中熊)</p> <p>第13回 健康な生活習慣：生活習慣病 (中熊)</p> <p>第14回 健康な食生活：食のおいしさ・食文化 (中熊)</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは (中熊)</p>			
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。			
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト (70%)、授業態度 (30%)を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。			
実務経験について	ビール会社において研究職に従事 (亀井)			

(注) 受講者が140人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	現代人権論 (隔年開講)		担当者	小栗 実・疋田 京子・田口 康明				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	講義終了後				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人権の主体に注目する (外国人、女性、子ども)</p> <p>【概要】「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」(世界人権宣言第1条)とあるように、人権は普遍的である、はずである。しかし「等しいものは等しく、等しからざる者は等しからざるように取り扱え」という基本的テーゼによって、「誰と誰が等しく、誰と誰が異なるのか?」という問いが生まれる。多様な人々に人権は普遍的に保障されているだろうか。人権を歴史的に発見され発展してきたものと捉え、その権利の担い手として「外国人」「女性」「子ども」に注目する。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会の中で、外国人、女性、子どもがどのような人権問題に直面しているのか、その原因と背景を踏まえ、その状況に対して国際社会はどのように対応しようとしているのかを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 後日担当者が指定する (2) 後日担当者が指定する							
授業スケジュール	第 1回 「人権」とは何か：様々な人権侵害の発見 (疋田) 第 2回 人権の歴史：近代憲法における人権保障から現代憲法における人権保障へ (第2回～6回：小栗) 第 3回 人権の内容：自由権・参政権・社会権 第 4回 人権の総則的規定：個人の尊重と法の下での平等 第 5回 人権の主体：外国人も基本的に国民と同様に権利が保障される 第 6回 人権の主体：外国人にも保障されている人権と制約を受けている人権 第 7回 法の下での平等原則：女性と男性は同じか異なるか (7回～第10回：疋田) 第 8回 女性が経済的に自立する条件：シングルマザーの貧困を考える 第 9回 「婚姻の自由」と法律婚：同性婚合法化の国際的潮流 第10回 女性の政治参加は保障されているか：クォータ制度が世界のトレンドになった理由 第11回 「子ども」とは何か：子どもの定義 (日本と諸外国) (第11回～第15回：田口) 第12回 近代日本における子どもの権利：明治憲法体制下から今日まで 第13回 国連・子どもの権利条約：国連子どもの権利条約の成立と内容 第14回 子どもの教育・福祉と人権：人権という観点からの日本における子どもの教育・福祉の状況の検討 第15回 人権教育の課題：さまざまな差別と子どもの権利擁護に向けた教育的な課題							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	「レポート」：各担当者ごとに課題を出し、合計して評価する。提出期限は各担当者が指示する。							

(注) 受講生が90人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	鹿児島学 (隔年開講)		担当者	島津 義秀、三嶽 公子、岡田 登				
	[履修年次]	1, 2	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】鹿児島の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。</p> <p>【概要】歴史、文学、地方創生、まちづくりの視点から鹿児島の特性を理解し、鹿児島の未来を考える。</p> <p>【到達目標】鹿児島の理解を深め、地域の一員として鹿児島のあるべき姿を考察する。 ※鹿児島市役所からゲストスピーカーを呼ぶこともあります。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 「薩摩のキセキ」総合法令出版社、「薩摩の秘剣」新潮新書 「みたけきみこと読むかごしまの文学」、「屋久島文学散歩」							
授業スケジュール	第 1回 はじめに：鹿児島学の講義内容の説明 第 2回 歴史 (1)：鹿児島の歴史について (島津) 第 3回 歴史 (2)：鹿児島の思想について (島津) 第 4回 歴史 (3)：没後四百年 島津義弘の生き様について (島津) 第 5回 歴史 (4)：鹿児島県指定無形文化財「薩摩琵琶」・「天吹」について (島津) 第 6回 文学 (1)：万葉集「令和ものがたり」～薩摩川内・長島～ (三嶽) 第 7回 文学 (2)：霧島の歌～与謝野晶寛・晶子 斎藤茂吉 海音寺朝五郎ほか～ (三嶽) 第 8回 文学 (3)：鹿児島の戦争遺跡と文学～鹿屋・知覧・桜島・加計呂麻島～ (三嶽) 第 9回 文学 (4)：屋久島の文学 (三嶽) 第10回 まちづくり (1)：地方創生・国際化政策 (岡田) 第11回 まちづくり (2)：都市政策・福祉政策 (岡田) 第12回 まちづくり (3)：観光政策・文化政策 (岡田) 第13回 まちづくり (4)：産業政策・環境政策 (岡田) 第14回 まちづくり (5)：鹿児島の未来を考える (1) (岡田) 第15回 まちづくり (6)：鹿児島の未来を考える (2) (岡田)							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	担当者で分担して評価をする (島津30点、三嶽30点、岡田40点)							
実務経験について	島津義秀 (精矛社の宮司、加治木島津家の第13代当主)、三嶽公子 (月の舟自由大学の学長、NPO法人かごしま文化研究所の副理事長)、岡田登 (自治体の元職員)							

(注) 受講生が90人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	かごしま教養プログラム		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定				
授業スケジュール	<p>第1回 令和元年度実施概要(令和2年度については未定)</p> <p>日程：8月21日(水)～23日(金) 場所：鹿児島大学 定員：県内7大学等の学生150人</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。</li> <li>レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。</li> </ul>				

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定				
授業スケジュール	<p>第1回 令和元年度実施概要(令和2年度については未定)</p> <p>日程・場所：①8月26日(月)～28日(水) 2泊3日 霧島牧園地区 ②8月25日(日)～28日(水) 4日間 鹿児島市、いちき串木野市、薩摩川内市、出水市、始良市 ③8月26日(月)～29日(木) 3泊4日 南さつま市大浦町</p> <p>定員：県内7大学等の学生90人</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。</li> <li>レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。</li> </ul>				

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [単位] 2～4	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年 [単位] 2	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

## 2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud &amp; Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. &lt;be 動詞&gt;</p> <p>第 3 回 Do you remember me? &lt;一般動詞 (現在) &gt;</p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. &lt;一般動詞 (過去) &gt;</p> <p>第 5 回 When does the meeting start? &lt;疑問詞&gt;</p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? &lt;助動詞 1 &gt;</p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. &lt;文の種類、命令文&gt;</p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. &lt;進行形&gt;</p> <p>第 9 回 I'll give her your message. &lt;未来形&gt;</p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. &lt;現在完了形&gt;</p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. &lt;受動態&gt;</p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. &lt;比較&gt;</p> <p>第 13 回 I'd like to check in. &lt;助動詞 2 &gt;</p> <p>第 14 回 How about going to the theater? &lt;動名詞&gt;</p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. &lt;to 不定詞&gt;</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Meeting people/introducing yourself. (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describing people – personality and character (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Stating locations - describing differences between two places (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Giving directions – following map directions (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Describing personal experiences (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review/reflection/feedback</p> <p>第 9 回 Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Describing processes – food and cooking (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Music – Giving opinions about music (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review/reflection/feedback</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (B) 金曜 4 限	担当者	あべ松 伸二
	[履修年次] 1 年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。</p> <p>【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。またロールプレイを通してスピーキング力を高める。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金子光茂, Richard H. Simpson 『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED』 南雲堂</p> <p>(2) 随時プリント資料</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション /Booking Accommodation (宿泊の予約)</p> <p>第 2 回 Booking Accommodation (宿泊の予約)</p> <p>第 3 回 Taking Photos (写真を撮る)</p> <p>第 4 回 At a Restaurant (レストランで)</p> <p>第 5 回 Let's Stay Healthy (健康や体調)</p> <p>第 6 回 まとめ (重要語彙, 有用表現など)</p> <p>第 7 回 Television (テレビ)</p> <p>第 8 回 Sports (スポーツ) "</p> <p>第 9 回 Confirmation (確認する)</p> <p>第 10 回 Taking a Taxi (タクシーに乗る)</p> <p>第 11 回 まとめ (重要語彙, 有用表現など)</p> <p>第 12 回 On the Plane (機内で)</p> <p>第 13 回 Meeting at the Airport (空港での出迎え)</p> <p>第 14 回 "</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 提出物等(30%)		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B) 金曜5限	担当者	あべ松 伸二
	[履修年次] 1 年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。</p> <p>【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。またロールプレイを通してスピーキング力を高める。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金子光茂, Richard H. Simpson 『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED』 南雲堂</p> <p>(2) 随時プリント資料</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション /Booking Accommodation (宿泊の予約)</p> <p>第 2 回 Booking Accommodation (宿泊の予約)</p> <p>第 3 回 Taking Photos (写真を撮る)</p> <p>第 4 回 At a Restaurant (レストランで)</p> <p>第 5 回 Let's Stay Healthy (健康や体調)</p> <p>第 6 回 まとめ (重要語彙, 有用表現など)</p> <p>第 7 回 Television (テレビ)</p> <p>第 8 回 Sports (スポーツ) "</p> <p>第 9 回 Confirmation (確認する)</p> <p>第 10 回 Taking a Taxi (タクシーに乗る)</p> <p>第 11 回 まとめ (重要語彙, 有用表現など)</p> <p>第 12 回 On the Plane (機内で)</p> <p>第 13 回 Meeting at the Airport (空港での出迎え)</p> <p>第 14 回 "</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 提出物等(30%)		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。		
授業スケジュール	第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) 第 2 回 Meeting people/introducing yourself. (Unit 1) 第 3 回 Describing people – personality and character (Unit 2) 第 4 回 Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3) 第 5 回 Stating locations – describing differences between two places (Unit 4) 第 6 回 Giving directions – following map directions (Unit 5) 第 7 回 Describing personal experiences (Unit 6) 第 8 回 Review/reflection/feedback 第 9 回 Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7) 第 10 回 Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8) 第 11 回 Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9) 第 12 回 Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10) 第 13 回 Describing processes – food and cooking (Unit 11) 第 14 回 Music – Giving opinions about music (Unit 12) 第 15 回 Review/reflection/feedback		
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊 (2) 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Please to meet you. <be 動詞> 第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) > 第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) > 第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞> 第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 > 第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文> 第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形> 第 9 回 I'll give her your message. <未来形> 第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形> 第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態> 第 12 回 We expect higher sales in China. <比較> 第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 > 第 14 回 How about going to the theater? <動名詞> 第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻



授業科目	英語 I (D)	担当者	松元 貴子
	[履修年次] 1	授業外対応	授業終了後、または、メールにて。
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を総合的に学び、主にライティングとスピーキングを通して、表現する力を鍛える。</p> <p>【概要】ライティング活動を通して、アイデアの出し方、パラグラフの構成力を習得する。</p> <p>スピーキング活動を通して、英語の音声を理解し、実践する。</p> <p>ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。</p> <p>【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文をもとに、スピーキングができる。</p> <p>ペアワークでの会話を2、3分続けることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 How to organize a paragraph / Brainstorming</p> <p>第3回 Explaining about yourself and people 1</p> <p>第4回 Explaining about yourself and people 2</p> <p>第5回 Let's talk about yourself and people</p> <p>第6回 Describing about your experience 1</p> <p>第7回 Describing about your experience 2</p> <p>第8回 Let's talk about your experience</p> <p>第9回 Presentation project preparation 1</p> <p>第10回 Presentation project preparation 1</p> <p>第11回 Presentation project preparation 1</p> <p>第12回 Group presentation</p> <p>第13回 Preparation and review for final</p> <p>第14回 Final presentation or interview 1</p> <p>第15回 Final presentation or interview 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取り組み (25%) + 提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 月曜3限	担当者	石原 知英
	[履修年次] 1	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス (到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明)</p> <p>第2回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第3回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第4回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第5回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第6回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第7回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第8回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第11回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第12回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第13回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第14回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第15回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>		
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習 (予習)、前時に学習した語句および例文の確認 (復習)		
成績評価の方法	毎週の授業内課題 (小テスト20%、振り返りシート20%) クラスでの発表課題 (中間プレゼンテーション20%、最終プレゼンテーション40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (D) 月曜 4 限	担当者	石原 知英
	[履修年次] 1 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
		[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）</p> <p>第 2 回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第 3 回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第 4 回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第 5 回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第 6 回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第 7 回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第 8 回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第 9 回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第 10 回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第 11 回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第 12 回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第 13 回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第 14 回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第 15 回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>		
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習）		
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%） クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、ナチュラルスピードの英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現や語彙を身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの口頭練習で、「ナチュラルな英語を聞き取るコツ」、「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半では、アメリカ旅行と留学を題材にしたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話での英語表現や語彙を場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1)テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> 出版社: マクミラン・ランゲージハウス <毎回、LL 教室を使用します>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス: 授業内容と進め方について / ナチュラルな英語の特徴と聞き取り</p> <p>第 2 回 Do you have a reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現</p> <p>第 3 回 Would you like soup or salad?: レストランでのチェックインに使う表現</p> <p>第 4 回 Could you repeat that?: 道順を尋ねる時に使う表現</p> <p>第 5 回 Where's fitting room?: ショッピングに使う表現</p> <p>第 6 回 Good to see you!: 挨拶に使う表現</p> <p>第 7 回 I enjoyed my stay.: ホテルでのチェックアウトに使う表現</p> <p>第 8 回 You are one of the family now.: ホームステイ先で使う表現</p> <p>第 9 回 I want to help.: 申し出る・申し出を受ける表現</p> <p>第 10 回 Would you like to join us?: 人を誘う・誘いに応じる表現</p> <p>第 11 回 Let's keep in touch, OK?: 別々に使う表現</p> <p>第 12 回 映画を利用したリスニング演習: その (1)</p> <p>第 13 回 映画を利用したリスニング演習: その (2)</p> <p>第 14 回 映画を利用したリスニング演習: その (3)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習		
成績評価の方法	授業フィードバックシート (30%) + 復習のための小テスト (20%) + 定期試験(50%)		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第 2 回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第 3 回 Unit 8: Talking about Entertainment: Making Invitations and Suggestions 第 4 回 Unit 8: Using different verb patterns 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第 7 回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第 8 回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第 9 回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 11: Giving instructions 第 12 回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第 13 回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第 14 回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review Unit 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin'la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	ルーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the class</p> <p>第 2回 Getting to know the classmates</p> <p>第 3回 Daily Routines</p> <p>第 4回 Describing Appearance</p> <p>第 5回 Describing Appearance</p> <p>第 6回 Clothes / Fashion</p> <p>第 7回 Personality Traits</p> <p>第 8回 Review</p> <p>第 9回 Making Requests</p> <p>第 10回 Hobbies / Interests</p> <p>第 11回 Movies</p> <p>第 12回 Movies</p> <p>第 13回 Travel Plans</p> <p>第 14回 Travel Plans</p> <p>第 15回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grade : test× 2 = 5 0 % Homework, quizzes and class participation = 5 0 %		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	ブライアン・ペデセン Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	講義終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 College English for Japanese learners</p> <p>【概要】 By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking.</p> <p>【到達目標】</p> <p>A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jerry Talandis Jr./Bruno Vannieu 「Conversation in class (third edition)」 Alma Publishing</p> <p>(2) デイビッド・セイン 「英会話が口からパツと出る」英作文トレーニング 西東社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Classroom language/ Personal information</p> <p>第 2回 Family and home. Describing one's home and community</p> <p>第 3回 Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely.</p> <p>第 4回 Times and dates. Discussing schedules.</p> <p>第 5回 Shopping. Working and dealing with large numbers</p> <p>第 6回 Routines. Discussing frequency of activities.</p> <p>第 7回 One's neighborhood. One's family</p> <p>第 8回 Vacations. Discussing past experiences.</p> <p>第 9回 Locating buildings. Following / giving simple directions</p> <p>第 10回 Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages.</p> <p>第 11回 Inviting. Accepting and refusing invitations.</p> <p>第 12回 Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits.</p> <p>第 13回 Health Describing the body. Illness. Offering suggestions.</p> <p>第 14回 Speaking naturally.</p> <p>第 15回 Final review and oral presentation preparation.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適時指示		
成績評価の方法	Class participation 45% Written work 20 % Final Oral Presentation 35%		
実務経験について	英語教室講師経験有り		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	By email
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1</i>, Fifth Edition, Pearson</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions.</p> <p>第 2回 Unit 1. Pair talk . Using <i>simple present</i> . Unit review.</p> <p>第 3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends.</p> <p>第 4回 Unit 2. Pair talk. Differences between <i>have</i> and <i>be</i> in <i>simple present</i> . Unit review.</p> <p>第 5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date.</p> <p>第 6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review.</p> <p>第 7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent.</p> <p>第 8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with <i>there is</i> and <i>there are</i>. Unit review.</p> <p>第 9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions.</p> <p>第 10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review.</p> <p>第 11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took.</p> <p>第 12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review.</p> <p>第 13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do?</p> <p>第 14回 Unit 7. Pair talk. Using the <i>simple present</i> to ask about jobs and skills. Unit review</p> <p>第 15回 Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills</p> <p>第 2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with</p> <p>第 3回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions</p> <p>第 4回 Unit 8: Using different verb patterns</p> <p>第 5回 Quiz (1) and Discussion</p> <p>第 6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities</p> <p>第 7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions</p> <p>第 8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items</p> <p>第 9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers</p> <p>第 10回 Quiz (2) and Discussion</p> <p>第 11回 Unit 11: Giving instructions</p> <p>第 12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past</p> <p>第 13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music</p> <p>第 14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect</p> <p>第 15回 Final Exam</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)	担当者	ブライアン・ペデセン Brian Pedersen		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	講義後対応		
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Real world conversation</p> <p>【概要】 grammar based textbook aimed at Japanese college age students of English provides a helpful scaffold toward self-directed learning.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for the completion of this course would be for students to improve their conversational level of English and show greater ease and confidence in everyday English speaking situation</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) A successful outcome for the completion of this course would be for students to improve their conversational level of English and show greater ease and confidence in everyday English speaking situation</p> <p>(2) デイビッド・セイン 「英会話が口からパツと出る」英作文トレーニング 西東社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Getting acquainted</p> <p>第 2 回 Part time jobs</p> <p>第 3 回 Daily routines</p> <p>第 4 回 Spending time</p> <p>第 5 回 Hometown attractions</p> <p>第 6 回 Where to live in the future.</p> <p>第 7 回 Travel experiences</p> <p>第 8 回 Planning a trip</p> <p>第 9 回 Talking about breaks</p> <p>第 10 回 Future hobbies</p> <p>第 11 回 Music</p> <p>第 12 回 TV, Reading and games</p> <p>第 13 回 Recent meals</p> <p>第 14 回 Exotic foods and eating out</p> <p>第 15 回 Review of lessons and oral presentation practice.</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	Classroom participation 45% Written work 20% Final oral presentation 35%				
実務経験について	英語教室講師経験有り				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)	担当者	ルーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the class</p> <p>第 2 回 Getting to know the classmates</p> <p>第 3 回 Daily Routines</p> <p>第 4 回 Describing Appearance</p> <p>第 5 回 Describing Appearance</p> <p>第 6 回 Clothes / Fashion</p> <p>第 7 回 Personality Traits</p> <p>第 8 回 Review</p> <p>第 9 回 Making Requests</p> <p>第 10 回 Hobbies / Interests</p> <p>第 11 回 Movies</p> <p>第 12 回 Movies</p> <p>第 13 回 Travel Plans</p> <p>第 14 回 Travel Plans</p> <p>第 15 回 Review</p>				
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.				
成績評価の方法	Grade : test× 2 = 5 0 % Homework, quizzes and class participation = 5 0 %				

(注) 教職必修, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)				
授業スケジュール	第1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第3回 Unit 8: Talking about Entertainment: Making Invitations and Suggestions 第4回 Unit 8: Using different verb patterns 第5回 Quiz (1) and Discussion 第6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第10回 Quiz (2) and Discussion 第11回 Unit 11: Giving instructions 第12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第15回 Final Exam				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%				
実務経験について	高等学校で教員(ALT)として勤務				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)				
授業スケジュール	第1回 Introduction of the course and key topics 第2回 Jobs 第3回 Daily Activities 第4回 Weekend Activities 第5回 Music 第6回 Vacations 第7回 Cities 第8回 Review Quiz 第9回 Uniforms 第10回 Clothes 第11回 Fashion 第12回 Cooking 第13回 Places around Town 第14回 Houses 第15回 Pair Practice on key topics 第16回 Final Oral Review				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (A)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for introductions, expressing emotions, making excuses and explanations, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 2」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130234) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 1: Introductions and Relationships 第 2 回 Unit 1: Using Simple past; Simple present; Present perfect; Present Continuous 第 3 回 Unit 2: Feelings and Emotions 第 4 回 Unit 2: Using Conditionals; Adjectives for emotions 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 3: Making Recommendations 第 7 回 Unit 3: Comparatives and Superlatives to describe places; Amplifiers for comparisons 第 8 回 Unit 4: Sharing opinions; Agreeing and Disagreeing 第 9 回 Unit 4: Using Superlatives to describe events; Tag questions 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 5: Excuses and Requests; Accepting and Refusing 第 12 回 Unit 5: Using Could and Would: Using clauses in complex sentences 第 13 回 Unit 6: Culture differences; Symbols 第 14 回 Unit 6: Using wh~ questions; Relative pronouns 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (B)	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	By email
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1</i> , Fifth Edition, Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. 第 2 回 Unit 8. Entertainment and opinions. Making plans 第 3 回 Unit 8. Pair talk. Using verb combinations and factual statements and invitations. Unit review. 第 4 回 Unit 9. Future plans and activities. Looking forward to summer. 第 5 回 Unit 9. Using the future tense. Unit review. 第 6 回 Unit 10. Shopping. Negotiate prices. 第 7 回 Unit 10. Pair talk. Using comparatives and intensifiers to describe preferences. Unit review. 第 8 回 Unit 11. Giving instructions. Teaching someone a skill. 第 9 回 Unit 11. Pair talk. Using imperatives to give instructions and using the past tenses to talk about completed processes. Unit review. 第 10 回 Unit 12. Listen to music. Expressing our thoughts about music (speaking vocabulary). 第 11 回 Unit 12. Pair talk. Differentiate between past and present tenses when giving opinions. Unit review. 第 12 回 Special activity: watching a movie in English.1 第 13 回 Special activity: watching a movie in English 2. 第 14 回 Discussion about the movie. 第 15 回 Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%); final presentation (60%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻



授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	あへ松 伸二
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々な題材の英文を読むことを通じて、日本語訳に頼った英文読解から脱却し、英文そのものを楽しむ力を養う。また、英語を読む際に必要なストラテジーを段階的に身につける。さらに、英文読解の最も基礎的な力である語彙力増強のトレーニングも随時行う。</p> <p>【概要】主に、パラグラフの構造を理解し、英文読解に必要なストラテジーを習得する。また、わからない単語の意味を辞書に頼ることなく文脈や前後関係から推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英文を読む楽しさを味わうことができる。 英文のパラグラフ構造を理解し、概要・要点を大まかに把握することができる。 わからない単語の意味を、文脈や前後関係から推測するスキルを修得できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 卯城祐司/中川知佳子/Mari Le Pavoux 著 / <i>Reader's Ark Basic</i> (金星堂)</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 01 Check Your Level: 語彙力・速読力のチェック 第3回 // 第4回 Unit 02 Experience Pre-Reading Activities: visual aids, title, background information etc. 第5回 // 第6回 Unit 03 Identifying the Main Idea &lt;1&gt;: topic sentence (top) 第7回 // 第8回 Unit 04 Identifying the Main Idea &lt;2&gt;: topic sentence (bottom) 第9回 // 第10回 Unit 05 Identifying the Main Idea &lt;3&gt;: topic sentence (middle) 第11回 // 第12回 Unit 06 Understanding Supporting Details 第13回 Unit 07 Using Signal Words to Predict Ideas &lt;1&gt;: sentence to sentence 第14回 Unit 08 Using Signal Words to Predict Ideas &lt;2&gt;: discourse 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 提出物等(30%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	非常勤未定
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 期末試験</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (E)	担当者	ブライアン・ペデセン Brian Pedersen		
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	講義終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素(speaking, listening, reading, writing) をスパイラルに取り入れ、コミュニケーション能力を向上すること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1, Fifth Edition</i>, Pearson</p> <p>(2) David Barker 「An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners」 Back to Basics Press</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction</p> <p>第 2 回 Unit 6-Past Experiences: Vocabulary, Listening, Conversation</p> <p>第 3 回 Unit 6-Past Experiences: Pair Practice, Grammar, Pronunciation</p> <p>第 4 回 Unit 6-Past Experiences: Unit Quiz &amp; Presentations</p> <p>第 5 回 Unit 7-Jobs &amp; Skills: Vocabulary, Listening, Conversation</p> <p>第 6 回 Unit 7-Jobs &amp; Skills: Pair Practice, Grammar, Pronunciation</p> <p>第 7 回 Unit 7-Jobs &amp; Skills: Unit Quiz &amp; Presentations</p> <p>第 8 回 Unit 8-Entertainment &amp; Opinions: Vocabulary, Listening, Conversation</p> <p>第 9 回 Unit 8-Entertainment &amp; Opinions: Pair Practice, Grammar, Pronunciation</p> <p>第 10 回 Unit 8-Entertainment &amp; Opinions: Unit Quiz &amp; Presentations</p> <p>第 11 回 Unit 9-Future Plans and Activities: Vocabulary, Listening, Conversation</p> <p>第 12 回 Unit 9-Future Plans and Activities: Pair Practice, Grammar, Pronunciation</p> <p>第 13 回 Unit 9-Future Plans and Activities: Unit Quiz &amp; Presentations</p> <p>第 14 回 Unit 10-Shopping: Vocabulary, Listening, Conversation</p> <p>第 15 回 Unit 10-Shopping: Pair Practice, Grammar, Pronunciation</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業での参加の度合 (35%), クイズ・授業での発表・試験 (65%)				
実務経験について	英語教室講師経験有り				

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (F)	担当者	新福 豊実		
	[履修年次] 1 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化、社会、旅、科学など様々なテーマの英文を読み、読解力を高める。合理的かつ的確に英文を読み、正確な情報を得る方法を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語を介さず英文を理解するための基本的なスキルの習得を目指す。併せて語彙の増強、文法の確認、パラグラフリーディングの演習、リスニングの演習などを行う。TOEIC や英語検定の出題形式に沿った問題演習を行い、各種検定試験のスコアUP も目指す。</p> <p>【到達目標】英検準2級程度の英文を出来るだけ日本語を介さずに理解することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Paul MacIntyre, <i>Reading Explorer 1</i> 2nd Edition (Cengage Learning)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course Orientation</p> <p>第 2 回 Unit 1: Amazing Animals</p> <p>第 3 回 Unit 2: Travel and Adventure</p> <p>第 4 回 Unit 3: The Power of Music</p> <p>第 5 回 Unit 4: Into Space</p> <p>第 6 回 Unit 5: City Living</p> <p>第 7 回 Unit 6: Small Worlds</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Unit 7: When Dinosaurs ruled</p> <p>第 10 回 Unit 8: Stories and Storytellers</p> <p>第 11 回 Unit 9: Unusual Jobs</p> <p>第 12 回 Unit 10: Uncover the Past</p> <p>第 13 回 Unit 11: Legends of the Sea</p> <p>第 14 回 Unit 12: Vanished!</p> <p>第 15 回 Review II</p>				
授業外学習(予習・復習)	毎回、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 小テスト・復習テスト (40%) 課題 (20%)				

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (G)	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the class 第 2 回 Vacations 第 3 回 Last Weekend 第 4 回 Food 第 5 回 Food 第 6 回 Jobs 第 7 回 Jobs 第 8 回 Review 第 9 回 Health 第 10 回 Giving Advice 第 11 回 Christmas 第 12 回 Rules / Obligation 第 13 回 Rules / Obligation 第 14 回 Future Plans 第 15 回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (H)	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the class 第 2 回 Vacations 第 3 回 Last Weekend 第 4 回 Food 第 5 回 Food 第 6 回 Jobs 第 7 回 Jobs 第 8 回 Review 第 9 回 Health 第 10 回 Giving Advice 第 11 回 Christmas 第 12 回 Rules / Obligation 第 13 回 Rules / Obligation 第 14 回 Future Plans 第 15 回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位]	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中級レベルの英語をつかみながら自分の意見を伝えること。</p> <p>Expressing your opinion about different topics in English.</p> <p>【概要】様々なトピックについて考えて、話し合っ、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 教科書、映像、プリントなどをつかう。</p> <p>We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions.</p> <p>【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。</p> <p>Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (プリントを配布する場合もある) (2)				
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation and objectives 第 2 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 第 3 回 クラスワーク (発表をする方法) Making a presentation 第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation 第 5 回 グループ発表 1 First presentation 第 6 回 クラスワーク (コミュニケーション力) Communication skill 第 7 回 クラスワーク (ディスカッション力) Discussion skill 第 8 回 クラスワーク (スピーチ力) Speech skill 第 9 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation 第 10 回 グループ発表 2 Second presentation 第 11 回 クラスワーク (classmate のインタビュー) Interview your classmate! 第 12 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 2 第 13 回 クラスワーク (聞き取り・読解力) Listening and Reading skills 第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered. 第 15 回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題 10%) を基準に、総合的に評価する。				

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	ジョン・トレマーコ		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度 (レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検 2 級) のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能 (スキル) を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の 4 つの要素 (文法能力, 社会言語能力, 談話能力, 方略的能力) をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits, Author: T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Complicated 第 3 回 Unit 2: S.O.S 第 4 回 Unit 3: You are Not Alone 第 5 回 Unit 4: Don't Wanna Lose You 第 6 回 Unit 5: How Crazy Are You? 第 7 回 Unit 6: Sunday Morning 第 8 回 Unit 7: I Want It That Way 第 9 回 Unit 8: Suddenly I see 第 10 回 Unit 10: Save The Best For Last 第 11 回 Unit 11: Last Christmas 第 12 回 Unit 12: Torn 第 13 回 Unit 13: La La Means I Love You 第 14 回 Unit 14: With You 第 15 回 Course Review followed by an end of term test in week 16 <p>The pace and range of topics may well differ from those set above; how much will depend on the characteristics of the class. 授業の進み具合やトピックの順番は、クラスのレベルや態度により、上記の授業計画と多少異なることもある。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 IV (C)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for making plans, giving advice, telling stories, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 2」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130234) (2)				
授業スケジュール	第 1 回 Unit 7: Past experiences 第 2 回 Unit 7: Using Simple past; Irregular verbs 第 3 回 Unit 8: Making plans; Culture differences 第 4 回 Unit 8: Using Modal auxiliary verbs 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 9: Giving advice; Asking for advice 第 7 回 Unit 9: Using Conditionals with Would, Could, and If 第 8 回 Unit 10: Tell a story; Discuss dreams 第 9 回 Unit 10: Using Simple past and Past continuous 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 11: Expressing opinions; Agreeing and Disagreeing 第 12 回 Unit 11: Using Present perfect 第 13 回 Unit 12: Future plans and goals 第 14 回 Unit 12: Using Will, Be going to, Might 第 15 回 Final Exam				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%				
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語IV (D)	担当者	土持 かおり		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング・スピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】 授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー)を教材として使用し、毎回、ナチュラルな英語の音声変化の学習の後、ストーリーを楽しみながらリスニング演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに日・英セリフの対比や日本語セリフ作成練習で表現力を高めていきます。また、この授業では、各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「学習の記録」)を毎回作成し、自分の取り組みを振り返りながら自立的に英語学習を進めていきます。</p> <p>【到達目標】 日常生活のなじみある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる / 自分の意思で表現できる英語力の習得を目標とします。</p>				
(1)テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。 <毎回、LL 教室を使用します>				
授業スケジュール	第 1 回 授業ガイダンス：映画を使った英語学習/ 映画の英語 / 授業内容と進め方について 第 2 回 The Loft：友人同士の会話 (新居) 第 3 回 Unchained Melody：同僚との会話 (オフィス) 第 4 回 Propose：恋人同士の会話 (路上) 第 5 回 Eternal Good-bye：友人同士の会話 (自宅) 第 6 回 Spiritual Adviser：初対面の相手との会話 (自宅) 第 7 回 The Truth：初対面の相手との会話 (カフェ) 第 8 回 At Molly's Apartment：知人との会話 (自宅) 第 9 回 The Police Station：警察官との会話 (警察) 第 10 回 Rita Miller：顧客との会話 (銀行) 第 11 回 Revenge：友人との会話 (自宅) 第 12 回 The Penny：知人との会話 (自宅) 第 13 回 Re-union：知人との会話 (自宅) 第 14 回 Last Chance：恋人同士の会話 第 15 回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	毎回の予習プリント、小テストのための復習				
成績評価の方法	予習プリント (10%) + リフレクションシート (30%) + 復習のための小テスト (20%) + 定期試験 (40%)				

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 2 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能を総合的に高め、実用的な英語運用能力の向上を目指す。</p> <p>【概要】会話、リスニング、語彙、発音、文法、読解、英作文の練習をバランスよく行い、自己表現と意思疎通の手段として基本的な英語の習得を目指す。多文化共生に向けて異文化についての知識も深める。</p> <p>【到達目標】学校生活、社会生活、旅行、ビジネスの現場などで英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Joan Saslow and Arlen Allen Ascher, 『Top Notch 1 Split Edition A』(Third Edition) Pearson</p> <p>(2) 授業時に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 UNIT 1 Preview &amp; Lesson 1: Getting Acquainted (1)</p> <p>第2回 UNIT 1 Lesson 2 &amp; 3: Getting Acquainted (2)</p> <p>第3回 UNIT 1 Lesson 4 &amp; Unit Review: Getting Acquainted (3)</p> <p>第4回 UNIT 2 Preview &amp; Lesson 1: Going Out (1)</p> <p>第5回 UNIT 2 Lesson 2 &amp; 3: Going Out (2)</p> <p>第6回 UNIT 2 Lesson 4 &amp; Unit Review: Going Out (3)</p> <p>第7回 REVIEW 1</p> <p>第8回 UNIT 3 Preview &amp; Lesson 1: The Extended Family (1)</p> <p>第9回 UNIT 3 Lesson 2 &amp; 3: The Extended Family (2)</p> <p>第10回 UNIT 3 Lesson 4 &amp; Unit Review: The Extended Family (3)</p> <p>第11回 UNIT 4 Preview &amp; Lesson 1: Food and Restaurants (1)</p> <p>第12回 UNIT 4 Lesson 2 &amp; 3: Food and Restaurants (2)</p> <p>第13回 UNIT 4 Lesson 4 &amp; Unit Review: Food and Restaurants (3)</p> <p>第14回 UNIT 5 Lesson 1 -4: Technology and You</p> <p>第15回 REVIEW 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験(40%) 小テスト・復習テスト(40%) 課題(20%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、英検2級取得を目指すように、受講者の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回1章ずつ進むので、予習が必要となる。担当者はプリントを用いてヒントを与え、受講者自身に間違った箇所をチェックさせる。その上で解説を試みる(学習意欲を高める工夫)。また、LL教室を利用し、リスニング問題にも取り組めるようにする。</p> <p>【到達目標】英検2級の取得を目指すような英語力を身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行, 岡島徳昭, W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂</p> <p>(2) 適宜, プリントによる問題も配布</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方の説明), プリント学習(受講生のレベルを確認)</p> <p>第2回 Lesson 1(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択)</p> <p>第3回 Lesson 2(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第4回 Lesson 3(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択)</p> <p>第5回 Lesson 4(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第6回 Lesson 5(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の応答文選択), 小テスト(1回目)</p> <p>第7回 Lesson 6(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第8回 Lesson 7(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択)</p> <p>第9回 Lesson 8(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第10回 Lesson 9(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択), 小テスト(2回目)</p> <p>第11回 Lesson 10(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第12回 Lesson 11(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の応答文選択)</p> <p>第13回 Lesson 12(語句空所補充, 短文中の語句整序, 長文の語句空所補充と内容一致選択, 会話の内容一致選択)</p> <p>第14回 実践形式の練習: 筆記とリスニング, 小テスト(3回目)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備, 復習は小テストの準備		
成績評価の方法	筆記試験(50%), 予習を含む授業への取り組み(30%), 小テスト(20%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語 IV (G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アカデミックなトピックの英語に慣れる。</p> <p>【概要】論説記事などを読みながら、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。実用英語技能検定試験2級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。</p> <p>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 ピダハンの子育て (1)</p> <p>第 3 回 ピダハンの子育て (2)</p> <p>第 4 回 ピダハンの子育て (3)</p> <p>第 5 回 試験(1), 哲学とは何か?(1)</p> <p>第 6 回 哲学とは何か?(2)</p> <p>第 7 回 試験(2), なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか? (1)</p> <p>第 8 回 なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか? (2)</p> <p>第 9 回 なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか? (3)</p> <p>第10回 試験(3), 世間話の機能(1)</p> <p>第11回 世間話の機能 (2)</p> <p>第12回 世間話の機能 (3)</p> <p>第13回 世間話の機能 (4)</p> <p>第14回 試験 (4), 文法と単語の復習</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上, 復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (60%) + 課題 (15%) + 授業への参加状況 (25%)		

(注) 全専攻の学生が選択できる

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員
	[履修年次] 1, 2年いずれでも可 [学期] 通年 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択	メールで事前連絡すること [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。		



授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) B.ヴォンデ 他著『ベルリンに夢中』同学社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット</p> <p>第2回 アルファベットと読み方・あいさつ</p> <p>第3回 第1課 動詞の現在人称変化</p> <p>第4回 第1課</p> <p>第5回 第1課</p> <p>第6回 第2課 名詞の性・数、格変化</p> <p>第7回 第2課</p> <p>第8回 第3課 複数形</p> <p>第9回 第3課</p> <p>第10回 第4課 強変化動詞、命令形、人称代名詞</p> <p>第11回 第4課</p> <p>第12回 第4課</p> <p>第13回 第5課 前置詞</p> <p>第14回 第5課</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>		
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%		
実務経験について	通訳(法廷通訳を含む)、翻訳経験多数		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) B.ヴォンデ 他著『ベルリンに夢中』同学社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞典 第3版』三修社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第6課 冠詞類、kein と nicht</p> <p>第3回 第6課</p> <p>第4回 第6課</p> <p>第5回 第7課 分離動詞と非分離動詞、接続詞</p> <p>第6回 第7課</p> <p>第7回 第7課</p> <p>第8回 第8課 語法の助動詞</p> <p>第9回 第8課</p> <p>第10回 第8課</p> <p>第11回 第9・10課 動詞の三基本形、過去と現在完了</p> <p>第12回 第9・10課</p> <p>第13回 第9・10課</p> <p>第14回 復習と試験の説明</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>		
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%		
実務経験について	通訳(法廷通訳を含む)、翻訳経験多数		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていました。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』（朝日出版社）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業全体の説明、アルファベットの発音など</p> <p>第2回 Leçon 1</p> <p>第3回 Leçon 1</p> <p>第4回 Leçon 2</p> <p>第5回 Leçon 2</p> <p>第6回 Leçon 3</p> <p>第7回 Leçon 3</p> <p>第8回 Leçon 4</p> <p>第9回 Leçon 4</p> <p>第10回 Leçon 5</p> <p>第11回 Leçon 5</p> <p>第12回 Leçon 6</p> <p>第13回 Leçon 6</p> <p>第14回 まとめ 1</p> <p>第15回 まとめ 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていました。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『クロワッサン：基礎からわかるフランス語』（朝日出版社）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Leçon 7</p> <p>第2回 Leçon 7</p> <p>第3回 Leçon 8</p> <p>第4回 Leçon 8</p> <p>第5回 Leçon 9</p> <p>第6回 Leçon 9</p> <p>第7回 Leçon 10</p> <p>第8回 Leçon 10</p> <p>第9回 Leçon 11</p> <p>第10回 Leçon 11</p> <p>第11回 Leçon 12</p> <p>第12回 Leçon 12</p> <p>第13回 まとめ 1</p> <p>第14回 まとめ 2</p> <p>第15回 まとめ 3</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次

授業科目	中国語 I (A)		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・張国路『楽々学習初級中国語 12 課』同社社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習</p> <p>第 3 回 発音 (2)：複母音の導入、練習</p> <p>第 4 回 発音 (3)：子音の導入、練習</p> <p>第 5 回 発音 (4)：子音の練習、発音のまとめ</p> <p>第 6 回 動詞是の使い方</p> <p>第 7 回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方</p> <p>第 8 回 これまでの復習</p> <p>第 9 回 動詞文の導入と練習</p> <p>第 10 回 動詞文の練習、疑問文の練習</p> <p>第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文</p> <p>第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習</p> <p>第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第 14 回 全体の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関する発表またはレポート (10%)、口頭試験 (50%) で評価する			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にとまない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回 10 分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 発音 (1)</p> <p>第 2 回 発音 (2)</p> <p>第 3 回 発音 (3)</p> <p>第 4 回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第 5 回 「あいさつする」第 1 課</p> <p>第 6 回 「名前を尋ねる」第 2 課</p> <p>第 7 回 「食べたいものを尋ねる」第 3 課</p> <p>第 8 回 「近況を尋ねる」第 4 課</p> <p>第 9 回 第 1 課～第 4 課の復習</p> <p>第 10 回 「予定を尋ねる」第 5 課</p> <p>第 11 回 「場所を尋ねる」第 6 課</p> <p>第 12 回 「注文する」第 7 課</p> <p>第 13 回 「値段の交渉をする」第 8 課</p> <p>第 14 回 第 5 課～第 8 課の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			

(注) 日本語日本文学専攻、英語英文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 発音 (1)</p> <p>第2回 発音 (2)</p> <p>第3回 発音 (3)</p> <p>第4回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第5回 「あいさつする」第1課</p> <p>第6回 「名前を尋ねる」第2課</p> <p>第7回 「食べたいものを尋ねる」第3課</p> <p>第8回 「近況を尋ねる」第4課</p> <p>第9回 第1課～第4課の復習</p> <p>第10回 「予定を尋ねる」第5課</p> <p>第11回 「場所を尋ねる」第6課</p> <p>第12回 「注文する」第7課</p> <p>第13回 「値段の交渉をする」第8課</p> <p>第14回 第5課～第8課の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	三木 夏華
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了時に対応
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマ 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ピンイン、声調記号が読めるようになる。</li> <li>2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。</li> </ol>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 発音、声調</p> <p>第2回 発音、声調</p> <p>第3回 発音、声調</p> <p>第4回 発音、声調</p> <p>第5回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 “的”、“是”について</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 動詞述語文、連動文</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 “在”構文、方位詞</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社)		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 中国語について 教科書の使い方</p> <p>第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音</p> <p>第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ</p> <p>第4回 第0課 名前について話す</p> <p>第5回 第1課(1) 身分や出身について話す</p> <p>第6回 第1課(2) 身分や出身について話す</p> <p>第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 声調と母音</p> <p>第3回 子音</p> <p>第4回 発音のまとめ</p> <p>第5回 表記の規則</p> <p>第6回 クラス名簿、あいさつ(1)</p> <p>第7回 クラス名簿、あいさつ(2)</p> <p>第8回 数字、お金、時刻(1)</p> <p>第9回 数字、お金、時刻(2)</p> <p>第10回 数字、お金、時刻(3)</p> <p>第11回 簡単な動詞の文(1)</p> <p>第12回 簡単な動詞の文(2)</p> <p>第13回 意思表示、誘いかけ(1)</p> <p>第14回 意思表示、誘いかけ(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%、定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張りてください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 中国語について 教科書の使い方 第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ 第4回 第0課 名前について話す 第5回 第1課(1) 身分や出身について話す 第6回 第1課(2) 身分や出身について話す 第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す 第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す 第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書に指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後及びメールによる(アドレスは講義中に告知)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系(映画) 第8回 香港的夏天热吗?(映画) 第9回 四川菜很好吃(中間テスト) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (A)	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12課』同友社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第 2回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第 3回 動詞「在」の導入，練習</p> <p>第 4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第 5回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第 6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習</p> <p>第 7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第 8回 復習 (1) これまでの内容の復習</p> <p>第 9回 形容詞述語文の導入，練習</p> <p>第 10回 時刻の言い方の導入，練習</p> <p>第 11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第 12回 お金の言い方の導入，練習</p> <p>第 13回 量詞の導入，練習</p> <p>第 14回 復習 (4)：全体の復習</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関するレポート (10%)、口頭試験 (50%) で評価する		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (B)	担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 授業中に適宜指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 前期試験の解説など</p> <p>第 2回 第1課～第8課の復習</p> <p>第 3回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第 4回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第 5回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第 6回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第 7回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第 8回 第9課～第13課の復習</p> <p>第 9回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第 10回 「比較する」第15課</p> <p>第 11回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第 12回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第 13回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第 14回 第14課～第18課の復習</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールによる (ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う句型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 授業中に適宜指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期試験の解説など</p> <p>第2回 第1課～第8課の復習</p> <p>第3回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第4回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第5回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第6回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第7回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第8回 第9課～第13課の復習</p> <p>第9回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第10回 「比較する」第15課</p> <p>第11回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第12回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第13回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第14回 第14課～第18課の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了時に対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</p> <p>第2回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</p> <p>第4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 時間の長さの言い方、完了の“了”</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 前置詞、助動詞1</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。



授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す 第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す 第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す 第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す 第5回 第8課(1) 場所や存在について話す 第6回 第8課(2) 場所や存在について話す 第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す 第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す 第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す 第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す 第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す 第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す 第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語 第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語 第15回 授業まとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	<p>第1回 連続動作, 意向確認(1) 第2回 連続動作, 意向確認(2) 第3回 なに? どこ? だれ? (1) 第4回 なに? どこ? だれ? (2) 第5回 モノ(1) 第6回 モノ(2) 第7回 場所(1) 第8回 場所(2) 第9回 状態(1) 第10回 状態(2) 第11回 態度, ある瞬間(1) 第12回 態度, ある瞬間(2) 第13回 1年間の復習(1) 第14回 1年間の復習(2) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』（朝日出版社） (2)		
授業スケジュール	第 1回 第6課 (1) 趣味や好み、できることについて話す 第 2回 第6課 (2) 趣味や好み、できることについて話す 第 3回 第7課 (1) 住んでいる場所や家族について話す 第 4回 第7課 (2) 住んでいる場所や家族について話す 第 5回 第8課 (1) 場所や存在について話す 第 6回 第8課 (2) 場所や存在について話す 第 7回 第9課 (1) 交通手段や希望について話す 第 8回 第9課 (2) 交通手段や希望について話す 第 9回 第10課 (1) 動作の発生や進行について話す 第10回 第10課 (2) 動作の発生や進行について話す 第11回 第11課 (1) 過去の出来事や値段について話す 第12回 第11課 (2) 過去の出来事や値段について話す 第13回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第14回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第15回 授業まとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験 (50%)＋授業中に実施する小テスト (10%)＋授業での発言内容 (40%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後、メールによる (アドレスは講義中に告知)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回 来我家玩吧 第 2回 我打算去旅行 第 3回 没看过, 听过 第 4回 我能参加 第 5回 我记一下 第 6回 我们边走边谈 第 7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第 8回 我不会打日文 (映画) 第 9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】 この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自立的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験4級を取得することを旨とすると同時に今後自立的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第2回 年齢の言い方と尋ね方 第3回 前置詞「在」(～で～をする)の導入、練習 第4回 完了の「了」の導入、練習 第5回 時間量の言い方の導入、練習 第6回 文末詞「了」の導入、練習 第7回 場所の言い方の導入、練習 第8回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習 第9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。 第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読む練習 第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習、通し稽古 第14回 中国語で寸劇⑤：発表 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト (50%)、口頭試験 (50%) で評価する		

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。 (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について 第2回 発音の復習 (1) 第3回 発音の復習 (2) 第4回 発音の復習 (3) 第5回 発音の復習 (4) 第6回 講読 (1) 第7回 講読 (2) 第8回 講読 (3) 第9回 講読 (4) 第10回 講読 (5) 第11回 講読 (6) 第12回 講読 (7) 第13回 講読 (8) 第14回 講読 (9) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 生活科学科を除く

### 3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ健康論	担当者	西迫 貴美代		
	〔履修年次〕 2年次 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	随時	nisizako@k-kentan.ac.jp	
		〔必修/選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動・栄養・休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。</p> <p>【概要】導入段階において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)日常生活における健康の重要性について知識を深める</li> <li>2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連)</li> <li>3)運動習慣と健康との関係について理解する</li> <li>4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する</li> <li>5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス)</li> </ol>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、講義資料を配布する。</p> <p>(2) 毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (講義の進め方、スポーツ・健康科目講義の意義)</p> <p>第 2回 健康施策の変遷とその背景について (健康観の変遷を探索)</p> <p>第 3回 健康と休養 (生活リズムと睡眠)</p> <p>第 4回 健康と運動1 (運動の必要性について)</p> <p>第 5回 健康と運動2 (ダイエットと運動処方)</p> <p>第 6回 健康と栄養 (ダイエットと食事)</p> <p>第 7回 ライフスタイルを考える</p> <p>第 8回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義中に配布する参考資料は必ず読むこと				
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出 (60%1回/7回まで) + レポート1回 (10%) + 筆記試験(8回目 30%)				
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務				

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く全専攻対象7.5回

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ (A)・(B)	担当者	道向 良		
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後		
		〔必修/選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり (体力づくり、仲間づくり)</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして主にテニスを取りあげ、ダブルスのゲームができるようになることを目標とする。ペアまたはグループで段階的に練習することを通して、各自の能力に応じた動きや技術、さらにはプレイスタイルを模索していく。体力づくりや仲間づくりを意識しながら全体を構成していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ダブルスのゲームが円滑にできるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じてプリントを配布する</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 グループ分け、ラケットティング、種々の基本動作</p> <p>第 2回 基本のストローク (基礎と応用)、ボール・トスの練習、スキルチェック 1</p> <p>第 3回 ラリーを続ける、ミニゲーム、</p> <p>第 4回 グループ練習 1 (左右打ち)、ミニゲーム</p> <p>第 5回 グループ練習 2 (前後打ち)、ミニゲーム</p> <p>第 6回 ボレーの基本練習、ミニゲーム</p> <p>第 7回 サーブとレシーブの基本練習、スキルチェック 2</p> <p>第 8回 ダブルス・ルールの理解 (ポイントとゲーム)</p> <p>第 9回 ダブルスゲーム 1 (チーム内での対抗戦) 振り返り 1</p> <p>第 10回 ダブルスゲーム 2 (同等ペアとの対抗戦) 振り返り 2</p> <p>第 11回 課題練習 (自主的に練習を組み立てよう)</p> <p>第 12回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 1</p> <p>第 13回 ファイナル・コンペティション (団体戦) 2、スキルチェック 3</p> <p>第 14回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 1</p> <p>第 15回 ファイナル・コンペティション (個人戦) 2 振り返りのレポート</p> <p>※ シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。</p>				
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保っておくこと				
成績評価の方法	運動能力全般 (40%)、授業への参加状況 (30%)、グループにおける協力関係、リーダーシップ (30%)				

(注) 教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C) (D) (E) (F)	担当者	西迫 貴美代	
	[履修年次] 1	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp	
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態] 実技
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識(わかる)ことと技能習得(できる)を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。(後期はラケット種目を履修する)</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出) なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある (E F の場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク)</p> <p>第 2 回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第 3 回 A アタックのタイミングの理解と習熟 2 対 2 の簡易ゲーム</p> <p>第 4 回 2 : 2 の簡易ゲームから 3 : 3 のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)</p> <p>第 5 回 3 : 3 の簡易ゲームから 4 : 4 のゲーム (攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する)</p> <p>第 6 回 4 : 4 の簡易ゲームから 8 : 8 のゲームへ (コート広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる )</p> <p>第 7 回 6 : 6 のゲーム (簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える)</p> <p>第 8 回 6 : 6 のゲーム(バレーボール大会) ※チーム人数については調整の可能性有り</p> <p>第 9 回 バスケットボールの歴史 試しのゲーム (シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する)</p> <p>第 10 回 バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する (シュート、ドリブル、パスなど) 簡易ゲーム</p> <p>第 11 回 2 : 0 の練習 2 : 1 の練習 2 : 2 の練習 (制限区域内での攻撃と防御について理解する)</p> <p>第 12 回 各チームで練習 (3 : 3 において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す)</p> <p>第 13 回 2 : 2 から 3 : 3 の練習 オールコートでのゲームの展開 5 : 5 にむけて</p> <p>第 14 回 3 : 3 の練習から 5 : 5 の練習へ (ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる)</p> <p>第 15 回 5 : 5 ゲーム (バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割)</p>			
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること			
成績評価の方法	毎回の学習ノート記入回数及び内容 60%(自己評価記入も含む)+スキルテスト 40%(種目毎)を基準に総合的に評価する			
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務			

(注) 教職必修

(注) (C) 食物栄養専攻、(D) 生活科学専攻、(E) 経済専攻、(F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (E) (F)	担当者	徳田 修司	
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし、お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係を学び、実生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1)ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。</p> <p>2)ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特になし (2) 特になし ※必要に応じて、資料を添付する。			
授業スケジュール	<p>第 1 回 グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットを使ったボール打ち。ラケットの持ちかたと打球。</p> <p>第 2 回 ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。順回転、逆回転。</p> <p>第 3 回 ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。順回転、逆回転。</p> <p>第 4 回 ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。順回転。</p> <p>第 5 回 ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。</p> <p>第 6 回 ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。</p> <p>第 7 回 ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー(方向)の練習。</p> <p>第 8 回 ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。</p> <p>第 9 回 ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。</p> <p>第 10 回 ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。</p> <p>第 11 回 ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。</p> <p>第 12 回 サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと。</p> <p>第 13 回 正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。</p> <p>第 14 回 正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。</p> <p>第 15 回 授業のまとめと評価</p>			
授業外学習(予習・復習)	学校で実習した身体を動かすことを生活の中で活用し、習慣化することを目指す。			
成績評価の方法	技術の上達度(60~80%)、授業への参加状況(40~20%)			

(注) (E) 経済専攻、(F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A) (B)(E) (F)	担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 1 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（後期はラケット種目を履修する）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する</li> <li>2) バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する</li> <li>3) 自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる</li> <li>4) 他者と協力して、チームを組織し、運営することができる</li> <li>5) 自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</li> </ol>		
(1)テキスト (2)参考文献	各人の学習ノートを準備する。（毎回提出）なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（E Fの場合）。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク）</p> <p>第2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第3回 Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第4回 2:2の簡易ゲームから3:3のゲームへ アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)</p> <p>第5回 3:3の簡易ゲームから4:4のゲーム（攻撃の作戦を立てる チームでの練習計画を立て実施する）</p> <p>第6回 4:4の簡易ゲームから8:8のゲームへ（コート広さとアタックの守備との関係 防御の作戦を立てる）</p> <p>第7回 6:6のゲーム（簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える）</p> <p>第8回 6:6のゲーム(バレーボール大会) ※チーム人数については調整の可能性有り</p> <p>第9回 バスケットボールの歴史 試しのゲーム（シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する）</p> <p>第10回 バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど） 簡易ゲーム</p> <p>第11回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）</p> <p>第12回 各チームで練習（3:3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す）</p> <p>第13回 2:2から3:3の練習 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて</p> <p>第14回 3:3の練習から5:5の練習へ（ポジションの確認 攻撃・守備の作戦を立てる）</p> <p>第15回 5:5ゲーム（バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割）</p>		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出(自己評価記入も含む)状況およびスキルテスト(種目毎)を元に総合的に評価する		
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務		

(注)教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻 (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (C)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	西迫先生を通して
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を旨とする。</p> <p>【概要】</p> <p>教材として硬式テニスを採用する（雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある）。生涯にわたってスポーツを享受できるように不可欠な認識（わかる）を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟（できる）を見通せる能力を形成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、生涯にわたりテニス（主としてダブルスゲーム）を楽しめる主体を形成する そのために</li> <li>2、テニスの歴史、技術構造を理解する</li> <li>3、その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する</li> <li>4、この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐力、身体に関する諸能力を向上させる</li> </ol>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回~第14回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テニスの世界への誘い（様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ）</li> <li>2. テニスにおける基本的技能（グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。</li> <li>3. テニスにおけるゲーム運営（ルール、戦術・戦略、試合運営等）についての理解・習熟</li> </ol> <p>丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。 なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい		
成績評価の方法	出席（50%）、授業への積極的な参加（20%）、技能の理解・習熟段階（30%）を総合的に評価する		

(注) 教職必修 (注) (C) 食物栄養専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ(D)(EXF)	担当者	岡田 猛
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	西迫先生を通して
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を旨とした。</p> <p>【概要】</p> <p>教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある)。生涯にわたってスポーツを享受できるように不可欠な認識(わかる)を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟(できる)を見通せる能力を形成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1)生涯にわたりテニス(主としてダブルスゲーム)を楽しめる主体を形成する するために 2)テニスの歴史、技術構造を理解する 3)その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する 4)この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐力、身体に関する諸能力を向上させる</p>	[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 実習
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～</p> <p>1. テニスの世界への誘い(様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ)</p> <p>2. テニスにおける基本的技能(グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。</p> <p>～第14回</p> <p>3. テニスにおけるゲーム運営(ルール、戦術・戦略、試合運営等)についての理解・習熟</p> <p>上記1～3の課題内容について丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい		
成績評価の方法	授業への参加状況(50%)、授業への積極的な参加(20%)、技能の理解・習熟段階(30%)を総合的に評価する		

(注) 教職必修 (注) (D) 生活科学専攻, (E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻



## 4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシーI (A)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
			[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている基本的なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、レポートをワープロで作成できるように、MS-WORD を用いた高度な文書作成法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基本的アプリケーション・ソフトウェアを使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 電子メールにおける文書処理 (1) スマートフォンとの連携</p> <p>第 2 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習</p> <p>第 3 回 電子メールにおける文書処理 (2)</p> <p>第 4 回 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンでの効率的な検索</p> <p>第 6 回 MS-WORD によるワープロ実習 (1)</p> <p>第 7 回 MS-WORD によるワープロ実習 (2)</p> <p>第 8 回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第 1 回課題</p> <p>第 9 回 画像ファイルの扱い方…画像のパソコンへの取込み</p> <p>第 10 回 画像ファイルの扱い方…写真の加工・編集</p> <p>第 11 回 画像を利用した文書作り</p> <p>第 12 回 表を用いた文書作り 第 2 回課題</p> <p>第 13 回 Windows の基本的トラブルシューティングとスマートフォンとのデータのやり取り</p> <p>第 14 回 各種 MS OFFICE ソフトウェアの紹介 (プレゼンテーションソフト PowerPoint、表計算ソフト Excel)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年 (鹿児島商工会議所会員)			

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーI (B)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
			[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている基本的なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、レポートをワープロで作成できるように、MS-WORD を用いた高度な文書作成法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基本的アプリケーション・ソフトウェアを使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 電子メールにおける文書処理 (1) スマートフォンとの連携</p> <p>第 2 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習</p> <p>第 3 回 電子メールにおける文書処理 (2)</p> <p>第 4 回 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンでの効率的な検索</p> <p>第 6 回 MS-WORD によるワープロ実習 (1)</p> <p>第 7 回 MS-WORD によるワープロ実習 (2)</p> <p>第 8 回 MS-WORD によるワープロ実習 (3) 第 1 回課題</p> <p>第 9 回 画像ファイルの扱い方…画像のパソコンへの取込み</p> <p>第 10 回 画像ファイルの扱い方…写真の加工・編集</p> <p>第 11 回 画像を利用した文書作り</p> <p>第 12 回 表を用いた文書作り 第 2 回課題</p> <p>第 13 回 Windows の基本的トラブルシューティングとスマートフォンとのデータのやり取り</p> <p>第 14 回 各種 MS OFFICE ソフトウェアの紹介 (プレゼンテーションソフト PowerPoint、表計算ソフト Excel)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年 (鹿児島商工会議所会員)			

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2016 &amp; Microsoft Excel 2016 &amp; Microsoft PowerPoint 2016』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ WORD の機能 (プリント)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (プリント)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (プリント)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント)</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2016 &amp; Microsoft Excel 2016 &amp; Microsoft PowerPoint 2016』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ WORD の機能 (プリント)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (プリント)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (プリント)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント)</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第 4 回 文書の作成 : ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第 5 回 文書の編集 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</p> <p>第 6 回 通知状の作成 : 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第 8 回 表の編集 : 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</p> <p>第 9 回 表の活用 : 課題文書作成 (表を含む文書)</p> <p>第 10 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定</p> <p>第 11 回 図形描画 : 図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第 12 回 案内状の作成 : 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</p> <p>第 13 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 14 回 社外文書作成 : 案内状など</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練パソコン講座の講師			

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第 4 回 文書の作成 : ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第 5 回 文書の編集 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</p> <p>第 6 回 通知状の作成 : 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第 8 回 表の編集 : 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</p> <p>第 9 回 表の活用 : 課題文書作成 (表を含む文書)</p> <p>第 10 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定</p> <p>第 11 回 図形描画 : 図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第 12 回 案内状の作成 : 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</p> <p>第 13 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 14 回 社外文書作成 : 案内状など</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練パソコン講座の講師			

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現 (出力) のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱ では、Ⅰ で学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p> <p>また、ICT 関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥村晴彦, 森本尚之『改訂第3版 ver.2』基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の進め方, コンピューターとのつきあい方, コンピューターの基本用語</p> <p>第 2 回 文字入力, 文字コード, コマンドライン</p> <p>第 3 回 ネットの利用, 情報の調べ方・まとめ方</p> <p>第 4 回 電子メールとセキュリティ, SNS</p> <p>第 5 回 お絵かきソフトとファイルの基本操作</p> <p>第 6 回 文書作成の基本</p> <p>第 7 回 文書作成の応用</p> <p>第 8 回 表計算ソフトの基本</p> <p>第 9 回 表計算ソフトの応用, 計算精度</p> <p>第 10 回 プレゼンテーション</p> <p>第 11 回 Web による情報発信</p> <p>第 12 回 情報とセキュリティ, 情報と法律</p> <p>第 13 回 プログラミング R によるデータ処理 (1)</p> <p>第 14 回 プログラミング R によるデータ処理 (2)</p> <p>第 15 回 中学校での「情報教育」の動向について</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおく。また、毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。</p>			
成績評価の方法	<p>課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)</p>			

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現 (出力) のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱ では、Ⅰ で学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p> <p>また、ICT 関連のニュースを理解し、中学生にもわかるように説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥村晴彦, 森本尚之『改訂第3版 ver.2』基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の進め方, コンピューターとのつきあい方, コンピューターの基本用語</p> <p>第 2 回 文字入力, 文字コード, コマンドライン</p> <p>第 3 回 ネットの利用, 情報の調べ方・まとめ方</p> <p>第 4 回 電子メールとセキュリティ, SNS</p> <p>第 5 回 お絵かきソフトとファイルの基本操作</p> <p>第 6 回 文書作成の基本</p> <p>第 7 回 文書作成の応用</p> <p>第 8 回 表計算ソフトの基本</p> <p>第 9 回 表計算ソフトの応用, 計算精度</p> <p>第 10 回 プレゼンテーション</p> <p>第 11 回 Web による情報発信</p> <p>第 12 回 情報とセキュリティ, 情報と法律</p> <p>第 13 回 プログラミング R によるデータ処理 (1)</p> <p>第 14 回 プログラミング R によるデータ処理 (2)</p> <p>第 15 回 中学校での「情報教育」の動向について</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおく。また、毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。</p>			
成績評価の方法	<p>課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)</p>			

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了時, 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2016 &amp; Microsoft Excel 2016 &amp; Microsoft PowerPoint 2016』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Microsoft Word 及び Excel の基本操作の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (グラフィック中心) (プリント)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (表中心) (プリント)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (プリント)</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (関数中心) (プリント)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (グラフ中心) (プリント)</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (プリント)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (プリント)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (プリント)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了時, 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2016 &amp; Microsoft Excel 2016 &amp; Microsoft PowerPoint 2016』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Microsoft Word 及び Excel の基本操作の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (グラフィック中心) (プリント)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (表中心) (プリント)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (プリント)</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (関数中心) (プリント)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (グラフ中心) (プリント)</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (プリント)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (プリント)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (プリント)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級(経験者: E) と初級(初心者: F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第2回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第3回 Windows PC でのファイルの基本操作</p> <p>第4回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第6回 インターネット検索 第1回課題</p> <p>第7回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第9回 画像を利用したワープロ文書作り (1)</p> <p>第10回 画像を利用したワープロ文書作り (2) 第2回課題</p> <p>第11回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第13回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第14回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	パソコン講師歴 20年以上、実務翻訳業 20年 (鹿児島商工会議所会員)			

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	前期	[単位]	1
	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級(経験者: E) と初級(初心者: F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第2回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第3回 Windows PC でのファイルの基本操作</p> <p>第4回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第5回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第6回 インターネット検索 第1回課題</p> <p>第7回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第9回 画像を利用したワープロ文書作り (1)</p> <p>第10回 画像を利用したワープロ文書作り (2) 第2回課題</p> <p>第11回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍</p> <p>第12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第13回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第14回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	パソコン講師歴 20年以上、実務翻訳業 20年 (鹿児島商工会議所会員)			

## 5 日本語日本文学専攻専門科目



授業科目	日本文学概論		担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
	[必修/選択]	必修 (注)		[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p><b>【概要】</b> 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p><b>【到達目標】</b> 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社 (担当者:木戸)</p> <p>(2) プリント (担当者:竹本)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは：仮名史について くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学（写本と板本）について：くずし字の読み方2</p> <p>第4回 書誌学について・古典文学の分類について：くずし字の読み方3</p> <p>第5回 古典の季節観と暦：くずし字小テスト</p> <p>第6回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり1：くずし字の読み方4</p> <p>第7回 中国古典文学との関わり2：くずし字の読み方5</p> <p>第8回 総括1：前半のまとめ</p> <p>第9回 近代文学を学ぶとは：文学理論について</p> <p>第10回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて</p> <p>第11回 「作者」とは何か：作者/作品/テキストについて</p> <p>第12回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて</p> <p>第13回 「物語」とは何か：物語の構造について</p> <p>第14回 論文の書き方</p> <p>第15回 総括2：後半のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。					
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート(感想文等)20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50%(竹本担当分はレポート50%)の合計で評価する。					

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
	[必修/選択]	選択		[授業形態]	講義	
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1)：調音音声学、子音・母音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2)：モーラ、音節①</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3)：モーラ、音節②</p> <p>第5回 音声学・音韻論(4)：連濁、枝分かれ制約</p> <p>第6回 形態論(1)：派生、複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第7回 形態論(2)：メンタルコーパス 新語、流行語</p> <p>第8回 意味論(1)：単語の意味</p> <p>第9回 意味論(2)：類義語と対義語</p> <p>第10回 語用論(1)：発話行為論①</p> <p>第11回 語用論(2)：発話行為論②</p> <p>第12回 語用論(3)：発話機能と語学教育</p> <p>第13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。					
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%、期末試験：50%					

授業科目	日本語学概論		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 (注)		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学 (特に古典文学) を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが、日本語で用いられる音声・音韻 (音声言語) に関する事項についてはパソコン教室 (※) で自分の声を分析しながら考察を行う。また、日本語においては文字・表記の問題も重要である。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 日本語学とは：国語/日本語 と 国語学/日本語学 (※印はパソコン教室で実施。)</p> <p>第 2 回 現代日本語の音声と音韻 1：音声の研究、音声器官、音声記号 ※</p> <p>第 3 回 現代日本語の音声と音韻 2：音の分類、音素分析 ※</p> <p>第 4 回 現代日本語の音声と音韻 3：現代日本語の母音・子音 ※</p> <p>第 5 回 現代日本語の音声と音韻 4：音節・モーラ、アクセント ※</p> <p>第 6 回 現代日本語の音声と音韻 5：イントネーション ※</p> <p>第 7 回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法、国語施策、舊漢字</p> <p>第 8 回 現代日本語の文法 1：文法の諸領域、形態論</p> <p>第 9 回 現代日本語の文法 2：統語論、意味論</p> <p>第 10 回 現代日本語の文法 3：語用論</p> <p>第 11 回 現代日本語の語彙 1：単語、語彙、語彙論</p> <p>第 12 回 現代日本語の語彙 2：単語の語彙的性質 (語彙的カテゴリー)、単語の基本度 (基幹語彙)</p> <p>第 13 回 文章論と談話分析：文章と談話、文章論、談話分析</p> <p>第 14 回 第現代語における文体差、言葉の変異と諸方言</p> <p>第 15 回 コーパスと統計、理論的研究とは？</p>			
授業外学習 (予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、学習課題を考察してくること。			
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)			

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 (注)		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語 (外国語) 習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。</li> <li>グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第 6 回 教材分析</p> <p>第 7 回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 8 回 教授法②：授業見学</p> <p>第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第 10 回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第 11 回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 12 回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 13 回 授業の計画と実施④文化を教える</p> <p>第 14 回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%、期末レポート：50%			

(注) 日本語日本文学専攻は 1 年、英語英文学専攻は 2 年。

授業科目	日本語史		担当者	望月 正道				
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時(要メール予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史的変遷を概観する。「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち現代語に関する部分をよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 古典辞典いずれか1冊を毎回持参すること(電子辞書・辞書アプリでも可能)。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料：音声資料(昔のレコード)、古辞書、古典文学作品</p> <p>第2回 文字・書記：漢字の借用、表語文字から表音文字へ、書記法の発達</p> <p>第3回 音韻の歴史変化1：上代特殊仮名遣い、ハ行子音の歴史変化</p> <p>第4回 音韻の歴史変化2：ア行・ヤ行・ワ行の歴史変化、サ行・ザ行・タ行・ダ行の歴史変化</p> <p>第5回 音韻の歴史変化3：頭音法則とその周辺</p> <p>第6回 音韻の歴史変化4：アクセントの歴史的研究—資料と方法論</p> <p>第7回 古代語音声の復元：源氏物語、上代歌謡</p> <p>第8回 文法の歴史変化1：動詞の形態的变化</p> <p>第9回 文法の歴史変化2：統語的变化、意味変化</p> <p>第10回 文法の歴史変化3：語形変化と語義変化</p> <p>第11回 語と語彙の歴史的变化1：“語源”、出自から見た語彙、体系としての語彙とその変遷</p> <p>第12回 語と語彙の歴史的变化2：語構成と造語、語形変化・語義変化</p> <p>第13回 語と語彙の歴史的变化3：語の位相とその意識、〈食事〉を示す語彙体系とその変遷</p> <p>第14回 文体史、文体差の史的事情</p> <p>第15回 日本語学史</p>							
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、学習課題を考察してくること。							
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績(20%)							

(注) 教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	望月 正道				
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時(要メール予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する。</p> <p>【概要】中学校で習った(はずの)「口語文法」は、あまり役に立つとも思えない。しかし、文法研究を一生の仕事とした人がいるのだから、意外に面白いのかもしれない。また、外国語教育では、より実態に近い(役に立つ)文法理論も必要だ。この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新刊書1冊を取り上げ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 庵 功雄 ほか『やさしい日本語のしくみ 改訂版 日本語学の基本』くろしお出版</p> <p>(2) 庵功雄ほか編『「やさしい日本語」は何を目指すか—多文化共生社会を実現するために』コ出版</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 学校文法の確認：中学校国語「口語文法」の内容について再確認</p> <p>第2回 主な文法学説1：大槻文彦/国語元年、山田孝雄/陳述</p> <p>第3回 主な文法学説2：松下大三郎/断句、橋本進吉/文節</p> <p>第4回 主な文法学説3：時枝誠記/文章論、三上章/主語廃止論</p> <p>第5回 テキストについての検討(1)</p> <p>第6回 テキストについての検討(2)</p> <p>第7回 テキストについての検討(3)</p> <p>第8回 テキストについての検討(4)</p> <p>第9回 テキストについての検討(5)</p> <p>第10回 テキストについての検討(6)</p> <p>第11回 テキストについての検討(7)</p> <p>第12回 テキストについての検討(8)</p> <p>第13回 テキストについての検討(9)</p> <p>第14回 テキストについての検討(10)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので、事前によく読んでおくこと。							
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)							

授業科目	日本語学講義		担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年次に学んだ日本語学概論、日本語史で扱った諸問題について韓国語(朝鮮語)の概要を学ぶことをとおして、改めて考察し日本語をより深く理解する。</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊」と思い込む人が多そうだが、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語にそっくりで微妙に違う韓国語を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。K-POP 視聴あり。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。ハングルの仕組みや(だいたい)の発音がわかる。また、日本語の起源に関する議論について、怪しい点が指摘できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 野間秀樹『ハングルの誕生 音から文字を創る』、『韓国語をいかに学ぶか』平凡社新書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 「ハングル」とは：誕生日、構造</p> <p>第2回 日本語と韓国語1：口蓋音化、音節構造</p> <p>第3回 日本語と韓国語2：「清音/濁音」対「平音/激音/濃音」</p> <p>第4回 日本語と韓国語3：漢字音、固有語・漢字語・外来語</p> <p>第5回 日本語と韓国語4：品詞分類、助詞</p> <p>第6回 日本語と韓国語5：助動詞(語尾)、サ変動詞・形容動詞(하다動詞・形容詞)、活用</p> <p>第7回 日本語と韓国語6：代名詞と指示語、コソアドの体系</p> <p>第8回 日本語と韓国語7：擬声語・擬態語</p> <p>第9回 日本語と韓国語8：色彩形容詞「空の青」「海のをを」</p> <p>第10回 日本語と韓国語9：待遇表現(敬語、文体)</p> <p>第11回 日本語と韓国語10：数詞、助数詞</p> <p>第12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」1：記紀歌謡・万葉集と郷歌</p> <p>第13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」2：数詞</p> <p>第14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」3：トンデモ学説について</p> <p>第15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>次回の学習範囲を指示するので、日本語の事例について事前に調べておくこと。</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験(簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかかわり等について出題する)の成績(80%)</p>			

授業科目	日本語学講義 I		担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる(連絡先は授業中に告知する)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】日本語学という学問分野がどんなことを問題として取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講生は毎回授業時までには予習課題を提出、授業では学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。</p> <p>【到達目標】普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場にしたと考えています。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>(2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 語彙1ーことばの性差</p> <p>第3回 語彙2ーことばの地域差</p> <p>第4回 語彙3ー意味用法の変化と若者語</p> <p>第5回 音声1ー日本語のリズム</p> <p>第6回 音声2ー鹿児島方言のアクセント</p> <p>第7回 語用論1ー語用論入門</p> <p>第8回 語用論2ー配慮表現</p> <p>第9回 語用論3ー比喻とはなにか</p> <p>第10回 語用論4ーメタファーを考える</p> <p>第11回 文法1ーアニメシー</p> <p>第12回 文法2ー「あいづち」「いいよども」に潜む文法</p> <p>第13回 文法3ーとりたてて詞</p> <p>第14回 文法4ー方言文法の変化</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>受講者全員に対し、授業前に提出してもらった予習課題が予習に、授業後に提出してもらったコメントカードが復習に該当します。</p>			
成績評価の方法	<p>評価基準は以下の通り。</p> <p>メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：80%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>			

授業科目	日本語学講読Ⅱ	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] [授業外対応] メールによる (連絡先は事業中に告知する)	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える</p> <p>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。</p> <p>【到達目標】教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。この授業を通じて、①歴史認識 ②日本語学の方法 ③プレゼンテーションスキルなどを学ぶことになります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>(2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 「正しい日本語」とはなにもの？</p> <p>第3回 副詞「全然」の語史</p> <p>第4回 役割語とは何か</p> <p>第5回 研究発表準備①</p> <p>第6回 研究発表準備②</p> <p>第7回 「博士」のことば (研究発表①)</p> <p>第8回 博士語の成立</p> <p>第9回 標準語と非標準語 (1)「田舎者」のことば (研究発表②)</p> <p>第10回 標準語と非標準語 (2)「標準語」の成立と展開</p> <p>第11回 「中国人」のことば (研究発表③)</p> <p>第12回 異人たちのことば</p> <p>第13回 さまざまな役割語 (研究発表④)</p> <p>第14回 役割語とステレオタイプ</p> <p>第15回 講義内容のまとめ</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	受講者全員に対し、授業前に提出してもらい予習課題が予習に、授業後に提出してもらいコメントカードが復習に該当します。		
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。</p> <p>メールによる予習課題の提出：50% 研究発表と発表概要の提出：50%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	望月 正道
	[履修年次] Ⅰは1年,Ⅲは2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] [授業外対応] 随時(要メール予約)	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。</p> <p>【概要】レコード・蓄音機が普及し、ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は、真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。</p> <p>【到達目標】Ⅰ 大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探ることができる。</p> <p>Ⅲ 大正時代から昭和初期の言語の資料を探し出し、さまざまに考察することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 国語辞典(電子辞書,スマホアプリも可) ←毎時必ず持参すること。</p> <p>(2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入：国立国会図書館デジタルコレクション, 同「歴史的音源」</p> <p>第2回 " : SP 盤レコードと文句集</p> <p>第3回 演習：学生による発表 2年生担当</p> <p>第4回 " : "</p> <p>第5回 " : "</p> <p>第6回 " : "</p> <p>第7回 " : "</p> <p>第8回 演習：学生による発表 1年生担当 (2年生が補助)</p> <p>第9回 " : "</p> <p>第10回 " : "</p> <p>第11回 " : "</p> <p>第12回 " : "</p> <p>第13回 " : "</p> <p>第14回 " : "</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には(追加の補充調査を含めて)15時間程度を充てるものとする。		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%) + それ以外の授業中の発言(20%) + 試験の成績(40%)		

授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	随時 (要メール予約)
		〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。</p> <p>【概要】レコード・蓄音機が普及し、ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は、真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。</p> <p>【到達目標】Ⅰ 大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探し出し、その価値が指摘できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 国語辞典 (電子辞書、スマホアプリも可) ←毎時必ず持参すること。</p> <p>(2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入：今学期の進め方 第2回 演習：学生による発表 第3回 " : " 第4回 " : " 第5回 " : " 第6回 " : " 第7回 " : " 第8回 " : 中間まとめ 第9回 " : 学生による発表 第10回 " : " 第11回 " : " 第12回 " : " 第13回 " : " 第14回 " : " 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には (追加の補充調査を含めて) 8 時間程度を充てるものとする。		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%) + それ以外の授業中の発言(20%) + 試験の成績(40%)		

授業科目	日本語学演習Ⅳ, Ⅵ	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 Ⅳは1年, Ⅵは2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第3回 配慮を考えるときの視点① (2年生担当) 第4回 配慮を考えるときの視点② (2年生担当) 第5回 配慮を考えるときの視点③ (2年生担当) 第6回 日本語の配慮の多面性① (1年生担当) 第7回 日本語の配慮の多面性② (1年生担当) 第8回 卒論中間報告 (2年生) 第9回 役割語① (2年生担当) 第10回 役割語② (2年生担当) 第11回 談話分析 (1年生) 第12回 会話分析 (1年生) 第13回 卒論計画発表 (1年生) 第14回 卒論発表練習 (2年生) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語学演習 V	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第 2 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 3 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5 回 レポート作成指導① 第 6 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7 回 レポート作成指導② 第 8 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 10 回 レポート作成指導③ 第 11 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 12 回 レポート作成指導④ 第 13 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 14 回 レポートに基づく口頭発表 第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年	授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば (音声言語および文章表現) によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】発表，面接，論文，エッセーなどの課題にグループで取り組みながら，ことば (音声言語および文章表現) によって，事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を考察する。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。この授業は講義方式であるが，実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので，一部演習も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また，原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社 (2) 国語辞典 (電子辞書，スマホアプリも可) ←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入：自己紹介 第 2 回 地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く 第 3 回 漢字：地図の答え合せ，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題 第 4 回 ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で 第 5 回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査 第 6 回 調査開始：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告 第 7 回 調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告 第 8 回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方 第 9 回 中間報告：口頭発表と質疑 第 10 回 レポート：文形・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成 第 11 回 レポート：第 1 回提出 第 12 回 レポート：わかりやすく書くには 第 13 回 レポート：補充調査 第 14 回 レポート：第 2 回提出 第 15 回 まとめ，表現の自由と人権</p>		
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，ポスター作成など，毎回授業のなかで指示する。		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%)		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。</p> <p>この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト	(1) 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社			
(2)参考文献	(2) 国語辞典（電子辞書、スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。			
授業スケジュール	第1回 参考文献：参考文献を読む 第2回 参考文献：参考文献を引用する 第3回 プレゼンテーション：何を使うか 第4回 課題レポート1：作成 第5回 課題レポート1：発表 第6回 課題レポート1：討論 第7回 課題レポート2：作成 第8回 課題レポート2：発表 第9回 課題レポート2：討論 第10回 課題レポート3：作成 第11回 課題レポート3：発表 第12回 課題レポート3：討論 第13回 試験レポート：資料収集 第14回 試験レポート：テーマに関する討論 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，レポート作成など，毎回授業のなかで指示する。			
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%)			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第13回 発表準備 第14回 学生による発表 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度：30%，発表：30%，レポート：40%			



授業科目	日本文学史・古典Ⅰ（隔年開講）		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	
		〔必修/選択〕	必修（注）	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう（平成31年度日本文学史・近代Ⅰ、Ⅱと同じ）</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：文学の発生</p> <p>第2回 上代の文学その1：概観、古事記1</p> <p>第3回 上代の文学その2：古事記2</p> <p>第4回 上代の文学その3：日本書紀、風土記</p> <p>第5回 上代の文学その4：万葉集1</p> <p>第6回 上代の文学その5：万葉集2</p> <p>第7回 上代の文学その6：万葉集3</p> <p>第8回 上代の文学その7：上代の漢詩、説話</p> <p>第9回 中古の文学その1：概観 古今集以前</p> <p>第10回 中古の文学その2：古今集1</p> <p>第11回 中古の文学その3：古今集2</p> <p>第12回 中古の文学その4：和歌 三代集まで</p> <p>第13回 中古の文学その5：和歌 八代集</p> <p>第14回 中古の文学その6：和歌 私撰集 歌謡</p> <p>第15回 中古の文学その7：漢詩文</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%				

(注) 教職必修

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ（隔年開講）		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	
		〔必修/選択〕	必修（注）	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう（平成31年度日本文学史・近代Ⅰ、Ⅱと同じ）</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 中古の文学その1：源氏物語以前の歌物語</p> <p>第2回 中古の文学その2：源氏物語以前の作り物語</p> <p>第3回 中古の文学その3：源氏物語1</p> <p>第4回 中古の文学その4：源氏物語2</p> <p>第5回 中古の文学その5：源氏物語以後の物語</p> <p>第6回 中古の文学その6：歴史物語</p> <p>第7回 中古の文学その7：日記</p> <p>第8回 中古の文学その8：随筆</p> <p>第9回 中世の文学その1：概観</p> <p>第10回 中世の文学その2：和歌、連歌</p> <p>第11回 中世の文学その3：漢詩文</p> <p>第12回 中世の文学その4：軍記</p> <p>第13回 中世の文学その5：随筆</p> <p>第14回 中世の文学その6：物語</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%				

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】女性と漢文学—一条朝を中心として—</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどのような存在だったのか、紫式部以外の一条朝の女性について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：平安時代の漢詩文</p> <p>第 2 回 女性と漢詩文：一条朝以前</p> <p>第 3 回 紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第 4 回 清少納言の場合：『枕草子』1「香炉峰の雪は」</p> <p>第 5 回 清少納言の場合：『枕草子』2「ふみは文選、博士の申文」</p> <p>第 6 回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌1</p> <p>第 7 回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌2「法華経和歌」</p> <p>第 8 回 選子内親王?：『発心和歌集』1</p> <p>第 9 回 選子内親王?：『発心和歌集』2</p> <p>第 10 回 一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐</p> <p>第 11 回 一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語1</p> <p>第 12 回 一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語2</p> <p>第 13 回 和歌と漢詩：題を詠むということ</p> <p>第 14 回 女性と漢詩文：一条朝以後</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する		
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート(毎回)20% レポート80%		

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 1,2年どちらでも履修可	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十九の講義を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻十七から巻二十は大友家持の歌日記的な巻といわれている。巻十九は天平勝宝二年3月から同五年2月までの約3年間の記録である。越中国守として勤めてきた家持は天平勝宝三年7月に帰京する。巻十九は越中守として余裕が出てきた時期と、少納言として帰京したものの予想通りにいかに悩む時期との歌が収められている。その中には、「春の苑くれないこほふ桃の花下照道に出で立つおとめ」「春の野にかすみたなびきうら悲しこの夕陰に鶯鳴くも」など家持の代表作と言われる歌が含まれている。これらを受講生の輪読の形式で読み進め、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。自分の担当箇所の資料を作り他の受講者の前で発表する力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(十)』集英社文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：『萬葉集』について(編者、諸本、万葉仮名など)</p> <p>第 2 回 巻十九について：教員による模範演習</p> <p>第 3 回 『萬葉集』巻十九輪読その1：天平勝宝2年の歌1</p> <p>第 4 回 『萬葉集』巻十九輪読その2：天平勝宝2年の歌2</p> <p>第 5 回 『萬葉集』巻十九輪読その3：天平勝宝2年の歌3</p> <p>第 6 回 『萬葉集』巻十九輪読その4：天平勝宝2年の歌4</p> <p>第 7 回 『萬葉集』巻十九輪読その5：天平勝宝3年の歌1</p> <p>第 8 回 『萬葉集』巻十九輪読その6：天平勝宝3年の歌2</p> <p>第 9 回 『萬葉集』巻十九輪読その7：天平勝宝3年の帰京の歌1</p> <p>第 10 回 『萬葉集』巻十九輪読その8：天平勝宝3年の帰京の歌2</p> <p>第 11 回 『萬葉集』巻十九輪読その9：天平勝宝4年の歌1</p> <p>第 12 回 『萬葉集』巻十九輪読その10：天平勝宝4年の歌2</p> <p>第 13 回 『萬葉集』巻十九輪読その11：天平勝宝5年の歌1</p> <p>第 14 回 『萬葉集』巻十九輪読その12：天平勝宝5年の歌2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『萬葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。		
成績評価の方法	輪読担当50% レポート50%		

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2：二条の後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%				

授業科目	日本文学講読Ⅲ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読み、平安期の物語の理解を深めると共に、その後の享受のあり方について考える。</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「桐壺」を読む。「桐壺」は、源氏物語の始まりの巻であり、高校の古典の授業でも冒頭部が取り上げられることが多いが、実際に全体を読んだ学生は少ないだろう。主人公光源氏がいかにして誕生したか、そして物語の展開がどのように方向づけられているかを考えたい。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『首書 源氏物語 桐壺』和泉書院</p> <p>(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺』至文堂</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第3回 「桐壺」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第4回 「桐壺」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第5回 「桐壺」輪読：その2</p> <p>第6回 「桐壺」輪読：その3</p> <p>第7回 「桐壺」輪読：その4</p> <p>第8回 補足説明：中国文学との関係。「長恨歌」と「李夫人」</p> <p>第9回 「桐壺」輪読：その5</p> <p>第10回 「桐壺」輪読：その6</p> <p>第11回 「桐壺」輪読：その7</p> <p>第12回 「桐壺」輪読：その8</p> <p>第13回 「桐壺」輪読：その9</p> <p>第14回 「桐壺」輪読：その10</p> <p>第15回 まとめ：平安時代物語としての『源氏物語』</p>				
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%				

授業科目	日本文学演習Ⅰ、Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] Ⅰは1年、Ⅲは2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『四条宮下野集』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』 (2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 2年生によるオリエンテーション：四条宮下野集について 第2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習 第4回 四条宮下野集を読む：1 第5回 四条宮下野集を読む：2 第6回 四条宮下野集を読む：3 第7回 四条宮下野集を読む：4 第8回 四条宮下野集を読む：5 第9回 四条宮下野集を読む：6 第10回 四条宮下野集を読む：7 第11回 四条宮下野集を読む：8 第12回 四条宮下野集を読む：9 第13回 四条宮下野集を読む：10 第14回 四条宮下野集を読む：11 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表80%		

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	オフィスアワーに準じる
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『四条宮下野(しじょうのみやしもつけしゅう)』を読む。四条宮下野は撰問期、藤原頼道の娘で後冷泉天皇皇后であった四条宮こと藤原寛子に仕えた女房である。その家集『四条宮下野集』は後冷泉後宮、なかでも四条宮寛子のもとでの華やかな宮廷生活が描かれ、『枕草子』的な家集と言われている。さまざまな和歌とエピソードを読むことで平安時代の貴族の文化、交友関係に着いて考えたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』 (2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認 第2回 四条宮下野集について： 第3回 四条宮下野集を読む：1 第4回 四条宮下野集を読む：2 第5回 四条宮下野集を読む：3 第6回 四条宮下野集を読む：4 第7回 四条宮下野集を読む：5 第8回 四条宮下野集を読む：6 第9回 四条宮下野集を読む：7 第10回 四条宮下野集を読む：8 第11回 四条宮下野集を読む：9 第12回 四条宮下野集を読む：10 第13回 四条宮下野集を読む：11 第14回 四条宮下野集を読む：12 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	担当発表80%、担当時以外の発言(質問、意見など)20%		

授業科目	日本文学講義Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】 今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、文学のなかでは比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』(思潮社)、他授業中に紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第2回 北村透谷『楚囚之詩』</p> <p>第3回 島崎藤村『若菜集』</p> <p>第4回 薄田泣菫『白羊宮』</p> <p>第5回 高村光太郎『道程』</p> <p>第6回 萩原朔太郎『月に吠える』</p> <p>第7回 室生犀星『抒情小曲集』</p> <p>第8回 山村暮鳥『聖三稜玻璃』</p> <p>第9回 萩原朔太郎『氷島』</p> <p>第10回 大手拓次『藍色の墓』</p> <p>第11回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第12回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第13回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第14回 萩原恭次郎『死刑宣告』</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。							
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)							

授業科目	日本文学講義Ⅳ		担当者	丹羽 謙治				
	[履修年次]	1年・2年	授業外対応	授業終了後に対応				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】井原西鶴 浮世草子の世界</p> <p>【概要】近世(江戸時代)庶民や武家などの浮世(現世)の有様を描いた西鶴作品を読解しながら、独特の話の構成法や古典の利用法について考察する。</p> <p>【到達目標】近世の人々の文章表現や描かれた風物についての正しく理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 新日本古典文学大系『好色二代男 西鶴諸国はなし 本朝二十不孝』(岩波書店)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 導入</p> <p>第2回 近世文学の特色</p> <p>第3回 浮世草子について</p> <p>第4回 『西鶴諸国はなし』巻1の1・2</p> <p>第5回 『西鶴諸国はなし』巻1の3・4</p> <p>第6回 『西鶴諸国はなし』巻1の5・6</p> <p>第7回 『西鶴諸国はなし』巻1の7</p> <p>第8回 『西鶴諸国はなし』巻2の1・2</p> <p>第9回 『西鶴諸国はなし』巻2の3・4</p> <p>第10回 『西鶴諸国はなし』巻2の5・6</p> <p>第11回 『西鶴諸国はなし』巻2の7</p> <p>第12回 『西鶴諸国はなし』巻3の1・2</p> <p>第13回 『西鶴諸国はなし』巻3の3・4</p> <p>第14回 『西鶴諸国はなし』巻3の5・6</p> <p>第15回 『西鶴諸国はなし』巻3の7</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業前にテキストを予め読むこと(予習)、授業後に各話の構造について考えること(復習)。							
成績評価の方法	期末試験による。							

授業科目	日本文学講読V	担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1年・2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後に対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近世紀行文を読む</p> <p>【概要】【概要】近世（江戸時代）庶民や武家など各層によって書かれた旅日記を讀解しながら、その特色や描かれた風物などについて考察する。今回は江戸の中期の武家の女性の紀行『吾妻の夢』と、後期の町人の紀行『陸奥日記』を取り上げる。</p> <p>【到達目標】紀行を通して江戸時代の風物や習慣について知るとともに、江戸の人々のものの見方・考え方を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 板坂耀子『江戸の紀行文』（中公新書）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入：江戸の旅行環境</p> <p>第2回 興正院『吾妻の夢』の概略と旅の背景</p> <p>第3回 興正院『吾妻の夢』初丁～4丁</p> <p>第4回 興正院『吾妻の夢』5丁～10丁</p> <p>第5回 興正院『吾妻の夢』11丁～16丁</p> <p>第6回 興正院『吾妻の夢』17丁～23丁</p> <p>第7回 小津久足『陸奥日記』の概略と旅の背景</p> <p>第8回 小津久足『陸奥日記』出発</p> <p>第9回 小津久足『陸奥日記』江戸から行徳</p> <p>第10回 小津久足『陸奥日記』行徳から中山</p> <p>第11回 小津久足『陸奥日記』中山から佐原</p> <p>第12回 小津久足『陸奥日記』潮来から銚子</p> <p>第13回 小津久足『陸奥日記』銚子から鹿島</p> <p>第14回 小津久足『陸奥日記』鹿島から筑波</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	あらかじめテキストを読み自分の解釈を作成しておく(予習)、テキストを読みなおし旅について考察する。		
成績評価の方法	期末試験。		

授業科目	日本文学講読VI	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>堀辰雄を読み、文学テクストを読む方法論を身につける</p> <p>【概要】</p> <p>堀辰雄の作品『美しい村』『風立ちぬ』を講読する。文学研究においては、テクストを多様な角度から検討して論点を引き出し、論理的に考察する必要がある。論点を取り出す方法、論理的な考察の方法、生産的な議論の方法を身につけるために、物語の構造、文章技巧、時代背景、土地の形象、病気のイメージ、海外文学との関係など、様々な観点から堀辰雄のテクストを検討する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学研究に必要な、テクスト読解の方法を実践できる。</p> <p>テクストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』新潮文庫</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：授業の進め方、堀辰雄について</p> <p>第2回 文学研究とは、注釈/解釈の方法、物質としてのテクスト</p> <p>第3回 軽井沢という場所</p> <p>第4回 堀辰雄テクストにおける「小説を書く主人公」</p> <p>第5回 「小説」をどう読むか/堀辰雄と「小説」への態度</p> <p>第6回 「美しい村」における心理描写の手法(1) 記憶と時間</p> <p>第7回 「美しい村」における心理描写の手法(2)</p> <p>第8回 場所と風景「風立ちぬ」を読むためのディスカッション</p> <p>第9回 前半のまとめ</p> <p>第10回 「風立ちぬ」(1)</p> <p>第11回 「風立ちぬ」(2)</p> <p>第12回 「風立ちぬ」(3)</p> <p>第13回 「風立ちぬ」(4)</p> <p>第14回 「風立ちぬ」(5)</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。		
成績評価の方法	毎回のミニレポート(30%)、レポート(60%)		

授業科目	日本文学講読Ⅶ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 文学研究に必要なとなる、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い 第 2回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化 第 3回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」 第 4回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り 第 5回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景 第 6回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異 第 7回 川端康成「水月」：三人称の語り 第 8回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史 第 9回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題 第 10回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵 第 11回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題 第 12回 倉田由美子「暗い旅」：論争について 第 13回 資料調査について 第 14回 文学史について 第 15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。							
成績評価の方法	毎回のミニレポート (30%)、レポート (60%)							

授業科目	日本文学演習Ⅳ, Ⅵ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	Ⅳは1年, Ⅵは2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『日本文学 100年の名作 第2巻』新潮文庫 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4回 口頭発表 (1) 第 5回 口頭発表 (2) 第 6回 口頭発表 (3) 第 7回 口頭発表 (4) 第 8回 口頭発表 (5) 第 9回 前半のまとめ 第 10回 口頭発表 (6) 第 11回 口頭発表 (7) 第 12回 口頭発表 (8) 第 13回 口頭発表 (9) 第 14回 口頭発表 (10) 第 15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%)、討議での発言・参加 (30%)							

授業科目	日本文学演習 V		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定、文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14回 論文作成の方法について</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表、ディスカッションでの発言 (40%)、レポート (60%)							

授業科目	中国文学史 I		担当者	土肥 克己				
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	定期試験 100%							



授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 楽府 (1)</p> <p>第2回 楽府 (2)</p> <p>第3回 楽府 (3)</p> <p>第4回 五言詩 (1)</p> <p>第5回 五言詩 (2)</p> <p>第6回 五言詩 (3)</p> <p>第7回 志怪小説 (1)</p> <p>第8回 志怪小説 (2)</p> <p>第9回 志怪小説 (3)</p> <p>第10回 近体詩 (1)</p> <p>第11回 近体詩 (2)</p> <p>第12回 近体詩 (3)</p> <p>第13回 伝奇 (1)</p> <p>第14回 伝奇 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 基本文型 (1)</p> <p>第3回 基本文型 (2)</p> <p>第4回 基本文型 (3)</p> <p>第5回 基本文型 (4)</p> <p>第6回 基本文型 (5)</p> <p>第7回 基本文型 (6)</p> <p>第8回 副詞</p> <p>第9回 基本文型の連続</p> <p>第10回 フレーズ (1)</p> <p>第11回 フレーズ (2)</p> <p>第12回 フレーズ (3)</p> <p>第13回 フレーズ (4)</p> <p>第14回 フレーズ (5)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 漢字 (1)</p> <p>第3回 漢字 (2)</p> <p>第4回 漢字 (3)</p> <p>第5回 漢字 (4)</p> <p>第6回 漢字 (5)</p> <p>第7回 漢文 (1)</p> <p>第8回 漢文 (2)</p> <p>第9回 漢文 (3)</p> <p>第10回 漢文学 (1)</p> <p>第11回 漢文学 (2)</p> <p>第12回 中国文学 (1)</p> <p>第13回 中国文学 (2)</p> <p>第14回 中国文学 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 講読 (1)</p> <p>第3回 講読 (2)</p> <p>第4回 講読 (3)</p> <p>第5回 講読 (4)</p> <p>第6回 講読 (5)</p> <p>第7回 講読 (6)</p> <p>第8回 講読 (7)</p> <p>第9回 講読 (8)</p> <p>第10回 講読 (9)</p> <p>第11回 講読 (10)</p> <p>第12回 講読 (11)</p> <p>第13回 講読 (12)</p> <p>第14回 講読 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島島の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文献調査の基礎 (1)</p> <p>第 3回 文献調査の基礎 (2)</p> <p>第 4回 論文の読み方</p> <p>第 5回 石碑調査 (1)</p> <p>第 6回 石碑調査 (2)</p> <p>第 7回 石碑調査 (3)</p> <p>第 8回 石碑調査 (4)</p> <p>第 9回 石碑調査 (5)</p> <p>第10回 プレゼン練習 (1)</p> <p>第11回 プレゼン練習 (2)</p> <p>第12回 プレゼン練習 (3)</p> <p>第13回 プレゼン練習 (4)</p> <p>第14回 プレゼン練習 (5)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	中国文学演習Ⅲ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 論文整理と発表 (1)</p> <p>第 3回 論文整理と発表 (2)</p> <p>第 4回 論文整理と発表 (3)</p> <p>第 5回 論文整理と発表 (4)</p> <p>第 6回 論文整理と発表 (5)</p> <p>第 7回 論文整理と発表 (6)</p> <p>第 8回 論文整理と発表 (7)</p> <p>第 9回 論文整理と発表 (8)</p> <p>第10回 論文整理と発表 (9)</p> <p>第11回 論文整理と発表 (10)</p> <p>第12回 論文整理と発表 (11)</p> <p>第13回 論文整理と発表 (12)</p> <p>第14回 論文整理と発表 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。		
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ,Ⅱ		担当者	専攻教員全員																																														
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期,後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国語学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書</p>																																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>I オリエンテーション：卒業論文の進め方</td> <td>II 論文作成：その1</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>論文作成：その1</td> <td>論文作成：その2</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>論文作成：その2</td> <td>論文作成：その3</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>論文作成：その3</td> <td>論文作成：その4</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>論文作成：その4</td> <td>論文作成：その5</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>論文作成：その5</td> <td>論文作成：その6</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>論文作成：その6</td> <td>論文作成：その7</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>論文作成：その7</td> <td>論文作成：その8</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>論文作成：その8</td> <td>論文作成：その9</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>論文作成：その9</td> <td>論文作成：その10</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>論文作成：その10</td> <td>論文作成：その11</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>論文作成：その11</td> <td>論文作成：その12</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>論文作成：その12</td> <td>論文作成：その13</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>論文作成：その13</td> <td>論文作成：その14</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					第1回	I オリエンテーション：卒業論文の進め方	II 論文作成：その1	第2回	論文作成：その1	論文作成：その2	第3回	論文作成：その2	論文作成：その3	第4回	論文作成：その3	論文作成：その4	第5回	論文作成：その4	論文作成：その5	第6回	論文作成：その5	論文作成：その6	第7回	論文作成：その6	論文作成：その7	第8回	論文作成：その7	論文作成：その8	第9回	論文作成：その8	論文作成：その9	第10回	論文作成：その9	論文作成：その10	第11回	論文作成：その10	論文作成：その11	第12回	論文作成：その11	論文作成：その12	第13回	論文作成：その12	論文作成：その13	第14回	論文作成：その13	論文作成：その14	第15回	まとめ	まとめ
第1回	I オリエンテーション：卒業論文の進め方	II 論文作成：その1																																																
第2回	論文作成：その1	論文作成：その2																																																
第3回	論文作成：その2	論文作成：その3																																																
第4回	論文作成：その3	論文作成：その4																																																
第5回	論文作成：その4	論文作成：その5																																																
第6回	論文作成：その5	論文作成：その6																																																
第7回	論文作成：その6	論文作成：その7																																																
第8回	論文作成：その7	論文作成：その8																																																
第9回	論文作成：その8	論文作成：その9																																																
第10回	論文作成：その9	論文作成：その10																																																
第11回	論文作成：その10	論文作成：その11																																																
第12回	論文作成：その11	論文作成：その12																																																
第13回	論文作成：その12	論文作成：その13																																																
第14回	論文作成：その13	論文作成：その14																																																
第15回	まとめ	まとめ																																																
成績評価の方法	<p>I：中間報告100%</p> <p>II：卒業論文75%，口頭発表25%</p>																																																	

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子	
	[履修年次] 日文専攻は、2年 [学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義	[適宜対応 (要予約)]	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような「関係性=コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義総盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類 通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ—自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会（1）：異文化コミュニケーションの実践1</p> <p>第14回 異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）				

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (講義方式の説明, 文学史のテキストに潜む問題点の探求)</p> <p>第2回 18世紀の小説 (1): 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 (J. バニヤン, D. デフォー, J. スイフト, S. リチャードソン)</p> <p>第3回 18世紀の小説 (2): 18世紀の小説におけるH. フィールドینگ, L. スターン, T.G. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説 (3): 18世紀後半のゴシック小説 (H. ウォルポール)</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説: J. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀～19世紀初頭の小説に関する小テスト, 19世紀の小説 (1): 19世紀 (ヴィクトリア朝) 小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説 (2): C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説 (3): W.M. サッカーレーの小説, ブロンテ姉妹 (シャーロット, エミリー, アン) の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説 (4): ダーウィニズムの影響, 19世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説 (T. ハーディ)</p> <p>第10回 19世紀 (ビクトリア朝) の小説に関する小テスト, 20世紀の小説 (1): 20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説 (2): D.H. ロレンスの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説 (3): V. ウルフの小説, H.G. ウェルズの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説 (4): H. ジェイムズの小説, E.M. フォスターの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回(プリント), 復習は小テスト(3回)の準備			
成績評価の方法	筆記試験(60%), 講義中の小テスト/授業への取り組み(30%), 課題レポート分(10%)			

(注) 日本語日本文学専攻は選択, 英語英文学専攻は必修。

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の発露—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学 (1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学 (2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)			

(注) 日本語日本文学専攻は選択, 英語英文学専攻は必修。

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸 裕子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体</p> <p>第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育</p> <p>第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的思考の融合</p> <p>第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>							
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。							
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第 14 回、15 回での実演 (50%)							

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第 2 回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第 3 回 学校教育と情報メディア</p> <p>第 4 回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第 5 回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第 6 回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第 7 回 情報メディアの活用 1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第 8 回 教育メディアの活用 2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第 9 回 情報メディアの活用 3：データベースと情報検索</p> <p>第 10 回 情報メディアの活用 4：インターネットと情報検索</p> <p>第 11 回 情報メディアの活用 5：インターネットによる情報発信</p> <p>第 12 回 情報セキュリティ</p> <p>第 13 回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第 14 回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第 15 回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>							
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。							
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)							

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。</p> <p>本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 書について (書体の特徴とその変遷)</p> <p>第 2 回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方)</p> <p>第 3 回 " "</p> <p>第 4 回 " "</p> <p>第 5 回 " (細字の書き方)</p> <p>第 6 回 " "</p> <p>第 7 回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方)</p> <p>第 8 回 " "</p> <p>第 9 回 " "</p> <p>第 10 回 " (細字の書き方)</p> <p>第 11 回 " "</p> <p>第 12 回 かなの特徴と書き方 (いろは単体)</p> <p>第 13 回 " "</p> <p>第 14 回 " (連綿とその応用)</p> <p>第 15 回 " "</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		
実務経験について	書道講師		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習</p> <p>【概要】 中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得する。さらに、書の基本である楷書の古典を通して、その造型と運筆の要領を学ぶ。また、日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】 中学校における書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書のくツメル特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二玄社刊</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 中学校における書写教育について</p> <p>第 2 回 中学校で学ぶ楷書の基本とその応用</p> <p>第 3 回 " "</p> <p>第 4 回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘)</p> <p>第 5 回 " "</p> <p>第 6 回 " (始平公造像記)</p> <p>第 7 回 " (孫秋生造像記)</p> <p>第 8 回 中学校で学ぶ行書の基本とその応用</p> <p>第 9 回 " "</p> <p>第 10 回 中学校で学ぶ漢字と仮名の調和</p> <p>第 11 回 行書の古典 (蘭亭叙)</p> <p>第 12 回 " "</p> <p>第 13 回 " (苕溪詩卷)</p> <p>第 14 回 " (呉昌碩詩稿)</p> <p>第 15 回 " (風信帖)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品 (100%)		
実務経験について	書道講師		

(注) 教職必修

授業科目	<b>書道Ⅲ</b>	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の特徴とその運筆の技法</p> <p>【概要】書道Ⅲでは草書・隸書・篆書の3つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが、芸術性が高く、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隸書は今から1800年位前に生まれた書体であるが、日常よく目にする文字である。隸書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり、その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】草書・隸書・篆書の＜ツメル＞特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二女社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第2回 草書の古典（書譜） 第3回 " " 第4回 " （擬山園帖） 第5回 " " 第6回 隸書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第7回 隸書の古典（曹全碑） 第8回 " " 第9回 " （礼器碑） 第10回 " " 第11回 篆書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第12回 篆書の古典（泰山刻石） 第13回 " " 第14回 " （趙之謙篆書対聯） 第15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		
実務経験について	書道講師		

授業科目	<b>書道Ⅳ</b>	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習</p> <p>【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず、自分の名を刻した印を制作し、漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して、その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいに大切な文字であるか、実感してもらうのも目的の一つである。</p> <p>【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』二女社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 作品制作（篆刻—自用印） 第2回 " " 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " （漢字作品—4字熟語） 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " （調和体作品） 第9回 " " 第10回 かなの古典（高野切第1種） 第11回 " " 第12回 " （高野切第3種） 第13回 " " 第14回 " （寸松庵色紙） 第15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		
実務経験について	書道講師		



## 6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ		担当者	小林 朋子 遠峯 伸一郎 轟 義昭	
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】大学での専門的「勉強」は、受動的に知識を吸収するだけでは不十分で、あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力）、それについて論理的に議論を展開し、自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では、その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術—「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」—を段階的に学んでいき、あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち、その意見を論理的に展開できるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (轟) 学習技術研究会 『知へのステップ 第5版—大学生からのスタディ・スキルズ』 くろしお出版 (小林) 学習技術研究会 『知へのステップ 第4版—大学生からのスタディ・スキルズ』 くろしお出版 (遠峯) なし。</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン:「生徒」から「学生」へ</p> <p>第2回 「聴く」と「読む」:積極的な聞き手と読み手になるために</p> <p>第3回 「深く読む」:論旨や要点を整理して分析的に進む</p> <p>第4回 論文ってどんなもの?:基礎編1—よく使われる語と表現, 引用</p> <p>第5回 論文ってどんなもの?:基礎編2—よく使われる文の形, 句読点, 表記規則</p> <p>第6回 「調べる」と「整理する」:大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方</p> <p>第7回 本論の役割:論拠提示, 結論提示</p> <p>第8回 結びの役割:総括する, 展望提示</p> <p>第9回 図表・資料に関する表現:使用する資料を示す, 図表を用いて説明する</p> <p>第10回 レポート作成の第一歩 (テーマ設定から結びに至る展開術の確認)</p> <p>第11回 レポート作成の実践 (その一)</p> <p>第12回 レポート作成の実践 (その二)</p> <p>第13回 レポート作成の実践 (その三)</p> <p>第14回 発表用スライドの作成:パワーポイントの活用</p> <p>第15回 プレゼンテーション</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	レポート (60%), プレゼンテーション (10%), 授業時の取り組み (30%)				

授業科目	コミュニケーション概論		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年		授業外対応	オフィスアワー
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で学ぶコミュニケーション入門, Content and Language Integrated Learning(CLIL)</p> <p>【概要】 この授業は, CLIL (内容言語統合型学習) という教育方法を実践し, 領域統合型の言語活動を実践する演習形式の授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。本授業では, 500 語程度のリーディング課題が毎回課されます。学生は事前にそれを読み, 基礎的な背景知識を身につけてから授業に参加します。授業では, まずリーディング課題に関するクイズを行い課題の取り組みや理解を確認します。その後, リーディング課題に関連するトピックについて短いレクチャーを聞いてノートテイキングの練習をしたり, 関連する映像を見たり, ペアやグループで調査, ディベート, プレゼンテーションなど様々な言語活動に取り組みながら, 新しく学んだ内容についての理解を深めます。各授業の終わりには, ラーニングジャーナルに学習内容を書いてまとめます。学期末には, 学習のまとめとして各自関心のあるトピックに関する 5 分間程度のプレゼンテーション課題と, 授業中に与えられるテーマに関するレポート課題があります。</p> <p>【到達目標】 (1)トピックに関する英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)トピックに関する英語の説明を聞いて, 概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Vincent, P. (2017). <i>Speaking of intercultural communication</i>. Naniun-do.</p> <p>(2) ①Arent, R. (2009). <i>Bridging the cross-cultural Gap: Listening and speaking tasks for developing fluency in English</i>. The University of Michigan Press: Ann Arbor.②Goldstein, S. (2000). <i>Cross-cultural explorations: Activities in culture and psychology</i>. Allyn and Bacon.③Storti, C. (1994). <i>Cross-cultural dialogues: 74 brief encounters with cultural difference</i>. Intercultural Press.④Stringer M. D. &amp; Cassidy, A. P. (2009). <i>52 activities for improving cross-cultural communication</i>. Intercultural Press.</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2 回 Communication: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 3 回 Culture: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 4 回 Nonverbal Communication: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 5 回 Communicating Clearly: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 6 回 Culture and Values: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 7 回 Culture and Perception: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 8 回 Diversity: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 9 回 Stereotypes: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 10 回 Culture Shock: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 11 回 Culture and Change: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 12 回 Talking about Japan: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 13 回 Becoming a Global Person: Quiz, Mini-lecture, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal</p> <p>第 14 回 Final Presentation (1): Speech, Discussion, Learning journal</p> <p>第 15 回 Final Presentation (2): Speech, Discussion, Learning journal</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む) 2時間以上必要である。			
成績評価の方法	リーディング課題に関するクイズ 30% プレゼンテーション 30% レポート課題 40%で評価する。			

(注) 教職必修

授業科目	英語学概論		担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時、適宜(要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	必修(注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】英語を題材に、音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論、語用論の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 大名力(2014)『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社、東京。その他随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、英語学とは何か</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1) 英語の母音・子音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2) 音素と異音、綴りと発音の対応</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3) 英語のアクセントとイントネーション</p> <p>第5回 音声学・音韻論(4) 英語の音変化と音脱落</p> <p>第6回 形態論(1) 形態素</p> <p>第7回 形態論(2) 複合語</p> <p>第8回 形態論(3) その他の語形成過程</p> <p>第9回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性</p> <p>第10回 統語論(2) 文構造の再帰性</p> <p>第11回 統語論(3) 動詞を中心とする構文 時制、相、態</p> <p>第12回 統語論(4) 冠詞・名詞を中心とする構文 定性</p> <p>第13回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第14回 意味論(2) 比喩</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習3時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験(40%) + 小テスト(40%) + 授業内活動への積極的な参加(20%)			

(注) 教職必修

授業科目	英文学概論		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	必修(注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「詩」「劇」「散文」「小説」の作品を読む。作品に潜む問題点を考える能力(探求能力)を身に付ける。</p> <p>【概要】「詩」「劇」「散文」「小説」のジャンルから具体的に作品を取り上げて鑑賞し、作品の問題点を探求していく。作品に関する基本的な事項については、1回目に配布したプリント「講義内容&amp;資料」に基づいて予習させ、授業中に確認していく。問題点の探求においては、グループ活動をとおして受講生とのディスカッションを取り入れ、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める(受講生は発言が求められるので、前もってテキストをしっかりと読んでおく必要がある)。また、授業で学習した詩(ソネット)を応用し、課題(任意課題)に取り組む機会を与えることで、「大衆文化のなかのイギリス文学」という視点で文学作品を捉えられる可能性を教える。</p> <p>【到達目標】イギリス文学の詩、劇、散文、小説に作品を鑑賞し、それぞれのジャンルに使用されている英語表現を理解する。作品に潜む問題点を探求しながら、多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。イギリス文学の代表的な詩、劇、散文、小説における5つの作品を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫 *プリント使用あり(原文の利用)</p> <p>(2) 高橋源次『英文学概論』(南雲堂)、高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』(大修館書店)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(「英文学概論」はどういう学問か、15回の講義で何を学ぶかについての説明)</p> <p>第2回 詩の鑑賞と問題点の探求: G.チョーサー『カンタベリー物語』(中世イギリスの社会的文化的背景の理解など)</p> <p>第3回 劇の鑑賞と問題点の探求(1): W.シェイクスピア『リア王』(シェイクスピア劇の理解など)</p> <p>第4回 劇の鑑賞と問題点の探求(2): W.シェイクスピア『リア王』(グロスター親子の役割)</p> <p>第5回 劇の鑑賞と問題点の探求(3): W.シェイクスピア『リア王』(コーディリアの死の役割と意義)</p> <p>第6回 劇/詩の鑑賞と問題点の探求(4): W.シェイクスピア『リア王』(まとめ)と『ソネット集』(詩の特徴の理解)</p> <p>第7回 散文の鑑賞と問題点の探求(1): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』(散文英語の特徴、映像利用による作品の理解)</p> <p>第8回 散文の鑑賞と問題点の探求(2): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』(作品のテーマと魅力及び作者の主張探求など)</p> <p>第9回 散文の鑑賞と問題点の探求(3): J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』(大衆文化における『ガリヴァー旅行記』)</p> <p>第10回 小説の鑑賞と問題点の探求(1): C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』(19世紀イギリスの時代背景の理解など)</p> <p>第11回 小説の鑑賞と問題点の探求(2): E.ブロンテ『嵐が丘』(事前に鑑賞させた映画に関するディスカッションなど)</p> <p>第12回 小説の鑑賞と問題点の探求(3): E.ブロンテ『嵐が丘』(テーマに基づく物語の内容理解)</p> <p>第13回 小説の鑑賞と問題点の探求(4): E.ブロンテ『嵐が丘』(愛と復讐の問題点を探求)</p> <p>第14回 小説の鑑賞と問題点の探求(5): E.ブロンテ『嵐が丘』(小説英語の特徴の理解、『嵐が丘』の世界のまとめなど)</p> <p>第15回 まとめ(5つの作品を学習したことを振り返って「英語文学を学ぶ」ことの意味を考える)</p>			
授業外学習(予習・復習)	第1回目に配布する「講義内容&資料」に記載した指示に従い、予習・宿題・課題に取り組むこと。任意課題の取り組み(ソネット18番と映画『恋におちたシェイクスピア』、ソネット116番と映画『いつか晴れた日に』)			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み(50%) *任意課題提出者は別途評価			

(注) 教職必修

授業科目	比較文化	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、「グローバル化」による影響が私たちの身のまわりにあふれているのと同じように、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような〈関係性=コミュニケーション〉を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。受講者は、本講義を通して、どのように「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養成する。講義を通して単に知識を得るだけでなく、個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。また講義終盤では、地域を暮らす外国人や留学生と交流の時間を設ける。自身の文化をどのように発言すれば、ゲスト・スピーカーと適切に交流できるのか、受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）、八代京子他著『異文化トレーニング―ボーダレス社会を生きる[改訂版]』（三修社、2009年）、八代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社、2001年）</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第 2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第 3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第 4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第 5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第 6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第 7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第 8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第 9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第 10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第 11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応</p> <p>第 12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば</p> <p>第 13回 異文化交流会（1）：異文化コミュニケーションの実践1</p> <p>第 14回 異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2</p> <p>第 15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

(注) 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	By coming to my office or by email.
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. <i>Speakout pre-intermediate</i>. 2<sup>nd</sup> edition. Pearson Education</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: <i>Past simple</i>.</p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of <i>past simple</i> endings (-ed). Unit 1 review.</p> <p>第 4 回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: <i>present simple</i> and <i>continuous</i>.</p> <p>第 6 回 Unit 2 Communication skills: intonation; express likes and dislikes. Unit 2 review</p> <p>第 7 回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary.</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review.</p> <p>第10 回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe.</p> <p>第11 回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: <i>present continuous</i> and the <i>be going to</i> future.</p> <p>第12 回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review.</p> <p>第13 回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English.</p> <p>第14 回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: <i>past simple</i> and <i>past continuous</i>.</p> <p>第15 回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5.</p> <p>第16 回 Unit 5 short presentation. The best day of your life.</p> <p>第17 回 Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living in the city or in the countryside.</p> <p>第18 回 Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review.</p> <p>第19 回 Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games.</p> <p>第20 回 Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them.</p> <p>第21 回 Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review.</p> <p>第22 回 Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band</p> <p>第23 回 Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie or videogame.</p> <p>第24 回 Unit 8. Communication skills: polite intonations and contrastive stress. Unit 8 review.</p> <p>第25 回 Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game.</p> <p>第26 回 Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals.</p> <p>第27 回 Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review.</p> <p>第28 回 Unit 9. Short presentation. The cost of fame.</p> <p>第29 回 Preparation for the final presentation.</p> <p>第30 回 Review of the course.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice and oral presentations will be an integral part of classroom practice.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i> , Macmillan Education (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Unit 1-Lifestyles (Daily Life): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 3 回 Unit 1 (continued)-Pair practices discussing daily activities, listening activities 第 4 回 Unit 1 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 5 回 Unit 1 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 6 回 Unit 2-Leisure (talking about free time): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 7 回 Unit 2 (continued)-Pair practices discussing free time, listening activities 第 8 回 Unit 2 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 9 回 Unit 2 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第10 回 Unit 3-Getting Along (making requests/responding): Conversation, Grammar, Pronunciation 第11 回 Unit 3 (continued)-Pair practices to practice making requests & responding, listening activities 第12 回 Unit 3 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第13 回 Review 1: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 1-3 第14 回 Student presentations for Unit 1-3 themes/evaluation 第15 回 Unit 4-Interests (talking about activities): Conversation, Grammar, Pronunciation 第16 回 Unit 4 (continued)-Pair practices to practice talking about activities, listening activities 第17 回 Unit 4 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第18 回 Unit 4 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第19 回 Unit 5-Telling a Story (relating past events): Conversation, Grammar, Pronunciation 第20 回 Unit 5 (continued)-Pair practices to practice past tense, listening activities 第21 回 Unit 5 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第22 回 Unit 5 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第23 回 Unit 6-Celebrations (festivals/special events): Conversation, Grammar, Pronunciation 第24 回 Unit 6 (continued)-Pair practices to discuss event planning/festivals, listening activities 第25 回 Unit 6 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第26 回 Review 2: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 4-6 第27 回 Student presentations for Unit 4-6 themes/evaluation 第28 回 Unit 7-Food & Drink: Conversation, Grammar, Pronunciation 第29 回 Unit 7 (continued)-Pair practices to talk about food & drinks, listening activities 第30 回 Unit 7 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験 (70%)		

(注) 週2回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.		
	【概要】 Classes will include speaking practice, group and pair discussions, presentations (short speeches and Power Point) as well as expanding the textbook topics by watching and discussing relevant videos and materials.		
	【到達目標】 The goal of this course is to help students communicate in English more fluently by discussing different topics and sharing their opinions in a confident, effective way.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Richard R. Day, J. Shawles, J. Yamanaka, <i>Impact Issues 2</i> , Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction: plans for the term and getting to know each other. 第 2 回 Unit 1 First Impressions 第 3 回 Unit 2 Traffic Jam 第 4 回 Unit 2 CONTINUED. 第 5 回 Unit 3 Who need the local language?. 第 6 回 Unit 3 CONTINUED 第 7 回 Unit 4 Getting Ahead 第 8 回 Unit 5 Forever Single 第 9 回 Unit 6 What are friends for? 第10回 Unit 7 What's for Dinner?; 第11回 Unit 7 CONTINUED. 第12回 Unit 8 Cyber Bullying 第13回 Unit 9 Taking Care of Father 第14回 Unit 9 CONTINUED. 第15回 Unit 10 Why go to school? 第16回 Unit 11 An International Relationship 第17回 Unit 12 Too little, too late 第18回 Unit 12 CONTINUED. 第19回 Unit 13 Ben and Mike 第20回 Unit 14 Government Control 第21回 Special Practice Lesson 1 第22回 Special Practice Lesson 2 第23回 Unit 15 Living Together 第24回 Unit 16 Size Discrimination 第25回 Unit 20 A Mother's Story 第26回 Watch/discuss a documentary about social problems, crime and punishment. 第27回 Special practice lesson 3: TOEFL Speaking exercise 第28回 Special practice lesson 4: TOEFL Speaking exercise (continued) 第29回 FINAL TEST: Every student has 10-15 minutes to present their work and answer questions about it. 第30回 FINAL TEST: CONTINUED- Feedback on students' performance, extra questions, feedback from students.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業への取り組み (20%)、Quizzes / in-class presentations / test クイズ/授業での発表・試験 (80%)		

(注) 週 2 回, 教職必修



授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	By Coming to my office or by email
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course focused on improving the students' communicative skills in English.</p> <p>【概要】 The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English.</p> <p>【到達目標】 The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson, <i>Speakout. Intermediate</i>. Pearson Education</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on <i>past simple</i> and <i>present perfect</i></p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of <i>have, had, was</i> (weak forms); intonation: sounding interested.</p> <p>第 4 回 Unit 1. Presentation: reporting news.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (<i>will tense</i>).</p> <p>第 6 回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (<i>going to future</i>); linking in connected speech.</p> <p>第 7 回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and <i>used to</i> and <i>simple conditional tense</i></p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (<i>have to</i>); sentence stress.</p> <p>第 10 回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.</p> <p>第 11 回 Unit 4. Talking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals</p> <p>第 12 回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (<i>would</i>); intonation: giving bad news.</p> <p>第 13 回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it.</p> <p>第 14 回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on <i>present perfect VS present continuous</i></p> <p>第 15 回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.</p> <p>第 16 回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far.</p> <p>第 17 回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice</p> <p>第 18 回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect.</p> <p>第 19 回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event.</p> <p>第 20 回 Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech.</p> <p>第 21 回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes.</p> <p>第 22 回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world.</p> <p>Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers.</p> <p>第 23 回 Unit 8. Communication skills: verb phrases; stress pattern: short phrases.</p> <p>第 24 回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like.</p> <p>第 25 回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives.</p> <p>第 26 回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests.</p> <p>Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner.</p> <p>第 27 回 Unit 10. Speaking: talking about communities.</p> <p>第 28 回 Unit 10. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words</p> <p>第 29 回 Unit 10. Presentation: The students describe their neighborhood.</p> <p>第 30 回 Review of the course.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i> , Macmillan Education (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Unit 1-Lifestyles (Memories): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 3 回 Unit 1 (continued)-Pair practices discussing past activities, listening activities 第 4 回 Unit 1 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 5 回 Unit 1 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 6 回 Unit 2-Life Changes (talking about major life events): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 7 回 Unit 2 (continued)-Pair practices discussing life events, listening activities 第 8 回 Unit 2 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 9 回 Unit 2 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 10 回 Unit 3-Viewpoints (expressing opinions): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 11 回 Unit 3 (continued)-Pair practices to practice expressing opinions & responding, listening activities 第 12 回 Unit 3 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 13 回 Review 1: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 1-3 第 14 回 Student presentations for Unit 1-3 themes/evaluation 第 15 回 Unit 4-Problems: Conversation, Grammar, Pronunciation 第 16 回 Unit 4 (continued)-Pair practices to practice talking about problems, listening activities 第 17 回 Unit 4 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 18 回 Unit 4 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 19 回 Unit 5-Thinking Ahead (predicting the future): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 20 回 Unit 5 (continued)-Pair practices to practice future tense, listening activities 第 21 回 Unit 5 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 22 回 Unit 5 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 23 回 Unit 6-Imagine! (speculating/using conditionals): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 24 回 Unit 6 (continued)-Pair practices for practicing conditionals, listening activities 第 25 回 Unit 6 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 26 回 Review 2: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 4-6 第 27 回 Student presentations for Unit 4-6 themes/evaluation 第 28 回 Unit 7-My World (talking about people/places/things): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 29 回 Unit 7 (continued)-Pair practices to talk about the world today, listening activities 第 30 回 Unit 7 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験 (70%)		

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ニコライ・ギュレメトフ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2, by Richard Day et al. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) (プリントを配布する場合もある)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション Orientation, selection of units to use (12 out of 20)</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回 Week 2 to Week 10: Work with the units selected</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回 Oral Presentation: スピーチ</p> <p>第12回</p> <p>第13回 Week 12 and 13: Finish the textbook</p> <p>第14回 Oral Presentation: グループ発表</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) +発表・スピーチ (40%) による評価します。		

(注) 週 2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	By coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. <i>Speakout intermediate plus</i>. 2<sup>nd</sup> edition. Pearson Education.</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English?</p> <p>第 2回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions.</p> <p>第 3回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses: Verb + preposition</p> <p>第 4回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know</p> <p>第 5回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative <i>have</i>.</p> <p>第 6回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects: stress: causative <i>have</i>.; connected speech: linking</p> <p>第 7回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any).</p> <p>第 8回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures.</p> <p>第 9回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate.</p> <p>第10回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life.</p> <p>第11回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and <i>present perfect simple</i> and <i>continuous</i>.</p> <p>第12回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic).</p> <p>第13回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks.</p> <p>第14回 Review of the course.</p> <p>第15回 Preparation for the final presentation.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) Final presentation (40%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes. Students will be required to lead in discussions and compile notebooks containing vocabulary and notes of their topic discussions.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become more knowledgeable concerning many important controversial topics and able to carry on a discussion with more confidence.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Day &amp; Schaules, <i>Impact Issues 3, Third Edition</i>, Pearson Longman</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Orientation/determination of student leaders, textbook topics to discuss, and schedule for student leading</p> <p>第 2 回 Discussion Topic 1, team summaries/reports</p> <p>第 3 回 Discussion Topic 2, team summaries/reports</p> <p>第 4 回 Discussion Topic 3, team summaries/reports</p> <p>第 5 回 Discussion Topic 4, team summaries/reports</p> <p>第 6 回 Discussion Topic 5, team summaries/reports</p> <p>第 7 回 Discussion Topic 6, team summaries/reports</p> <p>第 8 回 Discussion Topic 7, team summaries/reports</p> <p>第 9 回 Discussion Topic 8, team summaries/reports</p> <p>第 10 回 Discussion Topic 9, team summaries/reports</p> <p>第 11 回 Discussion Topic 10, team summaries/reports</p> <p>第 12 回 Discussion Topic 11, team summaries/reports</p> <p>第 13 回 Discussion Topic 12, team summaries/reports</p> <p>第 14 回 Discussion Topic 13, team summaries/reports</p> <p>第 15 回 Discussion Topic 14, team summaries/reports</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験 (70%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Inspire 2 by Hartmannn, Douglas and Boon Cengage learning</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of key topics from the first half of the textbook</p> <p>第 2 回 Festivals</p> <p>第 3 回 Food</p> <p>第 4 回 Cities</p> <p>第 5 回 Jobs (Part-time)</p> <p>第 6 回 Jobs (Unusual)</p> <p>第 7 回 Review Quiz of first half of semester</p> <p>第 8 回 Music</p> <p>第 9 回 Traditional Instruments</p> <p>第 10 回 Travel (Abroad)</p> <p>第 11 回 Travel (Domestic)</p> <p>第 12 回 Life Dreams and Hopes</p> <p>第 13 回 Happiness</p> <p>第 14 回 Life Goals</p> <p>第 15 回 Pair work practice on key topic</p> <p>第 16 回 Final Quiz</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	<p>Participation in class pair-work activities 40%</p> <p>Vocabulary and short quizzes 30%</p> <p>Final Speaking Activity and Quiz 30%</p>		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	メアリー・マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on English listening and viewing of TED Talks and authentic language. Vocabulary, speaking, pronunciation, note-taking, and presentation skills will be practiced based upon those segments.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary, their listening ability, and become confident in expressing their ideas in a more fluent manner.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Lida Baker & Laurie Blass, <i>21<sup>st</sup> Century Communication--Book 1A</i> , National Geographic Learning / Cengage (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction/ Unit 1 ( <i>Conservation</i> ) Lesson A—Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 2 回 Unit 1 Lesson B—Audio listening, discussion 第 3 回 Unit 1 Lesson C—Vocabulary, video segment watching, discussion 第 4 回 Unit 1 Presentations 第 5 回 Unit 2 ( <i>Connecting to Nature</i> ) Lesson A—Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 6 回 Unit 2 Lesson B—Audio listening, discussion 第 7 回 Unit 2 Lesson C—Vocabulary, video segment watching, discussion 第 8 回 Unit 2 Presentations 第 9 回 Unit 3 ( <i>Transportation</i> ) Lesson A—Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 10 回 Unit 3 Lesson B—Audio listening, discussion 第 11 回 Unit 3 Lesson C—Vocabulary, video segment watching, discussion 第 12 回 Unit 3 Presentations 第 13 回 Unit 4 ( <i>Music</i> ) Lesson A—Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 14 回 Unit 4 Lesson B—Audio listening, discussion 第 15 回 Unit 4 Lesson C—Vocabulary, video segment watching, discussion		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%)、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験 (70%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) No Text. Materials prepared by teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction of Course and Goals for this semester Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第 2 回 Generation Gaps 第 3 回 Family Issues 第 4 回 Global Youth Culture 第 5 回 World Music and expressing opinions about it 第 6 回 Fashion 第 7 回 Review Quiz 第 8 回 Health 第 9 回 Diets 第 10 回 Pressures of the Mass Media 第 11 回 Travel Plans 第 12 回 Plans for the Future 第 13 回 Life in the Future 第 14 回 Generational Choices 第 15 回 Pair work presentation practice 第 16 回 Final Quiz		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	英語表現法 I	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction 第 2回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3回 Unit 1: Topic Sentences 第 4回 Unit 2: Organizing Ideas 第 5回 Unit 2: Inference Sentences 第 6回 In-class writing assignment (1), 1 <sup>st</sup> draft 第 7回 In-class writing assignment (1), 2 <sup>nd</sup> draft 第 8回 Writing assignment (1) Review 第 9回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 10回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 11回 Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 12回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 13回 In-class writing assignment (2), 1 <sup>st</sup> draft 第 14回 In-class writing assignment (2), 2 <sup>nd</sup> draft 第 15回 Writing assignment (2) Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Homework 60%, Mid-Term Writing Assignment 20%, Final Writing Assignment 20%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

授業科目	英語表現法 I	担当者	パトリック・ゴースラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in class compositions. Students must also fulfill the Kentan attendance requirement.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Class Orientation 第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第 10回 Unit 3, Example paragraph 第 11回 Unit 3, Example paragraph 第 12回 Unit 3, Example paragraph 第 13回 Unit 3, Example paragraph 第 14回 Example paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 15回 Example paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Students essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 5: Introductory Paragraphs 第 2回 Unit 5: Cause and Effect Words and Paragraphs 第 3回 Unit 6: Process Paragraphs 第 4回 Unit 6: Guiding Readers / Modifiers 第 5回 In-class writing assignment (1), 1 <sup>st</sup> draft 第 6回 In-class writing assignment (1), 2 <sup>nd</sup> draft 第 7回 Writing assignment (1) Review 第 8回 Unit 7: Classifying into Groups 第 9回 Unit 7: Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 10回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 11回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Parallelism 第 12回 Unit 9: Sentence Transitions 第 13回 In-class writing assignment (2), 1 <sup>st</sup> draft 第 14回 In-class writing assignment (2), 2 <sup>nd</sup> draft 第 15回 Writing assignment (2) Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Homework 60%, Mid-Term Writing Assignment 20%, Final Writing Assignment 20%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei ; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 4, Process paragraph 第 2回 Unit 4, Process paragraph 第 3回 Unit 4, Process paragraph 第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第 6回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第 11回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13回 Unit 6, Narrative paragraph 第 14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 75% and attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	ジェイムス・マレー James Murray
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 2回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 3回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 4回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 5回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 6回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 7回 Mid-Term Paper (first draft) 第 8回 Mid-Term Paper (final draft) 第 9回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第10回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第11回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第12回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第13回 Unit 6: Process Paragraphs / Using Modifiers / Organizing Lists 第14回 Final Paper (first draft) 第15回 Final Paper (final draft)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Homework 60%, Mid-Term Writing Assignment 20%, Final Writing Assignment 20%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	パトリック・ゴースラム Patrick Gorham
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments, do three in-class essays and fulfill the college attendance requirement.</p> <p>【概要】 Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 3, Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Unit 3, Process Essay 第 2回 Unit 3, Process Essay 第 3回 Unit 3, Process Essay 第 4回 Process essay in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第 5回 Process essay in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第 6回 Unit 4, Argumentative Essay 第 7回 Unit 4, Argumentative Essay 第 8回 Unit 4, Argumentative Essay 第 9回 Argumentative in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第10回 Argumentative in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft 第11回 Unit 5, Classification Essay 第12回 Unit 5, Classification Essay 第13回 Unit 5, Classification Essay 第14回 Classification in-class writing assignment 1 <sup>st</sup> draft 第15回 Classification in-class writing assignment 2 <sup>nd</sup> draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Three in-class essays 75%, freewriting 15%, attendance 10% (The number of essays is subject to change depending on the progress of the class)		



授業科目	英語コミュニケーション演習 I	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> この授業のテーマは、視聴覚教材を利用して標準的なナチュラルなオーストラリア英語、イギリス英語、アメリカ英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解し知識を得ることである。</p> <p><b>【概要】</b> ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材で理解しながら、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高める。</p> <p>さらに、毎回、パラレルリーディングやシャドーイングといった聞き取った音を再現する口頭練習を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」をアップさせる。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。  ・英語の音声的特徴に慣れるとともに、パッセージを瞬時に聞き取り理解することができる。  ・オーストラリアの日常生活・社会について理解し知識を得る。</p>		
(1)テキスト	(1) Kumiko T. Sato 他著 <i>Australia, Here We Come!</i> 出版社 : Asahi Press		
授業スケジュール	第 1 回 授業ガイダンス : 効果的なリスニング学習とは? / 授業内容と進め方について 第 2 回 Unit 1: Hello, Sydney, Australia! / 語彙テスト/シャドーイング演習 第 3 回 Unit 2: Street Life/語彙テスト/シャドーイング演習 第 4 回 Unit 3: Public Transport – Commuting/語彙テスト/シャドーイング演習 第 5 回 Unit 4: University Life – The University of Sydney (1) / 語彙テスト/シャドーイング演習 第 6 回 Unit 4: University Life – The University of Sydney (2) / シャドーイング演習 第 7 回 Unit 5: Australian Home/語彙テスト/シャドーイング演習 第 8 回 Unit 6: Supermarket – Coles/語彙テスト/シャドーイング演習 第 9 回 Unit 7: Daily Life/語彙テスト/シャドーイング演習 第 10 回 Unit 8: Taronga Zoo – Australian Animals/語彙テスト/シャドーイング演習 第 11 回 Unit 9: Leisure Time at the Sea/語彙テスト/シャドーイング演習 第 12 回 Unit 10: Education Programmes in Taronga Zoo/語彙テスト/シャドーイング演習 第 13 回 Unit 11: Leisure Time at the Park/語彙テスト/シャドーイング演習 第 14 回 Unit 12: Australian Family/語彙テスト/シャドーイング演習 第 15 回 オーストラリアについてのレビュー・アクティビティ		
授業外学習(予習・復習)	毎回のテキストの予習(語彙等)、毎回の小テストのための学習		
成績評価の方法	授業でのワークシート(30%) + 復習のための小テスト(30%) + 定期試験(40%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワー
		[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, Content and Language Integrated Learning(CLIL)</p> <p>【概要】 この授業は, CLIL (内容言語統合型学習) という教育方法を実践し, 領域統合型の言語活動を実践する演習形式の授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 読むことと書くことを中心に, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。 本授業では, 600 語程度のリーディング課題が毎回課されます。学生は事前にそれを読み, 基礎的な背景知識を身につけてから授業に参加します。授業では, まずリーディング課題に関するクイズを行い課題の取り組みや理解を確認します。その後, リーディング課題に関連するトピックについて短いレクチャーを聞いたり, 関連する映像を見てディクテーションをしたり, ペアやグループで調査, ディベート, プレゼンテーションをするなど様々な言語活動に取り組みながら, 新しく学んだ内容についての理解を深めます。各授業の終わりには, ラーニングジャーナルに学習内容を書いてまとめます。学期末には, 学習のまとめとして各自関心のあるトピックに関する 10 分間程度のプレゼンテーション課題と, 授業中に与えられるテーマに関するレポート課題があります。本授業の使用言語は英語です。以上に加えて, 自宅学習課題として, 各自興味関心のあるテーマに関する記事や本などを読んで英語に触れる機会を増やす Extensive Reading 課題があります。</p> <p>【到達目標】 (1)トピックに関する英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで, 目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) McConachy, T, Furuya, S. &amp; Sakurai, C. (2017). <i>Intercultural communication for English language learners in Japan</i>. Nan'undo.</p> <p>(2) ①Jandt, E.F. (2018). <i>An introduction to intercultural communication: Identities in a global community</i>. Sage Publications.②Martun, N.J. &amp; Nakayama, K.T. (2018). <i>Intercultural communication in contexts</i>. McGraw Hill Education.③Samovar, A.L, Porter, E.R., McDaniel, R.E., &amp; Roy, S.C. (2017). <i>Communication between cultures</i>. Cengage Learning.④Singelis, M.T. (Ed.) (1998). <i>Teaching about culture, ethnicity &amp; diversity</i>. Sage Publications.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2 回 Intercultural Communication in Today's World: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 3 回 English for Intercultural Communication: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 4 回 Important Features of Human Communication: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 5 回 The Concept of Culture: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 6 回 Language and Thought: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 7 回 Communication Styles: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 8 回 Human Psychology and Communication: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 9 回 Speech Acts across Cultures: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 10 回 Stereotypes and Intercultural Communication: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 11 回 Cultural Accommodation in Intercultural Communication: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 12 回 Intercultural Communication in Higher Education: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 13 回 Study Abroad and Intercultural Adaptation: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 14 回 Intercultural Competence for the Future: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal</p> <p>第 15 回 Final Presentation: Speech, Discussion, Learning journal</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。		
成績評価の方法	クイズ 20% プレゼンテーション 30% 期末レポート 40% Extensive Reading 10% で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅲ		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワー
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】異文化コミュニケーションの理論と実践, Content and Language Integrated Learning(CLIL)			
	【概要】 本授業では 1000 語程度のリーディング課題が毎回課されます。学生は事前にそれを読み、基礎的な背景知識を身につけてから授業に参加します。授業では、まずクイズを行い課題の取り組みや理解を確認します。その後、短いレクチャーを聞いたり、関連する映像を見てディクテーションをしたり、ペアやグループで調査、ディベート、プレゼンテーションをするなど様々な言語活動に取り組みながら、新しく学んだ内容についての理解を深めます。学期末には、学習のまとめとして各自関心のあるトピックに関する 10 分間程度のプレゼンテーション課題と、授業中に与えられるテーマに関するレポート課題があります。			
	【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Shaules, J. & Abe, J. (1997). <i>Different realities: Adventures in intercultural communication</i> . Nan'undo.		
	(2)	Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). <i>Intercultural interactions: A practical guide</i> . Sage Publications.		
授業スケジュール	第 1 回	Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)		
	第 2 回	Culture and Identity: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 3 回	Hidden Culture: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 4 回	Stereotypes: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 5 回	Words, Words, Words: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 6 回	Communication without Words: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 7 回	Diversity: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 8 回	Perception: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 9 回	Communication Styles (1): quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 10 回	Communication Styles (2): quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 11 回	Values: quiz, mini-lecture, pair-/group-work, learning journal		
	第 12 回	Deep Culture (Beliefs and Values): quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 13 回	Culture Shock: quiz, mini-lecture, dictation, pair-/group-work, learning journal		
	第 14 回	Final Presentation (1): speech, discussion, learning journal		
	第 15 回	Final Presentation (2): speech, discussion, learning journal		
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。			
成績評価の方法	クイズ 30% プレゼンテーション 30% 期末レポート 40% で評価する。			

授業科目	通訳入門 I		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワー
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成			
	【概要】本授業では、英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習、鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク、パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション、鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して、鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。 【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち、自ら積極的に参加する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	川本 佐奈恵 (2018) 『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』J リサーチ出版		
	(2)	森田 正康 (他) (2018) 『外国人から日本についてよく聞かれる質問 200』クロスメディア・ランゲージ		
		江口裕之 (2018) 『英語でガイド!世界とくらべてわかる日本まるごと紹介事典』J リサーチ出版		
		柴田バネッサ (監修) (2005) 『通訳トレーニング入門』アルク		
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス, Goodwill Guide (善意通訳) とは?, 通訳訓練法の紹介		
	第 2 回	フィールドワーク (1)		
	第 3 回	英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までの email (1) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (1)		
	第 4 回	英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までの email (2) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (2)		
	第 5 回	ゲストと初対面から出発まで /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (3)		
	第 6 回	電車 /バスに乗って出かける /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (4)		
	第 7 回	ゲストと一緒にランチをする (1) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (5)		
	第 8 回	フィールドワーク (2)		
	第 9 回	ゲストと一緒にランチをする (2) 回転ずしに行く /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (6)		
	第 10 回	神社へ行く (1) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (7)		
	第 11 回	神社へ行く (2) 手水舎 (ちょうずや) でお清めをする /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (8)		
	第 12 回	神社へ行く (3) 二礼二拍手一礼、お賽銭、神様の名前 /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (9)		
	第 13 回	神社へ行く (4) おみくじ体験 /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (10)		
	第 14 回	鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表 (1) ※受講者の人数・レベル、予定によってスケジュールを		
	第 15 回	鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表 (2) 変更する可能性もあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上, 復習 1 時間以上必要である。			
成績評価の方法	ポートフォリオ (50%), 期末試験 (50%) で評価する。			

授業科目	通訳入門Ⅱ	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワー
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成</p> <p>【概要】本授業では、英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習、鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク、パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション、鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して、鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。</p> <p>【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち、自ら積極的に参加する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川本 佐奈恵 (2018) 『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』 Jリサーチ出版</p> <p>(2) イーオン (2017) 『世界をもてなす 語学ボランティア入門』 朝日出版社</p> <p>葛西朋子 (2017) 『英語でボランティアガイド』 アルク</p> <p>江口裕之・Daniel Dumas (2017) 『英語で語る 日本事情 2020』 ジャパンタイムズ</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、夏休みの思い出シェアリング (画像や動画をパワーポイントスライドに貼って持参してください)</p> <p>第 2回 フィールドワーク (1)</p> <p>第 3回 外国人から必ず聞かれる日本の基礎知識/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (1)</p> <p>第 4回 外国人から必ず聞かれる日本の季節・自然/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (2)</p> <p>第 5回 外国人から必ず聞かれる日本の神社・寺/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (3)</p> <p>第 6回 外国人から必ず聞かれる日本の交通機関/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (4)</p> <p>第 7回 外国人から必ず聞かれる日本の食 (1) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (5)</p> <p>第 8回 フィールドワーク (2)</p> <p>第 9回 外国人から必ず聞かれる日本の食 (2) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (6)</p> <p>第 10回 外国人から必ず聞かれる日本の英語環境/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (7)</p> <p>第 11回 外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣 (1) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (8)</p> <p>第 12回 外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣 (2) /鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (9)</p> <p>第 13回 外国人から必ず聞かれる日本の買い物事情/鹿児島観光ハンドブックプロジェクト (10)</p> <p>第 14回 鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表 (1) ※受講者の人数・レベル、予定によってスケジュールを</p> <p>第 15回 鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表 (2) 変更する可能性もあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2時間以上、復習 1時間以上必要である。		
成績評価の方法	ポートフォリオ (50%)、期末試験 (50%) で評価する。		

授業科目	英文法	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義終了時、適宜 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文法 (文法化されている意味とその形態的・統語的具現)</p> <p>【概要】本授業は、動詞 (時制、相)、名詞・冠詞、前置詞、助動詞、準動詞、法、関係節について学ぶ。授業では、随時グループワークを行い、英語の初級学習者に対する効果的な指導方法についても討議したい。</p> <p>【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2016) 『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第3版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。</p> <p>(2) 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』 シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 時制と相 (1) 現在形と現在進行形</p> <p>第 3回 時制と相 (2) 過去形と現在完了形</p> <p>第 4回 時制と相 (3) 現在完了進行形</p> <p>第 5回 時制と相 (4) 現在完了形と現在完了進行形</p> <p>第 6回 名詞における可算・不可算の区別</p> <p>第 7回 定冠詞と不定冠詞の用法</p> <p>第 8回 数量詞の用法</p> <p>第 9回 名詞の総称表現</p> <p>第 10回 前置詞と比喻</p> <p>第 11回 準動詞</p> <p>第 12回 助動詞の2つの意味</p> <p>第 13回 直説法と仮定法</p> <p>第 14回 関係節</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2時間以上、復習 2時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (50%) + 授業内活動への積極的な参加 (10%)		

授業科目	英語史		担当者	遠峯 伸一郎		
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時、適宜 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史 (英語が使われる社会の歴史) と内面史 (英語という言葉の通時的変化) の観点から学ぶ。</p> <p>【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。</p> <p>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ハンドアウトを配布する。</p> <p>(2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店, 東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部, 東京。井口篤, 寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会, 東京。ブラッグ, メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社, 東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) <i>The Adventure of English</i>. (DVD)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 英語の始まり</p> <p>第 3 回 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第 4 回 古英語(1)</p> <p>第 5 回 古英語(2)</p> <p>第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語</p> <p>第 7 回 ノルマン征服と中英語</p> <p>第 8 回 初期近代英語 ルネッサンス、シェイクスピアと英語</p> <p>第 9 回 中英語・初期近代英語を読む</p> <p>第 10 回 海外に広がった英語 アメリカ英語</p> <p>第 11 回 世界共通語としての英語 アジア諸国における英語</p> <p>第 12 回 ピジンとクレオール</p> <p>第 13 回 現代イギリス英語に見られる変化</p> <p>第 14 回 現代アメリカ英語に見られる変化</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 3 時間以上必要である。					
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)					

(注) 教職必修

授業科目	英語音声学		担当者	遠峯 伸一郎		
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声の仕組み</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素 (ストレス、ピッチ、接続) を概略する。授業では、講義に加えて CALL 機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。</p> <p>【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂, 東京。(1800 円)</p> <p>(2) キャットフォード, J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子 (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店, 東京。深澤利昭 (2015) 『改訂版 英語の発音パーフェクト学習辞典』アルク, 東京。今井, ジュミック (2012) 『&lt;フォニックス&gt;でできる! 英語の発音がおもしろい! 身につき本』明日香出版社, 東京。その他随時紹介する。</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 分節音(1)</p> <p>第 3 回 分節音(2)</p> <p>第 4 回 分節音(3)</p> <p>第 5 回 分節音(4)</p> <p>第 6 回 分節音(5)</p> <p>第 7 回 アクセント(1)</p> <p>第 8 回 アクセント(2)</p> <p>第 9 回 音変化(1)</p> <p>第 10 回 音変化(2)</p> <p>第 11 回 音変化(3)</p> <p>第 12 回 イントネーション(1)</p> <p>第 13 回 イントネーション(2)</p> <p>第 14 回 音と綴りの関係</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 3 時間以上必要である。本授業は英語学概論の学習内容 (音声学・音韻論) を前提とする。					
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (実技課題を含む) (40%) + 授業内活動への積極的参加 (20%)					

授業科目	講読演習Ⅰ		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の文献講読</p> <p>【概要】性差がことばに与える影響について学ぶ。</p> <p>【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第2章以降を独力で読めるようになる。フレーム、メタメッセージなど基礎的な概念を理解し、具体的な言語分析に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Tannen, Deborah (1990) <i>You Just Don't Understand</i>, William Morrow, New York.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Different Words, Different Worlds (1)</p> <p>第3回 Different Words, Different Worlds (2)</p> <p>第4回 Intimacy and Independence (1)</p> <p>第5回 Intimacy and Independence (2)</p> <p>第6回 Asymmetries (1)</p> <p>第7回 Asymmetries (2)</p> <p>第8回 The Mixed Metamessages of help</p> <p>第9回 The Modern Face of Chivalry</p> <p>第10回 The Protective Frame</p> <p>第11回 Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1)</p> <p>第12回 It Begins at the Beginning (2)</p> <p>第13回 It Begins at the Beginning (3)</p> <p>第14回 The Key is Understanding</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上, 復習2時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (30%) + 試験 (70%)			

授業科目	基礎演習Ⅰ		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語用論の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】「英語学概論」では、音、語、文を分析対象として扱った。「英語学演習」では文の集合である文章、会話を取り上げて、それらに見られる規則性を学習する。</p> <p>【到達目標】情報構造を用いた談話分析の手法を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 福地肇 (1985) 『談話の構造』, 大修館書店, 東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 文の文法と談話の文法</p> <p>第3回 談話における情報の配置</p> <p>第4回 旧情報と新情報1 (情報の新旧とは)</p> <p>第5回 旧情報と新情報2 (旧情報と新情報の現れ方)</p> <p>第6回 主題と題述1 (主題と題述とは)</p> <p>第7回 主題と題述2 (主題の現れ方)</p> <p>第8回 受動態</p> <p>第9回 二重目的語構文</p> <p>第10回 不変化詞</p> <p>第11回 主題化</p> <p>第12回 存在文</p> <p>第13回 be動詞を軸にした倒置</p> <p>第14回 外置構文</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上, 復習2時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + レポートまたは試験 (40%)			

授業科目	基礎演習 I	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワー
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育学, 英語コミュニケーション</p> <p>【概要】 グループで英語教育学や英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ, その課題に関連する先行研究を探し, 適切な研究方法を考えリサーチを行う。結果を報告し, 全体でディスカッションを行う。主な使用言語は英語とする。</p> <p>【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③コミュニケーション研究の方法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。初回に指定するファイルを購入してください。</p> <p>(2) 小塩真司・宅香菜子 (2015) 『心理学の卒業研究ワークブック 発想から論文までの10ステージ』金子書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ゼミの進め方についてのガイダンス</p> <p>第2回 グループ発表の準備1</p> <p>第3回 グループ発表の準備2</p> <p>第4回 グループ発表の準備3</p> <p>第5回 グループ発表1</p> <p>第6回 グループ発表2</p> <p>第7回 グループ発表3</p> <p>第8回 グループ調査の準備</p> <p>第9回 グループ調査の準備</p> <p>第10回 グループ調査</p> <p>第11回 グループ調査報告の準備</p> <p>第12回 グループ調査報告の準備</p> <p>第13回 グループ調査報告1</p> <p>第14回 グループ調査報告2</p> <p>第15回 グループ調査報告3</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上, 復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	ポートフォリオ (100%)で評価する。		

授業科目	英語学演習	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	講義終了時, 適宜 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語と英語の対照</p> <p>【概要】英文テキストを読みながら, 対応する日本語テキストと比較して日本語と英語の文法, 表現法などの共通点, 相違点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】英語と日本語を比較し, 文法や表現法の違いに気付くことができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Higashino, Keigo (著), Smith, A. O. (訳) (2011) <i>The Devotion of Suspect X</i>, Abacus, London.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 第1章</p> <p>第3回 第1章</p> <p>第4回 第2章</p> <p>第5回 第2章</p> <p>第6回 第3章</p> <p>第7回 第3章</p> <p>第8回 第4章</p> <p>第9回 第5章</p> <p>第10回 第6章</p> <p>第11回 第7章</p> <p>第12回 第8章</p> <p>第13回 第9章</p> <p>第14回 第10章</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間, 復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポートまたは試験 (30%)		

授業科目	英語学演習	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワー
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育学, 英語コミュニケーション</p> <p>【概要】毎回ゼミの最初に英語のディスカッション演習を行う。 英語教育学, 英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ, その課題に関連する先行研究を探し, 適切な研究方法を考えリサーチを行う。結果を報告し, 全体でディスカッションを行う。主な使用言語は英語とする。</p> <p>【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③コミュニケーション研究の方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり, 建設的な意見を述べたりすることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。初回に指定するファイルを購入してください。</p> <p>(2) 末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 (2011) 『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ゼミの進め方についてのガイダンス</p> <p>第 2回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 1</p> <p>第 3回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 2</p> <p>第 4回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 3</p> <p>第 5回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 4</p> <p>第 6回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 5</p> <p>第 7回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 6</p> <p>第 8回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 7</p> <p>第 9回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 8</p> <p>第 10回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 9</p> <p>第 11回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 10</p> <p>第 12回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 11</p> <p>第 13回 研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ 12</p> <p>第 14回 中間発表 (研究計画の発表) 1</p> <p>第 15回 中間発表 (研究計画の発表) 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上, 復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	卒業研究ポートフォリオ (100%) で評価する。		

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず, 文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に, 18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて, 「小説」の流れを概観し, 18世紀の特徴, 19世紀の特徴, 20世紀の特徴を理解させる。また, 受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために, 指定した映像作品を鑑賞してもらい, 「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴, 19世紀の小説の特徴, 20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (講義方式の説明, 文学史のテキストに潜む問題点の探求)</p> <p>第 2回 18世紀の小説 (1): 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 (J. パニヤン, D. デフォー, J. スイフト, S. リチャードソン)</p> <p>第 3回 18世紀の小説 (2): 18世紀の小説における H. フィールドディング, L. スターン, T. G. スモレットの役割</p> <p>第 4回 18世紀の小説 (3): 18世紀後半のゴシック小説 (H. ウォルポール)</p> <p>第 5回 19世紀初頭の小説: J. オースティンの小説</p> <p>第 6回 18世紀～19世紀初頭の小説に関する小テスト, 19世紀の小説 (1): 19世紀 (ヴィクトリア朝) 小説の特徴</p> <p>第 7回 19世紀の小説 (2): C. ディケンズの小説</p> <p>第 8回 19世紀の小説 (3): W. M. サッカレーの小説, ブロンテ姉妹 (シャーロット, エミリー, アン) の小説</p> <p>第 9回 19世紀の小説 (4): ダーウィニズムの影響, 19世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説 (T. ハーディ)</p> <p>第 10回 19世紀 (ビクトリア朝) の小説に関する小テスト, 20世紀の小説 (1): 20世紀小説の特徴</p> <p>第 11回 20世紀の小説 (2): D. H. ロレンスの小説</p> <p>第 12回 20世紀の小説 (3): V. ウルフの小説, H. G. ウェルズの小説</p> <p>第 13回 20世紀の小説 (4): H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第 14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回 (プリント), 復習は小テスト (3回) の準備		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 講義中の小テスト/授業への取り組み (30%), 課題レポート分(10%)		



授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学 (1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学 (2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度 (40%)、小レポート (20%)、最終レポート (40%)							

授業科目	比較文学		担当者	小林 朋子				
	〔履修年次〕	1年、2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison <i>Beloved</i> Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外にも授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 INTRODUCTION: 対話的文学論とは</p> <p>第2回 劇場の機知: 『ベラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(1)</p> <p>第3回 劇場の機知: 『ベラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(2)</p> <p>第4回 言語の表象不可能性: 『ベラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(1)</p> <p>第5回 言語の表象不可能性: 『ベラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』(2)</p> <p>第6回 神話批評: 『ベラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話 (1)</p> <p>第7回 神話批評: 『ベラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話 (2)</p> <p>第8回 神話批評: 『ベラヴド』とヨルバ族神話</p> <p>第9回 名称付与: 『ベラヴド』と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第10回 名称付与: 『ベラヴド』と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第11回 言語と音楽: 『ベラヴド』とブラック・ミュージック (1)</p> <p>第12回 言語と音楽: 『ベラヴド』とブラック・ミュージック (2)</p> <p>第13回 意識の流れ: 『ベラヴド』とウィリアム・フォークナー</p> <p>第14回 意識の流れ: 『ベラヴド』とヴァージニア・ウルフ</p> <p>第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度 (10%)、テーマごとに提出する小レポート (30%)、最終レポート (60%)							

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応	質問等には抗議終了時に対応する。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 シェイクスピアとその時代</p> <p>【概要】 エリザベス時代のロンドンには未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「&lt;時代の落とし子&gt;にして&lt;世界の文豪&gt;」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】 初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) William Shakespeare, <i>Hamlet</i>, Oxford School Shakespeare (Oxford UP, 2009)</p> <p>(2) 河合祥一郎・小林章夫 (編) 『シェイクスピア・ハンドブック』 (三省堂、2010年)</p> <p>G. L. ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社、1998年)</p> <p>*入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 世界の拡大</p> <p>第 2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第 3回 人文主義</p> <p>第 4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第 5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第 6回 歴史劇、詩</p> <p>第 7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第 8回 初期の悲劇</p> <p>第 9回 ジェイムズ時代の劇 (悲劇、問題劇)</p> <p>第 10回 ジェイムズ時代の劇 (ロマンス劇)</p> <p>第 11回 『ハムレット』物語の系譜</p> <p>第 12回 『ハムレット』の本文</p> <p>第 13回 『ハムレット』の受容</p> <p>第 14回 『ハムレット』の解釈史</p> <p>第 15回 まとめとふりかえり</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。		
成績評価の方法	授業参加状況 (予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30% 学期末試験 70%		
実務経験について	NPO 法人がごしま文化研究所、理事・副理事長 (2015年4月～現在)		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位	授業外対応	質問等には抗議終了時に対応する。
		〔必修/選択〕	選択 (授業形態) 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 シェイクスピア『ハムレット』講読		
	【概要】 シェイクスピアの作品は現在でも世界の多くの地域で広く読まれ、上演され、研究されているが、中でも『ハムレット』はもっとも人気のある作品である。同時に『ハムレット』ほど猛烈に「失敗作」の烙印を押され続けてきた作品もない。ある文学作品が「失敗作」であり、しかも人気がある場合、それを「失敗作」にしている要因と「人気作」にしている要因とは別々に同じ作品に含まれているだろうと予測するのが普通だと思うが、『ハムレット』がユニークだと思われるのは、それらの要因が同一である、もしくは相当程度以上に重なりあっていることである。何が『ハムレット』を「失敗作」にしているのか？ それぞれが『ハムレット』を魅力的にしているのはなぜなのか？ この疑問を常に念頭に置きながら、この悲劇を読んでいきたい。		
	【到達目標】 シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の概要を説明することができる。『ハムレット』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『ハムレット』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) William Shakespeare, <i>Hamlet</i> , Oxford School Shakespeare (Oxford UP, 2009) (2) 河合祥一郎・小林章夫 (編) 『シェイクスピア・ハンドブック』 (三省堂、2010年) G. L. ブルック 『シェイクスピアの英語』 (松柏社、1998年) *入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。		
授業スケジュール	第1回 『ハムレット』 1.1 第2回 『ハムレット』 1.2～1.3 第3回 『ハムレット』 1.3 (続き) ～1.5 第4回 『ハムレット』 1.5 (続き) ～2.1 第5回 『ハムレット』 2.2 第6回 『ハムレット』 2.2 (続き) 第7回 『ハムレット』 2.2 (続き) 第8回 『ハムレット』 2.2 (続き) ～3.2 第9回 『ハムレット』 3.2 (続き) ～3.4 第10回 『ハムレット』 3.4 (続き) ～4.3 第11回 『ハムレット』 4.4～4.5 第12回 『ハムレット』 4.5 (続き) ～4.7 第13回 『ハムレット』 5.1 第14回 『ハムレット』 5.2 第15回 まとめとふりかえり		
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。		
成績評価の方法	授業参加状況 (予習の状況および授業時間中の発表と発言) 30% 学期末試験 70%		
実務経験について	NPO 法人かごしま文化研究所、理事・副理事長 (2015年4月～現在)		

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスマークで対応
		〔必修/選択〕	選択 (授業形態) 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 イギリス文学作品に親しむ。		
	【概要】 C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読む。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品を読むには記憶力が大事である。物語内容の理解度を確認するために、小テストを6回実施する。また作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。		
	【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス (2)		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明)、映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞 第2回 映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞 (続き) と解説 第3回 テキスト第1章～第3章を読む。プリントによる問題点の確認 第4回 第1章～第3章の小テスト (1回目) およびその解説。第4章を読む。プリントによる問題点の確認 第5回 第5章～第6章を読む。プリントによる問題点の確認 第6回 第4章～第6章の小テスト (2回目) およびその解説。第7章を読む。プリントによる問題点の確認 第7回 第8章～第9章を読む。プリントによる問題点の確認 第8回 第7章～第9章の小テスト (3回目) およびその解説。第10章～第11章を読む。プリントによる問題点の確認 第9回 第12章～第13章を読む。プリントによる問題点の確認 第10回 第10章～第13章の小テスト (4回目) およびその解説。第14章～第15章を読む。プリントによる問題点の確認 第11回 第16章～第17章を読む。プリントによる問題点の確認 第12回 第14章～第17章の小テスト (5回目) およびその解説。第18章～第19章を読む。プリントによる問題点の確認 第13回 第20章～第21章を読む。プリントによる問題点の確認 第14回 第18章～第21章の小テスト (6回目) およびその解説 第15回 まとめ (『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったか)		
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が用意したプリント (宿題)、復習は小テスト (6回) の準備		
成績評価の方法	レポート (40%)、小テスト (30%) 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (30%)		

授業科目	講読演習Ⅱ	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		〔必修/選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】 ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J.オースティンの『分別と多感』を読む。授業はテキストを読んで日本語に訳す<b>精読方式</b>ですすめていく。また担当者が準備したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。最後に、学習したことからまとめあげたレポートについて発表（プレゼン）してもらい、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める。（受講者数によってはグループ活動をとした授業にする場合もある。）</p> <p>【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英潮社フェニックス)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞</p> <p>第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞（続き）と解説</p> <p>第3回 テキストの第1章～第2章を読む</p> <p>第4回 プリントによる第1章と第2章の問題点の確認と解説</p> <p>第5回 第3章を読む</p> <p>第6回 プリントによる第3章の問題点の確認と解説</p> <p>第7回 第4章を読む</p> <p>第8回 プリントによる第4章の問題点の確認と解説</p> <p>第9回 第5章を読む</p> <p>第10回 プリントによる第5章の問題点の確認と解説</p> <p>第11回 第6章を読む</p> <p>第12回 プリントによる第6章の問題点の確認と解説</p> <p>第13回 第7章を読む</p> <p>第14回 プリントによる第7章の問題点の確認と解説</p> <p>第15回 まとめ（プレゼン：パワーポイントを使って発表）</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意した宿題プリント		
成績評価の方法	レポート及びプレゼンテーション（50%）、予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（50%）		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		〔必修/選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ①映画から学ぶ英詩 英詩から考える映画 ②文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学）</p> <p>【概要】 映画のなかにも英詩が用いられている場合がある。授業では映画（洋画、邦画）を利用して、高尚なイギリス文学（ここでは英詩）を学習する。映画における英詩および映画の内容についてディスカッションを行うので、各自の自主的な発言が求められる。また、比較文学的アプローチの仕方では黒澤明監督の映画『乱』（シェイクスピア『リア王』の翻案作品）の魅力を考える。</p> <p>【到達目標】 英詩と映画及び文学と映画という視点で、映画を鑑賞する力を身に付けさせる。また、プレゼンテーションによって各自の考えを発信する能力を身に付けさせる（ディスカッション力と発信力）。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、W.ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の説明と問題提起</p> <p>第2回 「無心のまえぶれ」の解説、映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その1）及び問題点の確認</p> <p>第3回 映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その2）及び問題点の確認</p> <p>第4回 『博士の愛した数式』の分析（ディスカッション）</p> <p>第5回 『博士の愛した数式』に関するプレゼン（発信）、J.キーツと彼の詩「秋に寄せるうた」の説明と問題提起</p> <p>第6回 「秋に寄せるうた」の解説、W.シェイクスピア『ソネット』18番の説明と問題提起/解説 *映画『ブリジット・ジョーンズの日記』及び『恋におちたシェイクスピア』は図書館に所蔵。各自で鑑賞</p> <p>第7回 『ブリジット・ジョーンズの日記』の分析（ディスカッション）</p> <p>第8回 『恋におちたシェイクスピア』の分析（ディスカッション）</p> <p>第9回 『ブリジット・ジョーンズの日記』または『恋におちたシェイクスピア』のいずれかに関するプレゼン（発信）</p> <p>第10回 W.シェイクスピア『リア王』と黒澤明監督『乱』の類似点と相違点（問題提起）</p> <p>第11回 映画『乱』の鑑賞（その1）及び問題点の確認</p> <p>第12回 映画『乱』の鑑賞（その2）及び問題点の確認</p> <p>第13回 比較文学的アプローチ：類似点と相違点の確認及び両作品の分析（ディスカッション）</p> <p>第14回 『乱』に関するプレゼン（発信）、黒澤明映画『蜘蛛巣城』とシェイクスピア『マクベス』の紹介</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で取り扱う詩に関する宿題（2回）及び比較分析に関する宿題（1回）、ディスカッションの準備としてスクリプトを読む（3回）、プレゼンのためのパワーポイント作り（3回）		
成績評価の方法	プレゼンテーション（50%）、授業への取り組み（50%）		

授業科目	基礎演習Ⅱ	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	By coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American pop culture in relation to that of Japan.</p> <p>【概要】 In this class we will discuss different topics related to American popular culture and we will compare it with that of Japan. We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures.</p> <p>【到達目標】 The students will understand the main points of American popular culture and its differences with that of Japan.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher.</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 Brief introduction to American cultural values.</p> <p>第 3 回 American music and its message.</p> <p>第 4 回 Discussion: J-pop and American Pop. A comparison.</p> <p>第 5 回 American characters. Are they bearers of the American cultural values?</p> <p>第 6 回 Discussion: From Mickey Mouse to Doraemon. The popular characters and their differences.</p> <p>第 7 回 Hollywood: a factory of “dreams”.</p> <p>第 8 回 Discussion: Hayao Miyazaki and Walt Disney: two master ways of constructing popular legends.</p> <p>第 9 回 The Hamburger Country.</p> <p>第 10 回 Discussion: The influence of American “fast food” in Japan and other Asian countries.</p> <p>第 11 回 We live in a video game world.</p> <p>第 12 回 Discussion: Japanese games or American games?</p> <p>第 13 回 US: The King of Sports.</p> <p>第 14 回 Discussion: A Globalized spectacle beyond sports. From the NBA to the Super Bowl.</p> <p>第 15 回 Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	participation in class (40%); Final reports (60%)		

授業科目	英米文学演習	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ジェーン・オースティンの作品研究</p> <p>【概要】 セミナーではJ.オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み、ヒロインの成長に焦点を当てながら、作者の結婚観と風刺を考察する。また、その映画を鑑賞して、テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。</p> <p>【到達目標】 作者の結婚観と風刺を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen 著 『エマ』(ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 セミナーの運営方法と説明, 映画『エマ』の鑑賞</p> <p>第 2 回 映画『エマ』の鑑賞(続き)と作品の解説</p> <p>第 3 回 第1章 An Offer of Marriage の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 4 回 第2章 A Second Offer の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 5 回 第3章 Mr Elton’s Choice の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 6 回 第4章 Frank Charchill Appears の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 7 回 第5章 Mrs Elton Comes to Highbury の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 8 回 第6章 The Ball at the Crown Inn の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 9 回 第7章 The Trip to Box Hill の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 10 回 第8章 A Secret Engagement の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 11 回 第9章 The Weddings の分析(プリントによる問題点の確認)</p> <p>第 12 回 オースティン作品の映画鑑賞(その1):『プライドと偏見』と問題点の確認</p> <p>第 13 回 オースティン作品の映画鑑賞(その2):『プライドと偏見』と問題点の確認</p> <p>第 14 回 プレゼンテーション:『エマ』に関する課題発表会</p> <p>第 15 回 ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会+まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が配布したプリント(宿題), プレゼンのためのパワーポイント作り(2回)		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表(70%), 授業への取り組み(30%)		

授業科目	英米文学演習	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	[必修/選択] 選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of Herman Melville and Ernest Hemingway's main works.</p> <p>【概要】 Through texts taken from Melville's and Hemingway's most important works, we will analyze the vision that these authors had on topics such as slavery, imperialism, war, religion and other cultural issues, etc. in relation to the United States. In addition we will also study how these authors related the United States with Europe (especially the case of Spain).</p> <p>【到達目標】 The understanding of these authors' vision about important aspects of American culture and society of the nineteenth and twentieth centuries and their relationship or image regarding Europe.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 Brief introduction to 19<sup>th</sup> Century American Literature. Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes.</p> <p>第 3 回 TEXT 1 (imperialism). Selection of brief texts from <i>Moby-Dick; or, the Whale</i>, and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第 4 回 TEXT 1. Discussion: Melville's vision on imperialism (in relation with Europe. The Spanish case).</p> <p>第 5 回 TEXT 2 (slavery). Selection of some texts from "Benito Cereno" and <i>Typee</i>. Reading of the texts.</p> <p>第 6 回 TEXT 2. Discussion: Melville and the slavery problem (in relation to the Spanish slavery system).</p> <p>第 7 回 TEXT 3 (religion). Selection of brief texts from <i>Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale</i> ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第 8 回 TEXT 3. Discussion: Melville and religion (The Spanish Auto-da-fe).</p> <p>第 9 回 Melville's review and final discussion (conclusion).</p> <p>第 10 回 Brief introduction to 20<sup>th</sup> century American literature. Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes.</p> <p>第 11 回 TEXT 4. (The new women). Text from <i>The Sun also Rises</i>. Reading of the text.</p> <p>第 12 回 TEXT 4. Discussion: Hemingway, new women and Spanish "Fiesta".</p> <p>第 13 回 TEXT 5 (war). Selection of brief texts from <i>Death in the Afternoon</i> and <i>For Whom the Bell Tolls</i>. Reading of the texts.</p> <p>第 14 回 TEXT 5. Discussion: Hemingway's vision on war and death (the corridas and The Spanish Civil War, 1936-1939).</p> <p>第 15 回 Hemingway final discussion (conclusion). Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation (40%); Final presentation (60%)		

授業科目	イギリス事情		担当者	ジョン・トレマーコ		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials provided by the professor</p> <p>(2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction &amp; Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明</p> <p>第 2 回 Choosing the Project theme</p> <p>第 3 回 ~ Planning and implementation of Project</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回 Final Presentation</p> <p>第 15 回 Course Review</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40%+最終テスト 60%の合計					

(注) 教職必修

授業科目	アメリカ事情		担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo		
	[履修年次]	2年	授業外対応	By coming to my office or by email.		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American History: American Cultural History.</p> <p>【概要】 In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit.</p> <p>【到達目標】 The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1.</p> <p>第 2 回 Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion.</p> <p>第 3 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries)</p> <p>第 4 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion.</p> <p>第 5 回 Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny.</p> <p>第 6 回 Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion.</p> <p>第 7 回 Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts).</p> <p>第 8 回 Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion.</p> <p>第 9 回 Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics.</p> <p>第 10 回 Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion.</p> <p>第 11 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts).</p> <p>第 12 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video).Unit 5 discussion.</p> <p>第 13 回 Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11<sup>th</sup> (video).</p> <p>第 14 回 Unit 7 discussion.</p> <p>第 15 回 Course review.</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	In-class discussions (40%); Final report (60%).					

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟み南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013年)</p> <p>(2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995年)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1)</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2)</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム (1)</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム (2)</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム (3)</p> <p>第7回 大西洋奴隷貿易 (1) : ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 大西洋奴隷貿易 (2) : 海洋国家オランダ</p> <p>第9回 大西洋奴隷貿易 (3) : 奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 資本主義世界と奴隷制 : 地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 資本主義世界と奴隷制 : ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 まとめ : 砂糖と紅茶—ティータム儀礼化に内包された歴史</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、筆記試験 (80%)			

授業科目	講読演習Ⅲ		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化</p> <p>【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものの見方を学ぶ。また英文を正確に読解する方法を実践的に学ぶ。輪読形式を取るため予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫 編註 (松柏社、1994年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 Ways of looking at pictures (1) : フレーズ・リーディングとは1</p> <p>第3回 Ways of looking at pictures (2) : フレーズ・リーディングとは2</p> <p>第4回 History and mythology (1) : フレーズ・リーディングの実践1</p> <p>第5回 History and mythology (2) : フレーズ・リーディングの実践2</p> <p>第6回 Religious images (1) : フレーズ・リーディングの実践3</p> <p>第7回 Religious images (2) : フレーズ・リーディングの実践4</p> <p>第8回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1) : フレーズ・リーディングの実践5</p> <p>第9回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2) : フレーズ・リーディングの実践6</p> <p>第10回 Hidden Meaning (1) : フレーズ・リーディングの実践7</p> <p>第11回 Hidden Meaning (2) : フレーズ・リーディングの実践8</p> <p>第12回 Quality (1) : フレーズ・リーディングの実践9</p> <p>第13回 Quality (2) : フレーズ・リーディングの実践10</p> <p>第14回 Tradition : フレーズ・リーディングの実践11</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度 (60%)、筆記試験 (40%)			



授業科目	基礎演習Ⅲ		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取るため、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクッション</p> <p>第2回 発表と討論：多文化主義的家族像（1）</p> <p>第3回 発表と討論：多文化主義的家族像（2）</p> <p>第4回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1）</p> <p>第5回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2）</p> <p>第6回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1）</p> <p>第7回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2）</p> <p>第8回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（1）</p> <p>第9回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（2）</p> <p>第10回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1）</p> <p>第11回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2）</p> <p>第12回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1）</p> <p>第13回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2）</p> <p>第14回 発表と討論：表象とその臨界（1）</p> <p>第15回 発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）			

授業科目	比較文化演習		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触</p> <p>【概要】二つの言語と文化が真っ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。</p> <p>【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会 左記以外も授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクッション</p> <p>第2回 英和辞典活用法：抽象語を翻訳する</p> <p>第3回 入試英語とは何か</p> <p>第4回 英語の女言葉：ジェンダーと敬語</p> <p>第5回 英英辞典活用法：歴史的テキストを翻訳する</p> <p>第6回 行間の＜傾向＞を読みとる</p> <p>第7回 正しい翻訳とは</p> <p>第8回 小説の翻訳：日本語の得意技</p> <p>第9回 論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い</p> <p>第10回 漢文訓読と英文解釈</p> <p>第11回 直訳から「超訳」へ</p> <p>第12回 映し合う二つのテキスト：英訳された『雪国』</p> <p>第13回 哲学の言葉の翻訳</p> <p>第14回 翻訳の記号論：虚構としての言語</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%）			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。							
成績評価の方法	授業への参加度：30%、発表：30%、レポート：40%							

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 音声学・音韻論（1）：調音音声学、子音・母音 第 3回 音声学・音韻論（2）：モーラ、音節① 第 4回 音声学・音韻論（3）：モーラ、音節② 第 5回 音声学・音韻論（4）：連濁、枝分かれ制約 第 6回 形態論（1）：派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 7回 形態論（2）：メンタルコーパス 新語、流行語 第 8回 意味論（1）：単語の意味 第 9回 意味論（2）：類義語と対義語 第 10回 語用論（1）：発話行為論① 第 11回 語用論（2）：発話行為論② 第 12回 語用論（3）：発話機能と語学教育 第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14回 これまでの復習 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%、期末試験：50%							

授業科目	日本語学概論		担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年 (注)		授業外対応	随時 (要メール予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコン教室（※）で自分の声を分析しながら考察を行う。また、日本語においては文字・表記の問題も重要である。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 日本語学とは：国語／日本語 と 国語学／日本語学（※印はパソコン教室で実施。）</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声の研究，音声器官，音声記号 ※</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：音の分類，音素分析 ※</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：現代日本語の母音・子音 ※</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音節・モーラ，アクセント ※</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：イントネーション ※</p> <p>第 7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法，国語施策，舊漢字</p> <p>第 8回 現代日本語の文法 1：文法の諸領域，形態論</p> <p>第 9回 現代日本語の文法 2：統語論，意味論</p> <p>第 10回 現代日本語の文法 3：語用論</p> <p>第 11回 現代日本語の語彙 1：単語，語彙，語彙論</p> <p>第 12回 現代日本語の語彙 2：単語の語彙的性質（語彙的カテゴリー），単語の基本度（基幹語彙）</p> <p>第 13回 文章論と談話分析：文章と談話，文章論，談話分析</p> <p>第 14回 第現代語における文体差，言葉の変異と諸方言</p> <p>第 15回 コーパスと統計，理論的研究とは？</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。			
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)			

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。

授業科目	日本文学史Ⅰ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう（平成31年度日本文学史Ⅰ、Ⅱと同じ）</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：文学の発生</p> <p>第2回 上代の文学その1：概観、古事記1</p> <p>第3回 上代の文学その2：古事記2</p> <p>第4回 上代の文学その3：日本書紀、風土記</p> <p>第5回 上代の文学その4：万葉集1</p> <p>第6回 上代の文学その5：万葉集2</p> <p>第7回 上代の文学その6：万葉集3</p> <p>第8回 上代の文学その7：上代の漢詩、説話</p> <p>第9回 中古の文学その1：概観 古今集以前</p> <p>第10回 中古の文学その2：古今集1</p> <p>第11回 中古の文学その3：古今集2</p> <p>第12回 中古の文学その4：和歌 三代集まで</p> <p>第13回 中古の文学その5：和歌 八代集</p> <p>第14回 中古の文学その6：和歌 私撰集 歌謡</p> <p>第15回 中古の文学その7：漢詩文</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%				

授業科目	日本文学史Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう（平成31年度日本文学史Ⅰ、Ⅱと同じ）</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 中古の文学その1：源氏物語以前の歌物語</p> <p>第2回 中古の文学その2：源氏物語以前の作り物語</p> <p>第3回 中古の文学その3：源氏物語1</p> <p>第4回 中古の文学その4：源氏物語2</p> <p>第5回 中古の文学その5：源氏物語以後の物語</p> <p>第6回 中古の文学その6：歴史物語</p> <p>第7回 中古の文学その7：日記</p> <p>第8回 中古の文学その8：随筆</p> <p>第9回 中世の文学その1：概観</p> <p>第10回 中世の文学その2：和歌、連歌</p> <p>第11回 中世の文学その3：漢詩文</p> <p>第12回 中世の文学その4：軍記</p> <p>第13回 中世の文学その5：随筆</p> <p>第14回 中世の文学その6：物語</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験70%				

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年 (注)	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語 (外国語) 習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。</li> <li>グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第 6回 教材分析</p> <p>第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 8回 教授法②：授業見学</p> <p>第 9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第 10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第 11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 13回 授業の計画と実施④文化を教える</p> <p>第 14回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%、期末レポート：50%			

(注) 日本語日本文学専攻は 1 年、英語英文学専攻は 2 年。

授業科目	国際経済論		担当者	野村 俊郎
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	研究室 (2 号館 3 階) で対応、いつでも OK, 予約不要。
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」とはどういうことか〜新興国で考える【部品調達編】〜</p> <p>【概要】モノづくりの三つの柱 (①企画・設計、②生産、③部品調達) のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタ IMV を事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第 5 章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。</p> <p>【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文真堂</p> <p>(2) 同上『トヨタの新興国車 IMV』同上</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 国際経済・貿易 (輸出と輸入) 関税と企業の部品・原材料調達</p> <p>第 2回 関税 WTO、FTA と企業の部品・原材料調達</p> <p>第 3回 IMV に見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達</p> <p>第 4回 LSP、MSP、JSP と系列調達&amp;非系列調達①</p> <p>第 5回 LSP、MSP、JSP と系列調達&amp;非系列調達②</p> <p>第 6回 アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化</p> <p>第 7回 アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出 1 回目</p> <p>第 8回 アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出 2 回目</p> <p>第 9回 アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出 3 回目</p> <p>第 10回 アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出 4 回目</p> <p>第 11回 南米では系列外との取引①</p> <p>第 12回 南米では系列外との取引②</p> <p>第 13回 南米では系列外との取引③：TASA の事例</p> <p>第 14回 南米では系列外との取引④：TDV の事例</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみてください。			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』（成文堂、2020年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス（1）</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。		

授業科目	検定対策講座 I	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成</p> <p>【概要】授業の目的は、検定対策として、英文読解力を向上させ、英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって300語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で、問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また、一定の時間内に英検2級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。LL教室を利用するので、リスニング問題も対処する。</p> <p>【到達目標】実用英語技能検定2級に合格できるように、英語のリーディング力と語彙・文法を身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行・岡島徳昭・Wノエル 『英検2級 合格への道』 南雲堂 今村洋美, 他 『英検2級マスタースコース リニューアル問題対応』 金星堂 適宜, プリントによる問題も配布する。</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、プリント学習（受講生のレベルを確認）</p> <p>第2回 『英検2級 合格への道』 Lesson 1 および『マスタースコース』 Lesson 1</p> <p>第3回 『合格への道』 Lesson 2 および『マスタースコース』 Lesson 2</p> <p>第4回 『合格への道』 Lesson 3 および『マスタースコース』 Lesson 3</p> <p>第5回 『合格への道』 Lesson 4 および『マスタースコース』 Lesson 4</p> <p>第6回 『合格への道』 Lesson 5 および『マスタースコース』 Lesson 5, 小テスト（1回目）</p> <p>第7回 『合格への道』 Lesson 6 および『マスタースコース』 Lesson 6</p> <p>第8回 『合格への道』 Lesson 7 および『マスタースコース』 Lesson 7</p> <p>第9回 『合格への道』 Lesson 8 および『マスタースコース』 Lesson 8</p> <p>第10回 『合格への道』 Lesson 9+プリント学習, 小テスト（2回目）</p> <p>第11回 『合格への道』 Lesson 10+プリント学習</p> <p>第12回 『合格への道』 Lesson 11+プリント学習</p> <p>第13回 『合格への道』 Lesson 12+プリント学習</p> <p>第14回 実践形式の練習（その1）：筆記とリスニング, 小テスト（3回目）</p> <p>第15回 実践形式の練習（その2）+まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備、復習は小テストの準備		
成績評価の方法	筆記試験（50％）、小テスト（25％）、予習を含む授業への取り組み（25％）		

授業科目	検定対策講座Ⅱ		担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、TOEIC の各パートの攻略法を学び、演習を通して問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力をつけていくことです。</p> <p>【概要】 TOEIC で測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すには、TOEIC で求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。</p> <p>自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEIC の学習に興味のある人は、この授業と一緒にがんばっていきましょう！</p> <p>【到達目標】コース終了時までにはTOEIC550点以上を取ることを目標とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂</p> <p>(2) 参考文献は授業時に随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>&lt;毎回、LL 教室を使用します&gt;</p> <p>第 1 回 Preliminary Lesson – TOEIC とは？/ 授業内容と進め方 / Pre-TOEIC Test にチャレンジ！</p> <p>第 2 回 Part 1 の攻略法 および問題演習 / 小テスト</p> <p>第 3 回 Part 2 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト</p> <p>第 4 回 Part 2 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト</p> <p>第 5 回 Part 3 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト</p> <p>第 6 回 Part 3 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト</p> <p>第 7 回 Part 5 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト</p> <p>第 8 回 Part 5 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト</p> <p>第 9 回 Part 6 の攻略法および問題演習 / 小テスト</p> <p>第 10 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト</p> <p>第 11 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト</p> <p>第 12 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (3) / 小テスト</p> <p>第 13 回 Part 4 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト</p> <p>第 14 回 Part 4 の攻略法および問題演習 (2)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の小テストのための語彙学習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト			
成績評価の方法	復習のための小テスト (30%) + 各パートのミニテストの提出 (30%) + 定期試験 (40%)			
実務経験について	外語学院で英検およびTOEFLの資格対策の講師経験有り。授業ではTOEICに必要な英語力の養成に努めます。			

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ、「課題探求・解決能力」を育成する。</p> <p>【概要】興味を持った英米文学、外国文化等のなかから、各人がテーマを設定して研究を進めることとする。担当者は助言と指導を行い、論文の完成を補助する。</p> <p>*卒業研究論文は日本語で作成しても構わない。この場合、350 語程度の英語の要約 (summary) を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 随時プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション 卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認、テーマの選定と絞り込みの指導 (過去の事例の紹介、文献収集の指導)</p> <p>第 2 回 卒業論文の書き方 (論の展開の仕方) の指導：「はじめに」の書き方の指導</p> <p>第 3 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (1)</p> <p>第 4 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (2)</p> <p>第 5 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (3)</p> <p>第 6 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (4)</p> <p>第 7 回 中間発表：進行状況の確認 (一部分の発表) とアドバイス (1)</p> <p>第 8 回 中間発表：進行状況の確認 (一部分の発表) とアドバイス (2)</p> <p>第 9 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (5)</p> <p>第 10 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (6)</p> <p>第 11 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (7)</p> <p>第 12 回 個別指導：提出論文の添削・推敲 (8)</p> <p>第 13 回 英文サマリーの作成指導</p> <p>第 14 回 提出前の最終指導 (レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語での summary の確認)</p> <p>第 15 回 プレゼンテーションのためのパワーポイント作成</p>			
授業外学習(予習・復習)	論文を書き始めたら、担当者が指導・助言ができるように、毎回プリントを用意して授業に臨むこと			
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物 (70%)、授業への取り組み (20%)、プレゼンテーション (10%)			

授業科目	卒業研究		担当者	遠峯 伸一郎				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時、適宜 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業研究の執筆を通し、基礎演習Ⅰ、英語学演習での研究成果をまとめる。</p> <p>【概要】基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 浜田麻里ほか(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』、くろしお出版、東京。その他随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 個別指導(1)</p> <p>第3回 個別指導(2)</p> <p>第4回 卒業研究テーマについての中間発表</p> <p>第5回 個別指導(3)</p> <p>第6回 個別指導(4)</p> <p>第7回 先行研究と資料についての中間発表(1)</p> <p>第8回 先行研究と資料についての中間発表(2)</p> <p>第9回 個別指導(5)</p> <p>第10回 個別指導(6)</p> <p>第11回 考察についての中間発表</p> <p>第12回 個別指導(7)</p> <p>第13回 個別指導(8)</p> <p>第14回 英文サマリーの作成</p> <p>第15回 プレゼンテーション資料の作成</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習5時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (10%) + 卒業研究 (90%)							

授業科目	卒業研究		担当者	石井 英里子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワー				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語教育学、英語コミュニケーションに関する卒業研究の完成と効果的な英語プレゼンテーション方法の習得</p> <p>【概要】 英語教育学、英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ、その課題に関連する先行研究を探し、リサーチを行い、その結果を報告し、全体でディスカッションを行う。使用言語は英語とする。</p> <p>【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ゼミの進め方についてのガイダンス、夏休みの報告</p> <p>第2回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ1</p> <p>第3回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ2</p> <p>第4回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ3</p> <p>第5回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ4</p> <p>第6回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ5</p> <p>第7回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ6</p> <p>第8回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ7</p> <p>第9回 研究の進捗状況の報告とアクション・リサーチ8</p> <p>第10回 卒業研究発表会の資料作成1</p> <p>第11回 卒業研究発表会の資料作成2</p> <p>第12回 卒業研究発表の練習1</p> <p>第13回 卒業研究発表の練習2</p> <p>第14回 卒業研究発表の練習3</p> <p>第15回 まとめと全体討論</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。							
成績評価の方法	卒業研究ポートフォリオ(100%)で評価する。							



授業科目	卒業研究	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に關係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 テーマの確認と指導</p> <p>第 3 回 研究論文執筆の指導：文献収集など</p> <p>第 4 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1</p> <p>第 5 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2</p> <p>第 6 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3</p> <p>第 7 回 中間発表 1</p> <p>第 8 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1</p> <p>第 9 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2</p> <p>第 10 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3</p> <p>第 11 回 中間発表 2</p> <p>第 12 回 中間発表 3</p> <p>第 13 回 中間発表 4</p> <p>第 14 回 卒業研究発表について</p> <p>第 15 回 まとめ及び卒業研究発表の練習</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取組み態度 (30%)、卒業研究論文 (70%)		

授業科目	卒業研究	担当者	ホルヘ ガルシア・アロヨ Jorge Garcia Arroyo
	[履修年次] [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	
		[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper.</p> <p>【概要】Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation.</p> <p>【到達目標】To make the students able to write and present their graduation thesis.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course.</p> <p>第 2 回 What is an academic research?</p> <p>第 3 回 Research topic guidance (1)</p> <p>第 4 回 Research topic guidance (2)</p> <p>第 5 回 How a research is conducted? (1)</p> <p>第 6 回 How a research is conducted? (2)</p> <p>第 7 回 Student research guidance (1)</p> <p>第 8 回 Student research guidance (2)</p> <p>第 9 回 Student research guidance (3)</p> <p>第 10 回 Student presentation guidance (1)</p> <p>第 11 回 Student presentation guidance (2)</p> <p>第 12 回 Student presentation guidance (3)</p> <p>第 13 回 Some hints on academic English. Preparation of presentation materials.</p> <p>第 14 回 Presentation (1)</p> <p>第 15 回 Presentation (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	in-class activities (40%); Final presentation (60%)		

## 7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論		担当者	多田 司・浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】</p> <p>衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か?についても考えていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス — 生活を科学する? (第1回～第8回:多田担当)</p> <p>第2回 食生活の科学1 — 自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2 — 栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3 — 安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4 — 食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1 — 生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1</p> <p>第8回 生活環境の科学3 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2</p> <p>第9回 衣生活の現状1 — 戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える (第9回～第15回:浅海担当)</p> <p>第10回 衣生活の現状2 — 衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能 — 住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する — 25歳一人暮らしの生活費について考える</p> <p>第13回 自立した消費者になるために — 消費者の権利と責任について考える</p> <p>第14回 持続可能な社会に向けて — SDGsやエシカル消費について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	多田担当分 (50%) : レポート (40%) + 講義への取り組み状況 (10%) 浅海担当分 (50%) : ワークシート・課題 (25%) + レポート (25%)							

授業科目	生活経営学		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	生活1年, 食采2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>生活経営とは何かを含め、生活を経営する上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】</p> <p>自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1: 生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2: 家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3: 男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4: 労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5: 経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6: 経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7: 家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8: 子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9: 高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1: 地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2: 環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3: 政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4: 自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論		担当者	田中 真理
	[履修年次]	生活 1年, 食栄 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(生活)(注) [授業形態] 講義 選択(食栄)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】理論的な見地から人間関係のあり方を理解し、自分自身の人間関係について振り返る。</p> <p>【概要】人間は人との関わりなくして生きていくことはできない。本講義では、家族関係を中心に人間関係やコミュニケーションに関する理論・概念を学ぶことで、理論的な枠組みから自己や他者の人間関係について理解を深めていく。さらにワークなどのコミュニケーション実習を通じた体験的な理解を目指す。最後に、家族や人間関係に関するテーマを設定し、パワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。</p> <p>【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を理解することができる。 ②実習体験を通じて、自分自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) ①柏木恵子編著『よくわかる家族心理学』ミネルヴァ書房, 2010年 ②福島脩美(著)『自己理解ワークブック』金子書房, 2005年</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間関係に関する基礎知識①：人間関係の発達</p> <p>第3回 人間関係に関する基礎知識②：家族</p> <p>第4回 人間関係に関する基礎知識③：思春期・青年期と家族</p> <p>第5回 人間関係に関する基礎知識④：結婚、夫婦</p> <p>第6回 人間関係に関する基礎知識⑤：子育て期の家族</p> <p>第7回 人間関係に関する基礎知識⑥：中年期以降の家族</p> <p>第8回 コミュニケーション実習①：自己理解・他者理解</p> <p>第9回 コミュニケーション実習②：自己開示</p> <p>第10回 コミュニケーション実習③：自己主張と他者受容</p> <p>第11回 コミュニケーション実習④：協働体験</p> <p>第12回 コミュニケーション実習⑤：リーダーシップ</p> <p>第13回 プレゼンテーション①：グループ前半</p> <p>第14回 プレゼンテーション②：グループ後半</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末レポート課題(60%) + プレゼンテーション(30%) + 授業への参加度とリアクションペーパー(10%)			

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	社会福祉論		担当者	石踊 紳一郎
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の社会福祉の歴史の変遷を概観し、政策と実践のなかから方向性を探る。</p> <p>【概要】1. 社会福祉の諸法律や政策などの歴史の変遷を学ぶ。 2. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 3. 社会福祉の各領域での実践活動を学ぶ。 4. 国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。</p> <p>【到達目標】社会福祉の領域ごとに制度の動向や新しい動き・課題を学ぶ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 福祉の諸領域及び社会福祉サービスの変遷と現状について学ぶ。</p> <p>第2回 社会福祉制度。政策の変遷について学ぶ。</p> <p>第3回 低所得者への支援の枠組みと生活保護制度の概要について学ぶ。</p> <p>第4回 高齢者福祉について概観し、高齢者への支援の例について学ぶ。</p> <p>第5回 要介護高齢者等を介護する家族への支援について学ぶ。</p> <p>第6回 住民同士の支え合いにより高齢者等を支援するボランティア実践について学ぶ。</p> <p>第7回 児童福祉について概観し、支援を要する子どもたちに対する制度について学ぶ。</p> <p>第8回 発達障がい者への支援(発達障がい者に関する理解と、支援の例について学ぶ。)</p> <p>第9回 身体障がい者への支援を中心に、身体障がい者福祉の歴史等を学ぶ。</p> <p>第10回 知的障がい者への支援を中心に、知的障がい者福祉の歴史等を学ぶ。</p> <p>第11回 地域の福祉の向上に向けた住民による主体的実践について学ぶ。</p> <p>第12回 地域コミュニティにおいて生ずる問題・課題について学ぶ。</p> <p>第13回 医療サービスと医療保険の動向(医療サービスと医療保険の概要と現状を学ぶ。)</p> <p>第14回 年金保険の動向(年金保険や所得保障に関する基礎知識を学ぶ。)</p> <p>第15回 共生型福祉(高齢者、子ども、障がい者等に対する共生型福祉サービス)について学ぶ。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は授業内容に該当するテキストの箇所を確認し、復習では授業で学んだ内容をテキストで確認してください。			
成績評価の方法	授業の出席状況30%、小テスト及びレポート70%			
実務経験について	社会福祉法人理事長、高齢者福祉施設の施設長、大学で非常勤講師			

(注) 栄養士選択必修

## 8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	<b>食品学Ⅰ</b>	担当者	亀井 勇統
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の持つ様々な特性や機能性に関する知見のほか、最近とみに発展しつつある特定保健用食品について学習する。</p> <p>【概要】食品中の成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能、病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の特性や機能性のほか、特定保健用食品について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青柳康夫編『新版 食品学Ⅰ〔第2版〕』建帛社</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑（学生版）〔第2版〕』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食品</p> <p>第2回 食品の分類と成分</p> <p>第3回 食品成分の特性と機能</p> <p>第4回 食品成分の化学：一次機能（水分）</p> <p>第5回 食品成分の化学：一次機能（炭水化物）</p> <p>第6回 食品成分の化学：一次機能（脂質）</p> <p>第7回 食品成分の化学：一次機能（タンパク質とアミノ酸）</p> <p>第8回 食品成分の化学：一次機能（タンパク質の機能）</p> <p>第9回 食品成分の化学：一次機能（酵素タンパク質）</p> <p>第10回 食品成分の化学：一次機能（ミネラル）</p> <p>第11回 食品成分の化学：一次機能（脂溶性ビタミン）</p> <p>第12回 食品成分の化学：一次機能（水溶性ビタミン）</p> <p>第13回 嗜好成分の化学：二次機能（色素成分）</p> <p>第14回 嗜好成分の化学：二次機能（旨味成分と匂い成分）</p> <p>第15回 食品の機能性：三次機能（機能性物質と特定保健用食品）</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	<b>食品学Ⅱ</b>	担当者	亀井 勇統
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の種類と成分の他、それら食品成分の栄養面、嗜好面、病気予防面としての三つの機能性について学ぶ。</p> <p>【概要】個々の食品に含まれている多様な成分と、食品成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能、病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と各食品成分の栄養面以外の他の機能性についても理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田所忠弘・安井明美編『新版 食品学Ⅱ』建帛社</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑（学生版）〔第2版〕』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食品（食品の分類）</p> <p>第2回 食品（食品の機能）</p> <p>第3回 植物性食品（穀類）</p> <p>第4回 植物性食品（穀類の利用）</p> <p>第5回 植物性食品（イモ類）</p> <p>第6回 植物性食品（豆類）</p> <p>第7回 植物性食品（野菜類）</p> <p>第8回 植物性食品（野菜類の利用）</p> <p>第9回 植物性食品（種実類と果実類）</p> <p>第10回 植物性食品（きのこ類）</p> <p>第11回 植物性食品（海藻類）</p> <p>第12回 動物性食品（食肉類）</p> <p>第13回 動物性食品（乳類）</p> <p>第14回 動物性食品（卵類と魚介類）</p> <p>第15回 動物性食品（魚介類の成分の機能）</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	食品学実験		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に存在する成分等を分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。</p> <p>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。</p> <p>【到達目標】各種実験器具の取り扱い方や食品成分の基礎的な分析方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食品学実験の基礎（実験器具や試薬類の取り扱い方法）</p> <p>第2回 溶液の濃度計算1（溶液の調製法）</p> <p>第3回 溶液の濃度計算2（溶液の希釈法）</p> <p>第4回 溶液の濃度計算3（微濃度溶液の調製法）</p> <p>第5回 酸溶液の濃度の調整（酸の濃度とpHの関連）</p> <p>第6回 アルカリ溶液の調製（アルカリ水和物溶液の調製とpH）</p> <p>第7回 糖の検出と定量（ソモギー&amp;ネルソン法による定量法）</p> <p>第8回 タンパク質の検出（ビウレット法による定性法）</p> <p>第9回 タンパク質の定量（ビウレット法による定量法）</p> <p>第10回 アミノ酸の検出（ニンヒドリン法による定性法）</p> <p>第11回 アミノ酸の同定（薄層クロマトグラフィーによる同定）</p> <p>第12回 糖酸度の測定（ポケット糖酸度計による測定法）</p> <p>第13回 食品の酵素的褐変（りんごの酵素的褐変とその防止法）</p> <p>第14回 食品に含まれる色素の分析（カロテノイド系の色素）</p> <p>第15回 食品学実験の総括（実験器具類の整理と保管）</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出したレポート内容70%、授業態度30%			
実務経験について	ビール会社において研究職に従事			

授業科目	食品衛生学		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と予防策について学び、衛生観念を身に付ける。</p> <p>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。</p> <p>【到達目標】食品の安全性と食中毒の予防法や衛生管理法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 宮沢文雄・古賀信幸編『食品衛生学』建帛社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食品の変質（腐敗微生物と食品の変質）</p> <p>第2回 食品の変質（食品中の水分と水分活性）</p> <p>第3回 食品の変質（食品の保蔵技術）</p> <p>第4回 食中毒（食中毒の分類）</p> <p>第5回 食中毒（細菌性食中毒 腸炎ビブリオ 他）</p> <p>第6回 食中毒（細菌性食中毒 黄色ブドウ球菌 他）</p> <p>第7回 食中毒（細菌性食中毒 ボツリヌス菌 他）</p> <p>第8回 食中毒（ウイルス性食中毒 ノロウイルス）</p> <p>第9回 食中毒（動物性自然毒食中毒 フグ毒 他）</p> <p>第10回 食中毒（動物性自然毒食中毒 貝毒 他）</p> <p>第11回 食中毒（植物性自然毒食中毒 キノコ毒 他）</p> <p>第12回 飲食品と寄生虫（アニサキス 他）</p> <p>第13回 有害物質による食品汚染（カビ毒 他）</p> <p>第14回 食品添加物（種類と表示法）</p> <p>第15回 農薬・動物医薬品および放射線食品（有機塩素系農薬、ガンマ線 他）</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験70%、授業態度30%			
実務経験について	ビール会社において研究職に従事			

授業科目	食品衛生学実験		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期 [単位]	1 [必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 実験を通じて食品衛生に対する意識を高めると共に、食中毒を予防するための衛生管理技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 食品衛生問題を解決するための食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用法、理化学試験、食品添加物試験、微生物試験、衛生管理手法等について実習する。</p> <p>【到達目標】 食品衛生検査に使用される種々の検査方法を習得し、食品の安全で安定な維持管理法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	プリント		
	(2)	後藤政幸編『改訂 食品衛生学実験』建帛社		
授業スケジュール	第 1回	食品衛生学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法)		
	第 2回	理化学試験 (飲料水の水質検査 アンモニア性窒素の検出)		
	第 3回	理化学試験 (魚肉中のヒスタミンの検出)		
	第 4回	食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出 1)		
	第 5回	食品添加物試験 (発色剤 亜硝酸ナトリウムの検出 2)		
	第 6回	食品添加物試験 (着色料 酸性タール色素の検出)		
	第 7回	微生物試験 (培地の調製法と画線分離 1)		
	第 8回	微生物試験 (培地の調製法と画線分離 2)		
	第 9回	微生物試験 (細菌の分離と染色法)		
	第 10回	微生物試験 (食品の細菌検査 1)		
	第 11回	微生物試験 (食品の細菌検査 2)		
	第 12回	微生物試験 (飲料水の細菌検査)		
	第 13回	衛生管理手法 (微生物の簡易検査 手指の細菌 1)		
	第 14回	衛生管理手法 (微生物の簡易検査 手指の細菌 2)		
	第 15回	食品衛生学実験の総括 (実験器具類の整理と保管)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出したレポート内容 70%、授業への取り組み・参加状況 30%			
実務経験について	ビール会社において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品加工学		担当者	亀井 勇統
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期 [単位]	2 [必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p> <p>【概要】 食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術、それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品、発酵食品、調味料、嗜好食品、インスタント食品、油脂食品について解説する。</p> <p>【到達目標】 加工食品の歴史と食品加工の目的を知るだけでなく、現在の食生活との関連性について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	菅原龍幸・宮尾茂雄編『三訂 食品加工学』建帛社		
	(2)			
授業スケジュール	第 1回	食品の保蔵と食生活 (食品保蔵・加工の目的と方法)		
	第 2回	食品保蔵の技術 (食品と微生物)		
	第 3回	食品保蔵の技術 (食品中の水分と水分活性)		
	第 4回	食品加工の操作と技術 (物理的操作, 化学的操作, 生物的操作)		
	第 5回	食品加工の操作と技術 (酵素利用で作成された食品成分)		
	第 6回	食品加工の操作と技術 (食品加工の技術)		
	第 7回	食品加工と成分変化 (変性, 糊化・老化, 酸化, 褐変, 有害物質, 成分損失)		
	第 8回	食品加工と成分変化 (食品の成分変化)		
	第 9回	食品添加物と加工食品の安全性確保 (食品添加物の目的と種類)		
	第 10回	保健機能食品と特別用途食品 (保健機能食品の種類)		
	第 11回	食品の表示と規格 (品質表示, 栄養成分表示, 遺伝子組換え表示, アレルギー表示, 食品の規格)		
	第 12回	加工食品の実習 (さつま揚げの作成)		
	第 13回	加工食品の実習 (うどんの作成)		
	第 14回	加工食品の実習 (豚みその作成)		
	第 15回	加工食品の実習 (ジャムの作成)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 70%、授業への取り組み・参加状況 30%			
実務経験について	ビール会社において研究職に従事			



授業科目	調理学		担当者	山下 三香子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、また、調理や食物選択を理にかなったものにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 調理学の意義と目的 調理実習Ⅰに準じながら</p> <p>第2回 食べ物のおいしさ //</p> <p>第3回 調理操作と調理機器 //</p> <p>第4回 植物性食品1の調理科学 //</p> <p>第5回 植物性食品2の調理科学 //</p> <p>第6回 調味料・香辛料の調理科学 //</p> <p>第7回 ゲル化剤・とろみ剤の調理科学 //</p> <p>第8回 植物性食品3～5の調理科学 //</p> <p>第9回 植物性食品6～8の調理科学 //</p> <p>第10回 油脂類の調理科学 //</p> <p>第11回 動物性食品 1の調理科学 //</p> <p>第12回 // 2の調理科学 //</p> <p>第13回 // 3の調理科学 //</p> <p>第14回 // 4の調理科学 //</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のノートを作成しまとめる。							
成績評価の方法	筆記試験 (60%)・授業態度及び出席・小テスト・ノート (40%)							
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅰ		担当者	山下 三香子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 調理機器の使い方、調味の割合、</p> <p>第2回 和食喫食法：炊飯、鰯と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物</p> <p>第3回 日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し(下洗い)、上新粉の扱い</p> <p>第4回 西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ(鶏がらの扱い)、パンケーキ</p> <p>第5回 中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)</p> <p>第6回 日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉</p> <p>第7回 冷凍食品</p> <p>第8回 洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット(ヴィネグレット)ソース、ゼラチンの扱い</p> <p>第9回 中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い</p> <p>第10回 日本料理：ソーメン、焼魚(器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん</p> <p>第11回 西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン</p> <p>第12回 中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い</p> <p>第13回 西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ</p> <p>第14回 お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い、白和え、ふくれ菓子</p> <p>第15回 和食の朝食 レシピを作る (朝食定番おかず) 調理技術復習</p>							
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。							
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%							
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ		担当者	山下 三香子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い(花いか)、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当(いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮)、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：焼き魚・から揚げ(ドライモード)、焼きそば(コンビ)、温野菜・プリン(スチーム)、</p> <p>第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー</p> <p>第7回 日本料理：さつますもじ(ちらし寿司)、青のりの汁、芋のそばろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第8回 パンとスープ</p> <p>第9回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭</p> <p>第10回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第11回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第12回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ(ブラウンソース)、プッシュドノエル</p> <p>第13回 テーブルマナー(会席料理)、懐石料理とは、会席料理とは</p> <p>第14回 調理技術と主菜の作成(大量調理への応用)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ		担当者	山下 三香子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴(糊化作用、凝固作用、膨張作用など)を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 郷土料理(芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん)</p> <p>第2回 季節の和食・応用(五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢)</p> <p>第3回 手作り餃子</p> <p>第4回 季節の郷土料理と和食(豚骨、色なます、のっぺい汁)</p> <p>第5回 奄美の郷土料理(、豚骨、鶏飯、がね、ぬた)</p> <p>第6回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第7回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第8回 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理大量調理の応用(真空料理、クックチル) 仕込み</p> <p>第9回 //、 本調理</p> <p>第10回 クリスマス(ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー)</p> <p>第11回 クリスマスのショートケーキ</p> <p>第12回 西洋料理の応用：グラタン(ホワイトソースの活用)、ミネストローネ、シフォンケーキ等諸外国の調理</p> <p>第13回 災害食、おいしいお茶の入れ方</p> <p>第14回 市場見学、まとめ</p> <p>第15回 テーブルマナー(洋食)</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学総論		担当者	多田 司	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。</p> <p>【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。</p> <p>【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編、『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的</p> <p>第2回 食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について</p> <p>第3回 消化・吸収と栄養1：消化器系の構造と機能や消化酵素について</p> <p>第4回 消化・吸収と栄養2：栄養素の体内動態について</p> <p>第5回 タンパク質の栄養1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について</p> <p>第6回 タンパク質の栄養2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について</p> <p>第7回 糖質の栄養1：糖質の概要・分類について</p> <p>第8回 糖質の栄養2：体内代謝や血糖調節について</p> <p>第9回 脂質の栄養1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について</p> <p>第10回 脂質の栄養2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について</p> <p>第11回 ビタミンの栄養1：水溶性ビタミンについて</p> <p>第12回 ビタミンの栄養2：脂溶性ビタミンについて</p> <p>第13回 ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について</p> <p>第14回 水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について</p> <p>第15回 エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(30%)により評価する。				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学各論		担当者	有村 恵美	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理</p> <p>【概要】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び、栄養評価法、栄養摂取法、疾患との関連等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実践について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 奥田あかりほか『応用栄養学』(化学同人)</p> <p>菱田明監修『日本人の食事摂取基準』(第一出版)</p> <p>(2) 大里進子『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準(概要)</p> <p>第2回 食事摂取基準(活用・実践)</p> <p>第3回 乳児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第4回 乳児期の栄養(栄養補給法)</p> <p>第5回 幼児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第6回 幼児期の栄養(栄養ケア)</p> <p>第7回 学童期の栄養(特性・食事摂取基準)</p> <p>第8回 高齢期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第9回 献立作成演習(食事摂取基準と調理方法)</p> <p>第10回 思春期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第11回 妊娠期の栄養(特性・栄養と病態)</p> <p>第12回 授乳期の栄養(特性・栄養ケア)</p> <p>第13回 成人・更年期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第14回 成人・更年期の栄養(生活習慣病)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学実習	担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】各ライフステージ (妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など) 別の健康保持・疾病予防のための食事、各治療食 (形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など) を理解し、調理、供食までを実際に行う (全実習)。</p> <p>【到達目標】各ライフステージ別の食形態、疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し、実践できる力を養う。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大里進子『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 乳児期 (乳児期栄養の実際)</p> <p>第2回 離乳期 (離乳食の進め方の目安・実際)</p> <p>第3回 幼児期・学童期 (幼児期・学童期栄養の実際)</p> <p>第4回 実施献立 (献立作成、調理方法)</p> <p>第5回 幼児期・学童期 (食物アレルギー食)</p> <p>第6回 高齢期 (高齢期栄養の実際)</p> <p>第7回 一般食治療食 (形態別治療食)</p> <p>第8回 特別治療食 (エネルギー調整食)</p> <p>第9回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第10回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第11回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第12回 実施献立 (献立作成、調理方法)</p> <p>第13回 特別治療食 (糖尿病食)</p> <p>第14回 特別治療食 (腎臓病食)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。		
成績評価の方法	実技試験 (40%)、実習ノート (30%)、実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学	担当者	多田 司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ。</p> <p>【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 河田光博・三木健寿編、『栄養科学シリーズNEXT 解剖生理学』, 講談社 佐藤達夫監修、『新版 からだの地図帳』, 講談社</p> <p>(2) 山口和克ほか、『新版 病気の地図帳』, 講談社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人体の構造1:細胞・組織・器官</p> <p>第2回 人体の構造2:消化器系 (1)</p> <p>第3回 人体の構造3:消化器系 (2)</p> <p>第4回 人体の構造4:心臓・血管系</p> <p>第5回 人体の構造5:呼吸器系</p> <p>第6回 人体の機能1:内分泌系 (1)</p> <p>第7回 人体の機能2:内分泌系 (2)</p> <p>第8回 人体の機能3:代謝系</p> <p>第9回 人体の機能4:血液系</p> <p>第10回 人体の機能5:免疫系 (1)</p> <p>第11回 人体の機能6:免疫系 (2)</p> <p>第12回 人体の機能7:脳・神経系</p> <p>第13回 人体の機能8:骨格・筋肉系</p> <p>第14回 人体の機能9:感覚器官</p> <p>第15回 人体の機能10:腎臓系</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験		担当者	多田 司	
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応	
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。</p> <p>【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 青峰正裕、藤田守編著、『Nボックス実験シリーズ解剖生理学実験』、建帛社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第2回 骨格観察1：頭・体躯</p> <p>第3回 骨格観察2：手・足</p> <p>第4回 人体モデル観察1：各種臓器</p> <p>第5回 人体モデル観察2：各種臓器</p> <p>第6回 組織標本観察1：胃・肝臓</p> <p>第7回 組織標本観察2：脾臓・腎臓</p> <p>第8回 血液に関する実験1：血球数の測定（赤血球・白血球）</p> <p>第9回 血液に関する実験2：ヘモグロビンの定量</p> <p>第10回 血液に関する実験3：ヘマトクリットの測定</p> <p>第11回 血液に関する実験4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比）</p> <p>第12回 血液に関する実験5：血糖値の定量</p> <p>第13回 血液に関する実験6：総コレステロール値の定量</p> <p>第14回 血液に関する実験7：HDLコレステロール値の定量</p> <p>第15回 まとめ：器具洗浄、片付け</p>				
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。				
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅰ		担当者	多田 司	
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応	
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。</p> <p>【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅰでは、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学Ⅱで学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 加藤秀夫・中坊幸弘・宮本賢一編、『栄養科学シリーズNEXT 栄養生化学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて</p> <p>第2回 タンパク質・アミノ酸1：アミノ酸・ペプチドについて</p> <p>第3回 タンパク質・アミノ酸2：タンパク質の種類と機能について</p> <p>第4回 糖質1：単糖類・二糖類・多糖類について</p> <p>第5回 糖質2：糖質の機能について</p> <p>第6回 脂質1：脂質の種類と分類について</p> <p>第7回 脂質2：脂質の機能について</p> <p>第8回 ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について</p> <p>第9回 ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について</p> <p>第10回 核酸：ヌクレオチドの構造について</p> <p>第11回 酵素1：酵素の分類と性質について</p> <p>第12回 酵素2：酵素反応速度について</p> <p>第13回 酵素3：酵素活性の調節について</p> <p>第14回 ホルモン1：ホルモンの分類について</p> <p>第15回 ホルモン2：個体の調節機構とホメオスタシスについて</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅱ		担当者	多田 司				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解することと、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 加藤秀夫・中坊幸弘・宮本賢一編、『栄養科学シリーズNEXT 栄養生化学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 代謝とは？：生体エネルギーと代謝について</p> <p>第2回 タンパク質・アミノ酸の代謝1：タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について</p> <p>第3回 タンパク質・アミノ酸の代謝2：アミノ酸の代謝とその代謝異常について</p> <p>第4回 糖質の代謝1：解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について</p> <p>第5回 糖質の代謝2：グリコーゲンの合成と分解について</p> <p>第6回 糖質の代謝3：糖新生、ペントース-リン酸経路、グルクロン酸経路について</p> <p>第7回 脂質の代謝1：脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について</p> <p>第8回 脂質の代謝2：トリグリセリドとリン脂質の代謝について</p> <p>第9回 脂質の代謝3：コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について</p> <p>第10回 ヌクレオチドの代謝：塩基の合成と分解について</p> <p>第11回 遺伝子発現とその制御1：遺伝情報の複製、転写、翻訳について</p> <p>第12回 遺伝子発現とその制御2：RNAの合成(転写)について</p> <p>第13回 遺伝子発現とその制御3：タンパク質合成(翻訳)について</p> <p>第14回 生体防御機構1：非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について</p> <p>第15回 生体防御機構2：免疫系の成り立ちについて</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。							
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(30%)により評価する。							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験		担当者	多田 司				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定性・定量的分析</p> <p>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。</p> <p>【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林淳三、『新訂生化学実験』、建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第2回 尿に関する実験(1)：尿タンパク質の定量</p> <p>第3回 尿に関する実験(2)：尿糖の検出</p> <p>第4回 尿に関する実験(3)：ケトン体の検出</p> <p>第5回 尿に関する実験(4)：クレアチニンの定量</p> <p>第6回 酵素に関する実験：唾液アミラーゼ活性</p> <p>第7回 ホルモンに関する実験：ステロイドホルモンの分離定性</p> <p>第8回 ビタミンに関する実験(1)：ビタミンB<sub>1</sub>の定量</p> <p>第9回 ビタミンに関する実験(2)：ビタミンB<sub>2</sub>の定性</p> <p>第10回 栄養成分に関する実験(2)：タンパク質の定量(1)</p> <p>第11回 栄養成分に関する実験(3)：タンパク質の定量(2)</p> <p>第12回 栄養成分に関する実験(1)：カルシウムの定量(1)</p> <p>第13回 栄養成分に関する実験(2)：カルシウムの定量(2)</p> <p>第14回 栄養成分に関する実験(3)：カルシウムの定量(3)</p> <p>第15回 まとめ：器具洗浄、器具整理、片付け</p>							
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。							
成績評価の方法	レポート(70%) + 実験への取り組み状況(30%)							

授業科目	健康と運動		担当者	西迫 貴美代				
	[履修年次]	2年次	授業外対応	随時	nisizako@k-kentan.ac.jp			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする</p> <p>【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。講義内容に即して具体的な運動を実施する内容も予定しているため、事前にお知らせする。</p> <p>【到達目標】自分自身の測定データから導き出される運動課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的なかつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適時、講義資料を配付する</p> <p>(2) 適時、参考文献を紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る)</p> <p>第2回 健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)</p> <p>第3回 適切な運動処方について考える 1 (基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法)</p> <p>第4回 適切な運動処方について考える 2 (自己のデータを元に)</p> <p>第5回 適切な運動処方について考える 3 (データの意味-1)</p> <p>第6回 体力概念について (データの意味-2)</p> <p>第7回 健康と運動1 (運動の仕組みと運動の効果)</p> <p>第8回 健康と運動2 (運動とダイエット)</p> <p>第9回 健康と運動3 (運動と休養・栄養)</p> <p>第10回 健康と運動4 (ライフスタイルを考える)</p> <p>第11回 ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第12回 ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定</p> <p>第13回 ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定</p> <p>第14回 50M 走の測定 (自分の走りを科学する レポート課題)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	これまで履修した講義 (特に解剖学 運動生理学など) で使用したテキスト等、復習すること							
成績評価の方法	毎回、小レポートを提出と講義への参加状況 (60%) + 最終レポート 40%							
実務経験について	高等学校及び介護学校にて教員として勤務							

(注) 教職必修 (注) 卒業必修

授業科目	健康管理概論		担当者	與儀 幸朝				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康を維持及び増進を図るために必要な知識や実践につなげる方法について学ぶ</p> <p>【概要】我が国の健康の現状を把握し、健康問題への理解を深め、維持や増進を図っていく方法について科学的な根拠から見方や考え方を働かせて関連する知識を養う</p> <p>【到達目標】1) 健康の概念について説明できる 2) 人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる 3) ストレス発散の具体的な方法について列挙できる 4) 生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる 5) 情報の収集・処理・管理について理解することができる</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 健康管理概論 光生館</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 健康の概念</p> <p>第3回 健康の決定要因</p> <p>第4回 健康の現状1</p> <p>第5回 健康の現状2</p> <p>第6回 健康増進対策1</p> <p>第7回 健康増進対策2</p> <p>第8回 ストレス</p> <p>第9回 健康づくりの実際</p> <p>第10回 健康の阻害要因と疾病の予防</p> <p>第11回 健康管理の進め方1</p> <p>第12回 健康管理の進め方2</p> <p>第13回 情報処理と健康管理1</p> <p>第14回 情報処理と健康管理2</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 70%, レポート 30%							
実務経験について	中学校教員							

(注) 栄養士選択必修

授業科目	公衆衛生学		担当者	郡山 千早	
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[単位]	2	[必修/選択]	必修
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康の増進と疾病・障害の発生・予防に関する社会的要因，自然環境，生物学的要因との相互作用，予防医学の理論ならびに実践を理解する。</p> <p>【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し，それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で，健康増進をいかに図り，集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。</p> <p>【到達目標】次の項目を理解し，説明できる。I) 社会と健康・疾病との関係，II) 保健統計の意義と現状，III) 疫学とその応用，IV) 生活習慣病とその予防対策，V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)				
授業スケジュール	第 1回 公衆衛生学総論 第 2回 公衆衛生のしくみ (関連法律，計画・政策) 第 3回 健康増進 第 4回 保健統計 第 5回 地域保健 (母子保健) 第 6回 演習 (母子保健) 第 7回 生活習慣と疾病 第 8回 社会保障制度 第 9回 疫学1 第10回 疫学2 第11回 感染症 第12回 演習 (感染症) 第13回 高齢者と健康 第14回 学校保健 第15回 職場と健康				
授業外学習(予習・復習)	配布資料に添付する演習を復習として活用すること。				
成績評価の方法	筆記試験 (80%)，レポート (20%)				

(注) 教職必修，栄養士選択必修

授業科目	運動生理学		担当者	徳田 修司	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し，栄養学との関係性を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>健康維持の原則である「運動」「栄養」「休養」について，それぞれの関係性を運動生理学の視点から考察する。さらに日常生活での運動の必要性・重要性を学び，「運動と適応」について理解し，実践するための知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動のエネルギー供給系について理解する (呼吸循環・代謝系を含む)。</li> <li>2) 人の骨格筋の特徴について生理学的、生化学的に理解する (中枢および末梢の神経調節系を含む)。</li> <li>3) 運動と適応について学び，体力や目的に応じた運動の実践のための基礎的知識を身につける (運動処方)。</li> </ol>				
(1)テキスト	(1) 特に使用しないが、適宜、資料を配布する				
(2)参考文献	(2) 「スポーツ生理学」化学同人、「運動生理学の基礎と応用 —健康科学へのアプローチ」NAP				
授業スケジュール	第 1回 はじめに・運動生理学についてーオリエンテーションー 第 2回 運動と骨格筋・神経 I 第 3回 運動と骨格筋・神経 II 第 4回 運動とエネルギー供給機構 I 第 5回 運動と代謝系 第 6回 運動とエネルギー供給機構II 第 7回 運動と呼吸系 第 8回 運動と循環系 第 9回 運動と適応I・・・身体不活動、体重維持 第10回 運動と適応II・・・運動と発育発達・体組成 第11回 運動と適応III・・・高所・低酸素トレーニング 第12回 運動と適応IV・・・運動と体温調節 第13回 体力論 第14回 運動処方とは 第15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回および次回の授業内容を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験 70% レポート 30%				

(注) 栄養士必修，教職必修



授業科目	給食管理		担当者	山下 三香子																																									
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																									
	[学期]	後期	[単位]	2																																									
	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義																																									
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>																																												
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂、『給食の運営管理実習テキスト』第一出版、『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版</p> <p>(2) 『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>																																												
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>給食の概念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>栄養食事管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>食品構成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>献立計算</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>主菜の考え方、給食の調理管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>大量調理の献立</td> <td rowspan="5">主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>大量調理の調理</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>作業管理、設備管理</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>衛生・安全管理</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>衛生・安全管理</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>市場調査、経営管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>施設別の栄養管理・献立</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>施設別の給食管理、研究・調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	給食の概念		第 2 回	栄養食事管理		第 3 回	食品構成		第 4 回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは		第 5 回	献立計算		第 6 回	主菜の考え方、給食の調理管理		第 7 回	大量調理の献立	主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食	第 8 回	大量調理の調理	第 9 回	作業管理、設備管理	第 10 回	衛生・安全管理	第 11 回	衛生・安全管理	第 12 回	市場調査、経営管理		第 13 回	施設別の栄養管理・献立		第 14 回	施設別の給食管理、研究・調査		第 15 回	まとめ	
第 1 回	給食の概念																																												
第 2 回	栄養食事管理																																												
第 3 回	食品構成																																												
第 4 回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは																																												
第 5 回	献立計算																																												
第 6 回	主菜の考え方、給食の調理管理																																												
第 7 回	大量調理の献立	主菜の献立作成 副菜の献立作成 汁の献立の立て方 デザートの献立の立て方 行事食																																											
第 8 回	大量調理の調理																																												
第 9 回	作業管理、設備管理																																												
第 10 回	衛生・安全管理																																												
第 11 回	衛生・安全管理																																												
第 12 回	市場調査、経営管理																																												
第 13 回	施設別の栄養管理・献立																																												
第 14 回	施設別の給食管理、研究・調査																																												
第 15 回	まとめ																																												
授業外学習(予習・復習)	授業の課題プリントを配布、宿題として出す。																																												
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト 40%、試験 60%																																												
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																												

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習 I		担当者	山下 三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前・後	[単位]	1単位
	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、『給食の運営管理実習テキスト』第一出版、</p> <p>(2) 『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂</p>			
授業スケジュール	<p>オリエンテーション (実習の概要)</p> <p>献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。</p> <p>食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食・・献立に忠実に正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ (報告発表)</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。			
成績評価の方法	実習ノート (20%)、反省・報告発表 (10%)、実習態度及び出席 (70%)			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ		担当者	山下 三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版社</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、給食施設の概要</li> <li>2、給食業務の流れ</li> <li>3、給食組織と業務分担および栄養士業務</li> <li>4、栄養教育</li> <li>5、献立内容</li> <li>6、大量調理の技術</li> <li>7、食材管理</li> <li>8、衛生管理</li> <li>9、各調査と評価</li> <li>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。</li> </ol> <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

授業科目	給食管理実習Ⅲ		担当者	山下 三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設（学校給食）での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版社</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、給食施設の概要</li> <li>2、給食業務の流れ</li> <li>3、給食組織と業務分担および栄養士業務</li> <li>4、栄養教育</li> <li>5、献立内容</li> <li>6、大量調理の技術</li> <li>7、食材管理</li> <li>8、衛生管理</li> <li>9、各調査と評価</li> <li>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。</li> </ol> <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(70%)			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修、教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

授業科目	栄養教育論		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】栄養教育は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動を実践し習慣化させること、また、生活習慣病の増加に対応するため、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。</p> <p>【到達目標】対象の実態とニーズに沿って、健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本栄養士会編 『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育</p> <p>第2回 行動科学理論とモデル</p> <p>第3回 行動変容技法と概念</p> <p>第4回 栄養教育におけるカウンセリング</p> <p>第5回 組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開</p> <p>第6回 食環境づくり、栄養教育の展開</p> <p>第7回 栄養教育マネジメント、栄養教育の展開</p> <p>第8回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) 課題と小テスト(30%)により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修 ※ 7.5回

授業科目	栄養指導論Ⅰ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基础理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握</p> <p>【概要】本講義では、栄養指導に必要な基礎知識と、対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編 『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導の目的, 栄養指導の歴史</p> <p>第2回 食事摂取基準 (身体活動指数, エネルギー)</p> <p>第3回 食事摂取基準 (各栄養素)</p> <p>第4回 食品構成 (各栄養素の基準量)</p> <p>第5回 食品構成 (栄養比率の考え方)</p> <p>第6回 食品構成作成 栄養価の算定 (1)</p> <p>第7回 食品構成作成 栄養価の算定 (2)</p> <p>第8回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間)</p> <p>第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査)</p> <p>第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査)</p> <p>第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導)</p> <p>第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価)</p> <p>第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動)</p> <p>第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) + 課題と小テスト(30%)により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基本理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】本講義では、対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形作った背景を正しく理解して、指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院</p> <p>(2) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ライフステージ (妊婦・授乳期の栄養指導)</p> <p>第2回 ライフステージ (乳児期の栄養指導)</p> <p>第3回 ライフステージ (幼児期 3歳未満児の栄養指導)</p> <p>第4回 ライフステージ (幼児期 3歳以上児の栄養指導)</p> <p>第5回 ライフステージ (保育所給食と栄養指導)</p> <p>第6回 ライフステージ (学童期・思春期の栄養指導)</p> <p>第7回 ライフステージ (学校給食と栄養指導)</p> <p>第8回 ライフスタイル (成人期の栄養指導)</p> <p>第9回 ライフスタイル (生活習慣病 肥満症・高血圧症の栄養指導)</p> <p>第10回 ライフスタイル (生活習慣病 糖尿病・脂質異常症の栄養指導)</p> <p>第11回 ライフスタイル (高齢期の栄養指導)</p> <p>第12回 健康障害と栄養指導</p> <p>第13回 病院などの医療機関における栄養食事指導</p> <p>第14回 アスリートと栄養教育 (の栄養指導)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) + 課題と小テスト(30%) により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成</p> <p>【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として、対象者への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導実習の意義と目的, 栄養指導の基礎知識 (食事摂取基準)</p> <p>第2回 栄養指導の基礎知識 (食品構成表の作成)</p> <p>第3回 実態指導の基礎知識 (献立作成)</p> <p>第4回 実態把握の方法 食品構成の算定実習</p> <p>第5回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第6回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第7回 実態把握の方法 身体状況調査, 体力測定</p> <p>第8回 指導案の作成 (基本)</p> <p>第9回 指導案の作成 (実践用 グループ)</p> <p>第10回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (グループ)</p> <p>第11回 プレゼンテーション (グループ)</p> <p>第12回 プレゼンテーション (グループ)・指導案の作成 (実戦用 個人)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その1)</p> <p>第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表(50%) + 課題と小テスト(30%) + 実習への取り組み状況(20点) により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	<b>栄養指導論実習Ⅱ</b>		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期 [単位]	1単位 [必修/選択]	選択(注) [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、栄養指導論実習Ⅱでは、集団・個別を対象とし、福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(1)</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(2)</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション (福祉施設1)</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション (福祉施設2)</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション (学校1)</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション (学校2)</p> <p>第7回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション (学校2)</p> <p>第8回 個別対象の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第9回 個別対象の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 食事療法と栄養指導 プレゼンテーション その6とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表(50%) + 課題と小テスト(30%) + 実習への取り組み状況(20点)により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	<b>公衆栄養学</b>		担当者	児玉 敬三
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期 [単位]	2 [必修/選択]	必修(注) [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>地域で生活している様々な人々のQOL向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ</p> <p>【概要】公衆栄養の概念。健康・栄養問題の現状と課題。栄養政策。栄養疫学。公衆栄養マネジメント。公衆栄養プログラムの展開</p> <p>【到達目標】QOLの向上と健康寿命の延伸につながる様々な施策の内容を理解し、栄養士としての具体的な働きが理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ウェルネス 公衆栄養学 2019年度版 医歯薬出版株式会社</p> <p>(2) 日本人の食事摂取基準 に関連する図書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 公衆栄養学の概念(1)</p> <p>第2回 公衆栄養学の概念(2)</p> <p>第3回 健康・栄養問題の現状と課題(1)</p> <p>第4回 健康・栄養問題の現状と課題(2)</p> <p>第5回 栄養政策(1)</p> <p>第6回 栄養政策(2)</p> <p>第7回 栄養政策(3)</p> <p>第8回 栄養疫学(1)</p> <p>第9回 栄養疫学(2)</p> <p>第10回 公衆栄養マネジメント(1)</p> <p>第11回 公衆栄養マネジメント(2)</p> <p>第12回 公衆栄養マネジメント(3)</p> <p>第13回 公衆栄養学プログラムの展開(1)</p> <p>第14回 公衆栄養学プログラムの展開(2)</p> <p>第15回 まとめ 総括</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、出席(20%)			
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養情報処理		担当者	町田 和恵
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養士が健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析、それを総合的に判断する能力</p> <p>【概要】栄養士には、集めた情報を統計学的に処理し、客観的に評価することが求められている。そのためには、コンピュータを使用し、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石村貞夫、広田直子他著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編(第2版)、東京図書</p> <p>(2) 伊藤貞嘉、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2020年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 コンピュータの役割、機能、実際</p> <p>第2回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方(1)</p> <p>第3回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方(2)</p> <p>第4回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方(3)</p> <p>第5回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方(4)</p> <p>第6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方(5)</p> <p>第7回 データ変換によるデータ集計のまとめ方(単純集計)</p> <p>第8回 データ変換によるデータ集計のまとめ方(クロス集計)</p> <p>第9回 データ変換によるデータ集計のまとめ方(クロス集計 オッズ比)</p> <p>第10回 データ変換によるデータ集計のまとめ方(区間推定)</p> <p>第11回 データ変換によるデータ集計のまとめ方(検定方法)</p> <p>第12回 コンピュータによる献立作成</p> <p>第13回 コンピュータによる栄養価計算</p> <p>第14回 コンピュータによる月報作成</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 課題(30%) + 実習への取り組み状況(20点)により評価する。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学 I		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法</p> <p>【概要】主要な疾患の概要(疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の概要(疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を理解し、栄養の関連を認識し、各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 臨床栄養学(概念・意義)</p> <p>第2回 代謝性疾患(病態と栄養管理:糖尿病)</p> <p>第3回 代謝性疾患(病態と栄養管理:糖尿病)</p> <p>第4回 代謝性疾患(病態と栄養管理:脂質異常症)</p> <p>第5回 代謝性疾患(病態と栄養管理:脂質異常症)</p> <p>第6回 代謝性疾患(病態と栄養管理:痛風,高尿酸血症)</p> <p>第7回 代謝性疾患(病態と栄養管理:肥満)</p> <p>第8回 栄養法(経腸栄養・経静脈栄養)</p> <p>第9回 消化器疾患(病態と栄養管理:肝臓疾患)</p> <p>第10回 消化器疾患(病態と栄養管理:肝臓疾患)</p> <p>第11回 消化器疾患(病態と栄養管理:胃腸疾患)</p> <p>第12回 消化器疾患(病態と栄養管理:胃腸疾患)</p> <p>第13回 腎疾患(病態と栄養管理:慢性腎臓病)</p> <p>第14回 腎疾患(病態と栄養管理:透析)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ		担当者	有村 恵美
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 (実践から応用)</p> <p>【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。各疾患別の病態の知識をもとに、治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の病態を理解し、栄養の関連を認識できること。各疾患別の栄養・食事療法を理解し、具体的な治療食を考えられる力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(メディカルレビュー社)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 循環器疾患 (病態と栄養管理：動脈硬化症)</p> <p>第2回 循環器疾患 (病態と栄養管理：高血圧)</p> <p>第3回 循環器疾患 (病態と栄養管理：心疾患)</p> <p>第4回 その他の疾患 (病態と栄養管理：呼吸器疾患)</p> <p>第5回 その他の疾患 (病態と栄養管理：骨疾患)</p> <p>第6回 栄養評価 (栄養アセスメント・スクリーニング)</p> <p>第7回 一般治療食 (常食)</p> <p>第8回 一般治療食 (形態別治療食)</p> <p>第9回 特別治療食 (エネルギーコントロール食)</p> <p>第10回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第11回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第12回 特別治療食 (腎臓病食品交換表)</p> <p>第13回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第14回 特別治療食 (カリウム制限食・水分制限食)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (60%)，課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学実習		担当者	有村 恵美
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期集中	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) の業務による実習</p> <p>【概要】県内外の医療現場における2週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。</li> <li>2. 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養食事指導。</li> <li>3. 対象者の心理を理解し信頼を得る。</li> </ol> <p>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) 業務の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 菱田明監修『日本人の食事摂取基準』(第一出版) 香川芳子監修『七訂増補食品成分表』(女子栄養大出版部)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導管理栄養士等からの説明 (院内における栄養部門の位置と役割 等)</li> <li>2. 病院給食管理業務の実際 (施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務 等)</li> <li>3. 供食状況の実際 (一般治療食・特別治療食 等)</li> <li>4. 病態栄養管理業務の実際 (栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価 等)</li> <li>5. 栄養食事指導業務の実際 (個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法 等)</li> <li>6. 多職種連携の実際 (チーム医療・各種委員会見学 等)</li> <li>7. 報告会 (実習内容・反省・課題 等)</li> </ol>			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み，実習ノート作成，報告会準備			
成績評価の方法	実習ノート (20%)，報告発表 (10%)，実習への取り組み状況 (70%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	病理学		担当者	山田 博久				
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしばった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が高いです。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業(医学部3-5年生相当)を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと</p> <p>第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患</p> <p>第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害</p> <p>第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患</p> <p>第5回 補足</p> <p>第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患</p> <p>第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死</p> <p>第8回 補足</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。							
実務経験について	内科神経内科医師として30年以上病院勤務。大学非常勤講師として数年間講義を行う。複数の看護学校で講義を行う。							

※7.5回

授業科目	学校栄養教育論		担当者	中馬 和代・町田 和恵				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校での年間指導計画の下に、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要な栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し、学級担任や養護教諭、学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を修得させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金田雅代『栄養教諭論』建帛社、</p> <p>(2) 厚生労働省『食に関する指導の手引き』</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教諭の制度と役割、現状と課題、職務内容、使命(担当:中馬)</p> <p>第2回 学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけ(担当:中馬)</p> <p>第3回 学校給食の歴史と食文化の変遷(担当:中馬)</p> <p>第4回 子どもの発達と食生活(担当:中馬)</p> <p>第5回 食に関する指導の全体計画(計画・実施・評価)(担当:中馬)</p> <p>第6回 食に関する指導の展開((担当:中馬)</p> <p>第7回 給食時間における食に関する指導(担当:中馬)</p> <p>第8回 給食時間における食に関する指導の実際(担当:中馬)</p> <p>第9回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情、法令及び諸制度(担当:町田)</p> <p>第10回 児童・生徒の栄養に係る諸課題(国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む)(担当:町田)</p> <p>第11回 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材(担当:町田)</p> <p>第12回 教科における食に関する指導①(担当:町田)</p> <p>第13回 教科における食に関する指導②(担当:町田)</p> <p>第14回 個別栄養相談指導(食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等)(担当:町田)</p> <p>第15回 まとめ(担当:町田)</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験の成績(70%) + 課題と小テスト(30%) により評価する。							

(注) 教職必修



授業科目	化学概論		担当者	古川 那由太・木下 朋美				
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーを参照				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。</p> <p>【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します。</p> <p>【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する。②質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高校「基礎化学」および「化学」レベルのプリントを配布します。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、原子の構造</p> <p>第2回 化学結合（イオン結合と共有結合）</p> <p>第3回 原子・分子の重さ（原子量・分子量と式量）</p> <p>第4回 溶液の濃度（物質・モル濃度）</p> <p>第5回 化学反応式（化学反応式の作り方、化学反応の量的関係）</p> <p>第6回 酸と塩基（酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応と塩の性質）</p> <p>第7回 酸化と還元－1（酸化・還元の定義、酸化数）</p> <p>第8回 酸化と還元－2（酸化剤と還元剤、酸化還元反応）</p> <p>第9回 有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体）</p> <p>第10回 脂肪族炭化水素－1（アルカン）</p> <p>第11回 脂肪族炭化水素－2（アルケン、アルキン）</p> <p>第12回 酸素を含む脂肪族化合物－1（アルコール、アルデヒド、ケトン）</p> <p>第13回 酸素を含む脂肪族化合物－2（カルボン酸、エステル）</p> <p>第14回 芳香族化合物－1（フェノール類、芳香族カルボン酸）</p> <p>第15回 芳香族化合物－2（ニトロ化合物、芳香族アミン）</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	小テスト（40%）、期末試験（60%）							

授業科目	生物概論		担当者	古川 那由太				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。</p> <p>【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の1つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。</p> <p>【到達目標】生物を構成する基本的な物質を列挙し、その特徴を説明できる。酵素の特性と細胞内のエネルギー代謝について説明できる。生物の増殖方法と遺伝の仕組みを関連づけて説明できる。生物の恒常性維持に関わる情報伝達システムと生体防御機構について説明できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田村隆明 著 『医療・看護系のための生物学 改訂版』 裳華房 2016</p> <p>(2) あれは講義中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、生物学の基礎（生物の特徴と誕生）</p> <p>第2回 生物の基本単位（細胞の構造と機能）</p> <p>第3回 生物を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）</p> <p>第4回 栄養と代謝1（代謝と酵素）</p> <p>第5回 栄養と代謝2（エネルギー代謝と光合成）</p> <p>第6回 遺伝とDNA1（遺伝現象と遺伝物質の探求）</p> <p>第7回 遺伝とDNA2（染色体とDNAの複製）</p> <p>第8回 遺伝情報の発現（転写と翻訳）</p> <p>第9回 これまでの復習</p> <p>第10回 細胞の増殖（体細胞分裂と減数分裂）</p> <p>第11回 生物個体の形成（生殖、発生、分化）</p> <p>第12回 動物個体の構造（組織と器官）</p> <p>第13回 内分泌系（ホルモンと生体調節）</p> <p>第14回 神経系（神経系の構成と情報の伝達）</p> <p>第15回 免疫系（自然免疫と獲得免疫）</p>							
授業外学習(予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧							
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小テスト（25%）、発表（25%）							

## 9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学		担当者	井余田 秀美				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの化学物質について学び、生活の様式や環境との関わりについて考える。</p> <p>【概要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで、自然の物をうまく利用し、自然にはない有益な物を作り出して、生活のために利用してきた。しかしながら一方で、人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が人の生活や自然環境を損なってきた。この講義では生活の中の化学物質について学ぶ。</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「あなたと化学」 齋藤勝裕 著 裳華房 (2)							
授業スケジュール	<p>第1部 化学の基礎</p> <p>第1回 原子と分子が全てをつくる 原子構造、化学結合、分子</p> <p>第2回 私たちは空気で困まっている 空気の組成と体積、状態方程式、気体の性質</p> <p>第3回 地球は水の惑星 水の構造、水素結合、状態図、超臨界状態、液晶</p> <p>第4回 炭が燃えると熱くなる 酸化・還元、酸・塩基、反応、触媒</p> <p>第5回 元素の80%は金属元素 金属元素の種類、金属結合、電気伝導性、合金、レアメタル</p> <p>第6回 有機物は炭素でできている 有機化合物、置換基、異性体、化石燃料</p> <p>第7回 生命体をつくるもの 糖・脂質・タンパク質、核酸、ビタミン・ホルモン</p> <p>第2部 生活と化学</p> <p>第8回 シャボン玉の不思議 セッケン、ミセル、洗濯、細胞膜</p> <p>第9回 私たちの食べているもの 主食、副食、酒類、調味料、食品添加物</p> <p>第10回 毒と薬は同じもの？ 医薬品、アスピリン、抗生物質、抗がん剤、毒物、麻薬・覚醒剤</p> <p>第11回 プラスチックって何だろう？ 高分子、ポリエチレン、ナイロンとペット、合成繊維、機能性高分子</p> <p>第12回 電気って何だろう？ 各種電池、水銀灯・蛍光灯、発光ダイオード、有機EL、生物発光</p> <p>第13回 原子力と電力 原子核反応、放射能、核分裂・核融合、原子力発電</p> <p>第14回 家庭は化学実験室 キッチン・バス、リビング、デスク、ガーデン、家屋</p> <p>第15回 まとめ 練習問題の解答をレポートにまとめる。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回のミニレポートの提出							
成績評価の方法	レポート (100%)							

授業科目	生活化学実験		担当者	井余田 秀美				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了時				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中の化学物質について理解し、その正しい取り扱いができるようにする。</p> <p>【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う。</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2)							
授業スケジュール	<p>第1回 実験全般の説明 実験の心構えや白衣の着用などについて説明する。各実験原理や要点について概説する。</p> <p>第2回 水の硬度 水に含まれるカルシウムイオンやマグネシウムイオンの割合を測定。</p> <p>第3回 pHの測定(生活、土壌、酸性雨) 洗剤液や土壌、火山灰などのpHを測定し、生活の中の液性について検討する。</p> <p>第4回 洗剤および洗剤水溶液 洗剤中の界面活性剤の含有割合、洗剤水溶液の表面張力を測定する。</p> <p>～第5回</p> <p>第6回 漂白剤 市販漂白剤による各種の布を漂白し、漂白効果を検討する</p> <p>第7回 染色 合成染料と天然染料で各種の布の染色し、染色性や染色堅牢度について調べる。</p> <p>～第9回</p> <p>第10回 吸水性樹脂 紙おむつの樹脂に水や食塩水を吸水させて、吸水量の違いを調べる。</p> <p>第11回 吸着(木炭、シリカゲル) 色素液中での木炭やシリカゲルの色素の吸着について調べる。</p> <p>第12回 脱酸素剤と使い捨てカイロ 鉄粉を用いて、酸化(脱酸素剤)や発熱(カイロ)の実験を行う。</p> <p>第13回 食品の塩分濃度 各種食品中の塩分濃度を測定し、1日の塩分摂取について検討する。</p> <p>第14回 実験台の片付けと実験室の清掃 実験器具の洗浄、白衣の返却</p> <p>第15回 まとめ 実験結果をノートにまとめて提出する。</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回の実験終了後、レポート(実験ノート)作成							
成績評価の方法	実験への取り組み(20%)と全実験終了後に提出する実験ノート(80%)							

授業科目	<b>色彩学</b>	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】 「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所 (2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み 第 3回 色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名 第 4回 色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系 第 5回 色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色 第 6回 色の基礎知識 5：照明：演色性 第 7回 色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果 第 8回 色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ 第 9回 色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式 第 10回 色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法 第 11回 色の基礎知識 10：色彩調和論 第 12回 色の応用 1：色彩計画 第 13回 色の応用 2：色と文化 第 14回 色の応用 3：商品と色 第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

授業科目	<b>ビジュアルデザイン基礎 I</b>	担当者	北 一浩
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。 ※ビジュアルデザイン基礎IIの履修をすること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 第 2回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗り の設定 第 3回 実践課題 1 幾何形態色彩構成 第 4回 〃 第 5回 Illustrator 基本操作 3 パスの基本知識、ベジェ曲線 第 6回 実践課題 2 ピクトグラム 第 7回 〃 第 8回 Illustrator 基本操作 4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化 第 9回 実践課題 3 タイポグラフィ構成 第 10回 〃 第 11回 応用課題 1 名刺のデザイン 第 12回 〃 第 13回 応用課題 2 ポスターのデザイン 第 14回 〃 第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

(注) ビジュアルデザイン基礎IIの履修をすること。

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 課題制作を通して、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な操作方法及び、制作の流れ、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎的なソフトウェアの操作方法と、デザインワークにおける考え方を身につけ、発想力と表現力の向上を目標とする</p> <p>※ビジュアルデザイン基礎Ⅰの履修をすること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定</p> <p>第3回 実践課題 1 キャラクターを描く</p> <p>第4回 ”</p> <p>第5回 Illustrator 基本操作 2 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第6回 実践課題 2 地図を描く</p> <p>第7回 ”</p> <p>第8回 Illustrator 基本操作 3 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第9回 実践課題 3 ログタイプ</p> <p>第10回 ”</p> <p>第11回 応用課題 1 ショップカードのデザイン</p> <p>第12回 ”</p> <p>第13回 応用課題 2 本の表紙のデザイン</p> <p>第14回 ”</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)							
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務							

※ビジュアルデザイン基礎Ⅰの履修をすること。

授業科目	テキスタイルサイエンス		担当者	浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、それらに起因するテキスタイルの性質について考えていく。</p> <p>【概要】</p> <p>繊維や糸、布の種類や構造などについて概説した後、テキスタイルの諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身の回りのテキスタイルに対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、それらの知識を衣服の製作・購入、着用、洗濯、保管などの場面で活用できるようになることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部言幸著『生活のための被服材料学』家政教育社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：テキスタイルとは？ 繊維とは？ — 繊維の歴史と分類</p> <p>第2回 繊維の構造 — 繊維の構造と性質の関係</p> <p>第3回 天然繊維 1 — 植物繊維 (綿、麻)</p> <p>第4回 天然繊維 2 — 動物繊維 (羊毛)</p> <p>第5回 天然繊維 3 — 動物繊維 (絹)</p> <p>第6回 化学繊維 1 — 再生繊維 (レーヨン、キュプラ)</p> <p>第7回 化学繊維 2 — 半合成繊維 (アセテート、トリアセテート)</p> <p>第8回 化学繊維 3 — 合成繊維 (ナイロン、ポリエステル、アクリル)、繊維の性能比較</p> <p>第9回 新しい繊維 — 繊維化技術の発展と高機能素材</p> <p>第10回 糸の種類と構造 — 紡績糸・フィラメント糸の性質、糸の太さにより (ミニ実験：糸の観察)</p> <p>第11回 布の種類と構造 1 — 織物の組織と性質</p> <p>第12回 布の種類と構造 2 — 編物の組織と性質、織物と編物の性能比較</p> <p>第13回 布の種類と構造 3 — 不織布・皮革の性質、布の構造特性 (ミニ実験：織物の観察)</p> <p>第14回 テキスタイルの性質 1 — 耐久性と形態的性質</p> <p>第15回 テキスタイルの性質 2 — 快適性と外観的性質</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)							

授業科目	ファッション造形基礎		担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2回 基礎縫い1：手縫い① 用具の説明、並縫い</p> <p>第 3回 基礎縫い2：手縫い② まつり縫い、他</p> <p>第 4回 基礎縫い3：手縫い③ ボタン、スナップつけ</p> <p>第 5回 基礎縫い4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン</p> <p>第 6回 上衣（チュニックブラウス）製作1：人体計測と製図</p> <p>第 7回 上衣（チュニックブラウス）製作2：裁断、しるしつけ</p> <p>第 8回 上衣（チュニックブラウス）製作3：仮縫い、試着</p> <p>第 9回 上衣（チュニックブラウス）製作4：本縫い①</p> <p>第 10回 上衣（チュニックブラウス）製作5：本縫い②</p> <p>第 11回 上衣（チュニックブラウス）製作6：仕上げ、着装評価</p> <p>第 12回 工芸1：レース編み</p> <p>第 13回 工芸2：毛糸棒針編み</p> <p>第 14回 工芸3：フランス刺繍</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)			

(注) 教職必修

授業科目	生活文化		担当者	浅海 真弓・宍戸 克実
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 家庭や地域、社会などの影響を受けて形成され、変容する生活文化について考える。</p> <p>【概要】 人々の生活の中から生み出され伝承されてきた物質としての「もの」だけでなく、慣習や思想を含めた生活様式について概説する。衣食住を中心とした多様な生活文化やそれらの変遷過程を知り、現代の生活様式と比較して考える。</p> <p>【到達目標】 異なる時代や地域の文化を知ることにより、現在の自分たちの生活について視点を変えて様々な面から分析する力を養う。そして、現代の生活文化の課題を主体的に解決し、よりよい生活を実現していく力を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石川実、井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社 ルイス・フロイス著、岡田章雄訳注『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波書店</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：生活文化とは？ — 生活文化の構造と特性（第1回～第13回：浅海担当）</p> <p>第 2回 日本人と生活文化 — 海外から見た日本人、日本人の性格と行動様式</p> <p>第 3回 食の文化と生活1 — 食文化の発達と変容、世界の食文化</p> <p>第 4回 食の文化と生活2 — 日本の食文化の変遷、現在の食生活課題</p> <p>第 5回 食の文化と生活3 — 行事食の意味とその変容</p> <p>第 6回 衣の文化と生活1 — 日本の服装の歴史と文化</p> <p>第 7回 衣の文化と生活2 — 着物の分類と染織</p> <p>第 8回 衣の文化と生活3 — 日本のアクセサリーと化粧の文化</p> <p>第 9回 衣の文化と生活4 — 洗濯の文化</p> <p>第 10回 地域と生活文化 — 味噌・雑煮の文化圏、行事と地域、衣服の材料と地域</p> <p>第 11回 老いと生活文化 — 老いの生き方の視点と役割の変化</p> <p>第 12回 情報化と生活文化 — 家庭・仕事の情報化と家族・生活スタイルの変化</p> <p>第 13回 国際化と生活文化 — 異文化の葛藤と多文化の共生</p> <p>第 14回 異文化理解入門1 — イスラーム地域の生活文化（第14回～第15回：宍戸担当）</p> <p>第 15回 異文化理解入門2 — イスラーム地域の都市・建築・空間文化</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)			
成績評価の方法	浅海担当分 (85%)：授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (20%) + レポート (30%) 宍戸担当分 (15%)：講義内レポート (15%)			
実務経験について	浅海：なし 宍戸：外食チェーン企業において設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

授業科目	衣生活学		担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服について様々な側面から多角的に学び、「生活における衣服の役割」について考えていく。</p> <p>【概要】 衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 衣服の役割を理解するとともに、日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第 2 回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態</p> <p>第 3 回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷</p> <p>第 4 回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷</p> <p>第 5 回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情</p> <p>第 6 回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴</p> <p>第 7 回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴</p> <p>第 8 回 衣服の管理 1 — 洗濯（しみ抜き、家庭洗濯、クリーニング）</p> <p>第 9 回 衣服の管理 2 — 仕上げと保管（漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、防カビ・防虫）</p> <p>第 10 回 衣服の表示 — 衣服の組成と取扱い表示の関係</p> <p>第 11 回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節（衣服内気候）</p> <p>第 12 回 衣服の機能と快適性 2 — 衣服の動きやすさと拘束性（衣服圧）</p> <p>第 13 回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション</p> <p>第 14 回 衣服の生産と流通 — アパレル産業と既製服、既製服のサイズ規格</p> <p>第 15 回 衣服と環境 — 衣服の廃棄とリサイクル</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）			
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（15%）			

(注) 教職必修

授業科目	生活コロイド学		担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了時
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。</p> <p>【概要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し、次に日常の事柄、特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に、生活や環境での関連する事柄を取り上げ、最後に、生体に関する事に触れる。</p> <p>1 界面とコロイドの基礎</p> <p>2 生活とコロイド</p> <p>3 環境とコロイド</p> <p>4 生体とコロイド</p> <p>【到達目標】コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 北原文雄, 「界面・コロイド化学の基礎」講談社, 水野上与志子他編, 「被服整理学」建帛社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 界面とコロイドの基礎 ～ 界面とコロイドとは 界面とは 界面活性剤 コロイドとは 界面とコロイドのつながり</p> <p>第 3 回 界面現象 界面活性剤水溶液の性質 (吸着とミセル形成) むれ 乳化 分散</p> <p>第 4 回 生活とコロイド 繊維と汚れの付着 洗剤と洗濯 家庭洗濯とドライクリーニング 洗浄理論</p> <p>～</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回 繊維 洗濯 染色 染色 三原色 染料と染色</p> <p>第 13 回 食品とコロイド 食品用乳化剤と乳化食品 界面やコロイドと各種化粧品</p> <p>化粧品</p> <p>第 14 回 産業, 環境, 生体とコロイド 微粒子や微細孔の製品 青空や夕焼け 虹 浄水 爪 皮膚、細胞膜 透析</p> <p>第 15 回 まとめ 課題についてレポートを作成する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回のミニレポートの提出			
成績評価の方法	レポート (100%)			

授業科目	<b>食物と栄養</b>	担当者	亀井 勇統
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食生活を通して健康を維持するための食物に含まれている多種多様な栄養成分について学ぶ。</p> <p>【概要】健康的な生活を維持するために役立つ食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介する他、食物の保存や調理中に起こりえる栄養成分の化学的な変化とその防止等について解説する。</p> <p>【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分に関する知見を得るだけでなく、生体成分としての重要性について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 菅原龍幸・井上四郎編『新訂 原色食品図鑑 (学生版) [第2版]』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食物</p> <p>第2回 穀類の栄養成分1</p> <p>第3回 穀類の栄養成分2</p> <p>第4回 野菜類の栄養成分1</p> <p>第5回 野菜類の栄養成分2</p> <p>第6回 いも類の栄養成分</p> <p>第7回 豆類の栄養成分</p> <p>第8回 果実類の栄養成分</p> <p>第9回 きのこと類の栄養成分</p> <p>第10回 海藻類の栄養成分</p> <p>第11回 食肉類の栄養成分</p> <p>第12回 乳類の栄養成分</p> <p>第13回 卵類の栄養成分</p> <p>第14回 魚介類の栄養成分1</p> <p>第15回 魚介類の栄養成分2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出したレポート内容70%、授業態度30%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

(注) 教職必修

授業科目	<b>調理学</b>	担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義・調理操作
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。 ・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立つ能力を培う 基本的な調理操作法の習得</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 銚吉 外西壽鶴子 NEW基礎調理学</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 調理学の意義</p> <p>第2回 調理の基本：食事と栄養素、調理器具、調味料の特徴、調理法</p> <p>第3回 調理科学：だしのうま味と特性</p> <p>第4回 調理の基本：砂糖・甘味類・種実類</p> <p>第5回 調理科学：砂糖の温度変化による変化</p> <p>第6回 調理の基本：卵類・乳類・菓子類</p> <p>第7回 調理科学：卵の熱変性</p> <p>第8回 調理の基本：穀類・藻類・魚介類</p> <p>第9回 調理科学：ゲル化素材の特徴</p> <p>第10回 調理の基本と操作：鹿児島県の食材調理(魚介)</p> <p>第11回 調理科学：小麦粉の特性</p> <p>第12回 調理の基本：いも・でん粉類・豆類・肉類</p> <p>第13回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類</p> <p>第14回 調理の基本：油脂類・嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を重視		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + レポート(20%)		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務		



授業科目	調理実習	担当者	立石 百合恵	
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応	講義終了時	
		〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合</p> <p>【概要】・具体的な調理操作 (和・洋・中) を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な食品の取り扱いの習得</li> <li>・食環境整備の有効性を学ぶ</li> <li>・食事の作法とマナーについて学習する</li> </ul> <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得 社会性概念の意識付け</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (調理の意義と目的、実習方法について)</p> <p>第 2回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第 3回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、コンポジションサラダ、コーヒー</p> <p>第 4回 日本料理 親子丼、潮汁、なます、いちご大福</p> <p>第 5回 中国料理 白飯、太平燕、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐</p> <p>第 6回 テーブルマナー (西洋料理)</p> <p>第 7回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第 8回 日本料理 散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹</p> <p>第 9回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子、中華饅頭</p> <p>第 10回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、ぬた和え、水饅頭</p> <p>第 11回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ、アイスティアー</p> <p>第 12回 日本料理 きつねうどん、おにぎり、肉じゃが、ねぎ味噌、みつ豆</p> <p>第 13回 西洋料理 パンの調理 (食パン)、コンソメスープ (牛)、マヨネーズサラダ、ヨーグルト</p> <p>第 14回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実技試験 (50%) + 授業ごとのレポートと実技内容の評価 (50%)			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務			

(注) 教職必修

授業科目	保育学	担当者	奥 章三・池堂 猛彦・田中 真理	
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応	
		〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (担当 奥) 乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント” 44、診断と治療社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 (担当 奥) 保育とは何か? なぜ「保育」を学ぶのか、母体の健康管理と誕生</p> <p>第 2回 出産と育児及びそれらをとりまく環境</p> <p>第 3回 子どもの成長 (その1) ~ 発育, 運動発達 ~</p> <p>第 4回 子どもの成長 (その2) ~ 知的発達, 社会性の発達 ~</p> <p>第 5回 子どもを育てる 愛着と自律</p> <p>第 6回 子どもの育つ環境の整備</p> <p>第 7回 子どもとふれ合う 保育の現場</p> <p>第 8回 子どもによくみられる病気とその症状・対応</p> <p>第 9回 子どもの事故防止対策</p> <p>第 10回 発達障害児への対応 ~ 講義のふりかえり~</p> <p>第 11回 (担当 田中) 事前事後指導①: 事前指導</p> <p>第 12回 (担当 池堂) 実習①: 保育園における保育実習 (1)</p> <p>第 13回 実習②: 保育園における保育実習 (2)</p> <p>第 14回 実習③: 保育園における保育実習 (3)</p> <p>第 15回 (担当 田中) 事前事後指導②: 事後指導</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験 (100%) 各担当者が 100点 / 3 で点数を算出した後、3人の合計を総合点として評価する。			
実務経験について	奥 : 病院に小児科医として勤務 池堂 : 保育園の園長として勤務			

(注) 教職必修

授業科目	卒業研究A		担当者	井余田 秀美	
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了時	
	[学期]	通年	[単位]	4	
		[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自ら研究課題を設定し、課題探求と問題解決の能力を養う。</p> <p>【概要】生活化学及び生活コロイド学の分野から（例えば、洗剤や染色、化粧品、環境など）基礎課題や応用課題を設定し取り組む。</p> <p>【到達目標】実験や演習を行うことにより、衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(2) 中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」コロナ社 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎」講談社 近藤保 ほか 著「やさしいコロイドと界面の科学」三共出版</p>				
授業スケジュール	<p>第1回～第3回 研究課題の決定、参考資料の収集：授業全体の説明と研究課題についての話し合い、資料収集の方法</p> <p>第4回～第8回 先行研究の資料収集と予備実験：2年前期におおよその実験を試みる。その結果による研究テーマの修正について検討する。</p> <p>第9回～第22回 研究テーマについての本実験：研究テーマを確定し、実験を行う。資料収集を行う。</p> <p>第23回～第24回 研究成果のまとめ、発表準備：研究成果を図表や論文にまとめて卒業論文を完成させる。発表のためのスライドを作成する。</p> <p>第30回 発表会：2月初旬の専攻発表会で研究成果を発表する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業期間内の数回の中間報告				
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 口頭発表 (20%) + 卒業論文 (60%)				

授業科目	卒業研究A		担当者	田中 真理	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	通年	[単位]	4	
		[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学に関するテーマについて、リサーチ・分析し、成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。</p> <p>【概要】心理学に関する研究テーマやリサーチクエスチョンを設定した上で、先行研究について概観、資料やデータの収集、分析、結果の整理、考察を行う。最後に、卒業論文としてまとめるとともに、卒業研究発表会にて研究の成果を発表する。</p> <p>【到達目標】①調査研究のプロセスを体験する中で、日常の事象に対する科学的な視点を養う。 ②調査研究や論文執筆に必要な基礎知識やスキルを習得する。 ③研究の成果についてわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。 (2) 松井豊(著)『改訂新版 心理学論文の書き方…卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新, 2010年</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 調査研究の進め方 ～ // 第4回 // 第5回 テーマ設定、情報収集、分析、結果整理、考察、論文の執筆(毎回の報告) ～ // 第26回 // 第27回 発表会の資料作成、プレゼンテーションの準備 ～ // 第29回 // 第30回 卒業研究発表会</p>				
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課すため、授業時間外の学習を要す。				
成績評価の方法	卒業論文とプレゼンテーション (70%)、授業への参加度と毎回の課題 (30%)				

(注) 教職課程履修者のみ対象とする

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅰ		担当者	北 一浩
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。</p> <p>【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 導入 アイデアとは？</p> <p>第3回 発想の準備1 もっと楽しもう</p> <p>第4回 発想の準備2 自分を信じよう</p> <p>第5回 発想の準備3 「その気」になろう</p> <p>第6回 発想の準備4 子供に戻ろう</p> <p>第7回 発想の準備5 「知りたがり」になろう</p> <p>第8回 発想の準備6 笑われることを恐れるな</p> <p>第9回 発想の準備7 「考え方」のヒント</p> <p>第10回 発想の準備8 いろいろなものを組み合わせよう</p> <p>第11回 発想のプロセス1 質問を変えてみよう</p> <p>第12回 発想のプロセス2 情報をかき集めよう</p> <p>第13回 発想のプロセス3 いったん全部忘れてしまおう</p> <p>第14回 発想のプロセス4 ひらめいたら実践しよう</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	プレゼンテーション (60%) 提出課題 (40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動			

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインの基礎的な知識と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインの様々な分野の参考文献を通じて、それらが社会においてどのような展開を見せているか概説を行なう。</p> <p>【到達目標】現代のビジュアルデザインの世界を理解するために必須な知識(用語・事象・歴史)を習得する。現代社会におけるビジュアルデザインについて概観できる視野を獲得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 デザインとは (役割、要素、目的、ターゲット、効果的に伝える)</p> <p>第3回 文字 (歴史、書体の種類とイメージ、タイポグラフィ)</p> <p>第4回 カラーとイメージ (色の法則、色と視覚、色と嗅覚、色と味覚、色と聴覚、色と触覚、色と記憶)</p> <p>第5回 印刷表現 (種類、色、紙、製本)</p> <p>第6回 写真表現 (読む写真、感じる写真、構図、ストーリー、RAW現像)</p> <p>第7回 映像表現 (媒体、MV、映画、カラーグレーディング、撮影技法)</p> <p>第8回 Web表現 (歴史、目的とコンセプト、制作工程、UIデザイン)</p> <p>第9回 ロゴとブランディング (目的、アイデンティティ、事例紹介)</p> <p>第10回 広告1 (課題とコンセプト)</p> <p>第11回 広告2 (表現:印刷、Web、映像、イベント)</p> <p>第12回 ビジュアル表現物の収集と分析1 考察1 (キュレーション)</p> <p>第13回 ビジュアル表現物の収集と分析2 考察2 (キュレーション)</p> <p>第14回 ビジュアル表現物の収集と分析3 発表1 (プレゼン)</p> <p>第15回 ビジュアル表現物の収集と分析4 発表2 (プレゼン) / まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	プレゼンテーション (70%) 提出課題 (30%)			
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務			

授業科目	ビジュアルデザインⅠ		担当者	北 一浩・上笹貫 鷹暁				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】 これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。  <u>※ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱの履修をすること。</u></p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1-2回 オリエンテーション</p> <p>第 3-4回 ポスターデザイン 公共問題をテーマとしたポスター制作</p> <p>第 5-6回 //</p> <p>第 7-8回 //</p> <p>第 9-10回 パッケージデザイン 実際に使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第11-12回 //</p> <p>第13-14回 //</p> <p>第15-16回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第17-18回 //</p> <p>第19-20回 //</p> <p>第21-22回 ポートフォリオ制作 各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作</p> <p>第23-24回 //</p> <p>第25-26回 //</p> <p>第27-28回 //</p> <p>第29-30回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動							

(注) ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱの履修をすること。

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北 一浩				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】 実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。  <u>※ビジュアルデザインⅠの履修をすること。</u></p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。</p> <p>第 3回 //</p> <p>第 4回 //</p> <p>第 5回 //</p> <p>第 6回 //</p> <p>第 7回 //</p> <p>第 8回 //</p> <p>第 9回 //</p> <p>第 10回 //</p> <p>第 11回 自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う</p> <p>第 12回 //</p> <p>第 13回 //</p> <p>第 14回 //</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動							

(注) ビジュアルデザインⅠの履修をすること。

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ファッションデザインの概要と基礎、展開、さらに、パターンメイキングの基礎理論と応用を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 衣服の製作は、まずデザインと素材が決まり、次にデザインイメージを具体化して、布地裁断のための型紙を作図しなければならぬ。製作イメージを表現できるファッションデザインの方法と運動や動作に配慮したパターンメイキングを学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> デザイン、パターンとともに基礎知識を理解し、自分が表現したいデザインやパターンメイキングができる応用力を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾関連専門講座9 服飾デザイン』文化出版局 文化女子大学被服構成学研究室編『被服構成学 理論編』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 ファッションデザインの概要</p> <p>第3回 ファッションデザインの基礎1：形態と色彩</p> <p>第4回 ファッションデザインの基礎2：素材とコンポジション</p> <p>第5回 ファッションデザインの展開</p> <p>第6回 ファッションデザインとイメージ</p> <p>第7回 デザイン展開とパターンメイキング1：人体の形態</p> <p>第8回 デザイン展開とパターンメイキング2：平面展開図</p> <p>第9回 デザイン展開とパターンメイキング3：ダーツ、衿、袖</p> <p>第10回 デザイン展開とパターンメイキング4：スカートとパンツ</p> <p>第11回 パターンメイキングと運動機構1：上半身</p> <p>第12回 パターンメイキングと運動機構2：下半身</p> <p>第13回 ファッションデザインとコーディネート1：形態</p> <p>第14回 ファッションデザインとコーディネート2：色彩と素材</p> <p>第15回 まとめ：アパレルメーカーとファッション動向</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

授業科目	ファッション造形 I		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙 (原型) の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 下衣 (スカート) 製作1：スカートの製図</p> <p>第3回 下衣 (スカート) 製作2：表布の裁断、印つけ</p> <p>第4回 下衣 (スカート) 製作3：仮縫い</p> <p>第5回 下衣 (スカート) 製作4：試着、補正</p> <p>第6回 下衣 (スカート) 製作5：表布の縫製1</p> <p>第7回 下衣 (スカート) 製作6：表布の縫製2</p> <p>第8回 下衣 (スカート) 製作7：ファスナーつけ</p> <p>第9回 下衣 (スカート) 製作8：裏布の裁断、印つけ</p> <p>第10回 下衣 (スカート) 製作9：裏布の縫製</p> <p>第11回 下衣 (スカート) 製作10：ベルトつけ</p> <p>第12回 下衣 (スカート) 製作11：仕上げ、着装評価</p> <p>第13回 上衣 (原型) 製作1：上半身衣の原型</p> <p>第14回 上衣 (原型) 製作2：上半身衣のデザイン展開</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>		
(1)テキスト	(1)	プリント	
(2)参考文献	(2)	文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局	
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第 3回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第 4回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第 5回 上衣（ブラウス）製作4：試着、補正 第 6回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第 7回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第 8回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第 9回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第 10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第 11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第 12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い、試着、補正 第 13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第 14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第 15回 着装評価、まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

授業科目	ファッションビジネス	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p><b>【到達目標】</b> 基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>		
(1)テキスト	(1)	プリント	
(2)参考文献	(2)	日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会	
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの概要 第 3回 ファッションビジネス知識2：ファッション消費と消費者行動 第 4回 ファッションビジネス知識3：アパレル産業と小売産業 第 5回 ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング 第 6回 ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング 第 7回 ファッションビジネス知識6：ファッション物流と流通 第 8回 ファッションビジネス知識7：ファッションプロモーション 第 9回 ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理 第 10回 ファッション造形知識1：ファッション文化 第 11回 ファッション造形知識2：ファッションコーディネート基礎知識 第 12回 ファッション造形知識3：ファッション商品知識—服種・アイテム 第 13回 ファッション造形知識4：ファッションデザインの定義と特性 第 14回 ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)		

授業科目	卒業研究B		担当者	北 一浩			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	必修	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】 研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1-2 回 オリエンテーション</p> <p>第 3-4 回 以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。</p> <p>第 5-6 回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。</p> <p>第 7-8 回</p> <p>第 9-10 回</p> <p>第 11-12 回</p> <p>第 13-14 回</p> <p>第 15-16 回</p> <p>第 17-18 回</p> <p>第 19-20 回</p> <p>第 21-22 回</p> <p>第 23-24 回</p> <p>第 25-26 回</p> <p>第 27-28 回</p> <p>第 29-30 回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)						
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動						

授業科目	卒業研究B		担当者	坂上 ちえ子			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】</p> <p>前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜配布</p> <p>(2) 適宜紹介</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2～ 10 回 卒業研究のための基礎知識 1：文献購読</p> <p>第 11～ 12 回 卒業研究のための基礎知識 2：研究手法の検討・理解</p> <p>第 13～ 15 回 卒業研究のための基礎知識 3：テーマ設定と文献・情報収集</p> <p>第 16～ 23 回 卒業研究 1：各自の調査・研究・考察</p> <p>第 24～ 27 回 卒業研究 2：論文作成</p> <p>第 28～ 30 回 卒業研究 3：発表準備、練習</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)						

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂																																													
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2																																													
			〔必修/選択〕	必修 (注)																																													
				〔授業形態〕																																													
				講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得</p> <p>【概要】 建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。</p> <p>【到達目標】 建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書</p> <p>(2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>建築の学び方、考え方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>建築設計の主題</td><td>建築設計理念について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>建築計画の役割</td><td>建築行為 (生産) と建築計画</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>空間と行為</td><td>空間と行為の関係</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>寸法の計画</td><td>人体寸法と動作寸法</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>プランニング演習-1</td><td>室空間のプランニング</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>風土・文化・建築</td><td>建築を縁取る風土と文化</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>文化・社会・建築</td><td>社会の変容と建築</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>ユニバーサルデザイン</td><td>ユニバーサルデザインと安全計画</td></tr> <tr><td>第10 回</td><td>機能と規模設計</td><td>建築の機能と空間、規模の要因と根拠</td></tr> <tr><td>第11 回</td><td>利用と動線</td><td>利用の把握と動線の計画</td></tr> <tr><td>第12 回</td><td>住空間の計画-1</td><td>狭小住宅の実践と解説</td></tr> <tr><td>第13 回</td><td>住空間の計画-2</td><td>狭小住宅演習-1</td></tr> <tr><td>第14 回</td><td>住空間の計画-3</td><td>狭小住宅演習-2</td></tr> <tr><td>第15 回</td><td>まとめ・総合レポート出題</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方	第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について	第 3 回	建築計画の役割	建築行為 (生産) と建築計画	第 4 回	空間と行為	空間と行為の関係	第 5 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法	第 6 回	プランニング演習-1	室空間のプランニング	第 7 回	風土・文化・建築	建築を縁取る風土と文化	第 8 回	文化・社会・建築	社会の変容と建築	第 9 回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインと安全計画	第10 回	機能と規模設計	建築の機能と空間、規模の要因と根拠	第11 回	利用と動線	利用の把握と動線の計画	第12 回	住空間の計画-1	狭小住宅の実践と解説	第13 回	住空間の計画-2	狭小住宅演習-1	第14 回	住空間の計画-3	狭小住宅演習-2	第15 回	まとめ・総合レポート出題	
第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方																																															
第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について																																															
第 3 回	建築計画の役割	建築行為 (生産) と建築計画																																															
第 4 回	空間と行為	空間と行為の関係																																															
第 5 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法																																															
第 6 回	プランニング演習-1	室空間のプランニング																																															
第 7 回	風土・文化・建築	建築を縁取る風土と文化																																															
第 8 回	文化・社会・建築	社会の変容と建築																																															
第 9 回	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインと安全計画																																															
第10 回	機能と規模設計	建築の機能と空間、規模の要因と根拠																																															
第11 回	利用と動線	利用の把握と動線の計画																																															
第12 回	住空間の計画-1	狭小住宅の実践と解説																																															
第13 回	住空間の計画-2	狭小住宅演習-1																																															
第14 回	住空間の計画-3	狭小住宅演習-2																																															
第15 回	まとめ・総合レポート出題																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)																																																
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目、教職必修

授業科目	住居史		担当者	川島 茂																																													
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2																																													
			〔必修/選択〕	選択 (注)																																													
				〔授業形態〕																																													
				講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。</p> <p>※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】 西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開示しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】 西洋様式建築、近代建築の理念を理解する。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100 人とその作品を巡る」アーキシップ叢書</p> <p>(2) 矢代眞己・田所辰之助・濱崎良実 著「20 世紀の空間デザイン」朝国社</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>歴史を学ぶことの意味</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>西洋様式建築の全体像</td><td>西洋様式建築について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>幾何学の明晰性-1</td><td>-ルネサンス-</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>幾何学の明晰性-2</td><td>-ルネサンス-</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>幾何学の明晰性-3</td><td>-ルネサンス-</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>手法の多義性-1</td><td>-マニエリスム-</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>手法の多義性-2</td><td>-マニエリスム-</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>均整のプロポーション-1</td><td>-バラーディオの建築-</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>均整のプロポーション-2</td><td>-バラーディオの建築-</td></tr> <tr><td>第10 回</td><td>空間のダイナミズム</td><td>-バロック-</td></tr> <tr><td>第11 回</td><td>崇高の自律性とピクチャレスクの他律性</td><td>-新古典主義-</td></tr> <tr><td>第12 回</td><td>新素材と新技術</td><td>-近代の萌芽-</td></tr> <tr><td>第13 回</td><td>思想の改革と運動の理念</td><td>-近代合理主義-</td></tr> <tr><td>第14 回</td><td>インターナショナルスタイルとナショナルリズム</td><td></td></tr> <tr><td>第15 回</td><td>表層・深層・透層</td><td>-モダニズムの終焉-</td></tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	歴史を学ぶことの意味	第 2 回	西洋様式建築の全体像	西洋様式建築について	第 3 回	幾何学の明晰性-1	-ルネサンス-	第 4 回	幾何学の明晰性-2	-ルネサンス-	第 5 回	幾何学の明晰性-3	-ルネサンス-	第 6 回	手法の多義性-1	-マニエリスム-	第 7 回	手法の多義性-2	-マニエリスム-	第 8 回	均整のプロポーション-1	-バラーディオの建築-	第 9 回	均整のプロポーション-2	-バラーディオの建築-	第10 回	空間のダイナミズム	-バロック-	第11 回	崇高の自律性とピクチャレスクの他律性	-新古典主義-	第12 回	新素材と新技術	-近代の萌芽-	第13 回	思想の改革と運動の理念	-近代合理主義-	第14 回	インターナショナルスタイルとナショナルリズム		第15 回	表層・深層・透層	-モダニズムの終焉-
第 1 回	ガイダンス	歴史を学ぶことの意味																																															
第 2 回	西洋様式建築の全体像	西洋様式建築について																																															
第 3 回	幾何学の明晰性-1	-ルネサンス-																																															
第 4 回	幾何学の明晰性-2	-ルネサンス-																																															
第 5 回	幾何学の明晰性-3	-ルネサンス-																																															
第 6 回	手法の多義性-1	-マニエリスム-																																															
第 7 回	手法の多義性-2	-マニエリスム-																																															
第 8 回	均整のプロポーション-1	-バラーディオの建築-																																															
第 9 回	均整のプロポーション-2	-バラーディオの建築-																																															
第10 回	空間のダイナミズム	-バロック-																																															
第11 回	崇高の自律性とピクチャレスクの他律性	-新古典主義-																																															
第12 回	新素材と新技術	-近代の萌芽-																																															
第13 回	思想の改革と運動の理念	-近代合理主義-																																															
第14 回	インターナショナルスタイルとナショナルリズム																																																
第15 回	表層・深層・透層	-モダニズムの終焉-																																															
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	レポート (100%)																																																
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目



授業科目	住居・インテリア設計学	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える。		
	【概要】建築空間を表現するための手段、図面の役割について理解するとともに、建築内外を構成する様々な要素についてのスケール感覚を身につける。また、商業施設や街の空間構成について理解し、多様な都市生活環境について学ぶ。		
	【到達目標】建築とインテリアについての理解が深まるとともに、暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社 (2) 中山繁信『建築のスケール感』オーム社		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 建築とインテリアの基礎知識 第 2 回 住居の平面構成 暮らしと間取り 第 3 回 図面表現 平面図、立面図、断面図、透視図① 第 4 回 " 透視図② 第 5 回 住空間の寸法 単位空間の事例研究 第 6 回 " 家具・設備の事例研究 第 7 回 間取りプランニング 所要室の配置と規模 第 8 回 " 集合住宅 第 9 回 " 戸建平屋 第 10 回 " 戸建復層 第 11 回 商業施設のデザイン 事例研究 第 12 回 " 発表・ディスカッション 第 13 回 街と公共空間のデザイン 事例研究 第 14 回 " 発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業課題 (50%)、宿題 (20%)、発表・レポート (30%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目、教職必修

授業科目	設計製図 I	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し、図面・模型製作を通じ建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。		
	【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ、住宅を構成する様々な単位空間についての理解を深める。		
	【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ、住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 建築製図の基礎知識 第 2 回 製図と模型の基礎 立方体模型と図面作成 第 3 回 " 切妻住宅模型と図面作成 第 4 回 " 切妻住宅：平面図・立面図・断面図 第 5 回 " コートのある住宅：平面図・立面図・断面図 第 6 回 建築設計製図の理解 平面図 第 7 回 " 断面図 第 8 回 設計課題①：テラスの住宅 課題説明・スタディ模型 第 9 回 " スタディ模型 第 10 回 " プレゼンテーション：模型による構想発表 第 11 回 設計課題②：3つの空間住宅 課題説明・スタディ模型 第 12 回 " スタディ模型 第 13 回 " スタディ模型 第 14 回 " プレゼンテーション：模型による構想発表 第 15 回 " 図面作成・提出		
授業外学習(習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]
					選択 (注)
					[授業形態]
					実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料 (住居)」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 課題出題</p> <p>第 2 回 住宅の設計-1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第 3 回 住宅の設計-2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第 4 回 住宅の設計-3 平面計画</p> <p>第 5 回 住宅の設計-4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第 6 回 住宅の設計-5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第 7 回 住宅の設計-6 提出、評価</p> <p>第 8 回 住宅の設計-7 講評、課題出題</p> <p>第 9 回 ギャラリーの設計1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第10回 ギャラリーの設計2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第11回 ギャラリーの設計3 平面計画</p> <p>第12回 ギャラリーの設計4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第13回 ギャラリーの設計5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第14回 ギャラリーの設計6 提出、評価</p> <p>第15回 ギャラリーの設計7 講評</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]
					選択 (注)
					[授業形態]
					講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。</p> <p>【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 一般社団法人日本建築学会、『絵でみる ちからとかたち』</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 構造設計という仕事</p> <p>第 2 回 建物にかかる様々な荷重</p> <p>第 3 回 木質構造1 特徴と材料</p> <p>第 4 回 木質構造2 軸組構法 (在来工法) と枠組壁構法 (2×4工法)</p> <p>第 5 回 木質構造3 現場見学 他</p> <p>第 6 回 鉄骨構造1 特徴と材料</p> <p>第 7 回 鉄骨構造2 建物ができるまで</p> <p>第 8 回 鉄骨構造3 現場見学 他</p> <p>第 9 回 鉄筋コンクリート構造1 特徴と材料</p> <p>第10回 鉄筋コンクリート構造2 建物ができるまで</p> <p>第11回 鉄筋コンクリート構造3 現場見学 他</p> <p>第12回 基礎構造とその他の構造形式 (プレストレストコンクリート構造 他)</p> <p>第13回 主要構造部材 (屋根、壁、床、天井、階段 他)</p> <p>第14回 耐震設計 (地震に強い建物)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (80%) および授業での発言質問とその内容 (20%)				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了後
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、建造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 建物の模型を作ろう1 第2回 建物の模型を作ろう2 第3回 力のモーメント(模型による演習含む) 第4回 力のつりあい(模型による演習含む) 第5回 建造物の支点(ローラー・ピン・固定) 第6回 反力の求め方 第7回 片持ばりに生じる力 第8回 単純ばりに生じる力 第9回 門型ラーメンに生じる力 第10回 トラスに生じる力 第11回 断面の性質(断面1次モーメント、断面2次モーメント、他) 第12回 部材に生じる応力度 第13回 片持ばり、単純ばりの変形 第14回 建築物の設計への応用 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(復習)			
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境(光・熱・空気・音環境)をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第2回 光環境計画1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第3回 光環境計画2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第4回 光環境計画3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第5回 光環境計画4：光束法による照明計算、照明設備計画 第6回 熱環境計画1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第7回 熱環境計画2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第8回 熱環境計画3：住まいと結露、結露判定の計算 第9回 熱環境計画4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第10回 空気環境計画1：室内空気汚染、自然換気(温度差換気、風力換気)、機械換気 第11回 空気環境計画2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第12回 空気環境計画3：機械換気設備、換気設備計画 第13回 音環境計画1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第14回 音環境計画2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第15回 音環境計画3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(80%)とレポート(20%)で評価する。			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択 (注)
				[授業形態]
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近な住居環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】住居環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の測定を行い、測定データに基づいて、住居環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】身近な住居環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)			
授業スケジュール	第 1回 クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第 2回 日影図の作成と日照環境の評価 第 3回 教室の照度分布測定と評価 第 4回 教室の昼光率分布測定と評価 第 5回 室内照明計算 第 6回 定常伝熱計算 第 7回 壁体の温度測定 第 8回 温熱環境の測定 第 9回 温熱環境の分析と評価 第 10回 室内ガス濃度の測定 第 11回 室内ガス濃度の分析と評価 第 12回 必要換気量の計算 第 13回 室内騒音の測定 第 14回 交通騒音の測定 第 15回 騒音の分析と評価			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	建築材料学		担当者	迫田 順一
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質</p> <p>【概要】どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ</p> <p>【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上げ工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社 (2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社			
授業スケジュール	第 1回 構法と建築材料 第 2回 主要構造部材と仕上げ材 第 3回 木材1 特性 第 4回 木材2 用法 第 5回 木材3 種類 第 6回 コンクリート1 特性 第 7回 コンクリート2 配合と強度 第 8回 コンクリート3 製作 第 9回 鋼材1 鉄筋 第 10回 鋼材2 鉄骨と接合 第 11回 その他の主要材料(石・左官・ガラス・建具) 第 12回 材料の力学(曲がりにくさ) 第 13回 環境にやさしい建築材料 第 14回 材料の積算 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	<b>建築生産</b>	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】 住居を中心にした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。</p> <p>【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 構法と施工過程</p> <p>第 2 回 木構造と木工事</p> <p>第 3 回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事</p> <p>第 4 回 鉄骨構造 その他の構造</p> <p>第 5 回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事</p> <p>第 6 回 施工計画と種々の管理</p> <p>第 7 回 契約と実行</p> <p>第 8 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験		
実務経験について	建築設計並びに工事監理		

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	<b>建築法規</b>	担当者	松尾 浩一																
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義終了時																
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住まいをはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法について学ぶ。</p> <p>【概要】 建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準である建築基準法に適合させる必要がある。建築物の構造安全性、防火・避難、室内環境、まちづくりなどに関する基準を定めた建築基準法について、解説する。</p> <p>【到達目標】 建築物、特に住宅を建築する際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>																		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 基準法を考える設計者の会 『いちばんやさしい建築基準法 改訂版』 新星出版社</p> <p>(2) 適宜関連資料を配布</p>																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回 建築基準法は何のために</td> <td>・建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 とともに地域で生活していくために①</td> <td>・集団規定①(道路、用途制限、容積率、建ぺい率)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 とともに地域で生活していくために②</td> <td>・集団規定②(高さ制限、まちづくり制度)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 火災や災害から人命や財産を守るために</td> <td>・防火規定</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 火災や災害時に安全に避難するために</td> <td>・避難規定</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 安全な構造を維持するために</td> <td>・構造安全規定</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 よりよい住環境のために</td> <td>・一般構造規定(採光、換気、衛生、階段等)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 法が守られるために</td> <td>・制度規定</td> </tr> </table>			第 1 回 建築基準法は何のために	・建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語	第 2 回 とともに地域で生活していくために①	・集団規定①(道路、用途制限、容積率、建ぺい率)	第 3 回 とともに地域で生活していくために②	・集団規定②(高さ制限、まちづくり制度)	第 4 回 火災や災害から人命や財産を守るために	・防火規定	第 5 回 火災や災害時に安全に避難するために	・避難規定	第 6 回 安全な構造を維持するために	・構造安全規定	第 7 回 よりよい住環境のために	・一般構造規定(採光、換気、衛生、階段等)	第 8 回 法が守られるために	・制度規定
第 1 回 建築基準法は何のために	・建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語																		
第 2 回 とともに地域で生活していくために①	・集団規定①(道路、用途制限、容積率、建ぺい率)																		
第 3 回 とともに地域で生活していくために②	・集団規定②(高さ制限、まちづくり制度)																		
第 4 回 火災や災害から人命や財産を守るために	・防火規定																		
第 5 回 火災や災害時に安全に避難するために	・避難規定																		
第 6 回 安全な構造を維持するために	・構造安全規定																		
第 7 回 よりよい住環境のために	・一般構造規定(採光、換気、衛生、階段等)																		
第 8 回 法が守られるために	・制度規定																		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																		
成績評価の方法	筆記試験(70%)、ミニテスト(30%)																		

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	CAD設計	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態] 講義 (演習含む)
テーマ及び概要	【テーマ】CADソフトや建築プレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・建築図面作成手順、作品表現方法について学ぶ。		
	【概要】2次元CAD (Vectorworks), 3次元CAD (SketchUp), 画像編集 (Photoshop) の他、多様な関連ソフトを体験する。		
	【到達目標】CADソフトの操作法を習得し、基礎的な建築図面を作成できる。また、関連する多様なソフトの体験を通じ、プレゼンテーションスキルの幅が広がる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 戸國義直『Vectorworks デザインブック』ソシム, ObraClub『優しく学ぶSketchUp』エクスマレッジ		
授業スケジュール	第1回	はじめに	CADについて、関連ソフト・周辺機器について
	第2回	2次元CAD	Vectorworks 基本操作
	第3回	〃	〃
	第4回	〃	Vectorworks : 図面作成
	第5回	〃	〃
	第6回	〃	Vectorworks : 地図・地形図
	第7回	〃	Vectorworks : 立体図
	第8回	3次元CAD	SketchUp 作図課題
	第9回	〃	〃
	第10回	〃	SketchUp 応用課題
	第11回	〃	〃
	第12回	〃	〃
	第13回	画像編集	Photoshop
	第14回	関連ソフトの理解	iMovie, Illustrator, GoogleEarth 等
	第15回	まとめ	
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題 (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	建築史	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本及び世界の建築・都市の成り立ちや構成について学び、身近な都市空間に存在する建築物や街並みの構成原理について考える。		
	【概要】ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジアの他、日本の都市空間や建築物について学ぶ。		
	【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに、身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 西村幸夫『都市空間の構想力』学芸出版社, 西田雅嗣『建築の歴史』学芸出版社		
授業スケジュール	第1回	はじめに	鹿児島の都市と建築
	第2回	西洋建築史	古代建築
	第3回	〃	中世建築
	第4回	〃	近世建築
	第5回	日本建築史	古代建築
	第6回	〃	中世建築
	第7回	〃	近世建築
	第8回	西洋・日本建築史	近代建築
	第9回	世界の都市の歴史	ヴェネツィア, ニューヨーク, ロンドン
	第10回	〃	東京, シンガポール, デリー
	第11回	〃	カイロ, イスタンブール, ドバイ
	第12回	世界の都市の公共空間	市場, カフェ, 商店街
	第13回	〃	広場, 浴場, 宗教施設
	第14回	イスラーム地域の都市文化	トルコ・イラン・エジプト
	第15回	まとめ	
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題・レポート (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の追加必修科目

授業科目	CAD設計特講	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義 (演習含む)
テーマ及び概要	【テーマ】「CAD 設計」で習得した作図スキルを応用的に使用する課題に取り組む。本科目は設計製図Ⅲと連動したカリキュラムとなっている。		
	【概要】前半は CAD 関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組み、後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。		
	【到達目標】CAD 及び関連ソフトを複合的に使いこなし、建築物や周辺環境、都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに CAD ソフトとプレゼン関連機器について 第 2 回 CAD と地図データ 地理院地図, GoogleEarth, ゼンリン地図 第 3 回 3DCAD と立体地形 SketchUp 第 4 回 3DCAD と街並み再現 SketchUp 第 5 回 CAD とプレゼンソフト Vectorworks, Photoshop, その他 第 6 回 CAD とプレゼンソフト Vectorworks, iMovie 第 7 回 課題 1 : 平面図 Vectorworks 第 8 回 " " 第 9 回 課題 2 : 立面図・断面図 " 第 10 回 " " 第 11 回 課題 3 : 矩計図 " 第 12 回 " " 第 13 回 課題 4 : 地域分析図 " 第 14 回 " " 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	演習課題の発表・提出 (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の追加必修科目

授業科目	設計製図Ⅲ	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の建築計画、設計手順、図面作成について理解する。本科目は CAD 設計特講と連動したカリキュラムとなっている。		
	【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み、課題文の読解、エスキス方法、要求図面について学ぶ。		
	【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格 (2) 日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 建築士資格と試験、課題文の理解、例題 第 2 回 エスキス課題 1 : 木造 専用住宅 第 3 回 エスキス課題 2 : 木造 店舗併用住宅 第 4 回 エスキス課題 3 : 木造 " 第 5 回 エスキス課題 4 : 鉄骨造 小規模な公共施設 第 6 回 エスキス課題 5 : RC 造 " 第 7 回 作図課題 1 : 木造 店舗併用住宅 : 平面図 第 8 回 " " 第 9 回 作図課題 2 : 木造 店舗併用住宅 : 立面図 第 10 回 " 店舗併用住宅 : 断面図 第 11 回 作図課題 3 : 木造 矩計図 第 12 回 " 矩計図 第 13 回 課題 : 軸組在来工法の理解 軸組模型 第 14 回 " 軸組模型 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	演習課題の提出 (100%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の追加必修科目

授業科目	設計製図Ⅳ	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な規模の建築物を対象とした研究・設計課題に取り組むとともに、地域に根ざした建築や都市の空間構成・形成過程について考え、地域課題の解決を目指した設計提案を試みる。		
	【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し、図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は、前期の成果をもとに地域の課題と向き合い、建築・都市的アプローチによる提案を試みる。		
	【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善、西村幸夫『まちの見方・調べ方』朝倉書店		
授業スケジュール	【前期】		
	第1回～第3回 課題1：建築及び都市研究・製作	事例研究、資料調査、現地調査	
	第4回～第6回 //	地域分析・ディスカッション	
	第7回～第9回 //	地域模型の作成	
	第10回～第12回 //	プレゼン図の作成・発表	
	第13回～第15回 //	各自の研究・制作対象地の調査・研究	
	【後期】		
	第16回～第21回 課題2：建築及び都市研究・製作	構想検討	
	第22回～第27回 //	//	
	第28回～第33回 //	発表・ディスカッション	
	第34回～第39回 //	都市構成図、地域構成図作成	
	第40回～第45回 //	平面図、立面図、断面図、その他図版	
	第46回～第51回 //	模型・プレゼン資料作成	
	第52回～第57回 //	発表資料、プレゼンボード	
	第59回～第60回 //	要旨・発表・論文提出	
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	前期課題の発表・提出 (30%)、後期課題の発表・提出 (70%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の追加必修科目

授業科目	空間デザイン論	担当者	川島 茂
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。		
	【概要】建築、インテリア等の事例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、グループワークを取り混ぜ、プレゼンテーション、講評を実施する。		
	【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜配布 (2) 適宜紹介		
授業スケジュール	第1回	ガイダンス	空間デザインにもとめられるものについて
	第2回	プレゼンテーションと講評-1	狭小住宅課題
	第3回	プレゼンテーションと講評-2	狭小住宅課題
	第4回	20世紀の住宅-1	近代建築の名作住宅の設計
	第5回	20世紀の住宅-2	近代建築の名作住宅の設計
	第6回	20世紀の住宅-3	近代建築の名作住宅の設計
	第7回	透視図法と立体表現	
	第8回	建築設計の実践-1	現代建築の実例から学ぶ設計手法-1
	第9回	建築設計の実践-2	現代建築の実例から学ぶ設計手法-2
	第10回	プレゼンテーションと講評-3	住宅課題
	第11回	プレゼンテーションと講評-4	住宅課題
	第12回	建築の構想と提案-1	設計競技における構想と提案
	第13回	建築の構想と提案-2	設計競技にみる建築家の役割
	第14回	建築の構想と提案-3	設計競技実践事例の解説
	第15回	まとめ・レポート出題	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート・演習 (100%)		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		



授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。            ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。            【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。            【到達目標】課題に対する多様なアイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料 (住居)」丸善            (2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス アイデアコンペについて            第2回 コンペの選定 アイデアコンペに求められるもの            第3回 コンセプトの立案1 アイデアの発案と理論構築-1            第4回 コンセプトの立案2 アイデアの発案と理論構築-2            第5回 コンセプトの立案3 アイデアの発案と理論構築-3            第6回 計画案の立案1 計画案のゾーニング            第7回 計画案の立案2 計画案のプランニング            第8回 計画案の立案3 計画案の立体            第9回 中間講評1 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1            第10回 中間講評2 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2            第11回 計画案の再考 計画案のまとめ・模型作成            第12回 プレゼンシート作成1 プレゼンシートレイアウトと模型作成            第13回 プレゼンシート作成2 プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影            第14回 プレゼンシート作成3 プレゼンシート仕上げ            第15回 講評</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	課題 (100%)						
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務						

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。            ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。            【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。            【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社            (2)</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス プレゼンテーションとは            第2回 プレゼンテーション準備 フォーマットの作成            第3回 プレゼンテーション-1 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1            第4回 プレゼンテーション-2 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2            第5回 プレゼンテーション-3 狭小住宅課題の図面表現            第6回 プレゼンテーション-4 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1            第7回 プレゼンテーション-5 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2            第8回 プレゼンテーション-6 住宅課題の図面表現            第9回 プレゼンテーション-7 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1            第10回 プレゼンテーション-8 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2            第11回 プレゼンテーション-9 ギャラリー課題の図面表現            第12回 プレゼンテーション-10 模型写真            第13回 プレゼンテーション-11 レイアウト-1            第14回 プレゼンテーション-12 レイアウト-2            第15回 まとめ・レポート出題</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	課題提出物 (100%)						
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務						

授業科目	卒業研究C	担当者	川島 茂
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>【概要】 ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、十分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】 将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方</p> <p>第 2 回 ～第 5 回 卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定</p> <p>第 6 回 ～第 12 回 卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定</p> <p>第 13 回 ～第 22 回 卒業研究・設計課題：エスキス、設計</p> <p>第 23 回 ～第 29 回 卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成</p> <p>第 30 回 卒業研究・設計課題：発表</p>		
授業外学習(予習・復習)	ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。		
成績評価の方法	研究および設計の取り組み方、成果物の総合評価とする。		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目  
(専門基礎科目)

授業科目	<b>経済学</b>	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の役割（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014) 『マンキュー入門経済学 [第2版]』 東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第2回 経済学の役割</p> <p>第3回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第4回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策</p> <p>第5回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性</p> <p>第6回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第7回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第8回 マクロ経済学の基礎 (1) GDPの測定</p> <p>第9回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション</p> <p>第10回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第11回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第12回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割</p> <p>第13回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第14回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第15回 全体のまとめ、テスト対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	<b>経済情報論</b>	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	消費者問題		担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次] 1年, 2年 履修可		授業外対応	講義終了時及び適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならぬといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方、消費者の権利と責任</p> <p>第2回 消費者問題と生活問題、現代の生活問題の全体像</p> <p>第3回 消費者問題の時代背景とその後への影響</p> <p>第4回 悪質商法の現状、若者に多い商法</p> <p>第5回 ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方</p> <p>第6回 消費者と契約、消費者法のしくみ</p> <p>第7回 消費者契約法、特定商取引法等</p> <p>第8回 クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状</p> <p>第9回 食に関する安心・安全の動き、食品表示制度</p> <p>第10回 食情報との付き合い方、見極め方</p> <p>第11回 急増する製品事故と法改正</p> <p>第12回 消費者安全と製造物責任法</p> <p>第13回 環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動</p> <p>第14回 消費者市民社会の構築、消費者の責任と自覚</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、復習を重視する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、提出物 (20%)、定期試験 (60%) による総合評価			
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。			

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1,2年履修可		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政的法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 行政法概論 ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</p> <p>第2回 行政立法 ・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</p> <p>第3回 行政行為(1) ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</p> <p>第4回 行政行為(2) ・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</p> <p>第5回 行政指導 ・規制行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について</p> <p>第6回 行政上の強制執行制度 ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</p> <p>第7回 行政手続法 ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</p> <p>第8回 行政不服申立て ・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</p> <p>第9回 行政事件訴訟法(1) ・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</p> <p>第10回 行政事件訴訟法(2) ・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</p> <p>第11回 行政事件訴訟法(3) ・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</p> <p>第12回 国家賠償法(1) ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</p> <p>第13回 国家賠償法(2) ・公の営造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</p> <p>第14回 損失補償 ・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</p> <p>第15回 公物 ・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			

授業科目	経済政策	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次] 1年・2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 貧困、格差、長時間過密労働、賃金抑制、ハラスメント、失業など現代社会問題の原因と対策を考えます。</p> <p>【概要】 私たちの暮らす社会には、貧困、格差、低賃金・長時間・過密労働、ハラスメント、失業などの社会問題があります。これらの問題がなぜ生じるのか？その解決の手段とは何か？経済学の基礎知識を踏まえながら考察します。</p> <p>【到達目標】 労働をめぐる社会問題に対し関心を持ち、その解決に向けて社会を分析する基礎的な力を身につけます。 後期の企業論や労務管理論を受講する人は、この科目を先に履修しておくとう理解しやすくなります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストは使用しません。 (2) 授業にて指示します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 講義の目的と進め方について 第 2回 資本主義と労働 (1) 価値の話 第 3回 (2) お金の話 第 4回 (3) 企業の話 第 5回 (4) 労働の話 第 6回 賃金 (1) 賃金についてのみんなの間違い 第 7回 (2) 時給って？ 第 8回 (3) 出来高給って？ 第 9回 労働時間 (1) 労働時間が延長される理由 第10回 労働時間 (2) 技術革新は働きやすさを生むか？ 第11回 資本主義社会と働く人の立場 第12回 労働時間をめぐる闘争史から考える 第13回 社会政策の誕生と展開 第14回 日本の企業社会がブラック化している理由 第15回 日本の労働問題を改善する方法		
授業外学習(予習・復習)	基礎的な知識の修得には、復習が大切です。社会問題に関心を持ち、ニュース等をよく見ると理解しやすくなります。		
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)		

授業科目	社会思想 (隔年開講)	担当者	渋谷 正	
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義形成期以降の社会思想の変遷を辿る。</p> <p>【概要】 近代市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。</p> <p>【到達目標】 近代市民社会思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを、目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しない。授業中に資料としてプリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 資本主義の形成過程——本源的蓄積 (1)、</p> <p>第 2回 資本主義の形成過程——本源的蓄積 (2)、市民社会思想の端緒——トマス・ホブズ (1)</p> <p>第 3回 市民社会思想の端緒——トマス・ホブズ (2)</p> <p>第 4回 イギリス名誉革命と社会思想</p> <p>第 5回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (1)</p> <p>第 6回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (2)</p> <p>第 7回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (1)</p> <p>第 8回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (2)</p> <p>第 9回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (1)</p> <p>第10回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (2)</p> <p>第11回 市民社会批判の思想——カール・マルクス (1)</p> <p>第12回 市民社会批判の思想——カール・マルクス (2)</p> <p>第13回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (1)</p> <p>第14回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70 パーセント) + レポート (30 パーセント)			

授業科目	民法	担当者	疋田 京子	
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法入門</p> <p>商法や労働法など市場経済の一般法であり、契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法である民法を知る。</p> <p>【概要】明治29年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石川正樹『民法のツボとコツがゼッタイわかる本』秀和システム</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは</p> <p>第 2回 民法の基本構造：財産法と家族法</p> <p>第 3回 法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定</p> <p>第 4回 法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則</p> <p>第 5回 成人年齢が18歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力</p> <p>第 6回 父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権利能力・意思能力・行為能力</p> <p>第 7回 権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全</p> <p>第 8回 権利の対象とすることができるのは？：権利の客体/物の概念</p> <p>第 9回 善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度</p> <p>第10回 契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件</p> <p>第11回 契約どおりにならなかったら？：契約違反とその解決方法</p> <p>第12回 言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力</p> <p>第13回 損害賠償が求められる場合とは：不法行為</p> <p>第14回 「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習に重点を置いて、よく理解できなかったところを質問してください。			
成績評価の方法	2回のレポート(中間レポートと最終レポート)の提出。			

授業科目	商法	担当者	河野 総史
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了後またはメールにて対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法分野のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2 回 会社法総論</p> <p>第 3 回 会社の種類</p> <p>第 4 回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5 回 株式②（株式の譲渡および譲渡制限等）</p> <p>第 6 回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7 回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8 回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9 回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10 回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11 回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12 回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13 回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14 回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15 回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社） 総まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。		
成績評価の方法	期末テスト 80 パーセント、小テスト 20% とし、全体で 60% 以上を合格とする。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2 年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Web でも公開</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4 回 ヒューマンインターフェイス 1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5 回 ヒューマンインターフェイス 2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8 回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例</p> <p>第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11 回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12 回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13 回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14 回 ころろをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%、出席・授業中のショートレポートが 20%		



授業科目	会計学総論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1年, 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学という学問領域を道案内し、複式簿記会計の基礎力を涵養する</p> <p>【概要】 本講義を開講する目的はおおよそ次の二つです。  ① 複式簿記の原理と財務会計の基本原則を理解すること  ② 会計科目の相互の関連を解説すること</p> <p>本講義では、商経学科で開講されている簿記会計科目である「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算」「会計情報論」などの科目群の関係を簡単に紹介するとともに、複式簿記会計の基礎知識をできるだけ具体的な事例を用いて解説し、基礎力の定着を図ります。また、受講後も会計科目について円滑に学習を継続できるように指導します。</p> <p>【到達目標】 会計学という学問領域の全体像をつかみ、複式簿記会計の基礎を理解すること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを随時配布。 (2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』(第6版), 同文館出版。 永野則雄『ケースブック会計学入門』(第4版), 新世社。			
授業スケジュール	第1回 会計学への誘い：会計の意義と役割 第2回 会計の基礎(1)：貸借対照表と損益計算書 第3回 会計の基礎(2)：会計公準と会計基準 第4回 複式簿記の基本原則(1)：簿記の意義と目的 第5回 複式簿記の基本原則(2)：記帳原則、損益計算の仕組み 第6回 複式簿記の基本原則(3)：仕訳帳と元帳、試算表の作成 第7回 複式簿記の基本原則(4)：精算表の作成、決算手続 第8回 商品売上の会計：実現原則、発生原則、対応原則 第9回 資産の会計(1)：流動資産 第10回 資産の会計(2)：有形固定資産と無形固定資産 第11回 資金調達の会計：負債と資本 第12回 財務諸表の利用：収益性分析と安全性分析 第13回 会計とマネジメント：会計の経営意思決定への役立ち 第14回 会計と会計職業：公認会計士と税理士の役割 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	中間レポート(40%) + 期末試験(60%)			

会計科目の履修順序(初学者向け)  
1年前期：会計学総論  
1年後期：簿記論Ⅰ  
簿記論Ⅱ  
財務会計論  
2年前期：原価計算  
会計情報論  
2年後期：管理会計論

授業科目	簿記論Ⅰ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1年, 2年		授業外対応	[履修年次]
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商業簿記の基礎</p> <p>【概要】 初学者を対象として、複式簿記における取引の仕訳・転記、補助簿の記入、決算までの簿記一巡の手続きを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 簿記上の取引を仕訳・転記し、決算の概要を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子(編)『新検定 簿記ワークブック3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 (2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』(第6版), 同文館出版。			
授業スケジュール	第1回 複式簿記への誘い：講義概要の説明、履修登録の確認 第2回 簿記の意義としくみ：テキスト第1章 第3回 仕訳と転記：テキスト第2章 第4回 仕訳帳と元帳(1)：テキスト第3章 第5回 仕訳帳と元帳(2)：テキスト第3章 第6回 決算(1)：テキスト第4章 第7回 決算(2)：テキスト第4章 第8回 決算(3)：テキスト第4章 第9回 グループワーク(1)：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第10回 グループワーク(2)：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第11回 現金と預金：テキスト第5章 第12回 繰越商品・仕入・売上(1)：テキスト第6章 第13回 繰越商品・仕入・売上(2)：テキスト第6章 第14回 問題演習：簿記一巡の手続き 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。			
成績評価の方法	期末試験(100%)			

会計科目の履修順序(初学者向け)  
1年前期：会計学総論  
1年後期：簿記論Ⅰ  
簿記論Ⅱ  
財務会計論  
2年前期：原価計算  
会計情報論  
2年後期：管理会計論

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[単位] 2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第7回 人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第8回 人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。</p> <p>第9回 人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。</p> <p>第10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第12回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。</p> <p>第13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可	[学期] 後期	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第8回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第9回 周辺機器1：モニター、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第10回 周辺機器2：プリンタ、ハブ、ルータなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第11回 クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第12回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第14回 インターネットの国際比較：普及率、使用法と地域、国の情勢</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	文書作成実習（経済専攻）		担当者	永仮 ゆかり																																													
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																													
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位																																													
			〔必修/選択〕	選択																																													
			〔授業形態〕	実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC 検定文書作成3級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) プリント</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>前期の復習</td><td>: 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 詫言状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 課題文書作成（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>検定対策（3 級）</td><td>: 文書作成 3 級検定模擬問題演習</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>Excel データの利用</td><td>: Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>文書の編集</td><td>: いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>報告書の作成</td><td>: 課題文書作成（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>議事録の作成</td><td>: 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>稟議書の作成</td><td>: 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	前期の復習	: 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）	第 2 回	検定対策（3 級）	: 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）	第 3 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）	第 4 回	検定対策（3 級）	: 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）	第 5 回	検定対策（3 級）	: 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）	第 6 回	検定対策（3 級）	: 詫言状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）	第 7 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）	第 8 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）	第 9 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習	第 10 回	Excel データの利用	: Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定	第 11 回	文書の編集	: いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）	第 12 回	報告書の作成	: 課題文書作成（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）	第 13 回	議事録の作成	: 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）	第 14 回	稟議書の作成	: 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）	第 15 回	まとめ	
第 1 回	前期の復習	: 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）																																															
第 2 回	検定対策（3 級）	: 社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）																																															
第 3 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）																																															
第 4 回	検定対策（3 級）	: 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）																																															
第 5 回	検定対策（3 級）	: 企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）																																															
第 6 回	検定対策（3 級）	: 詫言状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）																																															
第 7 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）																																															
第 8 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）																																															
第 9 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習																																															
第 10 回	Excel データの利用	: Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定																																															
第 11 回	文書の編集	: いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）																																															
第 12 回	報告書の作成	: 課題文書作成（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）																																															
第 13 回	議事録の作成	: 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）																																															
第 14 回	稟議書の作成	: 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示																																																
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）+授業ごとに実施する課題（30%）																																																
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練パソコン講座の講師																																																

(注) 経済専攻

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治																														
	〔履修年次〕	1,2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応																														
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2																														
			〔必修/選択〕	選択																														
			〔授業形態〕	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なデータ処理を行う</li> <li>・相関関係について理解する</li> <li>・検定について理解する</li> </ul>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク</p>																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>序論：統計学とは</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>データの基本処理：平均値、度数分布</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>データの基本処理：標準正規分布</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>データの基本処理：正規分布</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>データの基本処理：正規分布と偏差値</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>データの基本処理：確率分布</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>統計解析：相関係数</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>統計解析：回帰直線</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>統計解析：カイ 2 乗検定</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>統計解析：平均値の推定</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>統計解析：平均値の検定</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>統計解析：比率の推定と検定</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>統計解析：ベイズ統計学</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>統計解析：分散分析</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>				第 1 回	序論：統計学とは	第 2 回	データの基本処理：平均値、度数分布	第 3 回	データの基本処理：標準正規分布	第 4 回	データの基本処理：正規分布	第 5 回	データの基本処理：正規分布と偏差値	第 6 回	データの基本処理：確率分布	第 7 回	統計解析：相関係数	第 8 回	統計解析：回帰直線	第 9 回	統計解析：カイ 2 乗検定	第 10 回	統計解析：平均値の推定	第 11 回	統計解析：平均値の検定	第 12 回	統計解析：比率の推定と検定	第 13 回	統計解析：ベイズ統計学	第 14 回	統計解析：分散分析	第 15 回	まとめ
第 1 回	序論：統計学とは																																	
第 2 回	データの基本処理：平均値、度数分布																																	
第 3 回	データの基本処理：標準正規分布																																	
第 4 回	データの基本処理：正規分布																																	
第 5 回	データの基本処理：正規分布と偏差値																																	
第 6 回	データの基本処理：確率分布																																	
第 7 回	統計解析：相関係数																																	
第 8 回	統計解析：回帰直線																																	
第 9 回	統計解析：カイ 2 乗検定																																	
第 10 回	統計解析：平均値の推定																																	
第 11 回	統計解析：平均値の検定																																	
第 12 回	統計解析：比率の推定と検定																																	
第 13 回	統計解析：ベイズ統計学																																	
第 14 回	統計解析：分散分析																																	
第 15 回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																	
成績評価の方法	期末試験（100%）																																	

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ		
	【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。		
	【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成4：ページ公開 第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(3つの課題を総合的に評価)		

授業科目	PCデータ活用(経済専攻)	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用		
	【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。		
	【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2016 (Windows10 対応) 実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 習熟度確認アンケート Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用(カウント・端数処理など) 第 6回 データ処理：関数の利用(条件の判定・論理関数など) 第 7回 データ処理：関数の利用(順位づけ・VLOOKUP など) 第 8回 各関数を利用した実習問題 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど) 第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など) 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など) 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計(並べ替え・抽出 ほか) 第 14回 データの集計(ピボットテーブル) 第 15回 前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験(60%) + 小テスト(30%) + 授業で課せられる課題や宿題の提出状況(10%)		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	PCデータ活用実習 (経済専攻)		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間でマスター Excel2016 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト (実技問題・知識科目問題)</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題や宿題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、基本的に前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーIIで扱えなかった各種アプリケーション (プレゼンテーション、PDFファイル、OCR、動画編集、HP作成など) の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。</p> <p>【到達目標】 上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (1)</p> <p>第2回 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (2) 第1回課題</p> <p>第3回 スマートフォンアプリとの連携 授業アンケート (授業の要望及び取り組みたいアプリの希望など)</p> <p>第4回 動画ファイルの扱い方…動画作成・編集ソフト</p> <p>第5回 動画ファイルの扱い方…動画の撮影、編集</p> <p>第6回 動画ファイルの扱い方…動画の編集 第2回課題</p> <p>第7回 PDFファイルの扱い方…スキャナーとOCRの利用：画像文書からテキストへ</p> <p>第8回 PDFファイル (ソフトウェア Adobe Acrobat) の扱い方…文書ファイルの統合</p> <p>第9回 PDFファイル (ソフトウェア Adobe Acrobat) の扱い方…セキュリティ設定</p> <p>第10回 Windows パソコンの知っておくと便利な機能</p> <p>第11回 ホームページの作成 (1)</p> <p>第12回 ホームページの作成 (2)</p> <p>第13回 ホームページの作成 (3) 第3回課題</p> <p>第14回 アンケートで学生が希望したアプリへの対応</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	3回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と実技試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	パソコン講師歴20年以上、実務翻訳業20年 (鹿児島商工会議所会員)			

## 11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 現在の日本経済の特徴と課題について自分の見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導：勸告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義前後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討すること, 普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目することを勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】 まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そして, グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めることになります。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない政治の経済に対する影響についても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】 ①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになること ④経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 宇波弘貴編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等</p> <p>第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等</p> <p>第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等</p> <p>第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等</p> <p>第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等</p> <p>第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等</p> <p>第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等</p> <p>第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースについても)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		



授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島農村景観</p> <p>第2回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第3回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第4回 日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第5回 日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第6回 日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第7回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第8回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第9回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第10回 農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業</p> <p>第11回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法</p> <p>第12回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携</p> <p>第13回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第14回 都市住民の農業：市民農園、体験農園、自家菜園</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	金融論		担当者	衣川 恵	
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融に関する基礎知識を習得するとともに、金融が経済や生活に及ぼす影響などについて考えます。</p> <p>【概要】通貨の形態が進化しており、金融システムも変化しつつあります。従来の金融制度を理解するとともに、新たな金融の仕組みや金融政策について学習し、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な知識を習得し、身の回りの金融に関する出来事を理解し、説明できるようになること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島村高嘉・中島真志『金融読本』(第28版) 東洋経済新報社 衣川恵『日本のデフレ』日本経済評論社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：(1) 講義の目標・進め方。(2) 円の誕生から電子マネーまで</p> <p>第2回 金本位制と管理通貨制：貨幣制度の発展、兌換銀行券と不換銀行券</p> <p>第3回 中央銀行と金融政策：中央銀行の役割と金融政策の手段</p> <p>第4回 銀行の役割と信用創造：銀行の預金・貸出業務と流通通貨量・景気の相互連関</p> <p>第5回 間接金融と直接金融：企業の資金調達方式の違いと経済に及ぼす影響</p> <p>第6回 金融ビッグバン：護送船団方式からの転換</p> <p>第7回 株式市場：株式市場の役割、株式売買の仕組み</p> <p>第8回 証券会社の役割：株式、債券の取り扱い業務</p> <p>第9回 日本のバブル：プラザ合意、金融政策の失敗、資産バブル</p> <p>第10回 日本のデフレ：まれにみる長期デフレの謎を探る</p> <p>第11回 インフレターゲットを巡る論争：リフレ派と反リフレ派の考え方</p> <p>第12回 日本銀行のデフレ対応：ゼロ金利政策からマイナス金利政策まで</p> <p>第13回 地方金融機関と中小企業振興：銀行、信用金庫、リレーションシップ・バンキング</p> <p>第14回 ファイナンシャル・プランナーの概要：生活に役立つFP3級の金融知識</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習を十分に行ってください。学習した知識を使って金融や経済のニュースの内容について考えてみましょう。				
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + ミニツツペーパー (10%)				

授業科目	経済学史	担当者	非常勤未定
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	経済学特講 I	担当者	未定
	[履修年次] 2年次が望ましい [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	経済学特講Ⅱ		担当者	山口 祐司	
	[履修年次] 1, 2年	[学期] 前期	[単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
			[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 歴史的な視野をもって、科学・技術や文化、国際的な政治経済関係といった点からアメリカ経済の実像を学んでいきます。</p> <p>【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。戦後アメリカ経済の圧倒的優位を準備した、20世紀前半の特質（第2～4回）。「パクス・アメリカーナ」と呼ばれる、アメリカ主導による資本主義経済社会の繁栄（第5～7回）。1970年代ころからはじまる「新自由主義」に基づくアメリカ経済の革新（第8～11回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題（第12～13回）。今後のアメリカ経済のゆくえ（第14回）。以上の流れでアメリカ経済を概観する。</p> <p>【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。世界経済との関係を意識し、アメリカ経済の相対的位置を把握すること。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 戦後アメリカ経済の背景（1）大量生産体制</p> <p>第3回 戦後アメリカ経済の背景（2）大恐慌とニューディール</p> <p>第4回 戦後アメリカ経済の背景（3）第二次世界大戦と戦時経済システム</p> <p>第5回 パクス・アメリカーナ（1）第二次世界大戦後のパクス・アメリカーナの基本構造の確立</p> <p>第6回 パクス・アメリカーナ（2）繁栄の1950-60年代とパクス・アメリカーナ</p> <p>第7回 パクス・アメリカーナ（3）1970年代におけるパクス・アメリカーナの限界</p> <p>第8回 新自由主義の興隆（1）1980年代の「レーガノミクス」と金融的発展</p> <p>第9回 新自由主義の興隆（2）戦後企業体制の転換</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（3）1990年代の「ニューエコノミー」</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（4）IT・バイオを中心とした技術革新</p> <p>第12回 新自由主義の帰結（1）金融経済化とリーマンショック</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（2）アメリカにおける格差問題</p> <p>第14回 これからのアメリカ経済のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）				

授業科目	法学特講		担当者	疋田 京子	
	[履修年次] 1年, 2年	[学期] 後期	[単位] 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
			[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダー法学入門</p> <p>日本の国内法だけでなく国際社会におけるあらゆる法の領域をジェンダーの視点から概観する。</p> <p>【概要】国際社会ではLGBTIに関する国連決議が出る一方で、テロ活動が過激化するなかで「女性に対する暴力」もし烈になり、国内ではDV防止法や刑法の改正、嫡出子相続差別やマタニティ・ハラスメントなどに関する最高裁判決など、家族法・労働法に関する重要な判決が出ています。こうしたジェンダーに関わる法や判例、社会変化を講義します。</p> <p>【到達目標】 人格の中核にあるセクシュアリティと社会のジェンダー規範が密接に関係していることを、国連における決議や条約、国内法の改正の議論や判例を概観することによって理解することを目指します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 三成・笹沼・立石・谷川著『ジェンダー法学入門【第2版】』法律文化社</p> <p>(2) 江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著50』平凡社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：ジェンダー法学の基礎知識</p> <p>第2回 ジェンダー主流化にむけて（1）国際社会の動向とジェンダー主流化の展開</p> <p>第3回 ジェンダー主流化にむけて（2）人権とジェンダー</p> <p>第4回 身体と性（1）女性に対する暴力</p> <p>第5回 身体と性（2）セクシュアル・ハラスメント</p> <p>第6回 身体と性（3）性的自己決定権の侵害と性差別</p> <p>第7回 身体と性（4）売買春と人身取引</p> <p>第8回 身体と性（5）性と生殖の権利</p> <p>第9回 親密圏（1）家族形態の多様化と法：家族法とその課題</p> <p>第10回 親密圏（2）グローバル化時代の離婚をめぐる諸問題</p> <p>第11回 親密圏（3）生殖補助医療と親子関係</p> <p>第12回 親密圏（4）DV防止法の仕組み/ストーカー規制法/児童虐待防止法</p> <p>第13回 労働者保護の基本的なしくみ</p> <p>第14回 雇用における差別と労働者保護から排除される労働者</p> <p>第15回 まとめ：ワーク・ライフ・バランス</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義で紹介した本を、一冊は読んでみてください。				
成績評価の方法	毎回の小レポート（30%）と学期末に1回レポート（70%）を課します。				

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	[履修年次] 選択
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ</p> <p>【概要】本講義は、簿記論Ⅰをふまえて、諸取引の仕訳・転記に加えて、決算手続と財務諸表の作成について学ぶ。</p> <p>【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記講義3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記ワークブック3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 神戸大学会計学研究室 『会計学基礎論』(第6版), 同文館出版。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 売掛金と買掛金：テキスト第7章 第2回 その他の債権と債務：テキスト第8章 第3回 有形固定資産：テキスト第9章 第4回 貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第10章 第5回 資本：テキスト第11章 第6回 収益と費用（1）：テキスト第13章 第7回 収益と費用（2）：テキスト第14章 第8回 税金：第14章 第9回 伝票（1）：テキスト第15章 第10回 伝票（2）：テキスト第15章 第11回 財務諸表（1）：テキスト第16章 第12回 財務諸表（2）：テキスト第16章 第13回 財務諸表（3）：テキスト第16章 第14回 問題演習：決算整理事項を中心に 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。		
成績評価の方法	期末試験 (100%)		

<p>会計科目の履修順序 (初学者向け)</p> <p>1年前期：会計学総論</p> <p>1年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論</p> <p>2年前期：原価計算 会計情報論</p> <p>2年後期：管理会計論</p>
---

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK、予約不要。
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものをつくる」とはどういうことか〜新興国で考える【部品調達編】〜</p> <p>【概要】モノづくりの三つの柱 (①企画・設計、②生産、③部品調達) のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタIMVを事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第5章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。</p> <p>【到達目標】トヨタで最も売れているIMVは、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文真堂 (2) 同上『トヨタの新興国車IMV』同上</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 国際経済・貿易 (輸出と輸入) 関税と企業の部品・原材料調達 第2回 関税WTO、FTAと企業の部品・原材料調達 第3回 IMVに見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達 第4回 LSP、MSP、JSPと系列調達&amp;非系列調達① 第5回 LSP、MSP、JSPと系列調達&amp;非系列調達② 第6回 アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化 第7回 アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出1回目 第8回 アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出2回目 第9回 アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出3回目 第10回 アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出4回目 第11回 南米では系列外との取引① 第12回 南米では系列外との取引② 第13回 南米では系列外との取引③：TASAの事例 第14回 南米では系列外との取引④：TDVの事例 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみてください。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	国際立地論 (隔年開講)	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK、予約不要。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものをつくる」とはどういうことか～新興国で考える【生産編】～</p> <p>【概要】モノづくりの三つの柱 (①企画・設計、②生産、③部品調達) のうち、②の生産について、新興国で世界一売れているトヨタ IMV を事例に説明する。全体を①新興国でのモノづくり (生産) に関する論点、②グローバル供給態勢、③多車種多仕様生産の問題と解決、の三つに分けて説明する。テキスト第2篇を用いて説明する。なお、テキストは国際経済論で第3篇を、アジア経済論で第1篇を説明するので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。</p> <p>【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているかを理解することを通じて、新興国でのモノづくり (生産) について一般的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂</p> <p>(2) 同上『トヨタの新興国適応』同上</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 新興国でのモノづくり (生産) に関する論点1回目</p> <p>第2回 新興国でのモノづくり (生産) に関する論点2回目</p> <p>第3回 グローバル供給態勢の変化1回目</p> <p>第4回 グローバル供給態勢の変化2回目</p> <p>第5回 グローバル供給態勢の変化3回目</p> <p>第6回 製造拠点の概要①: IMV 生産 11カ国 12工場調査</p> <p>第7回 製造拠点の概要②: 11カ国 12拠点の概要1回目</p> <p>第8回 製造拠点の概要③: 11カ国 12拠点の概要2回目</p> <p>第9回 多車種多仕様生産の問題と解決①: IMV における混流の状況</p> <p>第10回 多車種多仕様生産の問題と解決②: 工数差の大きな車を混流しても手待ちのムダが出ない工夫</p> <p>第11回 多車種多仕様生産の問題と解決③: SPS による TPS の進化</p> <p>第12回 多車種多仕様生産の問題と解決④: 内部労働市場と純レント</p> <p>第13回 第2世代 IMV へのグローバル切り替え</p> <p>第14回 IMV が開いたグローバル生産の新段階と進化</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	研究室 (2号館3階) で対応、いつでもOK、予約不要。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売れるモノ、儲かるものをつくる」とはどういうことか、アジアの新興国を中心に【製品開発】に焦点を当てて考えます。アジアは日本、韓国、台湾を除いて、まだまだ貧しい人々の多い地域です。貧しい庶民はまだ高価な耐久消費財、特に車を買うことはできません。他方で人口の数%ではあるが日本より豊かな富裕層も存在する。人口の多い、インド (13億人、世界第2位) では富裕層が1割でも日本の総人口に匹敵する。インドネシア (2億5千万人、世界第4位) では同じく2500万人で日本の4分の1になる。高級品だけでも相当数が売れる。他方で21世紀以降、特にインド、ブラジルでは庶民層の中で車に手の届く人も出てきた。こうした新興国の現状に自動車メーカーはどう立ち向かっているか、トヨタを例に解説していきます。</p> <p>【概要】新興国は先進国と比べて富裕層と庶民の所得格差が大きい。20世紀まで車を買うのは限られた富裕層だけで大多数の庶民は車を買えなかった。車を買うのが富裕層だけなら価格は高くても良いのだが、新興国は道路事情が悪く、ベンツ、BMW等の先進国的高级車では快適でなく、雨季には洪水で走れないこともあった。そこで新興国の道路事情でも快適に走れる高級車が求められることになり、トヨタはIMVという新興国専用的高级車を開発して大成功を収めた。本講義の半分は、この大成功を収めたIMVについて説明する。他方で、21世紀に入って以降、庶民層の中にも「安ければ車を買える」人々が現れた。特に、インド、ブラジルで「安い車なら買える人々」が多数を占めるようになり、スズキやドイツのフォルクスワーゲンが低価格帯で大きな成功を収めた。しかし、トヨタは低価格車の開発に取り組んだものの苦戦が続いている。本講義のもう半分は低価格帯の動向を説明する。全体を通じてテキストを用いて説明する。</p> <p>【到達目標】アジアの主要国の現状と、そこでのビジネスの狙いを学びます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂</p> <p>(2) 同上『トヨタの新興国車 IMV』同上</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極化デュアルルーチンへの進化～①</p> <p>第2回 新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極化デュアルルーチンへの進化～②</p> <p>第3回 新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極化デュアルルーチンへの進化～③</p> <p>第4回 インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用したLCGC開発の成功と限界～①</p> <p>第5回 インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用したLCGC開発の成功と限界～②</p> <p>第6回 スズキ45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～①</p> <p>第7回 スズキ45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～②</p> <p>第8回 スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～①</p> <p>第9回 スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～②</p> <p>第10回 南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化～日系Tier1の少ない南米でも日系並みを実現～①</p> <p>第11回 南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化～日系Tier1の少ない南米でも日系並みを実現～②</p> <p>第12回 新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～①</p> <p>第13回 新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～②</p> <p>第14回 新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～③</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	外国貿易論（隔年開講）	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1年, 2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版（有斐閣アルマ）</p> <p>(2) 講師配付プリント（毎回配付）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 海外直接投資と労働の国際移動</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%）		
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験（外貨資金取引・貿易投資相談業務など）、AIBA 認定貿易アドバイザー		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から世界を見る』（成文堂、2020年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス（1）</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあらわれている。本講義では、そうした他者とのような&lt;関係性=コミュニケーション&gt;を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ—自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会（1）：異文化コミュニケーションの実践1</p> <p>第14回 異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			

(注) 文学科に合同

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。			

授業科目	国際経済特講 I	担当者	村田 秀博
	[履修年次] 1, 2年生 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	授業終了後 E メールにて
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済・地域経済のグローバル化と、鹿児島県内中小企業の海外進出、それに伴う貿易取引について</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で、企業活動を海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとしたり、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、方法論を考え国際感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】日本国内特に県内での様々なグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ、プリント資料、映像</p> <p>(2) 必要に応じて、随時資料を追加配布する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・外国人労働力受け入れ）</p> <p>第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第 3 回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 4 回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 5 回 海外知的財産権の保護、県内大学生の海外展開</p> <p>第 6 回 外国人労働力の受け入れ、メディカルツアーの誘致</p> <p>第 7 回 進出国の情勢比較（台湾・タイ・ベトナム）</p> <p>第 8 回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）</p> <p>第 9 回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシア他）</p> <p>第 10 回 貿易実務（自由貿易協定。TPP・FTA 他）</p> <p>第 11 回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物為替予約）</p> <p>第 12 回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付）</p> <p>第 13 回 貿易実務（輸入）</p> <p>第 14 回 貿易実務（輸出）</p> <p>第 15 回 まとめ、試験</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 50%+レポート 50%		
実務経験について	信用金庫に勤務、海外ビジネスの専門家		

授業科目	国際経済特講 II (隔年開講)	担当者	野村俊郎、細川 薫、山本 肇、伊原保守
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 集中講義 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売上 28 兆円、純利益 2 兆円の製品企画&amp;設計の秘密～細川薫トヨタ自動車チーフエンジニア（CE）に聞く～</p> <p>【概要】細川薫トヨタ自動車 CE にトヨタの製品企画・開発の現場について聞く。細川 CE は新興国専用車 IMV の担当のため、IMV が投入されているタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの市場動向について山本肇氏に解説して頂く。</p> <p>【到達目標】「売れるモノ」「儲かるモノ」の企画、設計の秘訣を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	<p>第 1 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の企業トヨタ（野村俊郎）：グローバル競争とトヨタ</p> <p>第 2 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密①（同上）：グローバル競争を勝ち抜く商品力の創造→企画と設計のルーチン</p> <p>第 3 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密②（同上）：グローバル競争を勝ち抜く原価低減→開発・製造・調達のルーチン</p> <p>第 4 回 トヨタの企画・設計の現場と売れる秘密、儲かる秘密①（細川）</p> <p>第 5 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密②（同上）</p> <p>第 6 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密③（同上）</p> <p>第 7 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密④（同上）</p> <p>第 8 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密⑤（同上）</p> <p>第 9 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密⑥（同上）</p> <p>第 10 回 タイの自動車産業～アセアンのハブ（同上）マレーシアの政治・経済（山本）</p> <p>第 11 回 インドネシアの自動車産業～アセアン最大市場の行方（同上）</p> <p>第 12 回 フィリピンの自動車産業（同上）</p> <p>第 13 回 マレーシアの自動車産業～国民車政策の行方（同上）</p> <p>第 14 回 ベトナムの自動車産業（同上）</p> <p>第 15 回 燃費、排ガス、安全規制と新興国者（同上）</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使得、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		



授業科目	地域経済論	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第 2回 都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第 3回 都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第 4回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第 5回 中心地理論：商業形態の発展と変化、第3次産業地域論</p> <p>第 6回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第 7回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第 8回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第 9回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第 10回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第 11回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第 12回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第 13回 地域連携（1）：地域内連携、地域間連携</p> <p>第 14回 地域連携（2）：異業種間連携</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地域産業政策	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 (授業形態) 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。</p> <p>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学ぶが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：講義の目標</p> <p>第 2回 政策的要因（1）：国土総合開発法、全国総合開発計画、新全国総合開発計画</p> <p>第 3回 政策的要因（2）：第三次全国総合開発計画、第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のランドデザイン</p> <p>第 4回 地域間格差の現状（1）：人口、産業、所得</p> <p>第 5回 地域間格差の現状（2）：ライフコースと人口移動</p> <p>第 6回 地域間格差の現状（3）：地域社会、生活</p> <p>第 7回 地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併</p> <p>第 8回 地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生</p> <p>第 9回 地域活性化の取り組み事例（1）：大都市地域</p> <p>第 10回 地域活性化の取り組み事例（2）：都市地域</p> <p>第 11回 地域活性化の取り組み事例（3）：工業地域</p> <p>第 12回 地域活性化の取り組み事例（4）：農村地域</p> <p>第 13回 地域活性化の取り組み事例（5）：観光業地域</p> <p>第 14回 地域の発展を考える：鹿児島を事例に</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地方財政論 (隔年開講)	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論, 日本の地方財政制度の内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か, 日本の国と地方団体との関係(政府間関係)の特徴について解説し, それを踏まえて日本の地方財政制度について講義します。ここでは, 地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など, 地方財政に改革が求められている背景, そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し, 説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し, 判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し, その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第2回 地方自治: 定義, 地方政府の特徴, 地方分権が求められる背景, グローバル化の影響等 第3回 地方の予算(1): 予算の役割, 地方予算の特徴, 中央と地方の相互依存関係等 第4回 地方の予算(2): 日本の制度の特徴, 課題, 日本の政府間関係の特徴の影響, 三位一体の改革等 第5回 地方の決算: 定義, 日本の制度と問題点, 外部監査, 市民オンブズマン等 第6回 地方の経費(1): 定義, 主な分類とその見方, 都道府県と市町村の違い等 第7回 地方の経費(2): 義務的経費と投資的経費, その問題点等 第8回 地方の事務: 機関委任事務廃止までの経緯, 自治事務と法定受託事務等 第9回 国庫支出金(1): 補助金の分類, 国庫支出金とは, 求められる役割, 補助金制度において配慮すべき原則等 第10回 国庫支出金(2): 実態, 問題点等 第11回 地方交付税(1): 財政調整制度とは, 地方交付税の制度等 第12回 地方交付税(2): 機能, 問題点等 第13回 地方債: 定義, 適債事業, 2006年度からの変化等 第14回 住民自治: シアトル・メトロの事例について 第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	非営利組織論 (隔年開講)	担当者	丸田 真悟
	[履修年次] 1,2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織(NPO)の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】非営利組織(NPO)は, 医療・福祉から街作り, 学術・文化・芸術, 国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み, その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に, 現代日本社会におけるNPOの役割と課題, これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し, 現代社会におけるNPOの役割と課題, 可能性を考える基盤を養います。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用 (2) 澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣(2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣(2009)ほか随時紹介していきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織(NPO)とは何か 「非営利」の意味, NPOの定義について考えます。 第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。 第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。 第4回 NPOの世界 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。 第5回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。 第6回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」と「パートナーシップ」について考えます。 第7回 NPOのマネジメント① NPOの経営管理について考えます。 第8回 NPOのマネジメント② NPOの経営戦略を考えます。 第9回 NPOのマネジメント③ NPOの評価手法を考えます。 第10回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度を考えます。 第11回 〈WS〉NPOをつくる① 具体的にNPOを考え, 立ち上げる実習です。 第12回 〈WS〉NPOをつくる② 具体的にNPOを考え, 立ち上げる実習です。 第13回 〈WS〉NPOをつくる③ 具体的にNPOを考え, 立ち上げる実習です。 第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(70%) + 授業ごとに実施する小論文(30%)		
実務経験について	認定NPO法人理事長		

授業科目	<b>労働法</b>	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現のための基礎知識</p> <p>2019年4月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『知らなきゃトラブル！ 労働基準関係法の要点』（全国労働基準関係団体連合会）</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：「マタハラ」って何？</p> <p>第2回 労働法の全体像：憲法・民法と労働法との関係</p> <p>第3回 労働契約の成立：労働者の募集・採用と内定取り消し</p> <p>第4回 労働法上の「労働者」「使用者」の概念：プロ野球選手は「労働者」？</p> <p>第5回 労働契約の内容はどうやって決まる？：労働契約と就業規則と労働協約の関係</p> <p>第6回 労働法の基本原則：労働契約で定めてはいけないことがある</p> <p>第7回 賃金についてのルール：賃金支払いのルール</p> <p>第8回 労働時間の基本的ルール（1）：所定労働時間と法定労働時間</p> <p>第9回 労働時間の基本的ルール（2）：罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか？</p> <p>第10回 労働時間と賃金（1）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？</p> <p>第11回 労働時間と賃金（2）：変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう</p> <p>第12回 労働時間制の多様化：フレックスタイム制・裁量労働制とは？</p> <p>第13回 年次有給休暇：パートタイム労働者には年休権がない？</p> <p>第14回 ワークライフバランスの実現に向けて：産前・産後休業／育児・介護休業と均等法</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとしてください		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出。		

授業科目	<b>地域研究特講</b>	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1）</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2）</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1）</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2）</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3）</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。		

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1,2年履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1 回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について	
	第 2 回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素 (住民、区域、法人格)、都道府県、市町村について	
	第 3 回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、法手受託事務について	
	第 4 回	住民の権利義務(1)	・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について	
	第 5 回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について	
	第 6 回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について	
	第 7 回	条例と規則(2)	・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について	
	第 8 回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について	
	第 9 回	議会(2)	・定例会、臨時会、議会の運営、会議公開の原則、会期不継続の原則について	
	第 10 回	執行機関(1)	・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について	
	第 11 回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について	
	第 12 回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について	
	第 13 回	長と議会との関係(1)	・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について	
	第 14 回	長と議会との関係(2)	・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散、再度の不信任議決について	
	第 15 回	予算	・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について	
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			

## 12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	[履修年次] 選択
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ</p> <p>【概要】本講義は、簿記論Ⅰをふまえて、諸取引の仕訳・転記に加えて、決算手続と財務諸表の作成について学ぶ。</p> <p>【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記講義3級 商業簿記』 (令和2年版), 中央経済社。 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記ワークブック3級 商業簿記』 (令和2年版), 中央経済社。 神戸大学会計学研究室 『会計学基礎論』 (第6版), 同文館出版。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 売掛金と買掛金：テキスト第7章 第2回 その他の債権と債務：テキスト第8章 第3回 有形固定資産：テキスト第9章 第4回 貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第10章 第5回 資本：テキスト第11章 第6回 収益と費用（1）：テキスト第13章 第7回 収益と費用（2）：テキスト第14章 第8回 税金：第14章 第9回 伝票（1）：テキスト第15章 第10回 伝票（2）：テキスト第15章 第11回 財務諸表（1）：テキスト第16章 第12回 財務諸表（2）：テキスト第16章 第13回 財務諸表（3）：テキスト第16章 第14回 問題演習：決算整理事項を中心に 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>会計科目の履修順序（初学者向け）</p> <p>1年前期：会計学総論</p> <p>1年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論</p> <p>2年前期：原価計算 会計情報論</p> <p>2年後期：管理会計論</p> </div>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。		
成績評価の方法	期末試験 (100%)		

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第8回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。 第9回 人的資源管理（2）：採用管理、配置や転属について説明する。 第10回 人的資源管理（3）：人材育成、人事評価、退職管理について説明する。 第11回 人的資源管理（4）：これからの人的資源管理の課題について考える。 第12回 組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第13回 リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第14回 リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	労務管理論 (隔年開講)	担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次] 1年・2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】外国と日本の労働者状態を比較しながら、劣悪な日本の労働環境がなぜ生まれるのか、その根本原因を考えます。</p> <p>【概要】「カローシ」が国際用語になるほど日本の労働条件は世界的にみても大変劣悪です。こんなブラックな企業社会がなぜ生まれるのか、その社会的原因の一つが日本の特殊な労使慣行です。労働者管理の在り方の違いがなぜ生じるのかを分析します。</p> <p>【到達目標】日本の労働環境を生み出す要因を外国と比較することを通じて、考えるための分析方法を身につけます。</p> <p><b>この科目は、前期開講の社会政策を受講していると理解がしやすくなります。</b></p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しません。</p> <p>(2) 授業にて指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。</p> <p>第2回 資本主義企業における労使関係 (1) 資本・賃労働関係の基礎</p> <p>第3回 (2) 資本の運動と労働者への影響</p> <p>第4回 労働市場と労使関係 (1) イノベーションと労働市場</p> <p>第5回 (2) パワーエリートと人事管理</p> <p>第6回 戦後の労使関係 (1) 日本的労使慣行の軸点としての年功賃金制度</p> <p>第7回 (2) 年功賃金が生み出す職場環境</p> <p>第8回 (3) ドイツ型労使関係と日本との違い</p> <p>第9回 グローバル化と労使関係の変化 (1) グローバル化と戦後レジームの改変</p> <p>第10回 (2) ドイツ財界のグローバル化戦略とハartz改革</p> <p>第11回 (3) 日本財界の新日本の経営戦略</p> <p>第12回 (4) 成果主義賃金の導入の失敗とブラック企業</p> <p>第13回 インダストリー 4.0 と労使関係 (1) すずむドイツ、遅れる日本</p> <p>第14回 (2) インダストリー4.0 と労働の未来</p> <p>第15回 労働条件の改善に必要なこと</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業の理解をすすめるためには、授業の復習と、ニュース等への日頃の関心が大切です。		
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)		

授業科目	管理会計論	担当者	北村 浩一
	[履修年次] 1・2年いずれでも可 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する</p> <p>【概要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。</p> <p>【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス・講義の進め方や評価について</p> <p>第2回 予算管理 (1)</p> <p>第3回 予算管理 (2)</p> <p>第4回 利益管理 (1)</p> <p>第5回 利益管理 (2)</p> <p>第6回 CVP分析 (1)</p> <p>第7回 CVP分析 (2)</p> <p>第8回 管理会計とは</p> <p>第9回 分権的組織の管理会計 (1)</p> <p>第10回 分権的組織の管理会計 (2)</p> <p>第11回 原価概念</p> <p>第12回 原価計算と原価管理</p> <p>第13回 標準原価管理</p> <p>第14回 原価企画とABC原価計算</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>(* 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	小テスト(複数回, 50%) と期末定期試験 (50%) の総計で評価します。		

授業科目	原価計算	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】少子高齢化による人手不足が深刻化しているわが国の企業においては、生産性向上に取り組むことが大きな課題になっています。そうした課題を克服する手段として、企業活動を見える化する原価計算は有用なツールといえます。本講義は、基本的な原価計算の知識を習得するために日商原価計算初級レベルの内容について解説します。</p> <p>【到達目標】製造業における取引を記帳する能力を養う。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定。講義初回に指示します。また、必要に応じて、講義資料を配布します。</p> <p>(2) 高橋賢『テキスト原価計算』(第2版)中央経済社 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 原価計算の基礎概念(1)：原価計算の意義と目的</p> <p>第3回 原価計算の基礎概念(2)：製造原価とは</p> <p>第4回 原価計算の基礎概念(3)：材料費の計算と記帳</p> <p>第5回 原価計算の基礎概念(4)：労務費の計算と記帳</p> <p>第6回 原価計算の基礎概念(5)：経費の計算と記帳</p> <p>第7回 原価計算の基礎概念(6)：直接費の計算と記帳</p> <p>第8回 製品別期間損益計算(1)：原価の集計</p> <p>第9回 製品別期間損益計算(2)：在庫の原価</p> <p>第10回 製品別期間損益計算(3)：製品別損益計算書の作成</p> <p>第11回 利益の計画と統制(1) CVP分析①</p> <p>第12回 利益の計画と統制(2) CVP分析②</p> <p>第13回 利益の計画と統制(3) 予算実績再分析①</p> <p>第14回 利益の計画と統制(4) 予算実績再分析②</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。		
成績評価の方法	期末試験(100%)		

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
簿記論I, II, 会計学総論を受講後が望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講 I	担当者	田原 武志 東 圭太
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】経営にかかわるマネジメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社の経営はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。レポート作成、発表を通して大学生としての論文、レポート作成力を身につけます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学の講義受講の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネジメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。</p> <p>(2) 無し。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表</p> <p>～第14回 (テーマ例)</p> <p>「隠れた経営資源に気づく」</p> <p>「目的、目標の設定の重要性を認識する」</p> <p>「継続的改善の仕組みを取り入れる」</p> <p>「企業の果たす社会的責任について認識する」</p> <p>「トレンドを把握する」</p> <p>「コンプライアンス(法令遵守)が求められる社会的背景と必要性の考察」</p> <p>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネジメント」</p> <p>「投機と投資の考察」等々</p> <p>第15回 まとめ 試験対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習(課題が毎回発表)と復習(講義のまとめ)のレポート作成があります。		
成績評価の方法	レポート提出(25%)、授業での発表(25%) 筆記試験(50%)		
実務経験について	20年間以上の経営コンサルタント実務有り。		



授業科目	経営学特講Ⅱ (隔年開講)		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代多国籍企業を理解する上で有用な各種資料を使用しながら授業を行います。また、リアクション・ペーパーやグループ・ワークを活用することで双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られた企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。 第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。 第 3回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境について講義する。 第 4回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代の特徴を考える。 第 5回 多国籍企業の経営環境 (3)：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。 第 6回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 7回 多国籍企業の活動 (2)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の戦略について議論する。 第 8回 市場戦略の現代の特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。 第 9回 市場戦略の現代の特徴 (2)：各種資料を用いて、市場戦略に関する理解を深める。 第 10回 市場戦略の現代の特徴 (3)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の市場戦略について考える。 第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業との関連性について解説する。 第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。 第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略と文化の関係を考える。 第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の市場戦略と文化の関係について議論する。 第 15回 まとめ：これまでの講義のまとめを行う。			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパー、グループワーク、授業への姿勢等 (30%)			

授業科目	情報管理論 (隔年開講)		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な知識も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこれらの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日の情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 講義中に随時指示する			
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。 第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。 第 4回 比重が高まる情報の力について (1)：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。 第 5回 比重が高まる情報の力について (2)：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。 第 6回 メディアリテラシーという考え方について (1)：メディアリテラシー全般について説明する。 第 7回 メディアリテラシーという考え方について (2)：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。 第 8回 メディアリテラシーという考え方について (3)；情報を発信するための考え方を理解する。 第 9回 情報とメディア媒体 (1)：メディアと情報の関係について考える。 第 10回 情報とメディア媒体 (2)：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。 第 11回 情報操作 (1)：情報操作とは何かを説明する。 第 12回 情報操作 (2)：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。 第 13回 情報化の意義と必要性 (1)：企業における情報化の意義と必要性について説明する。 第 14回 情報化の意義と必要性 (2)：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適時指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	会計情報論		担当者	岡村 雄輝																																
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	[履修年次]																																
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]																															
				選択	[授業形態]																															
					講義																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計情報から企業社会の諸相を考察する</p> <p>【概要】 本講義は、担当者が企業の会計情報を分析し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の会計情報を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】 会計情報を読解し、企業の収益性・安全性について説明できるようになる。</p>																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』日経文庫 (変更することがある)。</p> <p>(2) 山根節, 太田康広, 村上裕太郎『ビジネスアカウンティング』(第3版), 中央経済社。</p>																																			
授業スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>第 1回</td> <td>ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</td> <td rowspan="15">           会計科目の履修順序 (初学者向け)            1年前期：会计学総論                      簿記論Ⅰ            1年後期：簿記論Ⅱ                      財務会計論            2年前期：簿記論Ⅲ                      原価計算                      <b>会計情報論</b>            2年後期：管理会計論         </td> </tr> <tr> <td>第 2回</td> <td>会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計</td> </tr> <tr> <td>第 3回</td> <td>事例研究①：アパレル企業数社の収益性</td> </tr> <tr> <td>第 4回</td> <td>会計情報の読み方 (1)：収益性の分析</td> </tr> <tr> <td>第 5回</td> <td>会計情報の読み方 (2)：成長性の分析</td> </tr> <tr> <td>第 6回</td> <td>会計情報の読み方 (3)：安全性の分析①</td> </tr> <tr> <td>第 7回</td> <td>会計情報の読み方 (4)：安全性の分析②</td> </tr> <tr> <td>第 8回</td> <td>事例研究②：アパレル企業数社の安全性</td> </tr> <tr> <td>第 9回</td> <td>ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>有価証券報告書を読む (1)：有報の読むポイントを知る</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>有価証券報告書を読む (2)：非会計情報から事業の概況を把握する</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>会計情報分析の実践 (1)：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>会計情報分析の実践 (2)：成長性分析</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>会計情報分析の実践 (3)：安全性分析</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					第 1回	ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等	会計科目の履修順序 (初学者向け) 1年前期：会计学総論 簿記論Ⅰ 1年後期：簿記論Ⅱ 財務会計論 2年前期：簿記論Ⅲ 原価計算 <b>会計情報論</b> 2年後期：管理会計論	第 2回	会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計	第 3回	事例研究①：アパレル企業数社の収益性	第 4回	会計情報の読み方 (1)：収益性の分析	第 5回	会計情報の読み方 (2)：成長性の分析	第 6回	会計情報の読み方 (3)：安全性の分析①	第 7回	会計情報の読み方 (4)：安全性の分析②	第 8回	事例研究②：アパレル企業数社の安全性	第 9回	ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法	第10回	有価証券報告書を読む (1)：有報の読むポイントを知る	第11回	有価証券報告書を読む (2)：非会計情報から事業の概況を把握する	第12回	会計情報分析の実践 (1)：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析	第13回	会計情報分析の実践 (2)：成長性分析	第14回	会計情報分析の実践 (3)：安全性分析	第15回	まとめ
第 1回	ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等	会計科目の履修順序 (初学者向け) 1年前期：会计学総論 簿記論Ⅰ 1年後期：簿記論Ⅱ 財務会計論 2年前期：簿記論Ⅲ 原価計算 <b>会計情報論</b> 2年後期：管理会計論																																		
第 2回	会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計																																			
第 3回	事例研究①：アパレル企業数社の収益性																																			
第 4回	会計情報の読み方 (1)：収益性の分析																																			
第 5回	会計情報の読み方 (2)：成長性の分析																																			
第 6回	会計情報の読み方 (3)：安全性の分析①																																			
第 7回	会計情報の読み方 (4)：安全性の分析②																																			
第 8回	事例研究②：アパレル企業数社の安全性																																			
第 9回	ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法																																			
第10回	有価証券報告書を読む (1)：有報の読むポイントを知る																																			
第11回	有価証券報告書を読む (2)：非会計情報から事業の概況を把握する																																			
第12回	会計情報分析の実践 (1)：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析																																			
第13回	会計情報分析の実践 (2)：成長性分析																																			
第14回	会計情報分析の実践 (3)：安全性分析																																			
第15回	まとめ																																			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																			
成績評価の方法	中間試験 (30%) + 期末レポート (70%)																																			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]
				選択	[授業形態]
					講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】 経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説します。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会における経営戦略のあり方も講義します。</p> <p>【到達目標】 経営戦略の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン (事業領域) について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。</p> <p>第 5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第 6回 M&amp;A と戦略的提携：M&amp;A および戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。</p> <p>第 7回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 8回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。</p> <p>第 9回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を確認する。</p> <p>第10回 競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における2つの柱について説明する。</p> <p>第11回 ポジショニング・アプローチ：ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて解説する。</p> <p>第12回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチについて説明する。</p> <p>第13回 ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論をベースとした、ゲーム論的アプローチについて講義する。</p> <p>第14回 学習アプローチ：組織学習論を中心に、競争戦略論における学習アプローチについて解説する。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：競争戦略論の内容を振り返りながら、現代社会との関連性について考える。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (90%) + リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢等 (10%)				

授業科目	企業論		担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次] 1年・2年		授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代資本主義社会を動かす巨大企業、企業グループの運動とその問題点を捉えます。</p> <p>【概要】今日、世界は、富裕な1%が世界の大半の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。また、巨大企業の利益の為に、戦争まで引き起こされています。このような現代社会のリアルを法則的に捉えます。</p> <p>【到達目標】現代資本主義の特徴についての理解を通じて、今日の様々な社会問題の背景を捉えられる力を身につけます。 この科目は、前期開講の社会政策を受講していると理解がしやすくなります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しません。</p> <p>(2) 授業にて指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 資本の運動とは</p> <p>第3回 資本の巨大化 (1) 資本主義と機械化</p> <p>第4回 (2) 資本の蓄積 (1) 再生産と投資</p> <p>第5回 資本の蓄積 (2) 規模の拡大・構成の高度化</p> <p>第6回 資本の蓄積 (3) 失業者の生産</p> <p>第7回 (3) 利潤と競争</p> <p>第8回 (4) 商業資本の形成</p> <p>第9回 (5) 利子生み資本の形成とバブル経済</p> <p>第10回 (6) 銀行資本と株式資本</p> <p>第11回 独占資本主義 (1) 独占資本の形成と独占資本主義の成立</p> <p>第12回 (2) 金融資本と帝国主義</p> <p>第13回 日本の企業集団 (1) 戦前の日本資本主義と企業集団</p> <p>第14回 (2) 戦後の日本資本主義と企業集団</p> <p>第15回 グローバル化と日本企業集団の蓄積戦略</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業の理解のためにプリントの復習や、関係する参考文献の独習を指示します。			
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)			

授業科目	財務会計論		担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務諸表の作成原理や会計制度の概要について理解する</p> <p>【概要】本講義は、企業が営む主要な活動に焦点をあてて、その結果が会計情報へと集約される過程、すなわち、財務諸表の作成プロセスとそれを規制する社会的なルールについて学習します。また、近年、重要性を増している企業のグローバル化や企業集団に関わる財務会計についても解説します。</p> <p>【到達目標】財務諸表を作成する能力を養い、会計の社会的な役割を理解する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定。講義初回に指示します。また、必要に応じて、講義資料を配布します。</p> <p>(2) 成川正見編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等、会計とは何か？、会計の歴史</p> <p>第2回 情報の非対称性と会計制度、会計情報の仕組み、貸借対照表、損益計算書の構成要素</p> <p>第3回 流動・固定の区分、構成要素の認識・測定、資産評価と費用計上</p> <p>第4回 貸借対照表の構成要素-資産、現金預金、営業債権の種類等</p> <p>第5回 有価証券の種類、期末評価、商品の取得原価、商品払出価額の計算等</p> <p>第6回 製品の製造原価、仕掛品、製品の期末評価</p> <p>第7回 有形固定資産の種類・取得原価、減価償却・期末評価</p> <p>第8回 貸借対照表の構成要素-負債・純資産、買掛金と未払金等</p> <p>第9回 賞与引当金と退職給付引当金、社債と長期借入金</p> <p>第10回 資本金、資本剰余金と利益剰余金、自己株式</p> <p>第11回 損益計算書の構成要素、理解したい損益計算書とその区分</p> <p>第12回 収益・費用の認識基準、</p> <p>第13回 収益・費用の測定基準</p> <p>第14回 連結財務諸表の目的、連結の範囲</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
会計学総論を履修済みであることが望ましい。

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。さらに、グループ・ワークを適宜取り入れることで、理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。</p> <p>第 2回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第 4回 標的市場の選択：STP について解説する。</p> <p>第 5回 消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第 6回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第 7回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析と競争分析</p> <p>第 8回 製品戦略：バリュー・ネットワークや製品ミックスなどについて解説する。</p> <p>第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第 10回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第 11回 流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第 12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスについて説明する。</p> <p>第 13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第 15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツについて考える。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークに臨む姿勢等 (20%)					

授業科目	経営工学		担当者	倉重 賢治		
	[履修年次]	1,2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】</p> <p>現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店					
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	期末試験 (100%)					

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重 賢治			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 特になし</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4 回 Access の操作：レコードの追加 第 5 回 Access の操作：フォームの作成 第 6 回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7 回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8 回 Access の操作：アクションクエリ 第 9 回 Access の操作：データベースの設計 第 10 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11 回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12 回 Access の操作：レポートの作成 第 13 回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14 回 Access の操作：マクロの利用 第 15 回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)						

授業科目	プログラミング		担当者	倉重 賢治			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 七条達弘, 『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第5版』, ソフトバンククリエイティブ (2) 特になし</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：関数と変数 第 3 回 VBA の利用：条件分岐 第 4 回 VBA の利用：オブジェクトの基本 第 5 回 VBA の利用：繰り返し操作 第 6 回 VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第 7 回 VBA の利用：マクロの記録 第 8 回 VBA の利用：文字列と日付関数 第 9 回 VBA の利用：変数の型宣言と配列 第 10 回 VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第 11 回 VBA の利用：セル操作の詳細 第 12 回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 13 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 1 第 14 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 2 第 15 回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)						

授業科目	簿記論Ⅲ	担当者	榑部 幸子	
	[履修年次] 1、2年	授業外対応	授業終了時	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基礎原理から応用論点へ</p> <p>【概要】複式簿記の基礎原理・応用論点・記帳技術を、講義と演習により学習する。</p> <p>【到達目標】簿記一巡の手続きと基礎原理・応用論点を理解し、財務諸表を作成することができる。損益会計、資産会計、負債会計、および純資産会計について理解することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス(履修確認 講義計画の説明、簿記理解度チェック等) 第 2 回 簿記の基本概念：資産・負債・純資産 第 3 回 資産会計(意義と認識・測定) 第 4 回 資産会計(流動資産・固定資産・繰延資産) 第 5 回 負債会計(意義・分類・評価) 第 6 回 負債会計(金銭債務・引当金) 第 7 回 純資産会計(意義) 第 8 回 純資産会計(分類) 第 9 回 損益会計(収益と費用) 第 10 回 損益会計(利益の計算方法) 第 11 回 損益会計(商品販売 1) 第 12 回 損益会計(商品販売 2) 第 13 回 財務諸表(貸借対照表) 第 14 回 財務諸表(損益計算書) 第 15 回 まとめ (最終的な理解度チェック等)			
授業外学習(予習・復習)	毎回、前回の授業内容の小テストを行うため、授業のテーマに関する復習を計 4 時間程度行うこと。復習を中心に、繰り返し演習問題を解くこと。具体的な内容は、毎回授業時に板書にて指示します。			
成績評価の方法	期末試験(70%)と毎回の小テストの結果(30%)。			

授業科目	情報論特講	担当者	岡村 俊彦, 倉重 賢治	
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ICT (情報通信技術) について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといった ICT を学び, 日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに, コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】実社会において, 自ら ICT 業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」, プリント (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア, ソフトウェアの解説 第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説 第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説 第 5 回 インターネットとネットワーク：TCP/IP の意味と設定方法 第 6 回 ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法, Wi-Fi の解説 第 7 回 様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例 第 8 回 コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数 第 9 回 コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数 第 10 回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号 第 11 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは 第 12 回 シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション 第 13 回 意思決定：エクセルのソルバー 第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (75%) + 期末試験 (25%)			

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

13 第二部商経学科教養科目  
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	楊 虹, 瀬口 毅士, 竹本 寛秋, 岡村 俊彦, 宍戸 克実, 福田 忠弘, 亀井 勇統	
	〔履修年次〕 1～3年いずれでも履修可 〔学期〕 集中講義	〔単位〕	授業外対応	講義前後に適宜対応
			2単位	〔必修/選択〕 選択
				〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大三学科の教員7名がそれぞれの分野から、様々な地域、時代における「文化」を異なる角度から考察します。一週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。</p> <p>(9/14,15,16,17,23,24,25の集中講義。県内大学等のコーディネイト科目であり、他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、様々な事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じて後日指示します。</p> <p>(2) 授業中、必要に応じて指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 日本語話し言葉の「文法」：中国語や英語との対照から (1) (楊 虹)</p> <p>第2回 日本語話し言葉の「文法」：中国語や英語との対照から (2) (楊 虹)</p> <p>第3回 消費と文化：消費社会および消費行動と文化の関係について (瀬口 毅士)</p> <p>第4回 多国籍企業と文化：多国籍企業と市場戦略と文化の関係について (瀬口 毅士)</p> <p>第5回 近代の文学とメディア：草稿と小説の生成 (竹本 寛秋)</p> <p>第6回 現代の文学とメディア：インターネットと詩の生成 (竹本 寛秋)</p> <p>第7回 ICTと社会生活(1)：ICTで生活が変わる (岡村 俊彦)</p> <p>第8回 ICTと社会生活(2)：ICTで産業が変わる (岡村 俊彦)</p> <p>第9回 イスラーム地域の文化：宗教と生活文化 (宍戸 克実)</p> <p>第10回 イスラーム地域の文化：建築・都市と公共空間 (宍戸 克実)</p> <p>第11回 枕崎のカツオ文化(1)：原耕という人物について (福田 忠弘)</p> <p>第12回 枕崎のカツオ文化(2)：原耕からみるカツオ漁 (福田 忠弘)</p> <p>第13回 医食同源：食物と病気との関連 (亀井 勇統)</p> <p>第14回 医食同源：食物による病気予防 (亀井 勇統)</p> <p>第15回 まとめ (順番、内容を変更することがあります。)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(2つ)の提出(100%)で評価します。			
実務経験について	宍戸克実 (外食チェーン企業での店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業での都市計画業務に携わった。)			

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一	
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期	〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応
			〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的思考力の一端を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業時に配布(プリント)</p> <p>(2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社、1999年)原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 歴史の見方</p> <p>第2回 資料と史料(文献)</p> <p>第3回 資料と史料(遺物)</p> <p>第4回 資料と史料(遺構)</p> <p>第5回 旧石器時代・縄文時代</p> <p>第6回 弥生時代・古墳時代</p> <p>第7回 神話と伝承</p> <p>第8回 隼人と律令制度</p> <p>第9回 薩摩国正税帳を読む</p> <p>第10回 考古学から見る南九州の奈良時代</p> <p>第11回 平安時代の薩摩・大隅(隼人の「消滅」と開聞岳の噴火)</p> <p>第12回 平安時代の薩摩・大隅(受領支配と島津荘の成立)</p> <p>第13回 奄美諸島の歴史</p> <p>第14回 キカイガシマをめぐる</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業時毎の小レポート(60%) レポート(40%)			



授業科目	日本文学・近代（隔年開講）	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の小説を読む</p> <p>【概要】 日本近代の小説を、様々な観点から読み解きます。様々な観点から小説を読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 6回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 7回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 8回 宇野浩二「蔵の中」</p> <p>第 9回 宇野浩二「蔵の中」</p> <p>第 10回 太宰治「葉桜と魔笛」</p> <p>第 11回 太宰治「葉桜と魔笛」</p> <p>第 12回 萩原朔太郎「猫叫」</p> <p>第 13回 堀辰雄「聖家族」</p> <p>第 14回 堀辰雄「聖家族」</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)		

授業科目	こころの科学	担当者	田中 真理
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学の視点から、人間の心理に対する理解を深めるとともに、精神的健康を維持増進する方法について学ぶ。</p> <p>【概要】本講義では特に、社会心理学、臨床心理学、発達心理学の観点から、人間の行動や心理の理解、日常生活における精神的健康に関わる知識、さらには青年期以降の発達の視点の習得を目指す。適宜、質問紙や心理検査、ワークなどを用いた体験的な学習を行う。</p> <p>【到達目標】①自己理解や他者理解を深めるための心理学の知識の習得を目標とする。 ②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。</p> <p>(2) ①無藤 隆他著『心理学（新版）』有斐閣、2018年 ②中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第2版]—自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版、2016年 ③岡本祐子他著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013年</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 方法論①：実験法</p> <p>第 3回 方法論②：観察法</p> <p>第 4回 方法論③：調査法</p> <p>第 5回 社会心理学①：自己と社会</p> <p>第 6回 社会心理学②：感情・情動</p> <p>第 7回 社会心理学③：パーソナリティ</p> <p>第 8回 臨床心理学①：ストレス理論</p> <p>第 9回 臨床心理学②：ストレス・マネジメント—理論編</p> <p>第 10回 臨床心理学③：ストレス・マネジメント—実践編</p> <p>第 11回 臨床心理学④：ストレス関連障害、うつ病</p> <p>第 12回 発達心理学①：乳児期～児童期の発達</p> <p>第 13回 発達心理学②：青年期の発達</p> <p>第 14回 発達心理学③：成人期以降の発達</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	試験 (60%) + 授業内で課される小レポート課題 (30%) +リアクションペーパーの内容 (10%)		
実務経験について	学生相談室に相談員として勤務		

授業科目	比較文化		担当者	陳 躍				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を讀む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が神様である中国と客が神様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なげなげしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かわまない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>							
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>							
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>							

授業科目	アジア文化論		担当者	川野 和昭				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州、南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島文化的アイデンティティを確認する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション……本講義の概要（、目的、方法、試験、評価等）について。アジアの地域的広がり、民族、文化の多様性について</p> <p>第 2 回 焼畑文化の概説……持続的農耕としての焼畑農耕の特徴、特に「竹の焼畑」について</p> <p>第 3 回 九州山地、大隅半島東海岸の竹の焼畑……木の森より竹の森を優先して選択する熊本県五木村、鹿児島県南大隅町内話のタカコバ（竹の焼畑）の具体的展開</p> <p>第 4 回 南西諸島の竹の焼畑……竹の森を優先して選択するトカラ列島悪石島の「アワヤマ（粟栽培の竹の焼畑）」の具体的な展開（2001年の実施例とその映像資料）</p> <p>第 5 回 ラオス北部の竹の焼畑（1）……木の森より竹の森を優先して選択する竹の焼畑の具体的展開。竹の選択、予定地の選定の方法について</p> <p>第 6 回 ラオス北部の竹の焼畑（2）……伐採、火入れ、播種、除草の方法等について</p> <p>第 7 回 ラオス北部の竹の焼畑（3）……一次的仮の収穫、本格的収穫、食始めの方法について</p> <p>第 8 回 ラオス北部の竹の焼畑（4）……予定地選定から食始めまでの稲作儀礼の具体的展開</p> <p>第 9 回 ラオス北部の竹の焼畑（5）……稲種の獲得から各段階の稲作儀礼に関する稲作神話の諸相</p> <p>第 10 回 ラオス北部の竹の焼畑（6）……稲作作業に関する道具の諸相とそれに関する稲作神話</p> <p>第 11 回 九州山地、大隅半島東海岸及びトカラ列島とラオス北部の竹の焼畑の比較……選定される竹の種類、伐採から食始めまで</p> <p>第 12 回 赤米、里芋文化の比較……ラオス北部のカム族が持つ赤米信仰、里芋信仰と南九州のそれとの比較</p> <p>第 13 回 竹の民具の比較（1）……脱穀具の「巻棒と打ち付け台」、調整具の「箕」について</p> <p>第 14 回 竹民具の比較（2）……運搬具の竹の背負い籠、魚具の竹の釜及び魚籠について</p> <p>第 15 回 まとめ……南九州の竹の文化を東南アジアの少数民族の文化視点で見ることが、くつものアジアの認識に繋がることを説く。</p>							
授業外学習(予習・復習)	<p>適宜指示</p>							
成績評価の方法	<p>学期末筆記試験（60%）と授業への意欲（40%）</p>							
実務経験について	<p>県立高校教員、県歴史資料センター黎明館学芸員</p>							

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																																	
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)																																																	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>憲法概論</td><td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>基本権総論</td><td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>幸福追求権</td><td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>精神的自由権(1)</td><td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>精神的自由権(2)</td><td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>精神的自由権(3)</td><td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRA の基準、学問の自由、大学の自治について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>経済的自由権</td><td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>受益権</td><td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>社会権(1)</td><td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>社会権(2)</td><td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>国会(1)</td><td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>国会(2)</td><td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>内閣</td><td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>裁判所</td><td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>財政</td><td>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td></tr> </table>								第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第 6 回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRA の基準、学問の自由、大学の自治について	第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第 1 回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																																			
第 2 回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																																			
第 3 回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																																			
第 4 回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																																			
第 5 回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																																			
第 6 回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRA の基準、学問の自由、大学の自治について																																																			
第 7 回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																																			
第 8 回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																																			
第 9 回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																																			
第 10 回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																																			
第 11 回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																																			
第 12 回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																																			
第 13 回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																																			
第 14 回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																																			
第 15 回	財政	・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																																			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																				
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																				

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾 由美子																																		
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義終了時																																		
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。</li> <li>・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。</li> </ul>																																					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会(無償提供) プリント (2) 「これであなたもひとり立ち」 金融広報中央委員会(無償提供)																																					
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ライフプランニング (1) : ライフプランニングの必要性と考え方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>ライフプランニング (2) : これからの人生のライフデザインを思い描く</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>ライフプランニング (3) : ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>社会保険制度 (1) : 社会保険制度の概要と基礎知識</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>社会保険制度 (2) : 公的年金制度の概要と基礎知識</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>社会保険制度 (3) : セーフティネットを理解する</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>所得税 : 所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>貯蓄と投資 (1) : 消費と投資の考え方の違い</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>貯蓄と投資 (2) : 貯蓄と運用の考え方の違い</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>貯蓄と投資 (3) : 運用する際の基礎知識</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>貯蓄と投資 (4) : 将来に備えるために役立つ制度</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>貯蓄と投資 (5) : 金利と法律の基礎知識</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>保険 (1) : 生命保険の基礎知識と考え方</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>保険 (2) : 損害保険の基礎知識と考え方</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ : 第 1 回から第 14 回までのまとめ</td></tr> </table>								第 1 回	ライフプランニング (1) : ライフプランニングの必要性と考え方	第 2 回	ライフプランニング (2) : これからの人生のライフデザインを思い描く	第 3 回	ライフプランニング (3) : ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性	第 4 回	社会保険制度 (1) : 社会保険制度の概要と基礎知識	第 5 回	社会保険制度 (2) : 公的年金制度の概要と基礎知識	第 6 回	社会保険制度 (3) : セーフティネットを理解する	第 7 回	所得税 : 所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方	第 8 回	貯蓄と投資 (1) : 消費と投資の考え方の違い	第 9 回	貯蓄と投資 (2) : 貯蓄と運用の考え方の違い	第 10 回	貯蓄と投資 (3) : 運用する際の基礎知識	第 11 回	貯蓄と投資 (4) : 将来に備えるために役立つ制度	第 12 回	貯蓄と投資 (5) : 金利と法律の基礎知識	第 13 回	保険 (1) : 生命保険の基礎知識と考え方	第 14 回	保険 (2) : 損害保険の基礎知識と考え方	第 15 回	まとめ : 第 1 回から第 14 回までのまとめ
第 1 回	ライフプランニング (1) : ライフプランニングの必要性と考え方																																					
第 2 回	ライフプランニング (2) : これからの人生のライフデザインを思い描く																																					
第 3 回	ライフプランニング (3) : ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性																																					
第 4 回	社会保険制度 (1) : 社会保険制度の概要と基礎知識																																					
第 5 回	社会保険制度 (2) : 公的年金制度の概要と基礎知識																																					
第 6 回	社会保険制度 (3) : セーフティネットを理解する																																					
第 7 回	所得税 : 所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方																																					
第 8 回	貯蓄と投資 (1) : 消費と投資の考え方の違い																																					
第 9 回	貯蓄と投資 (2) : 貯蓄と運用の考え方の違い																																					
第 10 回	貯蓄と投資 (3) : 運用する際の基礎知識																																					
第 11 回	貯蓄と投資 (4) : 将来に備えるために役立つ制度																																					
第 12 回	貯蓄と投資 (5) : 金利と法律の基礎知識																																					
第 13 回	保険 (1) : 生命保険の基礎知識と考え方																																					
第 14 回	保険 (2) : 損害保険の基礎知識と考え方																																					
第 15 回	まとめ : 第 1 回から第 14 回までのまとめ																																					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																					
成績評価の方法	講義中ごとの感想 (50%) 期末試験 (50%)																																					
実務経験について	2010 年からライフプランセミナー講師、2013 年から FP3 級資格取得講座講師、2016 年から FP2 級資格取得講座講師																																					

授業科目	環境問題	担当者	井村 隆介・榮村 奈緒子・井余田 秀美・岡村 雄輝	
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】自然史（井村）、森林科学（榮村）、化学（井余田）、経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 國部克彦（編集）、神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』、中央経済社。 國部克彦、伊坪徳宏、水口剛『環境経営・会計』、有斐閣。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第 2 回 鹿児島県自然史 (1) 鹿児島と気候変動</p> <p>第 3 回 鹿児島県自然史 (2) 鹿児島県の地震と火山</p> <p>第 4 回 鹿児島県自然史 (3) 鹿児島県の植生史</p> <p>第 5 回 鹿児島県自然史 (4) 鹿児島県の自然と人</p> <p>第 6 回 森林科学 (1) :</p> <p>第 7 回 森林科学 (2) :</p> <p>第 8 回 森林科学 (3) :</p> <p>第 9 回 化学 (1) : 生活環境と公害</p> <p>第 10 回 化学 (2) : 地球環境汚染</p> <p>第 11 回 化学 (3) : 環境に配慮した生活</p> <p>第 12 回 経済社会 (1) : 企業と公害 (1)</p> <p>第 13 回 経済社会 (2) : 企業と公害 (2)</p> <p>第 14 回 経済社会 (3) : 企業のグローバル化とその影響 (1)</p> <p>第 15 回 経済社会 (4) : 企業のグローバル化とその影響 (2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	20 点満点 (講師一人あたり) × 5			

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内 7 大学等の担当教員	
	[履修年次] 1 年 [単位] 2	[学期]	通年	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3 日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 未定</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 令和元年度実施概要 (令和 2 年度については未定)</p> <p>日程 : 8 月 21 日 (水) ~ 23 日 (金)</p> <p>場所 : 鹿児島大学</p> <p>定員 : 県内 7 大学等の学生 150 人</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<p>・発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がなかった場合は、評価対象外とする。</p> <p>・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。</p>			

(注) 「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]
テーマ及び概要	<p><b>【概要】</b> 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p><b>【学習目標】</b> ①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定				
授業スケジュール	<p>第1回 令和元年度実施概要 (令和2年度については未定)</p> <p>日程・場所： ①8月26日(月)～28日(水) 2泊3日 霧島牧園地区</p> <p>②8月25日(日)～28日(水) 4日間 鹿児島市、いちき串木野市、薩摩川内市、出水市、始良市</p> <p>③8月26日(月)～29日(木) 3泊4日 南さつま市大浦町</p> <p>定員： 県内7大学等の学生 90人</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方がなかった場合は、評価対象外とする。</li> <li>レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。</li> </ul>				

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員	
	[履修年次]	2年	[学期]	通年	
	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p><b>【概要】</b> 就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介				
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆5月20日(水) (特設時間を利用) 第1回 「総論」 キャリア・キャリアデザインとは</li> <li>◆6月3日(水) (特設時間を利用) 第2回 「職業の見つけ方Ⅰ」 自己分析の仕方</li> <li>◆7月1日(水) (特設時間を利用) 第3回 「職業の見つけ方Ⅱ」 企業研究の仕方</li> <li>◆9月17日(木) 3限 第4回 「職業の見つけ方Ⅲ」 企業・団体が求める人材と専門技能について</li> <li>◆9月17日(木) 4限 第5回 「職業の見つけ方Ⅳ」 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</li> <li>◆10月21日(水) (特設時間を利用) 第6回 「キャリアプランの拡張Ⅰ」 プロフェSSIONALになろう</li> <li>◆11月11日(水) (特設時間を利用) 第7回 「キャリアプランの拡張Ⅱ」 中高年からの職業選択手段について</li> <li>◆12月16日(水) (特設時間を利用) 第8回 「仕事と生活の擁護」</li> </ul> <p>※ 2年度の講師については適宜掲示する。</p>				
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出 (100%)				

14 第二部商経学科教養科目  
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 第 2 回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 第 3 回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 第 4 回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 第 7 回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency 第 8 回 Unit 4: Talking about Locations 第 9 回 Unit 4: Using Prepositions 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 5: Giving Directions 第 12 回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 第 13 回 Unit 6: Talking about Past Events and Activities 第 14 回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

授業科目	英語 I (B)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 第 2 回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 第 3 回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 第 4 回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 第 7 回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency 第 8 回 Unit 4: Talking about Locations 第 9 回 Unit 4: Using Prepositions 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 5: Giving Directions 第 12 回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 第 13 回 Unit 6: Talking about Past Events and Activities 第 14 回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら、英語で自己発信するスキルを向上させる。</p> <p>【概要】 本授業では、返答や補足・確認質問など、日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では、各ストラテジーに関して、インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し、コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく、何のために英語を使うのか、何のために英語を学ぶのかについて再考し、自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。</p> <p>【到達目標】 ①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) Kehe D. &amp; Kehe D. P. (2007) <i>Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition</i>, Pro Lingua Associates.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Course introduction 第 2回 Rejoinders 第 3回 Follow-up questions 第 4回 Confirmation questions 第 5回 Clarifications with question words 第 6回 Keeping or killing the conversation 第 7回 Expressing probability 第 8回 Mid-term exam and review 第 9回 Interrupting someone 第 10回 Eching instructions 第 11回 Polite requests, responses, and excuses 第 12回 Getting response 第 13回 Soliciting details 第 14回 Responding with details 第 15回 Course review</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習 1 時間以上必要である。		
成績評価の方法	Learning Portfolio(40%), Mid-term(20%), Final(40%, 定期試験期間中)で評価する。		

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	ジェイムズ・マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第 2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第 3回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 第 4回 Unit 8: Using different verb patterns 第 5回 Quiz (1) and Discussion 第 6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第 7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第 8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第 9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第 10回 Quiz (2) and Discussion 第 11回 Unit 11: Giving instructions 第 12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第 13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第 14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第 15回 Final Exam</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%, Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員 (ALT) として勤務		



授業科目	異文化コミュニケーション(英語)	担当者	英語担当教員全員	
	[履修年次] 1,2,3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	通年	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)			
授業スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>			
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。			

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)	担当者	中国語担当教員全員	
	[履修年次] 1,2,3年いずれでも可 [学期] 通年 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択	メールで事前連絡すること	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)			
授業スケジュール	<p>事前指導 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。			

授業科目	中国語 I (A)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
	[学期]	前期 [単位]	1 [必修/選択]	選択 [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち、70 分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点了? 第 5 回 今天是星期几? 第 6 回 你家有几口人? 第 7 回 没关系 (映画) 第 8 回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9 回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少? 第 12 回 汉语难不难? 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験 50%にする。残り 50%の評価は小テストとレポートにする			

授業科目	中国語 I (B)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期 [単位]	1 [必修/選択]	選択 [授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習 第 3 回 発音 (2)：複母音の導入、練習 第 4 回 発音 (3)：子音の導入、練習 第 5 回 発音 (4)：子音の練習、発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方 第 8 回 これまでの復習 第 9 回 動詞文の導入と練習 第 10 回 動詞文の練習、疑問文の練習 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト(50%) 期末試験(50%)で評価する			

授業科目	中国語Ⅱ (A)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち、70 分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1 級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 来我家玩吧</p> <p>第 2 回 我打算去旅行</p> <p>第 3 回 没看过, 听过</p> <p>第 4 回 我能参加</p> <p>第 5 回 我记一下</p> <p>第 6 回 我们边走边谈</p> <p>第 7 回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第 8 回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第 9 回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第 10 回 什么都可以</p> <p>第 11 回 被谁偷走了呢?</p> <p>第 12 回 让你久等了</p> <p>第 13 回 有没有单间?</p> <p>第 14 回 我说得不好</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験 5 0%にする。残り 5 0%の評価は小テストとレポートにする			

授業科目	中国語Ⅱ (B)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第 2 回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第 3 回 動詞「在」の導入，練習</p> <p>第 4 回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第 5 回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第 6 回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習</p> <p>第 7 回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第 8 回 復習 (1) これまでの内容の復習</p> <p>第 9 回 形容詞述語文の導入，練習</p> <p>第 10 回 時刻の言い方の導入，練習</p> <p>第 11 回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第 12 回 お金の言い方の導入，練習</p> <p>第 13 回 量詞の導入，練習</p> <p>第 14 回 復習 (4)：全体の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (50%) 口頭試験(50%)で評価する			

15 第二部商経学科教養科目  
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習 I		担当者	西迫 貴美代、長岡 良治	
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp	
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択] 必修 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習 I)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する</p> <p>【概要】 野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル          屋内スポーツ：バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど          その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する          ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる          ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールの理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について) (2)				
授業スケジュール	主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある)				
	第1回 ～ 第3回	1. バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーペン、ドライブの各技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)			
	第4回 ～ 第6回	2. 硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)			
	第7回 ～ 第9回	3. バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる			
	第10回 ～ 第12回	4. バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)			
	第13回 ～ 第15回	5. サッカー、ミニサッカー、フットサル シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)			
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること				
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)+基礎的な技術(40%)				

授業科目	生涯スポーツ実習 II		担当者	西迫 貴美代、長岡 良治	
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時 nisizako@k-kentan.ac.jp	
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択] 必修 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習 I)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する</p> <p>【概要】 野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル          屋内スポーツ：バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど          その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する          ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる          ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールの理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について) (2)				
授業スケジュール	主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある)				
	第1回 ～ 第3回	6. バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーペン、ドライブの各技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)			
	第4回 ～ 第6回	7. 硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)			
	第7回 ～ 第9回	8. バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる			
	第10回 ～ 第12回	9. バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)			
	第13回 ～ 第15回	10. サッカー、ミニサッカー、フットサル(女子は卓球) シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)			
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること				
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)+基礎的な技術(40%)				

16 第二部商経学科教養科目  
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	永仮 ゆかり	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第 4 回 文書の作成 : ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第 5 回 文書の編集 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</p> <p>第 6 回 通知状の作成 : 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第 8 回 表の編集 : 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</p> <p>第 9 回 表の活用 : 課題文書作成 (表を含む文書)</p> <p>第 10 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定</p> <p>第 11 回 図形描画 : 図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第 12 回 案内状の作成 : 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</p> <p>第 13 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 14 回 社外文書作成 : 案内状など</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業ごとに実施する課題 (30%)				
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練パソコン講座の講師				

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	永仮 ゆかり	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (著) 『初心者のための Microsoft Word 2016』 FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、保存</p> <p>第 4 回 文書の作成 : ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動</p> <p>第 5 回 文書の編集 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)</p> <p>第 6 回 通知状の作成 : 課題文書作成 (通知状)、印刷、文書の書き方について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第 8 回 表の編集 : 行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更</p> <p>第 9 回 表の活用 : 課題文書作成 (表を含む文書)</p> <p>第 10 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定</p> <p>第 11 回 図形描画 : 図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第 12 回 案内状の作成 : 課題文書作成 (案内状)、文書管理について</p> <p>第 13 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 14 回 社外文書作成 : 案内状など</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業ごとに実施する課題 (30%)				
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練パソコン講座の講師				

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの概要を学び、実践的に活用できる知識や技術を習得する。</p> <p>【概要】 Windows の概念・基本操作からメール・インターネット・マルチメディアなど、様々なアプリケーションの操作をしながら知識や技術を身につける。</p> <p>【到達目標】 ファイル操作、インターネット閲覧・操作（メールを含む）など基本的なアプリケーションの操作が確実にできる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 資料プリント (2)		
授業スケジュール	第 1 回 現在のパソコン活用状況の確認 パソコンの起動と画面の見方 文字入力の練習 第 2 回 基本操作 (画面の見方・用語の確認) 第 3 回 メール操作 (学内推奨の Web メール) 第 4 回 メール操作 (学内推奨の Thunderbird) 第 5 回 ファイル・フォルダ操作 第 6 回 ファイル・フォルダ操作 第 7 回 資料作成 (課題) と、印刷に関する注意事項の確認 第 8 回 インターネットを活用 第 9 回 インターネットを活用 第 10 回 デジタルカメラの活用 第 11 回 画像編集ソフトの活用 第 12 回 その他の機能 (スキャナの活用、PDF ファイルについて) 第 13 回 その他の機能 (ボイスレコーダー、ムービー作成について) 第 14 回 その他の機能 (トラブル解決法について) 第 15 回 前期習得操作の確認 (実技テスト)		
授業外学習 (予習・復習)	授業後、項目ごとのまとめや操作確認を行う		
成績評価の方法	授業中の操作状況 (20%) + 実技テスト (20%) + レポート提出 (60%)		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	メールにて (アドレスは講義中に告知)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使える力を持つ</p> <p>【概要】 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習を通して初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p>【到達目標】 そこにコンピュータがあるなら、それを臆せず使う人になる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする		
授業スケジュール	第 1 回 コンピュータを起動しよう。OS ってなんだろう 第 2 回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう 第 3 回 ブラウザの基本的使い方 第 4 回 Web メール の送受信 第 5 回 ファイルとフォルダ 第 6 回 フラッシュメモリ を使おう (メールソフトを使ってメールしよう) 第 7 回 ホームページを作ってみよう 第 8 回 クリックひとつで次のページへ 第 9 回 ペイントで描いた画像をページへ 第 10 回 携帯から写メール 第 11 回 HTML あれこれ 第 12 回 ホームページに自分のギャラリー (1) 第 13 回 ホームページに自分のギャラリー (2) 第 14 回 プレゼンでまとめよう (1) 第 15 回 プレゼンでまとめよう (2)		
授業外学習 (予習・復習)	各自のフォルダに学習結果が保存されるので、興味を持って予習し、不明な点を復習する。		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開したホームページとプレゼン作品 (50%) により評価する		



## 17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論 (隔年開講)	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】この授業は、現代社会を主として1970年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第2～4回)、「新自由主義」(第5～7回)でというキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題(第8～12回)についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し(第13～14回)をみていきます。</p> <p>【到達目標】現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義 第2回 グローバリゼーション(1)現代のグローバリゼーションの特質 第3回 グローバリゼーション(2)多国籍企業と経済発展 第4回 グローバリゼーション(3)アメリカン・グローバリゼーションの問題 第5回 新自由主義(1)経済学における自由 第6回 新自由主義(2)新自由主義とは何か 第7回 新自由主義(3)新自由主義政策と格差問題 第8回 現代社会の諸問題(1)民族・宗教をめぐる国際紛争 第9回 現代社会の諸問題(2)人の移動と排外主義 第10回 現代社会の諸問題(3)疲弊する地域経済 第11回 現代社会の諸問題(4)行き詰まる社会保障システム 第12回 現代社会の諸問題(5)悪化する地球環境問題 第13回 行き詰まりを打開するために(1)所得再分配の模索 第14回 行き詰まりを打開するために(2)世界的に活発化する社会運動 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	経済学	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>経済とは、経済学の役割(第1～2回)。ミクロ経済学の基礎的理論(第3～7回)。マクロ経済学の基礎理論(第8～14回)。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) マンキュー, N・グレゴリー(2014)『マンキュー入門経済学[第2版]』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第1回 授業ガイダンス、経済とは何か 第2回 経済学の役割 第3回 ミクロ経済学の基礎(1)需要と供給 第4回 ミクロ経済学の基礎(2)価格決定と政府の政策 第5回 ミクロ経済学の基礎(3)市場の効率性 第6回 ミクロ経済学の基礎(4)不完全市場 第7回 ミクロ経済学の基礎(5)ミクロ経済学のまとめ 第8回 マクロ経済学の基礎(1)GDPの測定 第9回 マクロ経済学の基礎(2)インフレーションとデフレーション 第10回 マクロ経済学の基礎(3)経済成長 第11回 マクロ経済学の基礎(4)貯蓄、投資と金融システム 第12回 マクロ経済学の基礎(5)マクロ経済政策の役割 第13回 マクロ経済学の基礎(6)外国貿易 第14回 マクロ経済学の基礎(7)マクロ経済学のまとめ 第15回 全体のまとめ、テスト対策		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業ごとの小論文(40%)		

授業科目	社会学 (隔年開講)	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年、2年、3年いずれでも履修可	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応 (アポイントメント要)
	[学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学とは比較の学問であるとはよく言われることです。この授業では、「社会学」の前に「国際」という語を冠して、グローバル化の影響下にあるドイツと日本の社会について比較考察します。</p> <p>【概要】グローバル化の諸影響の中でも、この授業では国際的人口移動に与える影響を、ドイツと日本の場合について考えてみましょう。ドイツが移民国家となった原因、移民統合政策の現況と課題、日本は移民国家に向かうのか、また、向うべきなのか、さらには、社会と市民の意識の変容と言ったテーマを中心に授業を進めます。</p> <p>【到達目標】「グローバル化」という概念の理解、国際社会に生きる私たちに必要な知識の獲得と意識の涵養。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト、文献とも、適宜配布、指示します。</p> <p>(2) 池上彰『ドイツとEU』、小学館</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、グローバル化とは何か</p> <p>第2回 国際人口移動の原因</p> <p>第3回 難民・移民の具体例</p> <p>第4回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史 (1)</p> <p>第5回 ドイツにおける移民激増の背景と歴史 (2)</p> <p>第6回 「統合」とは何か、「同化」、「編入」</p> <p>第7回 ドイツにおける難民認定とその問題点</p> <p>第8回 統合状況と将来の課題</p> <p>第9回 日本在住のエスニック・マイノリティ (1)</p> <p>第10回 日本在住のエスニック・マイノリティ (2)</p> <p>第11回 日本の外国人政策の問題点 (1)</p> <p>第12回 日本の外国人政策の問題点 (2)</p> <p>第13回 日本の難民認定</p> <p>第14回 日本が直面するこれからの課題</p> <p>第15回 まとめ、レポートの課題説明</p>		
授業外学習 (予習・復習)	授業に集中すれば特に必要ないが、関連する新聞・雑誌の記事、テレビ等の報道に注意すること		
成績評価の方法	中間小レポート及び期末レポート		
実務経験について	ドイツ連邦移民・難民局等における当該テーマでの講演		

授業科目	文化と社会	担当者	田口 康明
	[履修年次] 1年・2年・3年 [学期] 後期	授業外対応	<a href="mailto:taguchi@k-kentan.ac.jp">taguchi@k-kentan.ac.jp</a> メール
	[単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとり子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】テキストを熟読することによって、幼児期の特徴について深く理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 「しつけ」1 しつけとは/自己実現</p> <p>第3回 「しつけ」2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第4回 「あそび」1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第5回 「あそび」2 ルール/思考と文化</p> <p>第6回 「表現」1 生活と表現</p> <p>第7回 「表現」2 独自性と共同性</p> <p>第8回 「ことば」1 ことばの世界と身体</p> <p>第9回 「ことば」2 ことばのない世界</p> <p>第10回 「ことば」3 身体と心的世界の結合</p> <p>第11回 「ことば」4 ことばの世界の前</p> <p>第12回 「ことば」5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第13回 「ことば」6 関係性とことば</p> <p>第14回 「幼児期」1 存在と時間</p> <p>第15回 「幼児期」2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>		
授業外学習 (予習・復習)	授業内にて指示 (テキストの指示した範囲を必ず読むこと)		
成績評価の方法	授業中の発表 (各自分担する) 70%, ファイナルレポート30%		

授業科目	経済情報論 (隔年開講)	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】  【概要】  【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1,2,3年履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。 【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理解である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。 【到達目標】行政法の基本原理解、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 行政法概論 第 2回 行政立法 第 3回 行政行為(1) 第 4回 行政行為(2) 第 5回 行政指導 第 6回 行政上の強制執行制度 第 7回 行政手続法 第 8回 行政不服申立て 第 9回 行政事件訴訟法(1) 第10回 行政事件訴訟法(2) 第11回 行政事件訴訟法(3) 第12回 国家賠償法(1) 第13回 国家賠償法(2) 第14回 損失補償 第15回 公物	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について ・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について ・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について ・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について ・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について ・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について ・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について ・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について ・公の営造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について ・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について ・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について	
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。		

授業科目	社会政策		担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次]	1年・2年・3年	授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 貧困、格差、長時間過密労働、賃金抑制、ハラスメント、失業など現代社会問題の原因と対策を考えます。</p> <p>【概要】 私たちの暮らす社会には、貧困、格差、低賃金・長時間・過密労働、ハラスメント、失業などの社会問題があります。これらの問題がなぜ生じるのか？その解決の手段とは何か？経済学の基礎知識を踏まえながら考察します。</p> <p>【到達目標】 労働をめぐる社会問題に対し関心を持ち、その解決に向けて社会を分析する基礎的な力を身につけます。 後期の企業論や労務管理論を受講する人は、この科目を先に履修しておくとう理解しやすくなります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しません。</p> <p>(2) 授業にて指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 資本主義と労働 (1) 価値の話</p> <p>第3回 (2) お金の話</p> <p>第4回 (3) 企業の話</p> <p>第5回 (4) 労働の話</p> <p>第6回 賃金 (1) 賃金についてのみんなの間違い</p> <p>第7回 (2) 時給って？</p> <p>第8回 (3) 出来高給って？</p> <p>第9回 労働時間 (1) 労働時間が延長される理由</p> <p>第10回 労働時間 (2) 技術革新は働きやすさを生むか？</p> <p>第11回 資本主義社会と働く人の立場</p> <p>第12回 労働時間をめぐる闘争史から考える</p> <p>第13回 社会政策の誕生と展開</p> <p>第14回 日本の企業社会がブラック化している理由</p> <p>第15回 日本の労働問題を改善する方法</p>			
授業外学習(予習・復習)	基礎的な知識の修得には、復習が大切です。社会問題に関心を持ち、ニュース等をよく見ると理解しやすくなります。			
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)			

授業科目	社会思想 (隔年開講)		担当者	渋谷 正
	[履修年次]	1年、2年、3年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>資本主義形成期以降の近代社会思想の変遷を辿る。</p> <p>【概要】</p> <p>近代市民社会思想とそれを批判する思想を、資本主義の歴史的発展とも関連させながら、考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>近代社会思想の展開を理解することによって、資本主義の本質を見極めるための手掛かりを得ることを、目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 資本主義の形成過程——本源的蓄積 (1)、</p> <p>第2回 資本主義の形成過程——本源的蓄積 (2)、市民社会思想の端緒——トマス・ホブズ (1)</p> <p>第3回 市民社会思想の端緒——トマス・ホブズ (2)</p> <p>第4回 イギリス名誉革命と社会思想</p> <p>第5回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (1)</p> <p>第6回 市民社会思想の形成——ジョン・ロック (2)</p> <p>第7回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (1)</p> <p>第8回 市民社会思想の発展——デイヴィッド・ヒューム (2)</p> <p>第9回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (1)</p> <p>第10回 市民社会思想の確立——アダム・スミス (2)</p> <p>第11回 市民社会批判の思想——カール・マルクス (1)</p> <p>第12回 市民社会批判の思想——カール・マルクス (2)</p> <p>第13回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (1)</p> <p>第14回 ケインズ『自由放任の終焉』と新自由主義 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70 パーセント) + レポート (30 パーセント)			

授業科目	民法		担当者	疋田 京子	
	[履修年次] 1年, 2年, 3年		授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する	
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法入門</p> <p>商法や労働法など市場経済の一般法であり、契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法である民法を知る。</p> <p>【概要】明治29年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。</p> <p>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石川正樹『民法のツボとコツがゼッタイわかる本』秀和システム</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは</p> <p>第2回 民法の基本構造：財産法と家族法</p> <p>第3回 法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定</p> <p>第4回 法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則</p> <p>第5回 成人年齢が18歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力</p> <p>第6回 父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権能力・意思能力・行為能力</p> <p>第7回 権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全</p> <p>第8回 権利の対象とすることができるのは？：権利の客体/物の概念</p> <p>第9回 善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度</p> <p>第10回 契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件</p> <p>第11回 契約どおりにならなかつたら？：契約違反とその解決方法</p> <p>第12回 言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力</p> <p>第13回 損害賠償が求められる場合とは：不法行為</p> <p>第14回 「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習に重点を置いて、よく理解できなかつたところを質問してください。				
成績評価の方法	2回のレポート(中間レポートと最終レポート)の提出。				

授業科目	商法		担当者	河野 総史	
	[履修年次] 1年, 2年, 3年		授業外対応	講義終了後またはメールにて対応	
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>商法分野のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない(レジュメを配布する)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第2回 会社法総論</p> <p>第3回 会社の種類</p> <p>第4回 株式①(株式の種類等)</p> <p>第5回 株式②(株式の譲渡および譲渡制限等)</p> <p>第6回 株式③(自己株式・親会社株式取得規制等)</p> <p>第7回 株式④(株式併合・分割・無償割当等)</p> <p>第8回 資金調達①(会社設立時)</p> <p>第9回 資金調達②(募集株式の発行等)</p> <p>第10回 資金調達③(株式以外の資金調達手段)</p> <p>第11回 機関①(機関総論)</p> <p>第12回 機関②(株主総会)</p> <p>第13回 機関③(取締役・取締役会)</p> <p>第14回 機関④(監査役・会計参与・会計監査人)</p> <p>第15回 機関⑤(指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社) 総まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。				
成績評価の方法	期末テスト80パーセント、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。				

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも可		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布，Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係，労働時間：職場における人間関係，労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%，出席・授業中のショートレポートが20%			

授業科目	会計学総論		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2, 3年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学という学問領域を道案内し，複式簿記会計の基礎力を涵養する</p> <p>【概要】本講義を開講する目的はおおよそ次の二つです。</p> <p>① 複式簿記の原理と財務会計の基本原則を理解すること</p> <p>② 会計科目の相互の関連を解説すること</p> <p>本講義では，商経学科で開講されている簿記会計科目である「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算」「会計情報論」などの科目群の関係を簡単に紹介するとともに，複式簿記会計の基礎知識をできるだけ具体的な事例を用いて解説し，基礎力の定着を図ります。また，受講後も会計科目について円滑に学習を継続できるように指導します。</p> <p>【到達目標】会計学という学問領域の全体像をつかみ，複式簿記会計の基礎を理解すること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを随時配布。</p> <p>(2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第6版），同文館出版。 永野則雄『ケースブック会計学入門』（第4版），新世社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 会計学への誘い：会計の意義と役割</p> <p>第2回 会計の基礎（1）：貸借対照表と損益計算書</p> <p>第3回 会計の基礎（2）：会計公準と会計基準</p> <p>第4回 複式簿記の基本原則（1）：簿記の意義と目的</p> <p>第5回 複式簿記の基本原則（2）：記帳原則，損益計算の仕組み</p> <p>第6回 複式簿記の基本原則（3）：仕訳帳と元帳，試算表の作成</p> <p>第7回 複式簿記の基本原則（4）：精算表の作成，決算手続</p> <p>第8回 商品売買の会計：実現原則，発生原則，対応原則</p> <p>第9回 資産の会計（1）：流動資産</p> <p>第10回 資産の会計（2）：有形固定資産と無形固定資産</p> <p>第11回 資金調達の会計：負債と資本</p> <p>第12回 財務諸表の利用：収益性分析と安全性分析</p> <p>第13回 会計とマネジメント：会計の経営意思決定への役立ち</p> <p>第14回 会計と会計職業：公認会計士と税理士の役割</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	中間レポート（40%）＋期末試験（60%）			

会計科目の履修順序（初学者向け）

1年前期：会計学総論

1年後期：簿記論Ⅰ  
簿記論Ⅱ  
財務会計論

2年前期：原価計算  
会計情報論

2年後期：管理会計論

授業科目	簿記論 I	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商業簿記の基礎</p> <p>【概要】初学者を対象として、複式簿記における取引の仕訳・転記、補助簿の記入、決算までの簿記一巡の手続きを学ぶ。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記し、決算の概要を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記ワークブック3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 (2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』(第6版), 同文館出版。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 複式簿記への誘い：講義概要の説明、履修登録の確認 第 2回 簿記の意義としくみ：テキスト第1章 第 3回 仕訳と転記：テキスト第2章 第 4回 仕訳帳と元帳 (1)：テキスト第3章 第 5回 仕訳帳と元帳 (2)：テキスト第3章 第 6回 決算 (1)：テキスト第4章 第 7回 決算 (2)：テキスト第4章 第 8回 決算 (3)：テキスト第4章 第 9回 グループワーク (1)：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第10回 グループワーク (2)：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第11回 現金と預金：テキスト第5章 第12回 繰越商品・仕入・売上 (1)：テキスト第6章 第13回 繰越商品・仕入・売上 (2)：テキスト第6章 第14回 問題演習：簿記一巡の手続き 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。		
成績評価の方法	期末試験 (100%)		

会計科目の履修順序(初学者向け) 1年前期：会計学総論 1年後期：簿記論 I 簿記論 II 財務会計論 2年前期：原価計算 会計情報論 2年後期：管理会計論
---

授業科目	経営学総論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1,2,3年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけでなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6回 人と企業との関係について (1)：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第 7回 人と企業との関係について (2)：株主(出資者)としての立場から、企業との関係を考える。 第 8回 人と企業との関係について (3)：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第 9回 人と企業との関係について (4)：企業の社会的責任について考える。 第10回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第11回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第12回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第13回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第14回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		



授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも可 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	講義前後に適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ (ハードウェア, ソフトウェア, 周辺機器) やネットワークの仕組みを知り, 現代社会においてどのような役割があり, どのような問題点があるかを知る。結果として, 効果的かつ適切な I T活用が可能となり, トラブル解決もできるようになる。また, ネットワークを安全に使うためのルール, マナーを学ぶ。また, 授業の3分の1程度の時間を使い, I Tに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して, パソコンやネットワークの安全, 便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 ハードウェアとソフトウェア: ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3回 パソコンの中身: パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4回 単位と容量と速度: 情報処理や通信に関わる単位と容量, 速度</p> <p>第 5回 インターネットの仕組み: インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6回 電子メールの使い方: 電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第 7回 ITセキュリティ: マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8回 インターフェイス: インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方</p> <p>第 9回 周辺機器1: モニタ, 光学ドライブなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 10回 周辺機器2: プリンタ, ハブ, ルータなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 11回 クラウド, ビッグデータ, I o T: 新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 12回 ソフトの分類: ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第 13回 スペックの見方: パソコン, 周辺機器のスペック (仕様) の見方</p> <p>第 14回 インターネットの国際比較: 普及率, 使用方法と地域, 国の情勢</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%, 出席・授業中のショートレポートが20%		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した, 実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力, IT・ネットワーク関連知識, 文章の読解力, 文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また, あわせて日商 PC 検定 (文書作成) 対策を行い, 資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得 (日商PC 検定文書作成3級合格レベルの技能の習得)</p> <p>*後期から履修する場合は, 前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 前期の復習 : 概要説明, 前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第 2回 検定対策 (3級) : 社外文書の作成 (あいさつ状), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 3回 検定対策 (3級) : 課題文書作成 (表を利用した文書の作成), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 4回 検定対策 (3級) : 図形を利用した文書の作成, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 5回 検定対策 (3級) : 企画書の作成 (計算式を含む文書), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 6回 検定対策 (3級) : 詫言状の作成 (図形を含む文書), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 7回 検定対策 (3級) : 課題文書作成 (文書作成3級実技練習問題), 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 8回 検定対策 (3級) : 文書作成3級検定模擬問題演習, 知識問題 (共通分野)</p> <p>第 9回 検定対策 (3級) : 文書作成3級検定模擬問題演習</p> <p>第 10回 Excel データの利用 : Excel データ (表, グラフ) の文書への取り込み, 差し込み印刷の設定</p> <p>第 11回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (段組み, タブ, セクション区切りの挿入など)</p> <p>第 12回 報告書の作成 : 課題文書作成 (Excel データ・テキストファイルの利用, 書式のコピーなど)</p> <p>第 13回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用, スタイルの設定, セクション区切りなど)</p> <p>第 14回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号, 表の編集など)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習, 「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業ごとに実施する課題 (30%)		
実務経験について	OA インストラクター, 職業訓練パソコン講座の講師		

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治
	[履修年次]	1,2,3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なデータ処理を行う</li> <li>・相関関係について理解する</li> <li>・検定について理解する</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：統計学とは</p> <p>第 2回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9回 統計解析：カイ2乗検定</p> <p>第 10回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	2, 3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する</li> <li>2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。</li> <li>3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</li> </ol> <p>【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成4：ページ公開</p> <p>第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成</p> <p>第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ</p> <p>第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)			

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2016 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 習熟度確認アンケート Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど）</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第 14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験（60%）＋小テスト（30%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%）			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2016 (Windows10 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習 知識科目問題</p> <p>第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第 10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%）			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習 (A)		担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アプリケーションソフトを活用して様々な資料を作成する。</p> <p>【概要】 3つのアプリケーションソフト (PowerPoint・KompoZer・Access) の基本操作を習得し、それぞれの目的に応じた資料を作成しパソコン活用の幅を広げる。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトで課される資料 (作品) を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 資料プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明 第 2回 プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明 第 3回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 4回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 5回 プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成 第 6回 プレゼンテーション 発表 第 7回 ホームページ作成：KompoZer の操作説明 (ページ作成) 第 8回 ホームページ作成：KompoZer の操作説明 (タグ・リンク・CSS 設定) 第 9回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第 10回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第 11回 ホームページ作成：課題に基づいて各自作成 第 12回 データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明 (テーブルの作成) 第 13回 データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明 (フォーム・クエリ・レポートの作成) 第 14回 データベース作成：課題データベースの作成 第 15回 データベース作成：課題データベースの作成			
授業外学習(予習・復習)	計画的に作成できるよう授業前に資料の準備や基本操作の確認を行う			
成績評価の方法	授業内での操作状況 (10%) + 各アプリケーションの課題提出 (90%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師・DBソフトを利用したプログラム作成			

授業科目	PCアプリケーション実習 (B)		担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールにて (アドレスは講義中に告知)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使える力を持つ</p> <p>【概要】 パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特に Web ブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこで JavaScript を用いて Web ブラウザを制御する実習を通して、アプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか理解し、積極的に活用しようとする人になる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) ホームページに紹介されている JavaScript の記事を参考資料とする			
授業スケジュール	第 1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう (オリエンテーション) 第 2回 JavaScript の紹介 (1) HTML に JavaScript を組み入れる 第 3回 JavaScript の紹介 (2) 繰り返しの処理はどのように行われるのか 第 4回 JavaScript の紹介 (3) ソースにコメントをつけよう 第 5回 JavaScript の紹介 (4) 画像の位置を制御 第 6回 JavaScript の紹介 (5) 画像を動かしてみよう 第 7回 JavaScript の紹介 (6) 簡単なゲームにしてみよう 第 8回 JavaScript の紹介 (7) 簡単なゲームにしてみよう (その2) 第 9回 自分でやってみよう (1) 構想 第 10回 自分でやってみよう (2) 作画 第 11回 自分でやってみよう (3) アニメーション化 第 12回 自分でやってみよう (4) アニメーション化 第 13回 自分でやってみよう (5) アニメーション化 第 14回 自分でやってみよう (6) ホームページで公開 第 15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう			
授業外学習(予習・復習)	各自のフォルダに学習結果が保存されるので、興味を持って予習し、不明な点を復習する。			
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開した作品 (50%) により評価する			

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
テーマ及び概要	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 現在の日本経済の特徴と課題について自分の見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導：勧告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義前後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討すること, 普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目することを勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択
			〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そして, グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めることになります。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない政治の経済に対する影響についても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること  ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること  ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになること  ④経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 宇波弘貴編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースについても)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2, 3年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島農村景観</p> <p>第 2 回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第 3 回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第 4 回 日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第 5 回 日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第 6 回 日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第 7 回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第 8 回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第 9 回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 10 回 農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業</p> <p>第 11 回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法</p> <p>第 12 回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携</p> <p>第 13 回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第 14 回 都市住民の農業：市民農園、体験農園、自家菜園</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること			
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)			
実務経験について	自治体の元職員			

授業科目	金融論		担当者	衣川 恵
	[履修年次] 1,2,3年いずれも履修可		授業外対応	講義終了時
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融に関する基礎知識を習得するとともに、金融が経済や生活に及ぼす影響などについて考えます。</p> <p>【概要】通貨の形態が進化しており、金融システムも変化しつつあります。従来の金融制度を理解するとともに、新たな金融の仕組みや金融政策について学習し、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身に付けます。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な知識を習得し、身の回りの金融に関する出来事を理解し、説明できるようになること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島村高嘉・中島真志『金融読本』（第28版）東洋経済新報社 衣川恵『日本のデフレ』日本経済評論社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション：(1) 講義の目標・進め方。(2) 円の誕生から電子マネーまで</p> <p>第 2 回 金本位制と管理通貨制：貨幣制度の発展。兌換銀行券と不換銀行券</p> <p>第 3 回 中央銀行と金融政策：中央銀行の役割と金融政策の手段</p> <p>第 4 回 銀行の役割と信用創造：銀行の預金・貸出業務と流通通貨量・景気の相互連関</p> <p>第 5 回 間接金融と直接金融：企業の資金調達方式の違いと経済に及ぼす影響</p> <p>第 6 回 金融ビッグバン：護送船団方式からの転換</p> <p>第 7 回 株式市場：株式市場の役割、株式売買の仕組み</p> <p>第 8 回 証券会社の役割：株式、債券の取り扱い業務</p> <p>第 9 回 日本のバブル：プラザ合意、金融政策の失敗、資産バブル</p> <p>第 10 回 日本のデフレ：まれにみる長期デフレの謎を探る</p> <p>第 11 回 インフレターゲットを巡る論争：リフレ派と反リフレ派の考え方</p> <p>第 12 回 日本銀行のデフレ対応：ゼロ金利政策からマイナス金利政策まで</p> <p>第 13 回 地方金融機関と中小企業振興：銀行、信用金庫、リレーションシップ・バンキング</p> <p>第 14 回 ファイナンシャル・プランナーの概要：生活に役立つFP3級の金融知識</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を十分に行ってください。学習した知識を使って金融や経済のニュースの内容について考えてみましょう。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + ミニツツペーパー (10%)			

授業科目	経済学史		担当者	西原 誠司				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール・Line で連絡				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】時代の中で生き、時代をこえて生きる経済学・経済学史を学ぶ</p> <p>【概要】ある時期に一世を風靡した学説が、次の時代には顧みられなくなることもある。なぜ、ある時代にはある経済学が脚光を浴び、次の時代には、また別の経済学が登場し、注目されるようになるのか。時代の中に経済学・経済学史を置きなおすことを通じて、そのことの意味を考える。とりわけ、この数十年間にわたって経済学の主流に君臨した「新自由主義」＝市場原理主義の学説は、その表面的な装いとは全く違って（一見するとアダム・スミスの再来であるかのように見える）、「国家が強力に介入する自由主義」＝イデオロギーであって、そのようなイデオロギーを越えていくことが大切であることを、経済学・経済学説史の歴史をたどって明らかにしたいとおもっている。</p> <p>【到達目標】経済学・経済学説史を通して、現代起こっている経済現象の分析ができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 上野俊樹著作集1『経済学とイデオロギー』（文理閣、2003年）</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——経済学・経済学史とイデオロギー</p> <p>第2回 ミルトン・フリードマンとショックドクトリン——新自由主義とは何であったのか</p> <p>第3回 アダム・スミスの『国富論』とその時代</p> <p>第4回 マルクスの『資本論』を読む——マルクスが生きた時代</p> <p>第5回 マルクスの『資本論』を読む——史的唯物論と経済学・経済学史</p> <p>第6回 マルクスの『資本論』を読む——商品と貨幣</p> <p>第7回 マルクスの『資本論』を読む——剰余価値とはなにか</p> <p>第8回 マルクスの『資本論』を読む——資本蓄積</p> <p>第9回 マルクスの『資本論』を読む——資本の原始的蓄積</p> <p>第10回 レーニン『帝国主義論』を読む——21世紀の資本主義</p> <p>第11回 レーニン『帝国主義論』を読む——資本主義の「最後の段階」と戦争</p> <p>第12回 ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読む</p> <p>第13回 ケインズ『平和の経済的帰結』を読む</p> <p>第14回 現代資本主義を読み解く——経済に関する諸学説とその意味</p> <p>第15回 おわりに——Love &amp; Peaceの経済学をめざして</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみること。配布プリントをみて復習をする。							
成績評価の方法	毎回の講義で見せる映像資料の感想 (50%) と筆記試験 (50%) の両方で評価。							

授業科目	経済学特講		担当者	山口 祐司				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>歴史的な視野をもって、科学・技術や文化、国際的な政治経済関係といった点からアメリカ経済の実像を学んでいきます。</p> <p>【概要】</p> <p>アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。戦後アメリカ経済の圧倒的優位を準備した、20世紀前半の特質（第2～4回）。「パクス・アメリカーナ」と呼ばれる、アメリカ主導による資本主義経済社会の繁栄（第5～7回）。1970年代ころからはじまる「新自由主義」に基づくアメリカ経済の革新（第8～11回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題（第12～13回）。今後のアメリカ経済のゆくえ（第14回）。以上の流れでアメリカ経済を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。世界経済との関係を意識し、アメリカ経済の相対的位置を把握すること。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 戦後アメリカ経済の背景（1）大量生産体制</p> <p>第3回 戦後アメリカ経済の背景（2）大恐慌とニューディール</p> <p>第4回 戦後アメリカ経済の背景（3）第二次世界大戦と戦時経済システム</p> <p>第5回 パクス・アメリカーナ（1）第二次世界大戦後のパクス・アメリカーナの基本構造の確立</p> <p>第6回 パクス・アメリカーナ（2）繁栄の1950-60年代とパクス・アメリカーナ</p> <p>第7回 パクス・アメリカーナ（3）1970年代におけるパクス・アメリカーナの限界</p> <p>第8回 新自由主義の興隆（1）1980年代の「レーガノミクス」と金融的発展</p> <p>第9回 新自由主義の興隆（2）戦後企業体制の転換</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（3）1990年代の「ニューエコノミー」</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（4）IT・バイオを中心とした技術革新</p> <p>第12回 新自由主義の帰結（1）金融経済化とリーマンショック</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（2）アメリカにおける格差問題</p> <p>第14回 これからのアメリカ経済のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。							
成績評価の方法	期末レポート (60%)、授業ごとの小論文 (40%)							



授業科目	国際経済論		担当者	西原 誠司	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール・Line で連絡。	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love &amp; Peace の経済学——国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9.11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年） 西原誠司『グローバリゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争——19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機</p> <p>第8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①——ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②——多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③——米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界——モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに——杉原千敏の生き方に学ぶ</p>				
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度 (50%) 積極的に授業に参加しているか、感想文の提出 および筆記試験。(50%)				

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義終了後	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係（域内分業と相互依存）などについて解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する。</p> <p>(2) レジュメに記載する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンスー本講義の概要と進め方について</p> <p>第2回 日本の経済発展ー戦後の高度経済成長</p> <p>第3回 東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾</p> <p>第4回 東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール</p> <p>第5回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア</p> <p>第6回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア</p> <p>第7回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</p> <p>第8回 アジア通貨危機（東南アジア・韓国）ー要因と対応</p> <p>第9回 中国の「改革開放」路線への転換と経済発展</p> <p>第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換</p> <p>第11回 中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化</p> <p>第12回 中国の貿易・直接投資の拡大ー一帯一路戦略・米国の通商摩擦</p> <p>第13回 南アジア諸国の経済発展ーインド・パキスタン・バングラデシュ</p> <p>第14回 日本とアジア諸国の貿易と投資ー域内分業と相互依存の進展</p> <p>第15回 まとめーアジア諸国の抱える諸課題（高齢化問題・環境問題・格差問題など）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (100%)				

授業科目	外国貿易論（隔年開講）		担当者	大重 康雄				
	〔履修年次〕	1年, 2年, 3年	授業外対応	適宜対応（要予約）				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版（有斐閣アルマ）</p> <p>(2) 講師配付プリント（毎回配付）</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 海外直接投資と労働の国際移動</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。							
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%）							
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験（外貨資金取引・貿易投資相談業務など）、AIBA認定貿易アドバイザー							

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘				
	〔履修年次〕	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から世界を見る』（成文堂、2020年）</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス（1）</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する							
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。							

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 3 回 歴史的形成 1：植民地以前のアジア</p> <p>第 4 回 歴史的形成 2：植民地のようす</p> <p>第 5 回 歴史的形成 3：植民地からの独立</p> <p>第 6 回 歴史的形成 4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第 7 回 歴史的形成 5：冷戦下のアジア</p> <p>第 8 回 東南アジア 1：インドシナ三国</p> <p>第 9 回 東南アジア 2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第 10 回 東南アジア 3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第 11 回 東南アジア 4：メコン河流域開発</p> <p>第 12 回 東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成</p> <p>第 13 回 アジアにおける協力体制 1：ASEAN を中心とする協力 1</p> <p>第 14 回 アジアにおける協力体制 2：ASEAN を中心とする協力 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート (100%) によって評価する。				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1, 2, 3 年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第 2 回 都市地域論 (1)：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第 3 回 都市地域論 (2)：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第 4 回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第 5 回 中心地理論：商業形態の発展と変化、第 3 次産業地域論</p> <p>第 6 回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第 7 回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第 8 回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第 9 回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第 10 回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第 11 回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第 12 回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第 13 回 地域連携 (1)：地域内連携、地域間連携</p> <p>第 14 回 地域連携 (2)：異業種間連携</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	地域産業政策		担当者	岡田 登
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。</p> <p>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学ぶが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する			
授業スケジュール	第 1回 はじめに：講義の目標 第 2回 政策的要因（1）：国土総合開発法、全国総合開発計画、新全国総合開発計画 第 3回 政策的要因（2）：第三次全国総合開発計画、第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のランドデザイン 第 4回 地域間格差の現状（1）：人口、産業、所得 第 5回 地域間格差の現状（2）：ライフコースと人口移動 第 6回 地域間格差の現状（3）：地域社会、生活 第 7回 地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併 第 8回 地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生 第 9回 地域活性化の取り組み事例（1）：大都市地域 第 10回 地域活性化の取り組み事例（2）：都市地域 第 11回 地域活性化の取り組み事例（3）：工業地域 第 12回 地域活性化の取り組み事例（4）：農村地域 第 13回 地域活性化の取り組み事例（5）：観光業地域 第 14回 地域の発展を考える：鹿児島を事例に 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること			
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）			
実務経験について	自治体の元職員			

授業科目	地方財政論（隔年開講）		担当者	船津 潤
	[履修年次]	1年, 2年, 3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方団体との関係(政府間関係)の特徴について解説し、それを踏まえて日本の地方財政制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など、地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること  ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること  ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 4回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響、三位一体の改革等 第 5回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 6回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 7回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等 第 8回 地方の事務：機関委任事務廃止までの経緯、自治事務と法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等			
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。			

授業科目	非営利組織論 (隔年開講)	担当者	丸田 真悟
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介していきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。</p> <p>第 2 回 NPO とボランティア NPO を支える理念について考えます。</p> <p>第 3 回 NPO の歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第 4 回 NPO の世界 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 5 回 NPO の機能 NPO が社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第 6 回 行政、企業と NPO 行政や企業との「協働」と「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第 7 回 NPO のマネジメント① NPO の経営管理について考えます。</p> <p>第 8 回 NPO のマネジメント② NPO の経営戦略を考えます。</p> <p>第 9 回 NPO のマネジメント③ NPO の評価手法を考えます。</p> <p>第 10 回 NPO にかかわる制度と政策 NPO の運営や税に関する制度を考えます。</p> <p>第 11 回 〈WS〉 NPO をつくる① 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 12 回 〈WS〉 NPO をつくる② 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 13 回 〈WS〉 NPO をつくる③ 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 14 回 NPO の課題と可能性 NPO を取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)		
実務経験について	認定 NPO 法人理事長		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセント・ワーク (人間らしい働き方) 実現のための基礎知識</p> <p>2019年4月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『知らなきゃトラブル! 労働基準関係法の要点』(全国労働基準関係団体連合会)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス:「マタハラ」って何?</p> <p>第 2 回 労働法の全体像:憲法・民法と労働法との関係</p> <p>第 3 回 労働契約の成立:労働者の募集・採用と内定取り消し</p> <p>第 4 回 労働法上の「労働者」「使用者」の概念:プロ野球選手は「労働者」?</p> <p>第 5 回 労働契約の内容はどうやって決まる?:労働契約と就業規則と労働協約の関係</p> <p>第 6 回 労働法の基本原則:労働契約で定めてはいけないことがある</p> <p>第 7 回 賃金についてのルール:賃金支払いのルール</p> <p>第 8 回 労働時間の基本的ルール (1):所定労働時間と法定労働時間</p> <p>第 9 回 労働時間の基本的ルール (2):罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか?</p> <p>第 10 回 労働時間と賃金 (1):時間外労働・深夜労働・休日労働とは?—</p> <p>第 11 回 労働時間と賃金 (2):変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう</p> <p>第 12 回 労働時間制の多様化:フレックスタイム制・裁量労働制とは?</p> <p>第 13 回 年次有給休暇:パートタイム労働者には年休権がない?</p> <p>第 14 回 ワークライフバランスの実現に向けて:産前・産後休業/育児・介護休業と均等法</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとしてください		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出		

授業科目	地域研究特講		担当者	山本 晃正
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[必修/選択]	選択
	[単位]	2	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p><b>【概要】</b> 様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制, 危険な製品による被害の賠償, 危険な投機的取引の規制, サラ金の規制, 公正な競争や表示の規制など, われわれ消費者に係わる取引を取り巻く様々な法律問題を, 消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として, 最新の法律改正も交えながら, できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 消費者がどのような状態にあり, どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し, その上で, 消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは [第3版]』法律文化社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 消費者と契約: 契約とは何か, 契約の拘束力からの離脱</p> <p>第2回 消費者と契約: 消費者契約法 (目的, 対象, 取消権)</p> <p>第3回 消費者と契約: 消費者契約法 (不当条項の無効, 適格消費者団体による差止請求権), 電子消費者契約法</p> <p>第4回 消費者と契約: 特定商取引法 (規制対象, 訪問販売・電話勧誘販売の諸規制)</p> <p>第5回 消費者と契約: 特定商取引法 (訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度, クーリングオフの意味と制度概要)</p> <p>第6回 消費者と契約: 特定商取引法 (通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引=マルチ)</p> <p>第7回 消費者と契約: 特定商取引法 (送り付け商法, 無限連鎖講防止法, 復習のための第1回模擬演習テスト)</p> <p>第8回 消費者と安全: 製造物責任法 (目的, 製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由)</p> <p>第9回 消費者と信用取引: 貸金業法とグレーゾーン金利など</p> <p>第10回 消費者と信用取引: 割賦販売法 (割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん)</p> <p>第11回 消費者と金融商品取引: 金融商品取引法 (投資家=消費者保護規制) と金融商品販売法</p> <p>第12回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (競争政策の意味, カルテル禁止と灯油裁判, 共同の取引拒絶など)</p> <p>第13回 消費者と公正な競争秩序の維持: 独占禁止法 (差別対価, 不当廉売, 抱合せ販売, 再販売価格の拘束)</p> <p>第14回 消費者と不当表示・景品提供: 不当景品類及び不当表示防止法 (景品表示法・改正法)</p> <p>第15回 まとめ: 消費者基本法, 消費者の諸権利, 復習のための第2回模擬演習テスト</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み, 配付資料も利用して, 予習と復習を行って下さい。			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[必修/選択]	選択
	[単位]	2単位	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p><b>【概要】</b> 地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ</p> <p>【概要】本講義は、簿記論Ⅰをふまえて、諸取引の仕訳・転記に加えて、決算手続と財務諸表の作成について学ぶ。</p> <p>【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記講義3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。 渡部裕互, 片山覚, 北村敬子 (編) 『新検定 簿記ワークブック3級 商業簿記』(令和2年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』(第6版), 同文館出版。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 売掛金と買掛金：テキスト第7章 第2回 その他の債権と債務：テキスト第8章 第3回 有形固定資産：テキスト第9章 第4回 貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第10章 第5回 資本：テキスト第11章 第6回 収益と費用（1）：テキスト第13章 第7回 収益と費用（2）：テキスト第14章 第8回 税金：第14章 第9回 伝票（1）：テキスト第15章 第10回 伝票（2）：テキスト第15章 第11回 財務諸表（1）：テキスト第16章 第12回 財務諸表（2）：テキスト第16章 第13回 財務諸表（3）：テキスト第16章 第14回 問題演習：決算整理事項を中心に 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。			
成績評価の方法	期末試験 (100%)			

<p>会計科目の履修順序 (初学者向け)</p> <p>1年前期：会計学総論</p> <p>1年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論</p> <p>2年前期：原価計算 会計情報論</p> <p>2年後期：管理会計論</p>
---

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第8回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。 第9回 人的資源管理（2）：採用管理、配置や転属について説明する。 第10回 人的資源管理（3）：人材育成、人事評価、退職管理について説明する。 第11回 人的資源管理（4）：これからの人的資源管理の課題について考える。 第12回 組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第13回 リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第14回 リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	労務管理論 (隔年開講)		担当者	朝日 吉太郎	
	[履修年次]	1年・2年・3年	授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外国と日本の労働者状態を比較しながら、劣悪な日本の労働環境がなぜ生まれるのか、その根本原因を考えます。</p> <p>【概要】 「カローシ」が国際用語になるほど日本の労働条件は世界的にみても大変劣悪です。こんなブラックな企業社会がなぜ生まれるのか、その社会的原因の一つが日本の特殊な労使慣行です。労働者管理の在り方の違いがなぜ生じるのかを分析します。</p> <p>【到達目標】 日本の労働環境を生み出す要因を外国と比較することを通じて、考えるための分析方法を身につけます。</p> <p><b>この科目は、前期開講の社会政策を受講していると理解がしやすくなります。</b></p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しません。</p> <p>(2) 授業にて指示します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。</p> <p>第2回 資本主義企業における労使関係 (1) 資本・賃労働関係の基礎</p> <p>第3回 (2) 資本の運動と労働者への影響</p> <p>第4回 労働市場と労使関係 (1) イノベーションと労働市場</p> <p>第5回 (2) パワーエリートと人事管理</p> <p>第6回 戦後の労使関係 (1) 日本の労使慣行の軸点としての年功賃金制度</p> <p>第7回 (2) 年功賃金が生み出す職場環境</p> <p>第8回 (3) ドイツ型労使関係と日本との違い</p> <p>第9回 グローバル化と労使関係の変化 (1) グローバル化と戦後レジームの改変</p> <p>第10回 (2) ドイツ財界のグローバル化戦略とハルトズ改革</p> <p>第11回 (3) 日本財界の新日本の経営戦略</p> <p>第12回 (4) 成果主義賃金の導入の失敗とブラック企業</p> <p>第13回 インダストリー 4.0 と労使関係 (1) すすむドイツ、遅れる日本</p> <p>第14回 (2) インダストリー4.0 と労働の未来</p> <p>第15回 労働条件の改善にひつようなこと</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業の理解をすすめるためには、授業の復習と、ニュース等への日頃の関心が大切です。				
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)				

授業科目	原価計算 (隔年開講)		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 少子高齢化による人手不足が深刻化しているわが国の企業においては、生産性向上に取り組むことが大きな課題になっています。そうした課題を克服する手段として、企業活動を見える化する原価計算は有用なツールといえます。本講義は、基本的な原価計算の知識を習得するために日商原価計算初級レベルの内容について解説します。</p> <p>【到達目標】 製造業における取引を記帳する能力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定。講義初回に指示します。また、必要に応じて、講義資料を配布します。</p> <p>(2) 高橋賢『テキスト原価計算』(第2版) 中央経済社 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 原価計算の基礎概念 (1)：原価計算の意義と目的</p> <p>第3回 原価計算の基礎概念 (2)：製造原価とは</p> <p>第4回 原価計算の基礎概念 (3)：材料費の計算と記帳</p> <p>第5回 原価計算の基礎概念 (4)：労務費の計算と記帳</p> <p>第6回 原価計算の基礎概念 (5)：経費の計算と記帳</p> <p>第7回 原価計算の基礎概念 (6)：直接費の計算と記帳</p> <p>第8回 製品別期間損益計算 (1)：原価の集計</p> <p>第9回 製品別期間損益計算 (2)：在庫の原価</p> <p>第10回 製品別期間損益計算 (3)：製品別損益計算書の作成</p> <p>第11回 利益の計画と統制 (1) CVP分析①</p> <p>第12回 利益の計画と統制 (2) CVP分析②</p> <p>第13回 利益の計画と統制 (3) 予算実績再分析①</p> <p>第14回 利益の計画と統制 (4) 予算実績再分析②</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。				
成績評価の方法	期末試験 (100%)				

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
簿記論 I, II, 会計学総論を受講後が望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。



授業科目	経営学特講 (隔年開講)	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1~3年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代多国籍企業を理解する上で有用な各種資料を使用しながら授業を行います。また、リアクション・ペーパーやグループ・ワークを活用することで双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られた企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。 第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。 第 3回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境について講義する。 第 4回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代の特徴を考える。 第 5回 多国籍企業の経営環境 (3)：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。 第 6回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 7回 多国籍企業の活動 (2)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の戦略について議論する。 第 8回 市場戦略の現代の特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。 第 9回 市場戦略の現代の特徴 (2)：各種資料を用いて、市場戦略に関する理解を深める。 第 10回 市場戦略の現代の特徴 (3)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の市場戦略について考える。 第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業との関連性について解説する。 第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。 第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略と文化の関係を考える。 第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の市場戦略と文化の関係について議論する。 第 15回 まとめ：これまでの講義のまとめを行う。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパー、グループワーク、授業への姿勢等 (30%)		

授業科目	情報管理論 (隔年開講)	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1,2,3年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な知識も必要となる。</p> <p>そこで、この授業ではこれらの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日の情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、その特徴を説明する。 第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の特徴とその重要性を確認し、理解する。 第 4回 比重が高まる情報の力について (1)：現代社会において、情報の持つ価値が高まっていることを説明する。 第 5回 比重が高まる情報の力について (2)：価値の高まった情報をいかに使いこなすかについて説明する。 第 6回 メディアリテラシーという考え方について (1)：メディアリテラシー全般について説明する。 第 7回 メディアリテラシーという考え方について (2)：情報に振り回されないために、気をつけるべきことは何か。 第 8回 メディアリテラシーという考え方について (3)；情報を発信するための考え方を理解する。 第 9回 情報とメディア媒体 (1)：メディアと情報の関係について考える。 第 10回 情報とメディア媒体 (2)：テレビやインターネットなど、メディア媒体の特徴を知る。 第 11回 情報操作 (1)：情報操作とは何かを説明する。 第 12回 情報操作 (2)：具体的な情報操作の例と、その対処法を説明する。 第 13回 情報化の意義と必要性 (1)：企業における情報化の意義と必要性について説明する。 第 14回 情報化の意義と必要性 (2)：実際の仕事上における、情報化の意義について知る。 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適時指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一				
	[履修年次]	2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。</p> <p>各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' Network））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定。講義初回に指示します。また、必要に応じて、講義資料を配布します。</p> <p>(2) 成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。							
成績評価の方法	中間レポート（40%）、期末レポート（60%）							

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1~3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説します。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会における経営戦略のあり方も講義します。</p> <p>【到達目標】経営戦略の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。</p> <p>第5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第6回 M&amp;Aと戦略的提携：M&amp;Aおよび戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。</p> <p>第7回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第8回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。</p> <p>第9回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を確認する。</p> <p>第10回 競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における2つの柱について説明する。</p> <p>第11回 ポジショニング・アプローチ：ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて解説する。</p> <p>第12回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチについて説明する。</p> <p>第13回 ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論をベースとした、ゲーム論的アプローチについて講義する。</p> <p>第14回 学習アプローチ：組織学習論を中心に、競争戦略論における学習アプローチについて解説する。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：競争戦略論の内容を振り返りながら、現代社会との関連性について考える。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢等（10%）							

授業科目	企業論		担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次]	1年・2年・3年	授業外対応	授業終了後や面談、メールなどに応じます。
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代資本主義社会を動かす巨大企業、企業グループの運動とその問題点を捉えます。</p> <p>【概要】今日、世界は、富裕な1%が世界の大半の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。また、巨大企業の利益の為に、戦争まで引き起こされています。このような現代社会のリアルを法則的に捉えます。</p> <p>【到達目標】現代資本主義の特徴についての理解を通じて、今日の様々な社会問題の背景を捉えられる力を身につけます。 この科目は、前期開講の社会政策を受講していると理解がしやすくなります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストは使用しません。</p> <p>(2) 授業にて指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的と進め方について</p> <p>第2回 資本の運動とは</p> <p>第3回 資本の巨大化 (1) 資本主義と機械化</p> <p>第4回 (2) 資本の蓄積 (1) 再生産と投資</p> <p>第5回 資本の蓄積 (2) 規模の拡大・構成の高度化</p> <p>第6回 資本の蓄積 (3) 失業者の生産</p> <p>第7回 (3) 利潤と競争</p> <p>第8回 (4) 商業資本の形成</p> <p>第9回 (5) 利子生み資本の形成とバブル経済</p> <p>第10回 (6) 銀行資本と株式資本</p> <p>第11回 独占資本主義 (1) 独占資本の形成と独占資本主義の成立</p> <p>第12回 (2) 金融資本と帝国主義</p> <p>第13回 日本の企業集団 (1) 戦前の日本資本主義と企業集団</p> <p>第14回 (2) 戦後の日本資本主義と企業集団</p> <p>第15回 グローバル化と日本企業集団の蓄積戦略</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業の理解のためにプリントの復習や、関係する参考文献の独習を指示します。			
成績評価の方法	学期末に論述試験をおこないます。(100%)			

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重 賢治
	[履修年次]	1,2,3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念</p> <p>第2回 Access の操作：Access とは</p> <p>第3回 Access の操作：レコードの並べ替え</p> <p>第4回 Access の操作：レコードの追加</p> <p>第5回 Access の操作：フォームの作成</p> <p>第6回 Access の操作：選択クエリの作成</p> <p>第7回 Access の操作：さまざまなクエリ</p> <p>第8回 Access の操作：アクションクエリ</p> <p>第9回 Access の操作：データベースの設計</p> <p>第10回 Access の操作：リレーションシップの作成</p> <p>第11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算</p> <p>第12回 Access の操作：レポートの作成</p> <p>第13回 Access の操作：レポートのアレンジ</p> <p>第14回 Access の操作：マクロの利用</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)			

授業科目	プログラミング		担当者	倉重 賢治	
	[履修年次]	1,2,3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なプログラミング技術を身につける。</li> <li>VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</li> </ul>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 七条達弘、『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング 第5版』、ソフトバンククリエイティブ</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念</p> <p>第 2 回 VBA の利用：関数と変数</p> <p>第 3 回 VBA の利用：条件分岐</p> <p>第 4 回 VBA の利用：オブジェクトの基本</p> <p>第 5 回 VBA の利用：繰り返し操作</p> <p>第 6 回 VBA の利用：マクロの登録と自作関数</p> <p>第 7 回 VBA の利用：マクロの記録</p> <p>第 8 回 VBA の利用：文字列と日付関数</p> <p>第 9 回 VBA の利用：変数の型宣言と配列</p> <p>第 10 回 VBA の利用：プロシージャとオブジェクト</p> <p>第 11 回 VBA の利用：セル操作の詳細</p> <p>第 12 回 VBA の利用：イベントプロシージャ</p> <p>第 13 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 1</p> <p>第 14 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 2</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)				

授業科目	財務会計論		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務諸表の作成原理や会計制度の概要について理解する</p> <p>【概要】本講義は、企業が営む主要な活動に焦点をあてて、その結果が会計情報へと集約される過程、すなわち、財務諸表の作成プロセスとそれを規制する社会的なルールについて学習します。また、近年、重要性を増している企業のグローバル化や企業集団に関わる財務会計についても解説します。</p> <p>【到達目標】財務諸表を作成する能力を養い、会計の社会的な役割を理解する</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定。講義初回に指示します。また、必要に応じて、講義資料を配布します。</p> <p>(2) 成川正見編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等、会計とは何か？、会計の歴史</p> <p>第 2 回 情報の非対称性と会計制度、会計情報の仕組み、貸借対照表、損益計算書の構成要素</p> <p>第 3 回 流動・固定の区分、構成要素の認識・測定、資産評価と費用計上</p> <p>第 4 回 貸借対照表の構成要素-資産、現金預金、営業債権の種類等</p> <p>第 5 回 有価証券の種類、期末評価、商品の取得原価、商品払出価額の計算等</p> <p>第 6 回 製品の製造原価、仕掛品、製品の期末評価</p> <p>第 7 回 有形固定資産の種類・取得原価、減価償却・期末評価</p> <p>第 8 回 貸借対照表の構成要素-負債・純資産、買掛金と未払金等</p> <p>第 9 回 賞与引当金と退職給付引当金、社債と長期借入金</p> <p>第 10 回 資本金、資本剰余金と利益剰余金、自己株式</p> <p>第 11 回 損益計算書の構成要素、理解したい損益計算書とその区分</p> <p>第 12 回 収益・費用の認識基準</p> <p>第 13 回 収益・費用の測定基準</p> <p>第 14 回 連結財務諸表の目的、連結の範囲</p> <p>第 15 回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	期末試験 (100%)				

\*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。  
簿記論 I, II, 会計学総論を受講後が望ましい。もしくは、日商 3 級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	情報論特講		担当者		岡村 俊彦 倉重 賢治					
	〔履修年次〕	1,2,3年いずれも履修可	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに、コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようになる。</p>									
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>									
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説</p> <p>第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第 5 回 インターネットとネットワーク：TCP/IP の意味と設定方法</p> <p>第 6 回 ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法、Wi-Fi の解説</p> <p>第 7 回 様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例</p> <p>第 8 回 コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数</p> <p>第 9 回 コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数</p> <p>第 10 回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第 11 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは</p> <p>第 12 回 シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第 13 回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第 15 回 まとめ</p>									
授業外学習(予習・復習)	適宜指示									
成績評価の方法	レポート (75%) + 期末試験 (25%)									

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論		担当者		瀬口 毅士					
	〔履修年次〕	1~3年いずれも履修可	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。さらに、グループ・ワークを適宜取り入れることで、理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。</p>									
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>									
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。</p> <p>第 2 回 マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3 回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第 4 回 標的市場の選択：STP について解説する。</p> <p>第 5 回 消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第 6 回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第 7 回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析と競争分析</p> <p>第 8 回 製品戦略：バリュー・ネットワークや製品ミックスなどについて解説する。</p> <p>第 9 回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第 10 回 流通戦略 (1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第 11 回 流通戦略 (2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第 12 回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスについて説明する。</p> <p>第 13 回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第 14 回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第 15 回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツについて考える。</p>									
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。									
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークに臨む姿勢等 (20%)									

## 18 商経学科の演習・実習科目

## 第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

## 第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	各年度で指定する教員
<p><b>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</b></p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p><b>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</b></p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学科的なものの考え方から出発して、自分自身の問題関心に基つて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p><b>③「演習」系科目の受講の流れ</b></p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p> <p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」、</p> <p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>3年生後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p><b>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</b></p> <p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p><b>⑤成績評価の方法</b></p> <p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p><b>⑥受講登録上の注意</b></p> <p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」まで一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			



授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

## 19 教職に関する科目

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。</p> <p>【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：進路選択の対象としての教員</p> <p>第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像</p> <p>第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち</p> <p>第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期</p> <p>第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像</p> <p>第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員</p> <p>第7回：教員の職務内容とサービス①学校内外の職務と研修</p> <p>第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障</p> <p>第9回：チーム学校への対応①</p> <p>中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解</p> <p>第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割）</p> <p>第11回：諸外国の教職員</p> <p>第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員</p> <p>第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応</p> <p>第14回：中学生と教職員の諸関係</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社</p>			
<p>学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： <b>教育原理</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。			
授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。			
授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30%）・定期試験（70%）			

授業科目名： <b>教育心理学</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。</li> <li>・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。</li> </ul> <p><b>【テーマ】</b></p> <p>幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。</p>			
授業の概要			
<p>教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達の特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。</p> <p>授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），パーソナリティ（幼児児童生徒ひとりひとりの個人特性の理解とそのための方），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識，学習や教育評価）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。</p>			
授業計画			
第1回：発達① 発達に関する基礎的な概念			
第2回：発達② 発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性			
第3回：発達③ 身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論			
第4回：発達④ 愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達			
第5回：発達⑤ 代表的な発達理論と各発達段階，発達課題			
第6回：発達⑥ 発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方			
第7回：学習① 代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習			
第8回：学習② 記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係			
第9回：学習③ 動機づけ，欲求，学習意欲			

第10回：学習④ 知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用

第11回：学習⑤ 教育評価機能と方法，評価情報の収集方法

第12回：学習⑥ 教授法，学習方法と教科との関連，ATI

第13回：個性① パーソナリティ理論（類型論・特性論）

第14回：個性② パーソナリティ検査（質問紙法検査，投影法検査，作業法検査）と心理検査に関する諸概念

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『教育心理学第3版』有斐閣，2015年

服部 環・外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年

櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

筆記試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目名： <b>特別支援教育概論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。</li> <li>・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。</li> <li>・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。</li> </ul> <p>【テーマ】</p> <p>特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度</p> <p>第2回：「通級による指導」及び「自立活動」</p> <p>第3回：指導計画及び教育支援計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解</p> <p>第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解</p> <p>第6回：発達障害，軽度知的障害児への支援</p> <p>第7回：貧困世帯，被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方</p> <p>第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者（家庭）など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築</p>			
<p>定期試験</p> <p>テキスト 毎時プリントによる資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣，2014年</p>			
<p>学生に対する評価 定期試験（100％）</p>			

授業科目名： <b>教育行政学概論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携 及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。 【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。			
授業の概要 教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。			
授業計画 第1回：公教育の原理及び理念 第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ 第3回：現代日本の教育制度と教育改革 第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割 第5回： 同上 ②学級経営のしくみ 第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係 第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり 第8回：学校安全への対応			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			



授業科目名： <b>教育課程論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>&lt;授業のテーマ&gt;これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修を行っていく。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>(1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。</p> <p>(3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。</p> <p>(4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：学校とは何を学ぶためのところか？ 社会における学校教育と教育課程の意義と役割</p> <p>第2回：日本の学校教育と教育課程：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・教員養成</p> <p>第3回：教育課程の基本原理(1)：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるの</p>			

か？ カリキュラムと教育課程の概念整理

第4回：教育課程の基本原則(2)：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境

第5回：教育課程の基本原則(3)：学習指導要領とは何か？ 学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み

第6回：教育課程の基本原則(4)：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？  
学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)

第7回：教育課程の基本原則(5)：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)

第8回：教育課程の基本原則(6)：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？  
学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)

第9回：教育課程の基本原則(7)：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？  
新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性

第10回：教育課程編成の基本原則(1)：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？  
各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法

第11回：教育課程編成の基本原則(2)：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？  
各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法

第12回：教育課程編成の基本原則(3)：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？  
開かれた教育課程の意義と編成方法

第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？  
カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際

第14回：今後の教育課程の在り方：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？  
主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例

第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認

定期試験：試験と全体のまとめ

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』(2017)、『中学校学習指導要領』(2017)

\*『高等学校学習指導要領』(2018)が発行された場合には、その内容についても適宜扱っていく。

参考書・参考資料等

必要になる参考書・資料等については、授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

・試験(70%)、課題等の提出物(20%)、授業への積極的参加と貢献(10%)

授業科目名： <b>国語科教育法 I</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回：中学校学習指導要領について</p> <p>第3回：「知識及び技能」に関する事項について</p> <p>第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について</p> <p>第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点</p> <p>第6回：教材研究の方法（2）：事例研究</p> <p>第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観</p> <p>第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点</p> <p>第9回：模擬授業の意義</p> <p>第10回：模擬授業（1）：文学的文章</p> <p>第11回：模擬授業（2）：説明的文章</p> <p>第12回：模擬授業（3）：古典</p> <p>第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践</p> <p>第14回：教育実習について</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 国語編』プリント。			
参考書・参考資料等：授業中、適宜紹介する。			
学生に対する評価： 学習指導案の作成（50%）、模擬授業についてのレポート（50%）			

授業科目名： <b>国語科教育法Ⅱ</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。</p> <p>国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器、方法を利用した授業を計画・実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>国語教育の現状、様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク、学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し、新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。</p>			
<p>第1回：ガイダンス：国語科教育の現状</p> <p>第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法</p> <p>第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造</p> <p>第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造</p> <p>第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末</p> <p>第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用</p> <p>第7回：これからの国語科教育の展望と課題</p> <p>第8回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 国語編』，プリント。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中，適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業での課題（50%），期末レポート（50%）</p>			

授業科目名： <b>英語科教育法 I</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土持 かおり 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語教師に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。</li> <li>・ 小学校及び中学校の学習指導要領に掲げられている外国語教育の目標と内容を理解する。</li> <li>・ 4技能5領域の到達目標達成に必要な指導法を理解し、指導技術を身につける。</li> </ul> <p><b>【テーマ】</b>未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>外国語（英語）教育の指針となる小学校及び中学校の学習指導要領を理解するとともに、3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の学習到達目標とそれを達成するための指導法及び言語活動について学び、実践的コミュニケーション能力を育成するための指導技術を身につける。さらに、グループによるディスカッション（随時）を通し、主体的に英語科教育について考えていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：(1) 英語科教育の目的：英語教師を目指す者にとって習得すべきことは何かについて考える。 (2) 異文化理解：国際共通語としての英語の役割、英語の多様性について認識し、理解を深める。</p> <p>第2回：第二言語習得と学習者要因：第二言語習得理論を理解するとともに、言語適性、認知要因、情意要因、学習方略などの学習者要因と第二言語習得との関係について理解し、生徒の英語習得が効果的に行われるために必要な指導について学ぶ。</p> <p>第3回：コミュニケーション能力：「コミュニケーション能力」(Communicative Competence)とは何か、どのような構成要素から成り立っているかについて学び、授業での養成について考える。</p> <p>第4回：外国語教授法：各教授法の歴史と理論的背景を概観し、それぞれの指導法の特徴及び活用法について学び、問題点について検討することで教室の現場にあったものを取捨選択できる知識と技能を身につける。さらに教師の実演による主な教授法の授業を生徒の立場で体験する。</p> <p>第5回：小学校での英語教育：小学校の外国語活動及び教科としての外国語（2020年度より）の学習指導要領、授業活動及び教材例について理解するとともに小・中連携の英語教育の在り方について考える。</p> <p>第6回：学習指導要領：中学校学習指導要領について学ぶとともに、外国語（英語）及び領域別の到達</p>			

目標と内容について「3つの資質・能力」の観点から理解する。さらに、旧・現・次期中学校学習指導要領を比較しながら改訂のポイントについて理解する。

第7回：教科書の理解：中学校検定教科書の意義、種類、構成及び内容を理解するとともに、様々な情報が掲載されたページも含め教科書の活用方法について学ぶ。

第8回：「聞くこと」の指導：(1) 学習指導要領における「聞くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) リスニングのプロセスを理解し、生徒に英語を聞く力を身につけさせるための指導法のバリエーションをしり、それぞれの特質について学ぶ。

第9回：「話すこと [やり取り・発表]」の指導：(1) 学習指導要領における、「話すこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) コミュニケーション能力の育成の観点から、生徒に英語で話すこと（やり取り・発表）の力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第10回：「読むこと」の指導：(1) 学習指導要領における「読むこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) 生徒に英語を読む力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第11回：「書くこと」の指導及び文字の指導：(1) 学習指導要領における「書くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解し、生徒に英語を書く力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。(2) 文字の指導について理解し、特に英語の音声と文字の結び付きを身につけさせるための指導法とその特質を学ぶ。

第12回：音声の指導及び語彙・表現の指導：(1) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解するとともに、プロソディーを身につけさせるための効果的な指導法を学ぶ。(2) 語彙・表現の指導において、「意味」の理解とともにその「使い方」を身に付けさせるための指導技術や導入・定着のための活動について学ぶ。さらに辞書指導についても学ぶ。

第13回：文法の指導：文法事項の導入法（2つのアプローチの仕方とオーラル・イントロダクション等）や定着のための練習活動、コミュニケーション場面を意識した言語活動を中心に文法の指導について学ぶ。さらにオーラル・イントロダクションによる導入、展開での言語活動についてビデオ映像視聴を通して理解するとともに指導技術を身につける。

第14回：模擬授業（1）：オーラル・イントロダクションによる導入をグループで作成・実演する。

第15回：模擬授業（2）：展開におけるコミュニケーション活動を学び、グループで作成・実演する。

テキスト

『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、開隆堂）

『小学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、東洋館出版社）

参考書・参考資料等；『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山出版）

学生に対する評価：毎回の振り返りシート（40%）課題のレポート（30%）模擬授業レポート（30%）

授業科目名： <b>英語科教育法Ⅱ</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土持 かおり 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語教師に求められる実際の授業で応用できる知識・技能を身につける。</li> <li>・ 教材研究、授業の組み立て方を理解し、学習指導案を作成できる力を養う。</li> <li>・ 教育実習で実際に授業を行えるよう作成した指導案に基づき模擬授業を行う。</li> </ul> <p><b>【テーマ】</b> 未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>英語科教育の基本となる言語習得理論、生徒論、評価論、教材論(ICT機器を含む)について学び、実際の授業で応用できる知識を身につける。また、実際の授業をビデオ映像の視聴により体験し、具体的指導技術を身につける。さらに、教材研究の方法、授業の組み立て方、学習指導案の作成について学び、「コミュニケーション能力の育成」という視点で指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：英語でのインタラクション：英語で授業を行う際に必要な、クラスルーム・イングリッシュ、ティーチャー・トーク、文法事項や題材のオーラル・イントロダクションなどについて学ぶとともに、生徒とのやりとりを設定し、実演により指導技術を身につける。</p> <p>第2回：生徒論：主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育を充実するための個に応じた指導方法や指導体制の工夫を学ぶ。さらに、生徒の特性や多様性を知るとともに特性や習熟度の把握の仕方及びそれに応じた効果的な指導方法、実際の具体例について学ぶ。</p> <p>第3回：評価：(1) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等）：言語テストの適切さの規準（妥当性、信頼性、実効可能性、波及効果）について理解し、パフォーマンス評価を含む主な言語テストの種類と目的について学ぶ。（2）観点別評価：観点別学習状況に基づく評価基準の設定、実際の評価、評定への総括について、その理念と方法について学ぶとともに、実際の授業での評価基準の設定例なども理解する。</p> <p>第4回：教科書と教材研究：教科書を実際の授業で効果的に活用するための教材研究の方法と活用の仕方について、実際の教科書も使用しながら実践的に学ぶ。</p> <p>第5回：教材研究及びICT機器等の活用：言語活動のための効果的な補助教材（ワークシート、フラッ</p>			

シュカード等)の作成・活用の仕方について学ぶ。さらに、PC、映像、デジタル教科書、電子黒板、タブレットなど授業で活用できる様々なICT機器の種類及びその効果的活用法を学ぶとともに、実際の授業で利用する際の留意点や課題についても考える。

第6回：学習到達目標と授業の組み立て：学習指導要領及び学習到達目標に基づく年間指導計画、単元計画について理解する。さらに各時間の指導計画及び授業の組立について理解し、実際の指導に生かすことができるよう授業での指導手順について学ぶ。

第7回：学習指導案：学習指導案の目的・基本的構成について理解するとともに、略案、細案の書き方について具体例を基に、それぞれの作成の仕方を学ぶ。さらに、実際の指導案を参考にしながら書式のバリエーションについて知る。

第8回：学習指導案と授業：学習指導案に基づき授業が実際どのように行われているかを、授業のビデオ映像の視聴を通し理解し、指導技術を身につける。

第9回：ALTとのティーム・ティーチング：ALTとのティーム・ティーチングにおける効果的な指導、授業設計及び授業準備段階での英語での打ち合わせ、ティーム・ティーチングでの英語での学習指導案の作成について学ぶとともに、実際の授業に活かせる指導法を身につける。

第10回：教育実習：教育実習の趣旨・内容・心構えについて理解する。さらに、ビデオ映像教材を視聴し、教育実習生の生徒との交流、教材研究及び実際の授業展開について考察する。

第11回：領域統合型の言語活動の指導：5領域の単独の指導法の理解のもと、複数領域を統合した言語活動の指導について学ぶ。また、複数の領域を組み合わせた効果的なコミュニケーション活動の作成について具体例を参考に学ぶ。

第12回：模擬授業(1)各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第13回：模擬授業(2)各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第14回：模擬授業(3)各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第15回：模擬授業(4)各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

#### テキスト

『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』(岡秀夫編著、成美堂)

『中学校学習指導要領解説 外国語編』(文部科学省、開隆堂)

『小学校学習指導要領解説 外国語編』(文部科学省、東洋館出版社)

参考書・参考資料等：『中学校学習指導要領』(文部科学省、東山書房)

#### 学生に対する評価

毎回の振り返りシート(40%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、模擬授業レポート(20%)



授業科目名： <b>家庭科教育法Ⅰ</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校における家庭科教育に求められていることを理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：第1回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力</p> <p>第2回：家庭科教育への理解（「家庭科」教育の目指すところ及び求められる「家庭科」教師の資質）</p> <p>第3回：家庭科教育のあゆみと今日的課題</p> <p>第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴</p> <p>第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題</p> <p>第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容（学習指導要領改訂のポイントと新旧対照表の読み合わせを含む）1</p> <p>第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容（学習指導要領改訂のポイントと新旧対照表の読み合わせを含む）2</p> <p>第8回：家庭科教育の学習指導</p> <p>第9回：家庭科教育の学習指導計画</p> <p>第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容</p> <p>第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と学習指導計画1</p> <p>第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と学習指導計画2</p> <p>第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」における評価</p> <p>第14回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案作成（本時案）</p>			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

田部井恵美子・内野紀子 外 共著「家庭科教育法」学文社

参考書・参考資料等

文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

筆記試験（80%）と提出物（学習指導案20%）で評価する。

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】 ・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおして、学習指導要領への理解を深める。・立案した学習指導案によった教材研究の実践と考察をとおして、様々な方法を習得する。・立案した学習指導案によった模擬授業の実践と考察をとおして、適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】 「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた演習等をとおし、家庭科教育に携わる教育実践力を確実なものにすることで、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等の教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：学習指導案の読み合わせ及び改訂学習指導要領との関連の確認			
第2回：学習指導案による授業展開の実際についての方法1（板書計画，提供資料，学習形態等）			
第3回：学習指導案による授業展開の実際についての方法2（教材研究の方法）			
第4回：学習指導案による授業展開の実際についての方法3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法）（鹿児島県総合教育センター提供（ホームページ）の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集の活用）			
第5回：学習指導案による授業展開の実際についての方法4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）			
第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）			
第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）			
第8回：まとめ			
定期試験			
テキスト：田部井恵美子・内野紀子 外 共著「家庭科教育法」学文社			
参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（80%）と提出物（学習指導案20%）で評価する。			

授業科目名： <b>道徳教育指導論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。</p> <p>【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か）</p> <p>第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容</p> <p>第3回：中学校における道徳教育の指導計画</p> <p>第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解</p> <p>第5回： 同上 ②授業設計における留意事項</p> <p>第6回： 同上 ③指導案の作成</p> <p>第7回：模擬授業とピア評価①第1班</p> <p>第8回：模擬授業とピア評価②第2班</p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房</p>			
<p>学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： <b>道徳教育の指導法</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： <b>特別活動指導論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係 第7回： 同上 ②学活の指導案 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍			
学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： <b>特別活動論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： <b>教育方法学概論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。そのため、教育方法史、授業論、教育の技術、学力と教育評価をテーマとする。			
授業の概要 教育方法史（ソクラテス・コメニウスとペスタロッチの教授法の特質）、授業論（授業の構造と意義；学習指導案の意義と作成手順 ほか）、教育の技術（教育技術の特質；集団づくり）、学力と教育評価（学力、相対評価と絶対評価ほか）、情報機器の活用（効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用）に関する基礎的な能力を身に付ける。			
授業計画 第1回 教育の方法・技術とは何か 第2回 教育方法の理論と歴史 第3回 カリキュラムと教育方法の関連（児童中心カリキュラム・学問中心プログラム） 第4回 学習指導の方法（学習指導の構造；学習指導の目標・内容・指導過程 ほか） 第5回 授業論（授業の構造と意義／教材論/学習指導案の意義と作成手順、教師の役割と指導技術） 第6回 教育メディアとその活用（授業改造と情報機器／I C Tの活用） 第7回 アクティブ・ラーニングの理解（教授組織と学習組織／活動と表現） 第8回 教育評価（評価の諸相）			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教育の方法と技術（改訂版）柴田 義松編著 学文社			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30%）・定期試験（70%）			



授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。</li> <li>・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。</li> <li>・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。</li> </ul> <p>【テーマ】</p> <p>学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進める上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不応適等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。</p>			
授業計画			
第1回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け			
第2回：意義と原理① 教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性			
第3回：意義と原理② 集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制			
第4回：児童生徒理解① 児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴			
第5回：児童生徒理解② アセスメントの方法論と資料収集の方法			
第6回：児童生徒理解③ 教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果			
第7回：全体への指導① 生徒指導の組織的取組と教師の役割			
第8回：全体への指導② 基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成など日常的な生徒指導のあり方			
第9回：全体への指導③ 自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）			

第10回：全体への指導④ 構成的グループエンカウターの理論と実際

第11回：個別の指導① 不登校に関する基礎知識と対応

第12回：個別の指導② いじめ，暴力行為に関する基礎知識と対応

第13回：個別の指導③ 生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識とその処遇

第14回：個別の指導④ インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と  
関係機関との連携

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

①佐々木雄二・笠井仁編著『図で解する生徒指導・教育相談』福村出版，2010年

②一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目名： <b>進路指導論</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。			
授業計画 第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解 第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説 第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史 第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き 第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連 第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連 第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連 第8回<まとめ>			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等： 古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： <b>教育相談</b>	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談を実践するうえで必要となる知識を習得する。</li> <li>・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。</li> </ul> <p><b>【テーマ】</b> 教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実際的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性			
第2回：意義と理論① 教育相談の意義と教育相談体制			
第3回：意義と理論② 教育相談とカウンセリングとの関係			
第4回：方法① 児童生徒の「問題」理解とその背景要因			
第5回：方法② 児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論			
第6回：方法③ 教師に求められるカウンセリングマインドの必要性			
第7回：方法④ カウンセリング技法			
第8回：方法⑤ ロールプレイによる実習			
第9回：展開① 児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方			
第10回：展開② 開発的・予防的教育相談の方法			
第11回：展開③ 不登校への理解と対応			
第12回：展開④ いじめへの理解と対応			
第13回：展開⑤ 非行や虐待等への理解と対応			

第14回：展開⑤ 教育相談での課題に応じた関係機関との連携

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

①河村茂雄編著 『教育相談の理論と実際』 図書文化社 2012年

②大前玲子編著 『体験型ワークで学ぶ教育相談』 大阪大学出版会 2015年

③佐々木雄二，笠井仁編著 『図で解する生徒指導・教育相談』 福村出版 2010年

④一丸藤太郎・菅野信夫 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋レポート課題（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目	教職実践演習（中）	担当者	田口康明, 田中真理, 竹本寛秋, 土持かおり, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年      〔学期〕 後期 〔単位〕 2              〔必修/選択〕 必修      〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につけている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用説明を行う。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)] 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回：[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察 第11回：[模擬授業（1）] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第12回：[模擬授業（2）] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第13回：[模擬授業（3）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第14回：[グループ討論（4）] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田 和恵・中馬 和代・田口 康明・田中 真理
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[グループ討論(4)] 給食の時間における食に関する指導の重点に検討する。 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む。）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年      〔学期〕 前期 〔単位〕 5              〔必修/選択〕 必修      〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先輩である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p> <p>この他、「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師）を実習事後に実施。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中      〔単位〕 1      〔必修/選択〕 必修(注)      〔授業形態〕 実習	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実をはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】 教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月）</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <p>1. 指導教諭等からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営</li> <li>・校務分掌の理解</li> <li>・服務 等</li> </ul> <p>2. 児童及び生徒への個別的相談、指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導、相談の場の参観、補助 等</li> </ul> <p>3. 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助</li> <li>・教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助</li> <li>・給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助</li> <li>・児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助</li> <li>・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等</li> </ul> <p>4. 食に関する指導の連携・調整の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助</li> <li>・家庭・地域との連携・調整の参観、補助 等</li> </ul> <p>5. 学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（40%）により評価する。		

(注) 前期集中



授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導		担当者	町田 和恵			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	必修	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月）</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど</p> <p>第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法などの指導</p> <p>第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施（1）</p> <p>第5回 模擬授業の実施（2）</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理、今後の課題</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	発表・提出物（80%）＋取り組み態度（20%）により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。						

※ 7.5回

## 20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜだろう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。</p> <p>【到達目標】学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2回 学校図書館法（学校図書館法と読書に関する法律について知識を深める） 第 3回 世界・日本の学校図書館史（ルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎と図書館、読書の関わりについて学ぶ） 第 4回 鹿児島県の読書運動（「母と子の20分間運動」と椋鳩十について学ぶ） 第 5回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌及び司書教諭、学校司書、教職員との連携、共通理解について学ぶ） 第 6回 学校経営の中の学校図書館（学校組織における学校図書館、館長としての校長、学校内外の協体制づくり） 第 7回 学校図書館の運営①小学校の事例を中心に学ぶ 第 8回 学校図書館の運営②中学校の事例を中心に学ぶ 第 9回 学校図書館の運営③高等学校の事例を中心に学ぶ 第 10回 読書感想文の取組みについてグループで考察する 第 11回 読書感想画についてグループで考察する 第 12回 特別支援教育と学校図書館についてグループ学習を通して理解する 第 13回 学校図書館広報活動（広報活動、読書手法等について学ぶ） 第 14回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割・意義について学ぶ（1） 第 15回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書人間にもたらす役割・意義について学ぶ（2）			
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験（60%）授業ごとに実施するレポート（30%）発表（10%）			
実務経験について	高等学校及び短期大学図書館司書（専門員）として37年間勤務			

授業科目	学校図書館メディアの構成		担当者	岩下 雅子
	[履修年次] 1・2年		授業外対応	メールによる
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
マ及び概要	<p>【テーマ】多様化した今日の情報メディアを学校図書館でどのように扱うか学ぶ</p> <p>学校図書館メディアとは何だろうか。高度情報化社会、知識基盤社会、知識経済社会の中で、児童生徒を取り巻く学習環境も大きく変化している。この科目では、学校図書館メディアの構築のために適切な情報・資料の選択収集・整理（組織化）・提供・保存の仕方をどのように学校図書館は行うか考察する。</p> <p>【到達目標】学校図書館メディアの組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 「学校図書館メディアの構成」北克一、平井尊士 NHK出版 ISBN978-595-31390-5			
授業スケジュール	第 1回 学校図書館メディアの意義と役割 第 2回 学校図書館におけるメディアの種類と特性と活用 第 3回 学校図書館メディアの構築(学校図書館の業務) 第 4回 学校図書館メディアの収集方針と選択、廃棄（1） 第 5回 学校図書館メディアの収集方針と選択、廃棄（2） 第 6回 学校図書館メディアの収集方針と選択、廃棄（3） 第 7回 学校図書館メディアの主題索引（1）日本十進分類法(1)の特性と構成 第 8回 学校図書館メディアの主題索引（2）日本十進分類法(2)の特性と構成 第 9回 学校図書館メディアの主題索引（3）日本十進分類法(3)の特性と構成 第 10回 学校図書館メディアの主題索引（4）日本十進分類法(4)の特性と構成 第 11回 学校図書館メディアの組織化の意義 第 12回 学校図書館メディアの組織化(1) 第 13回 学校図書館メディアの組織化(2) 第 14回 学校図書館と情報資源の管理と運用 第 15回 特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディア			
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験（60%）授業ごとに実施するレポート（30%）発表（10%）			

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性』(メディア専門職養成シリーズ)学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 子どもと読書：現代社会と読書</p> <p>第2回 読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み</p> <p>第3回 学校図書館と読書1：学校図書館の役割</p> <p>第4回 学校図書館と読書2：学校図書館と読書活動</p> <p>第5回 学校教育における読書指導：戦後70年間の変化</p> <p>第6回 学校教育における読書の意義：教科教育と読書</p> <p>第7回 児童生徒の発達段階と読書</p> <p>第8回 児童生徒と読書資料：本の種類と流通過程</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 子供の読書環境・大人と読書：地域との連携、生涯学習</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居、エブロンシアター</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。			
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)			

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題(30%)、期末試験(70%)			